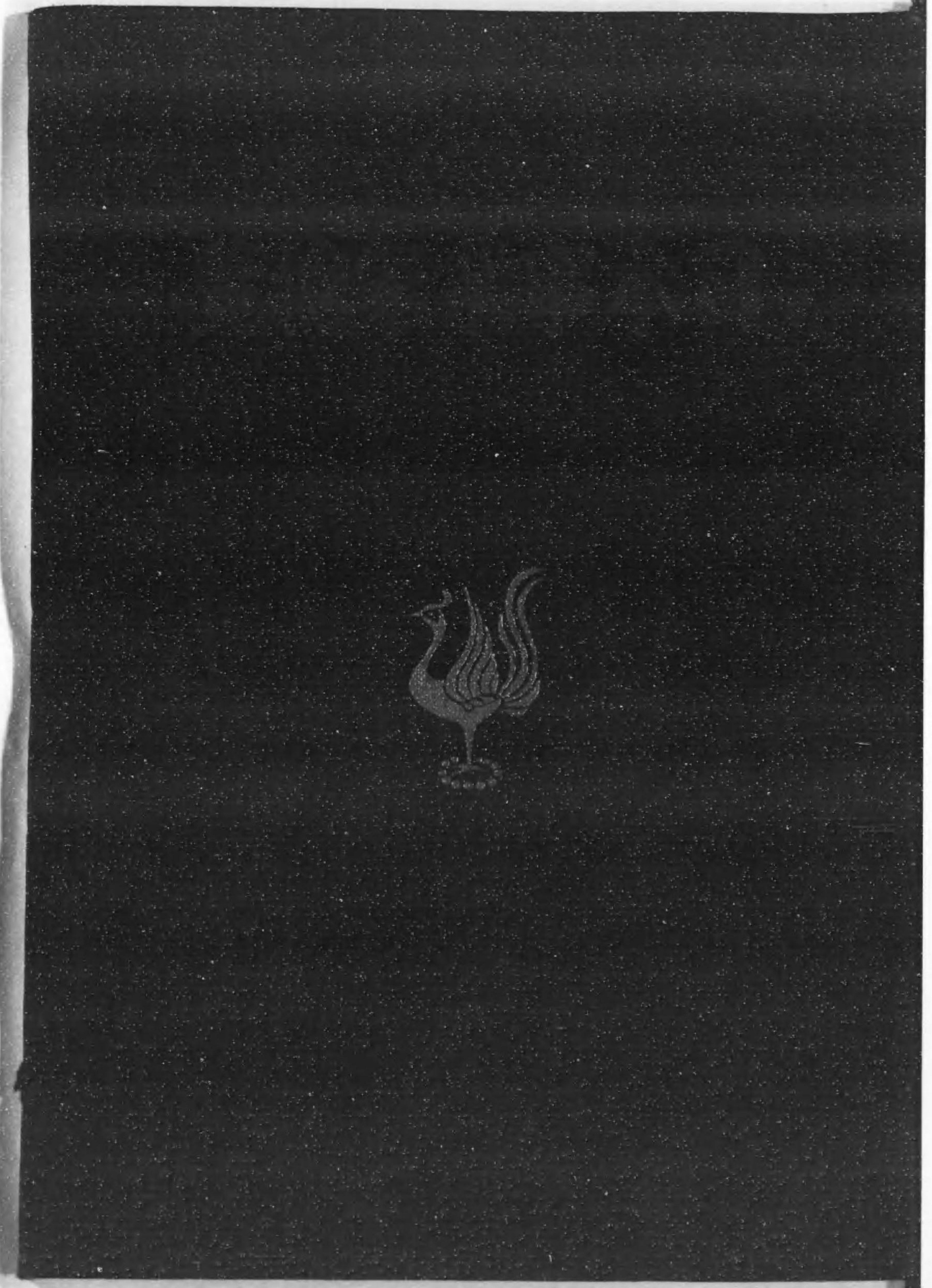


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 18 80 1 2 3 4 5

始



日本事業家總覽



特 216
870



皇紀二千五百九十九年

日本事業家總覽

下



序

今や日支事變も所謂東亞百年の大計を確立せんとするの第二段階に入り、我が一切の事業界が全力を擧げて是れに協力、以て其の使命達成に直往邁進してゐる。しかも我が事業界の第一線に活躍する人々の責任たるや、今日ほど重大なるはない。而して我等は今日の如き時局なればこそ、更に一層是等人々の素描を知るの要がある。即ち前に上巻を編して世に送り、今亦その下巻を編してこれを刊行するの趣意も其處に在る。

昭和拾四年夏

編者識

日本專業家總覽(下) 目次

(順不同)

松尾鑛業社長	中村房次郎氏	一
川西航空機社長	川西龍三氏	二
北洋水産社長	西出悌二氏	三
津具金山社長	倉田藤四郎氏	四
川崎航空工業專務	根本莊行氏	五
日本フアイバー製造社長	納五平氏	六
坂口機械製作社長	坂口嘉兵衛氏	七
日本コロムビア社長	三保幹太郎氏	八
渡邊鐵工社長	渡邊福雄氏	九
竹内鐵工社長	竹内宇吉氏	一〇
小野製作代表	小野利待氏	一一
日本航空工業專務	坂東舜一氏	一二
金丸鑛業社長	金丸熊太郎氏	一三
岸本機械工作所主	岸本奎一氏	一四
住友金屬工業常務	木下亮吉氏	一五
角田無線電機社長	岡本榮三郎氏	一六
日本鐵工社長	稻井勘造氏	一七
川越商議會頭	鈴木德次郎氏	一八
倉特製作所主	倉特新吉氏	一九
昭和飛行機工業常務	木瀬和吉氏	二〇
藤田鐵工所主	藤田次郎左衛門氏	二一

日進鑛業專務	福島豐氏	二二
石川島造船常務	村田愨磨氏	二三
加藤鐵工所主	加藤幸太郎氏	二四
京阪精機製作所主	林嘉之氏	二五
岡山工作所主	岡山賢次郎氏	二六
加州銀行頭取	森信敬二氏	二七
大阪フランチ製作社長	中村武茂氏	二八
今井商店社長	今井雄七氏	二九
中島飛行機副社長	中島乙未平氏	三〇
マルクニ鐵工社長	田中國五郎氏	三一
久保田鐵工社長	久保田權四郎氏	三二
田籠鑛業社長	田籠寅藏氏	三三
高岡電燈社長	菅野傳右衛門氏	三四
大阪若山鐵工專務	若山瀧三氏	三五
東邦水産社長	坂本作平氏	三六
きしろ發動機社長	木代重行氏	三七
菅原鑛業社長	菅原誠氏	三八
渡邊鐵工常務	林良吉氏	三九
和歌山日産自動車社長	野崎定輔氏	四〇
日本海運船專務	竹谷内徳太郎氏	四一
丸中織物社長	中里正治氏	四二

玉置種鶏場長……………玉置庄五郎氏…四三
 大阪莫大小機械社長……………阪田好朗氏…四四
 伊藤商事社長……………伊藤喜代和氏…四五
 田原製作社長……………田原久吉氏…四六
 山口商店社長……………山口英一氏…四七
 新潟電力專務……………山縣鼎一氏…四八
 紀南重工業常務……………壺井幸七氏…四九
 日東ゴム工業所主……………酒井廣次氏…五〇
 廣貫堂常務……………金尾義信氏…五一
 小島鐵工代表……………兒玉安藏氏…五二
 東洋セロファン專務……………西野遠三郎氏…五三
 高岡銀行頭取……………高廣次平氏…五四
 川崎重工業社長……………志村次雄氏…五五
 第九十八銀行頭取……………安田楠雄氏…五六
 野口商店專務……………野口誠一郎氏…五七
 黑崎製作常務……………内田守氏…五八
 栗橋紡績所主……………中村卓爾氏…五九
 丹後水産社長……………渡邊彌藏氏…六〇
 芳澤化機工業取締役……………大久保鹿式氏…六一
 日本電氣冶金常務……………安部政二郎氏…六二
 丸善鐵工所主……………望月善太氏…六三
 笠野化學工業所主……………笠野正幹氏…六四
 九州採炭社長……………清水利貞氏…六五
 國華工業社長……………山中政三郎氏…六六

安田合名代表……………安田建一氏…六七
 三寶伸銅工業社長……………久野晴雄氏…六八
 田島商店取締役……………西岡直一郎氏…六九
 大阪プレス製作社長……………山川儀一郎氏…七〇
 東海造船社長……………甲賀英逸氏…七一
 昭和鑄造代表……………林喜代太郎氏…七二
 三谷伸銅專務……………中井卯之助氏…七三
 山本放熱器製作所主……………山本一二氏…七四
 松尾鑄業常務……………中村正雄氏…七五
 新潟電力常務……………畑時雄氏…七六
 岐阜工作製作社長……………兒玉保一氏…七七
 北洋水産專務……………横山將來氏…七八
 山吉百貨店社長……………渡邊吉右衛門氏…七九
 富永鋼業專務……………富永良三氏…八〇
 福井商議副會頭……………岩堀正氏…八一
 東洋特許製作社長……………高木清次氏…八二
 土肥金山社長……………進藤淳之佑氏…八三
 横山工業專務……………横山公雄氏…八四
 竹内榮一商店社長……………竹内榮一氏…八五
 伊藤飛行機製作代表……………伊藤晋次郎氏…八六
 本江機械製作常務……………本江義忠氏…八七
 筑前炭坑長……………西田隆男氏…八八
 東京精鐵工專務……………石川隆三氏…八九
 西林工作機械所長……………西賞治氏…九〇

共立モスリン取締役……………奥村石二氏…九一
 三田工業所主……………三田繁雄氏…九二
 東洋特許製作常務……………石原豪雄氏…九三
 葛飾瓦斯社長……………浮谷權兵衛氏…九四
 三榮商店社長……………山本東治氏…九五
 飯野鐵工代表……………飯野憲一郎氏…九六
 北門銀行頭取……………壹岐準太氏…九七
 岡本鐵工所主……………岡本彌三郎氏…九八
 大阪築爐工業所主……………山口嘉藏氏…九九
 椿本チエイン製作所主……………椿本説三氏…一〇〇
 青木化學製油社長……………青木定治氏…一〇一
 山プレス製作社長……………山川重松氏…一〇二
 増成動力工業社長……………増成萬吉氏…一〇三
 笹村製網社長……………笹村竹造氏…一〇四
 佐野安船渠所主……………佐野川谷安太郎氏…一〇五
 美濃窯業社長……………近藤匡文氏…一〇六
 鑄物機械製造社長……………酒井良太郎氏…一〇七
 小野合名社長……………小野喜與三氏…一〇八
 押谷工業社長……………押谷惣助氏…一〇九
 福山商議會頭……………坂本政七氏…一一〇
 愛光機械製造社長……………富田利吉氏…一一一
 銚子商議會頭……………大里庄治郎氏…一二二
 福島製作常務……………田中元治氏…一二三
 川南工業社長……………川南豐作氏…一二四

松本鑄造所主……………松本市太郎氏…一五
 敦賀セメント社長……………熊谷三太郎氏…一六
 辻鐵工所社長……………辻喜四郎氏…一七
 安川電機製作代表……………安川第五郎氏…一八
 本江機械製作社長……………運沼善之助氏…一九
 福井商議會頭……………市橋保治郎氏…二〇
 鴻池組社長……………鴻池忠三郎氏…二一
 東洋精機專務……………三好廣氏…二二
 京濱機械社長……………鴨谷嘉久藏氏…二三
 千葉合銀專務……………關澄龍尾氏…二四
 中山鋼業常務……………上田高治氏…二五
 常陸セメント專務……………大内竹之助氏…二六
 常總鐵道社長……………飯田憲之助氏…二七
 昌運工作社長……………山口春吉氏…二八
 千葉瓦斯工業社長……………吉田秀彌氏…二九
 隅田川精機專務……………久保田藤造氏…三〇
 星製藥社長……………星一氏…三一
 中央電機製作常務……………島田勉氏…三二
 千葉貯蓄銀行頭取……………三木徳三氏…三三
 秋田製鋼專務……………大岩岬氏…三四
 名古屋鐵道常務……………須田博氏…三五
 島本鐵工社長……………島本庄次郎氏…三六
 梅津工場代表……………梅津徳之助氏…三七
 松菱百貨店社長……………谷政二郎氏…三八

昭和鐵工社長.....飯田久次郎氏...一三九
 駿河銀行頭取.....岡野喜太郎氏...一四〇
 阿部鐵工所社長.....千田幸助氏...一四一
 若林製絲紡績社長.....若林乙吉氏...一四二
 中島機械專務.....川畑光志氏...一四三
 常陽銀行常務.....武川守藏氏...一四四
 福徳機械社長.....九鬼金平氏...一四五
 古梅園社長.....松井貞太郎氏...一四六
 名古屋商議副會頭.....高松定一氏...一四七
 大阪造船社長.....南俊二氏...一四八
 三重縣醫師會長.....畑嘉開氏...一四九
 三金興業代表.....綿谷清氏...一五〇
 小松製作社長.....中村稅氏...一五一
 山口商店社長.....山口英一氏...一五二
 隅田川精鐵常務.....小田原大造氏...一五三
 田中衡器製作所主.....田中佐造氏...一五四
 奥井電機工作代表.....奥井豐松氏...一五五
 牧製作所主.....牧實氏...一五六
 赤木本店主.....水野伊兵衛氏...一五七
 寺内製作社長.....寺内梅次郎氏...一五八
 岡本工業常務.....岡本徳松氏...一五九
 紀陽銀行頭取.....山田虎次郎氏...一六〇
 關根鐵工所社長.....内山復次氏...一六一
 岩城硝子社長.....岩城倉之助氏...一六二

大倉土木常務.....武富英一氏...一六三
 東海鋼業常務.....大橋不二雄氏...一六四
 三共常務.....鹽原禎三氏...一六五
 日本光學工業專務.....波多野義男氏...一六六
 日本電池常務.....岩城純一氏...一六七
 昭和耐火工業代表.....岩田彦治氏...一六八
 函館水産販賣常務.....高村善太郎氏...一六九
 大阪螺旋管工業代表.....橋本徳三郎氏...一七〇
 茨城農工銀行頭取.....江幡新氏...一七一
 日本鍛工社長.....柴柳新二氏...一七二
 鴻池組專務.....鴻池小六氏...一七三
 東洋精機常務.....岸科政雄氏...一七四
 飯沼本家社長.....飯沼喜一郎氏...一七五
 巴組鐵工所社長.....野澤一郎氏...一七六
 大東紡織常務.....楠本吉次郎氏...一七七
 不二越鋼材工業取締役.....永井庄一郎氏...一七八
 三宅商店主.....三宅敏介氏...一七九
 岡本工作代表.....岡本政季氏...一八〇
 藤川工業合名社長.....藤川長市氏...一八一
 塚本商事機械專務.....塚本秀進氏...一八二
 占部造船鐵工代表.....占部五郎氏...一八三
 日華護謄工業專務.....内海軍治氏...一八四
 鈴木秀製作所主.....鈴木秀治氏...一八五
 津具金山鑛山所長.....倉田豐氏...一八六

北鋼海業社長.....堀岡長太郎氏...一八七
 東京ステンレス化工製作專務.....石川安司氏...一八八
 林寛商店社長.....林寛氏...一八九
 紀陽銀行常務.....片野滋穂氏...一九〇
 函館水産販賣常務.....大川原善藏氏...一九一
 直方鑄鋼社長.....野上辰之助氏...一九二
 日本齒輪專務.....長谷川桂平氏...一九三
 昭和製紙社長.....齋藤知一郎氏...一九四
 日本重工業常務.....前田與次郎氏...一九五
 黒田金床製造代表.....黒田義勝氏...一九六
 理研真空工業常務.....青木理氏...一九七
 白居万太郎商店代表.....白居万太郎氏...一九八
 窪田鐵工代表.....窪田林松氏...一九九
 大池ガレージ專務.....伊藤萬藏氏...二〇〇
 井上電機製作社長.....藤田伊三次氏...二〇一
 岡田組社長.....岡田勢一氏...二〇二
 小野鐵工代表.....小野保太氏...二〇三
 南海化學工業常務.....北島亀一郎氏...二〇四
 小田井鐵工所主.....小田井萬作氏...二〇五
 梶原商店代表.....梶原熊二郎氏...二〇六
 渡邊工業代表.....渡邊光雄氏...二〇七
 杉山商店代表.....杉山武夫氏...二〇八
 日本工業社長.....齋藤定實氏...二〇九
 齋藤造船鐵工所主.....齋藤安太郎氏...二一〇

川南工業常務.....篠原哲十郎氏...二一一
 館山病院院長醫博.....穂坂與明氏...二一二
 日本汽機製造社長.....丸友治氏...二一三
 東舞鶴鐵工所代表.....古和田磯治氏...二一四
 大阪ケール製造代表.....堀猛太郎氏...二一五
 安井商店主.....安井晋吉氏...二一六
 龍華工業社長.....小西正三氏...二一七
 關野商會主.....關野榮吉氏...二一八
 河本製機所代表.....河本萬造氏...二一九
 第八十五銀行頭取.....山崎嘉七氏...二二〇
 スナミ商會代表.....須浪昌律氏...二二一
 中村鐵工所主.....中村佳入氏...二二二
 高岡電燈常務.....吉田作助氏...二二三
 山本兄弟鐵工所主.....山本菊太右衛門氏...二二四
 小川温泉社長.....鹿熊久安氏...二二五
 荒瀬鐵工所主.....荒瀬信行氏...二二六
 安藤製罐工場主.....安藤嘉二氏...二二七
 石井鐵工所主.....石井若松氏...二二八
 亞鉛産業社長.....大角圓次郎氏...二二九
 日本給炭機製作所主.....村上利春氏...二三〇
 桃谷工作所專務.....植岡拙夫氏...二三一
 大福自動車社長.....中井洗之氏...二三二
 高田商事社長.....高田三太郎氏...二三三
 高岡銀行常務.....正村六之助氏...二三四

興亞日本を背負ふ俊豪

川西航空機株式會社 取締役社長 川西龍三氏

今次事變勃發以來の我が海陸軍の荒鷲の勇猛果敢なる行動は世界の驚嘆のまよになつてゐるが、それとともに我が國航空工業の發達ぶりは眞に驚異的なものがあつて、世界の耳目を聳動しつゝあるのである。

この美事な躍進ぶりは盡忠報國の赤誠に於いて前線將士に勝るとも劣ることなき我が航空工業者の協心戮力、一致の努力のたまものであるが、この今日の股盛を見るにつけても忘れてはならないのは我が航空工業育ての親たる川西清兵衛氏とその次男龍三氏父子の功績である。川西清兵衛氏は人も知る如く我が國の毛織王であり、關西財閥を語るには除くことの出來ぬ人物であるが、中島飛行機の初期に同社に協力したが、後秋を別つて大正九年、兵庫に川西機械製作所飛行機部を起し、ドイツのテイドルカールマン博士を招聘して單獨で飛行機製作を開始し、幾多の苦難を切り抜けてつづつ昭和三年に當社を起したのであつた。

現社長、川西龍三氏は、清兵衛氏の二男として明治二十五年二月を以て生れたが、俊豪を以て鳴る父君の血を受けて、性豪放磊落、すこぶる進取の氣象に富んでゐる。大正五年慶應理財科を卒業後川西家の機械事業に携はり、昭和三年、當社の創立と共に社長の椅子に就いたものであるが、その間、歐米各國を視察して來てをり、そ

の積極的な氣象は豊富な資力の援護と俟つて幾多の苦難に打ち克ち以て當社今日の隆盛を導くに成功したのである。

當社の現在資本金は一千五百萬圓、本社工場は兵庫縣武庫郡鳴尾村にあり、事變直後の昭和十二年八月、發動機工場をも建設して、發動機製作にも着手、かくて、機體の製造から、發動機の製造、プロペラの製造、而して飛行機の組立を一貫して行つてゐるのである。昨年、時局下に於ける航空工業の使命の重大さから斯業の保護助成を目的として航空機製造事業法が制定されるや、當社に對してもまづ先きに許可會社の指定があつたのももとより當然のことであり、三菱、川崎、中島と並んで本邦航空機製造四大會社として時局下に目醒ましい活躍を行つてゐるのである。

氏は、さきにも云つたやうに、豪放磊落の氣象の人だけに小事に拘泥せぬが判断は敏活正鵠にして要所々々はきつちりと引き緊め、すこぶる積極的である上に、仕事以外に興味はないといふ程熱心な人であるから、興亞日本の軍需工業を背負つて立つ人材としてはまことに打つてつけの人物である。しかも、本年四十八才の生氣瀟灑たる少壯たるに於いて、特にその感が深いのである。

尙、氏は、當社のほか、川西機械製作、川西倉庫運輸の兩社の社長でもあり、又旭運輸の代表、大同興業、昭和セメント、東京火災保險、其他多岐諸會社の重役として三面六臂の活躍をなしてゐる。その精力の旺盛なのは驚異に値するものあり、氏の如き人物の健在することは躍進日本の爲めに衷心より、慶賀に値することといはねばならない。

本邦水産界の明星

北洋水産株式會社 取締役社長 西出悌二氏

北洋水産株式會社々長たる外、西出商事、函館水産販賣、北陸水産、日本製罐、その他の重役として活躍してゐる西出悌二氏は、本邦水産界に名だたる巨星であり、北海道産業界一方の重鎮である。其經營的才幹の非凡なることはすでに定評のあるところ、人格高潔識見高邁の士として内外の崇敬を一身にあつてゐるのである。

當北洋水産は、事變下の昨十三年二月、資本金五百萬圓をもつて創立されたもので、いまだ創立日浅きにかゝはらず、十三年度に於いて既に純益二十一萬四千二百四十四圓九十四錢を計上するの好成績をあげた。即ちその業績の一端を他に比較するならば昨年度、北千島に於ける各漁業會社の鮭鱒漁業は總漁獲高四十三萬石といふ好成绩をあげたが當社では、實にその約四割に近い十六萬二千五百五十石を漁獲したのである。

その販賣方面にあつては、白鮭の一般的不漁の影響によつて、新巻、改良ともに好値で取引せられ、比較的豐漁であつた紅鮭は各方面に罐詰材料として供給して有利な業績をあげ、又、散鱒も、滿洲方面の需要急増によつて近年にない上値で取引され、前記の如き好成绩をあげたのであつた。

當社が、創立勿々にして斯くの如き好成绩をあげ得たのは、その出漁従業員全體が、絶對の信服を寄せる社長西出氏の所説である水

産業が國家的重要産業であるとの使命を自覺し、水産報國の社是のもとに渾然一體となつて、献身的作業にあつたが爲めにほかならないのであつて、この従業員の信服を得てゐる氏の徳望の大きさに吾人は今更の如く打たれざるを得ないのである。

氏は、石川縣土族西出孫左衛門氏の二男として、明治二十七年十月を以て生れた。人を正しく理解する爲めにはまづその人の遺傳と環境を調べてかゝる必要があるとはよくいはれるところだが、如上の如き徳望の人である氏の至純至誠なる人格は、氏が士族の出であることによつて諒解されるであらう。長ずるに及んで北海道の水産事業の重要性に想到した氏は自己の一身を捧げて斯業の發展に資し以て國家に貢献せんと決意し、努力奮闘、多大の功績を樹てるとともに今日の大を成したのであつた。

今や我が國は新東亞建設、大陸經營の一大國策を遂行しつつあり未曾有の國運發展の機運が到來してゐるが、それとともに、北の生命線としての北洋の水産業が重要視せられて來た。氏が、事變下に於いて敢然當社を興したのも一にこの國策に順應せんが爲にほかならないのであつて、この至誠のもとに渾身の努力を傾注する氏に、前記の如く、従業員の信服があつまつて、一致の協力を得られたのも決して偶然のことではない。しかも、氏は本年未だ四十六才といふ少壯である。躍進日本の期待するのは老練な指導者とともに、生氣瀟灑たる少壯の敏腕家なのであつて、北の生命線たる北洋水産陣にこの新銳の登場を迎へたことは國家的見地からも衷心慶賀にたえないことであり、吾人は衷心より祝福を贈るものである。

本邦産金界の新太陽

津具金山株式会社 倉田藤四郎氏
取締役社長

本邦産金界の新しき太陽として、時局以來驚異的な成長發展を遂げ、戦時下産金界に燦然として輝く倉田藤四郎氏は、本年古稀の高齡を數へながら、その意氣、體力ともに矍鑠として壯者を凌ぐものがあり、烈々たる産金報國の至誠のもとに夙夜努力奮闘を続けてゐるのである。先づ、吾人はその熱誠に對して、衷心よりの敬意を表さずにはゐられないのである。

そも、氏は三重縣の出身にして、明治三年九月、倉田重兵衛氏の四男として生れた。幼少より才智衆にすぐれ、氣宇また豪宕にして颯爽として將來の大成を期待されてゐたが、長じて實業界にはいるや、その天稟の才華は香ばしく開花して漸次に頭角をぬきんで早くより盛名をほしいまゝにしてゐたのである。即ち遠州電鐵、三重乗合自動車、豊川鐵道、鳳來寺鐵道、三信鐵道、名古屋乗合自動車等々の重役として活躍、同地方交通界の指導者として英名を馳せるとともに、また日東貿易の重役として本邦貿易界に多大の貢献をなして來たことは衆知の通りである。

而して、當社の事業に着手したそも、昭和七年のことであつて、現金山の試掘権を得て、専心これが開發にあたつた結果、優良金山の折紙を付けられるに至り同九年、株式會社に組織を擴大するとともに本格的開發につとめるうち、はしなくも今次事變の勃發

に遭ひ、産金報國の旗幟のもとに一大努力を傾注した結果、つひに今日の斯界の覇者たる地位を獲得するに至つたのである。

即ち、資本的には、昨年八月、當局の認可を得て、一舉六倍増資を執行して三百萬圓となり、新たに隣接の優良鑛區六十五萬餘坪を併合して、その所有鑛區面積に於いて倍大以上の飛躍をなし遂げたのであつた。氏が、かゝる優良鑛區を掌中に收め得たのは天運ともいへるが、この幸運は單に氏一個の幸運であるばかりでなく實に日本の幸運といふべきであらう。

而して、氏が當社の經營方針とするところは、産金報國の赤誠そのものであつて、國益を思ふ以外一點の私心なきその崇高な心事は各方面の畏敬のまとなつてゐるが、また當社の誕生以來、その所在地たる愛知縣北設樂郡上下津具村地方民の經濟的地位はとみに向上し、これも一に氏のお蔭なりとして同地方民は滿腔の敬意と謝意を氏に表してゐる。即ち同地方民は、當社設立前までは、日本でも有数の借金村であつたのだが、公共精神に富める氏は自社従業員として彼等を採用し、業績の好轉に伴つて待遇を向上せしめ、借金の整理に親身も及ばぬ世話をし、つひに今日では村民の借金は皆無となり、むしろ、日本でも有数の貯蓄村として輝かしい更生をなし遂げるに至つたのである。かくの如きは、氏の如く公共精神に富める人にして始めて成し得るところであり、その産金界に遺しつゝある巨大な足跡とともに、その善行は事業家の模範として、永遠に傳へられ、顯彰すべきものと信ずる。而してその名は永遠に同地方民の胸から消え去ることはないであらう。

陸軍機製作界の重鎮

川崎航空機工業株式會社 根本莊行氏
専務取締役

「空中を飛行する」といふ人類の宿望が達せられてから今年でまだ三十餘年にしかすぎないが、この間に於ける航空機の進歩發達は實に驚くべきものがある。これは歐洲大戰を契機として、完全に實用の域に入つたものであり、運輸交通機關として、又戰鬥武器として著しくその重要性を加へ來たつたものであるが、殊に最近、滿洲事變を経て今次の支那事變に及んで、軍事上の重要性は萬人に認識されるに至つたのである。

而して、今次事變に於いて我が無敵海陸の荒鷲を示した神速果敢なる行動は全世界の耳目を衝動せしめたとともに、我が國の航空工業の素晴らしい躍進ぶりが世界の話題の中心になつてゐる。それ等多數の航空工業會社中、三菱、中島、川西の三社と並んで國産航空機製造界の四天王と稱されるものが陸軍出身の俊秀として名高い根本莊行氏の専務をしてゐる川崎航空機工業株式會社である。

當社は、川崎造船の一翼として大正七年八月に事業を開始され、昨年獨立したもので川西、中島兩社に次ぐ、斯業の古參會社である。本社工場は神戸市林田區和田山通りにあり、各務原神戸明治通りに二工場を持つてゐる。陸軍機ドルニエ、サルムソンは當社が製作權を持つてをり、偵察、重爆等の新鋭機をも製作してゐる。其發動機は昨年世界記録を樹立した航研機によつて名高いBMWであつ

て、其性能の優秀さは歐米のそれを凌ぐ物として知られてゐる。

昨年、當社が川崎造船から分離獨立すると共に専務に就任、總務部長を兼任して重きを成してゐる根本莊行氏は、茨城縣の出身にして、明治二十二年一月、根本直行氏の三男として生れた。從三位勳三等陸軍砲兵中佐であるが、その間、技術本部附、陸軍造兵廠大阪工廠作業課長に歴補せられ、陸軍部内に俊才のほまれを謳はれてゐたものである。

氏は、性謹嚴剛直にしてすこぶる研究心に富み、現役當時から航空工業の技術方面について深い造詣を持ち、つねに歐米の新刊書によつて新智識を吸収してゐたといはれるが、當社の専務となつた今日その智識が大いに役立つて、當社の主製作機たる無敵陸軍の軍用機製造に偉功を奏しつゝあるのである。

氏が當社の専務に就くに至つたのも、一にその深い智識を認められたが爲めにほかならないが、又その社内統率の手腕についても非凡なるものがあり、その謹直なる人格と相俟つて社内信望を一身にあつてゐる。當社の主流事業が陸軍機の組立製作にあることは先に述べたが、陸軍出身の氏が専務の地位にあることによつて兩者ともに至大の利便を得てゐることはいふまでもない。

氏は、本年五十一才、その眞價が發揮されるのは寧ろこれからといつてよい壯齡である。新東亞の建設といふ古今未曾有の大事業を完成せんが爲には當社の今後一段の飛躍と努力を必要とするが、その當社が將來ともに氏の活躍に待つ所極めて多いのである。吾人の邦家の爲に氏の健康と健闘を祈つて止ない所以である。

創造的頭腦の偉材

日本フアイバー製造
株式會社取締役社長

納 五 平 氏

わが國フアイバー製造界の一大オーソリティとして知られる日本フアイバー製造株式會社の社長として、その卓れた才腕を縦横に發揮してゐる納五平氏は、我が國硫酸工業界のエキスパートとしてつとに名高き偉材である。そのすぐれた頭腦の所産になる納式硫酸装置を世に送つて硫酸工業界に革命をもたらし、一大貢獻をなしたことは周知の通りである。

そも、氏は、明治二十一年八月、兵庫縣人納順吉氏の長男として生れた。少年時代から頭腦明晰にして創造の才に長じ、進取向上の念に富んでゐた氏は大阪高工應用化學科を卒へてのち斯業の先進國たるドイツの學術書について研究を進める便宜の爲めに東京外語獨逸語科にはいつて語學を修得したのである。

のち、大正二年、大日本人造肥料に勤めたが、その間も研究を怠らず、つひに、納式硫酸装置の發明を完成、これによつて斯業に貢獻すべく、大正五年、納式硫酸工業事務所を創設したのである。爾來當所を通じて我が國硫酸工業の發達に貢獻は至大なるものあり、各方面からその功勞をたゞへられてゐるが、氏がこの劃期的大發明を完成したのは、未だ二十代の青年時代だったのであるから、その異常の天才には驚嘆せざるを得ないものがある。而して、その後も引續いて研究に没頭するかたは次第に活躍の

範圍を擴め、現在納式硫酸工業事務所長たるほか、頭書の日本フアイバー製造の社長として、又宇部耐火煉瓦の重役として非常時工業界に斷然として重きを成してゐるのである。

當日本フアイバーは、兵庫縣武庫郡鳴尾村にあつて、フアイバー製造界の一大權威として躍進を重ねて來たのであるが、今次事變によつて代用品工業の重大さを痛感した納社長は、その創造的頭腦を持つて自ら陣頭に立ち、新製品の製出に邁進した結果、つひにその努力は實を結んで眞に國策線に沿つた卷取式フアイバーシートを完成したのである。

この新製品は從來、フアイバー製造になし得なかつたものが、品質を一層優良化したこと、表裏二色になし得た、裁斷屑の極度の節約、功作業を能率化した等の特長を持つもので發賣以來、凄まじい賣行を見せてゐるが、他の代用品が一時的のものが多い折柄、本品は在來品に優る點を備へてゐる爲め、永久的代用品としてその流通をはかる爲めに、御堂筋北久太郎町にサーピス、ステーションを設置し、活潑なる活動をつゞけてゐる。

かく、天才的な頭腦の持主である氏は、高邁不羈の人格の所有者でもあつて、内外の尊敬のまとなつてゐるのである。一つの才能に長じた者は、ともすると人格に於いて缺くる懼みがあるものであり、又、その才能による貢獻が偉大でさへあれば、人格的に非難すべ點があつても寛如せねばならぬとされてゐるが、氏の如く才能、人格ともに傑出した人材こそ眞の意味に於ける偉材といはぬばならぬないのである。

起重機界の長老

株式會社坂口機械製作所
取締役社長 坂口嘉兵衛氏

我が國に於ける起重機製作界の權威としての坂口嘉兵衛氏の名を知らぬものはない。氏は斯業者としては我が國最古の人たる輝かしい経歴を持ち、技術界の最高權威者として、斯業の發展につくした功績は至大なるものがある。「起重機のナンベーション」といふ稱號が、氏の名の上に冠せられてゐるのも、決して過當のことではないのである。

そも、氏は滋賀縣の出身で明治七年一月、先代嘉兵衛氏の長男として生れ、同三十七年現社を創立した。實に今から三十有五年前、氏が三十一才の時のことである。爾來、當社は日露戰役のかわやかしい戦勝によつて世界の一等国となつた我が國の國運と歩調を一にして目醒ましい躍進をつゞけつひに、今日の大を成し上げたものである。

いま、當社の製品を見るに、およそ起重機と名のつくもので、當社の手にかゝらぬものはない有様であるが、その概目を上げて見ると、天井走行起重機、埠頭起重機、グラブバケット付各種起重機、デリック起重機、ガンドリ起重機、製鋼工場用各種起重機（レール起重機各種、鍛造起重機各種、平爐用材料裝入機各種等々）枚舉のいとまがない程である。當社は大阪市西淀川區大和田町にあり、その優秀なる品質と多年の信用によつて全國的に強固な地盤が

築かれてゐるのである。

氏は、起重機製作業を起してからすでに三十有五年、その半生を上げて起重機に捧げて來たのである。その當社を起した動機は日露の風雲急なる當時にあつて、將來の國運の消長を決定するものは機械工業であるとの信念に到達、斯業によつて國家に貢獻しようといふ烈々たる愛國心に基いてゐるのであるが、今次事變の起るや生産力擴充の國策が樹てられるに及んで製鋼工場その他工業會社に於ける起重機の需要増大を見るに及んで、氏はその生産力の擴充をはかる爲めに工場設備の擴充をはかり、もつぱら時局工場用機の製作に注力してゐるのである。

而して、氏は後進の指導推挽といふことについても大いに意を用ひ、有爲の人材と見れば、その才を伸ばし、またその才を活用するに必要なあらゆる助力を惜しまず、現に、氏の推挽によつて業界各方面の第一線に活躍してゐるものは相當の數にのぼるが、これ等の人々が氏を徳とし敬慕することは非常なものである。また一般従業員に對しても肉親の愛情を以て接し、つねに待遇の改善向上をはかつてゐるので、従業員も慈父の如く氏を敬慕し、同社工場内にはあたかも春風の如き瀟々たる空氣が流れてゐるのである。

斯様に、幾多の美點を持つ氏は従つて外部からの信用も厚く「起重機の父」として各方面から尊敬され、愛慕されてゐるのである。氏は、本年六十六才の高齡乍ら、意力、體力共に矍鑠として壯者を凌ぐものあり、その年來の信念たる工業報國の赤誠下に直往邁進されつつあることは邦家の爲めに衷心より慶賀に堪えない。

英名世界に轟く俊材

日本コロムビア 三保幹太郎氏
取締役社長

皇國百年の大計たる新東亞の建設には、軍事、國防、政治、經濟産業等の諸部門の擴充強化をはからなければならぬことはいふまでもないが、それとともに文化關係諸事業の整備充實も亦一日もゆるがせにすることは出来ない。

而して、文化關係事業の内、新聞、雜誌、映畫等が目よりの文化普及を使命とするに對して、耳よりの文化普及の役割を承るレコードは、例へば政治演説のレコード等によつて政治思想の涵養にあたるとともに、音楽レコード等によつて、情操を豊かにし、心性を陶冶するにあづかつて力があるものである。ことに、文字を知らぬ者の多い支那民衆の宣撫教化にあつて、今後益々レコードが重要な役割を果すに至るであらうことは想像にかたくな。

されば、日本のレコード會社の使命は今後いよいよ重きを加へんとしてゐるのであるが、我が國のレコード會社といへば、まづ第一に挙げねばならぬのは、少壯敏腕のきこえ高き三保幹太郎氏が社長として、その定評ある才腕を縱横に發揮してゐる、日本コロムビア蓄音器株式會社である。當社は衆知の如く、創立以來久しく外國資本を取入れてゐたが、滿洲事變後の自主獨往の趨勢に乗じ外國資本と絶縁して日産の手によつて買収されると共に、その買収工作に日産鮎川社長の片腕となつて奔走した三保氏が社長に任に就くに至り

現在は東京電氣の傘下にあつて活潑な活動を續けてゐる。

そも三保氏は、神戸市の出身にして、神戸一中から神戸商大に進んだが、學業の成績抜群にして、秀才のほまれが高かつたばかりでなく、劍道四段の肩書を持ち、神戸商大劍道部主將として、關西學生劍道界に勇名をうたはれたものであつた。同大學卒業後、三井物産に入り、神戸支店船舶勤務二年の後、カルカッタ支店に廻り更に二年の後ニューヨーク支店勤務となつた。

當時は、恰かも世界大戰の終末期であつたが、大戰を契機として移り變りゆく世界經濟界の相貌を眺め、考察を續けるうちに、資本の輸出といふ新しいアイデアを得て、それに關する經濟論文をアメリカ財界に發表した。これが大いに反響を呼んで、ニューヨーク在勤五ヶ年間に、數多のアメリカ財界人と識る事が出来た。

歸朝後、大阪支店にあること一年にして、三井物産を退社した氏は、アメリカの資本を輸入して事業を起さねばならぬ時代の要求に答へて、福澤桃介氏を案内してアメリカに渡り、大同電力の外債募集に成功させた。之は實に日本の會社が外債成功した最初であり、爾來、大同電力の第二回、宇治川電氣、日本電力、東京電燈等、アメリカで募集された外債は一つとして氏の盡力によらぬものはなかつたのである。これが、又氏の鮎川日産社長と相識るに至つた動機でもあるが、ついで外國資本の驅逐時代となつて、氏は再び、外國系資本の會社買収に缺く事の出来ぬ人物として活躍を續けて來た。今や、當社は、純國産レコード會社として、最古の歴史と最大の規模を持つて、興亞日本の重要な一翼を承つてゐるが、その前途は三保氏の前途と共に誠に多望多幸なるものである。

海軍機製作界の雄

株式會社渡邊鐵工所
取締役社長 渡邊福雄氏

今次事變勃發の當初、果敢なる渡洋爆撃を敢行して、世界戦史上に一エボックを作つて我が海軍の活躍の活躍は世界の耳目を衝動し、「無敵海の荒鷲」の名が冠せられるに至つたが、この無敵海の荒鷲と切つても切れぬ關係にある人に我が渡邊福雄氏がある。

氏は福岡縣の出身で、明治十年六月、藤城善七氏の二男として生れたが、後渡邊家に入つた。當社は、明治十九年一月創業といふ古い歴史を持つてゐるが、鐵工器具製作から兵器製作に移り當社の傑出した技術と、渡邊氏の良心的態度とによつて海軍の信望を得、昭和九年から海軍機々體の組立製作とプロペラの製作を開始するに至つたのである。

當社は、本社及び工場は福岡市雜餉隈にあり、資本金六百萬圓、昨年航空機製造事業法の制定を見るに至つて、許可會社の指定を受け飛行機の組立、機體の製造を行ひ、無敵海の荒鷲の活躍に多大の貢献をなしてゐるものである。

當社の技術が如何に卓越したものであるかといふことについてはこゝに収めるまでもなく、海軍の絶對的信望を得てゐることによつて明らかであるが、一つの工業會社に對する信頼といふものは、その技術に對する信用とともに、その會社を代表する人物の人格に對する信用がなければ、決して成り立つものではない。當社に對す

る海軍の信任も、實に、渡邊氏の良心的なる態度、——即ち、その謹直眞摯にして責任感の強い人格に對する信頼にもとづいてゐるのである。

氏は、生得責任感の強い人であつたが、特に兵器製造に移り、海軍機の組立製作を行ふやうになつてからは一層その使命の重大なるを痛感して、従業員に對しても責任を識ることの人間として如何に重要なことであるかを説き、責任ある態度で作業にあたるやうに説く一方に自ら率先してその範を示し、又營利よりも國家の要求に添ふことを以て第一義とし、あらゆる行動を國家的見地から決定するなど、その崇高なる心事にはたゞ敬服のほかはない。

又、氏は理解と温情に富んだ社長として従業員の間信望が高いが、労働問題にはきはめて造詣深く、つねに勞資協調の爲めにつくしてゐる。昭和十年の國際労働會議に際して、使用者側代表を仰付けられたのも、その故にほかならないのである。

今や、我が國は明東亞の建設として聖なる使命をになつて前古未曾有の軍事行動を進めつつあるが、この聖戦をして有終の美を濟さしめ、以て大陸の野に骨と化した幾多忠勇なる將士の英魂を慰めんが爲には、今後尙長期に亘つて、軍事行動を進めねばならぬことを覺悟せねばならぬ。而してこれが爲には、主要なる戦器であるところの航空機工業者の一般の奮闘が切望されるのであるが、こゝに才徳並び秀でた渡邊福雄氏の健在を見ることは、この重大なる使命をになふ航空工業界の爲め眞に慶祝に値することといはなければならぬのである。

成形機界の耆宿

株式会社竹内鐵工所
取締役社長

竹内宇吉氏

香川県下に於ける代表的重工業會社として知られる株式会社竹内鐵工所は、同縣下の重工業界の實質的指導者たる竹内宇吉氏の經營にかゝり、香川県下の商工都市多度津港に本社を持ち、大阪市旭區赤川町に大阪營業所を持つて高級精密機械電動機直結全齒車式強力成形機の製作にあたり、斯業専門會社中の最高峰として全國的に覇を唱へてゐるのである。

この當社の今日の隆昌を來たしたのは一に社長竹内宇吉氏の快腕によるところであつて、多度津に當社を起して以來、その卓れた製品の眞價が各方面に認識せられると共に販路は急激に擴大され工場増設を矢繼早に行ひ、つひに大阪に營業所を置いて需要者の使に資すると共に積極的に販路を擴大、つひに今日の股盤を見ることになつたのである。

その第一工場は本社所在地の多度津港にあり、第二工場は大阪市北區郡島に、第三工場は福山市松濱町に、第四工場は大阪市旭區赤川町にあるが、大阪營業所は第四工場と同地にあつて、この大阪營業所工場のみをもつてしても優に一會社たり得る充實した内容を持つてゐる。

その製作種目を列記すると、二十八吋七半HP及び二十四吋五HP各電動機直結全齒車式強力成形機、二十四吋バツクギヤー式ベル

ト掛式成形機、二十吋三HP電動機直結全齒車式強力成形機、十八吋バツクギヤー付ベルト掛式成形機等であつて、多年の經驗による卓越した技術と優秀な設備とをもつて斯然他の追隨を退け、斯業界の王者として、堂々と君臨してゐるのである。

斯くの如き躍進ぶりは異數のことであつて、氏の如き敏腕家に於て始めてよくなし得るところといふことが出来よう。氏は、たんに經營の手腕に卓れてゐるばかりでなく、その至誠至純の人格誠實主義の權化ともいふべき人格がその要望先きの信用の基礎となり、以て當社の今日を築くにあつて力にあつたことを見通すことは出来ぬ。信用が事業繁榮の基礎であることは事改めていふまでもないが、その信用は當社の如き工業會社にあつてはその技術と共に、經營主腦者の人格に依存するもので、當社が不抜の信用を持つてゐるのは即ち屢述のやうに當社の卓越した技術と、その主腦者たる竹内社長に至誠至純の人格によるものに外ならない。

他面、従業員に對する氏は肉親の如き愛情を以て彼等に接してその待遇條件の向上につねに意を用ひ、福利的施設を完備して、至らざるなき有様であるから、従業員も痛く氏の徳を慕ひ氏の下に一糸亂れざる統制ある行動をもつて斯業に精勵してゐる。故に當社の如きをこそ當代の模範工場といふべきであつて如何なる見地からするも當社の今日の隆盛を見つゝあるのは當然のことであるが、時局は當社に對して今後、尙一層の飛躍を願つてやまぬものあり、吾人は氏の一段の努力精進を以てこの國家の要求に答へられんことを願つてやまないものである。

抜物押物界の泰斗

合名會社小野製作所
代表社員

小野利待氏

大阪市港區九條南通に營業所を持つ合名會社小野製作所は敏腕のきこえ高い小野利待氏の經營にかゝはるところだが同社は、各種金屬抜物押物並にドロップホーシ型製作を専門とし、斯業界に不拔の地位を占めてゐる。

即ち、その製作品目は、電氣用、紡績用、農具用、建築用から、時局柄もつとも需要の多い飛行機用、自動車用、諸機械用等々、あらゆる種類の製作をしてゐるが、當社では型から抜物押物の製作まで一切を自社工場で作してをり、絶對他社の追隨を許さざるものがある。即ち、同社には、大阪市港區九條南通二丁目第一工場、同區九條中通二丁目第二工場、大阪府中河内郡繩手村四條に分工場、三工場を持つてをり、設備の完璧なることは廣く周知のところである。こゝに小野氏の信條たる技術第一主義にもとづいて訓練された素質優秀なる従業員が同じく氏のモットーたる良心的態度をもつて製作を行つてゐるのだから、その製品が壓倒的に優秀なものも決して不思議なことではない。

従業員の良心的製作態度——これこそ特筆大書すべき當社の他に誇るべき社風であるが、この社風の生れた所以は、一に、氏の社員指導、訓練がその宜しきを得たたまものにはかならない。信用が事業繁榮の基礎であるとは古くからいはれてゐるところだが、工業

會社にとつての信用はその技術と共に、責任ある態度で製作にあたるといふことが必要である。如何に優秀な技術を持ち、設備を持つてゐても、従業員の作業が投げやりであつては、決して完全なる製品は生れず従つて信用も落ちる譯である。こゝに着した氏は従業員に對して技術の錬磨と共に、精神の陶冶を行ひ、責任を知ることが人間にとつて如何に大切であるかを説き責任ある態度で、良心に愧ぢざる態度で製作に當るやうに諭してゐるのである。

昔から、心技一致といふことがいはれてゐるが、心技一致といふことこそ技術家の最高の境地であつて、氏はこの境地を心掛けて製作にあたるやうに教へてゐるわけである。従業員は、その圓滿な人格に滿腔の尊敬を捧げてゐる小野氏のこの論へを格遵し、實踐してゐるのであつて、この美しい社風を持つ當社に對する信用は實に確固不動のものがあるのである。

氏は、從來からも、營利よりも國家の要求に添ふといふことを以て第一義として來たのであつたが、時局以來は特にその決意を固くし、澎湃として起つた工業報國の聲に呼應して、生産力の擴充につとめ、もつぱら時局向品——即ち飛行機用、自動車用、諸機械用等の製作に主力を傾注してゐるのである。

今や、祖國は、新東亞の建設といふ前古未曾有の一大事業の完成をめざして、聖戰を遂行中であるが、これをして有終の美をあげしめん爲には前線將士の熱誠に劣らざる赤誠をもつて、銃後産業戦線の戰士の活躍を必要とするのである。この時にあたつて氏の今後一層の努力健闘を冀念することや切である。

敏腕を以て鳴る俊英

日本航空工業株式會社
專務取締役 坂東舜一氏

近代戦に於ける飛行機の役割は今更説明を繰返すまでもなく、極めて重要な地位を占めてゐるが、今次事變に於いて示されつゝある我が海陸空軍の目醒ましい活躍のかけに、銃後にあつて航空工業にたづさはる人々の工業報國の赤誠にもとづく熱誠なる奮闘努力のあることを忘れてはならない。

この航空工業の使命の重大性にもとづいて、政府は昨年八月航空機製造事業法を制定し、事業の濫立防止、資本の重復排除を行ふと共に免稅、資金調達上の便益付與、獎勵金の交付などによつて積極的な保護助成に乗り出したのである。この法律によつて許可會社の指令を發せられた十四大航空工業會社の最新鋭として、活潑なる活動をつとめてゐるものに、少壯の敏腕坂東舜一氏の専務の任にある當日本航空工業株式會社がある。

當社は、歴史に於いては許可會社中最も新しく事變直前の昭和十二年五月五日の創立であるが、關西の大財閥たる寺田財閥の強力なる資本を背景とし、多年航空工業界にあつて敏腕をうたはれてゐた有力なる技術家を多数傘下にあつて設立されたものだけに創立直後にして今次事變の勃發にあつて、急激なる發展を要求されるに至るや、些かの停滯もなかつたうちに躍進の歩調をととのへ、堂々の進軍を開始して、すばらしい實績をあげつつあるのである。

事業の成否は、資本と人材とその事業の將來性の三要素にかゝつてゐるといはれてゐるが、當社程この三要素に恵まれた社は少いといへよう。特に、その専務の重職に我が坂東舜一氏を持つことは優秀スタッフを以て鳴る當社主腦陣に一層の強味を加へたものであつて、當社の今日の隆昌の一因はこの偉材を持つたことにあるといふことが出来る程である。

氏の俊敏なる經營手腕についてはつとに斯界に喧傳されてゐたところであるが、そも／＼氏は兵庫縣人坂東常吉氏の長男であつて、明治二十五年六月を以て生れた。幼少より俊秀のきこえ高く、學業の成績もつねに拔群であつたが、大正五年、慶應義塾理財科を卒業後、業界人としての巨歩を踏み出して以來、不撓不屈の努力精進の結果、いよ／＼その天性の才華に光彩を添へ、三十代にして早くも敏腕坂東の名を江湖に知られるに至つたのである。

氏は、その經營手腕に於いて拔群であるばかりでなく、教養識見ともに高く特に國際情勢から政治、經濟、産業の各方面にわたつてつねに觀察を怠らず、その判断は正鵠であつて、一事業の指導者として最適の人材である。しかも當年四十八才といふ若さは躍進日本の最も多くの期待を氏に寄せる所以であつて、我が航空工業の新興勢力たる當社に氏のあることは如何なる見地からも、慶賀に値することといはねばならないのである。氏は、性ははめて進取の氣象に富み、計劃を樹てるに當つては凡ゆる角度から緻密なる考察を加へることを怠らないが、さて實行に移すとならば、如何なる困難障礙にも屈することなく直往邁進する強固な意志の人である。

筑豊鑛業界の驍將

金丸鑛業株式會社
取締役社長 金丸熊太郎氏

新しき時代はつねに生氣澄潤たる新人の手によつて設計され、建設される。それは過去の歴史が何よりも雄辯に證明してゐるところであり、すでに定説となつてゐるところである。今や、我が國は興亞の大使命を帯びて起ち上り、新東亞建設の大事業を遂行しつゝあるが、現社會のあらゆる機構の第一線に立つてはなばなしい活躍をなしつゝあるのはいづれも新進氣鋭の青壯年者である。この大事業遂行の兵站部を承る産業界にしてもやはりさうで、今では、明治から大正へかけての建設期に偉功をたてたいはゆる元老たちの大半は、或ひは幽明境を異にし、或ひはすでに第一線を退いて悠々餘世をたのしみつゝあり、これに代つて第一線の指揮に任じつゝあるのはこれら元老、功勞者等の第二世であり、昨日までは一介の無名の士であつた純然たる新人連である。

この新鋭群中に交つて、ひときは頭角を抜いてゐる人に、筑豊鑛業界にその名の轟いてゐる當金丸鑛業株式會社をひきかゝる金丸熊太郎氏がある。氏は、聲望一世を風靡した先代金丸勘吉氏の御曾子である。勘吉氏は、一世の俠兒故吉田磯吉翁の後繼者として疎腕をふるひ、事業界において確固不拔の地位を占め、北九州の發展に貢献した偉大な功勞者であつて、その功績は燦として北九州發展史上に輝いてゐる。

現社長熊太郎氏は、先代の衣鉢をついで熱血仁俠の人だが、ことに、その獻智はよく現下の時局を認識して「産業報國」の熱誠に燃え、いち早く戰時體制に策應した増産計劃を樹てこれを實行し、以て北九州鑛業界をリードしてゐるのである。

いふまでもなく、北九州鑛業界は日本最大の鑛業地帯であり、その重要性から屢々日本の心臓部に比較されてゐるところである。同鑛業界の振不振は平時においても無論さうであるが、特に戰時下の今日に於いては全戦局に影響するところきはめて甚大であり、そのリーダーの手腕に期待するところ、また多いのである。金丸氏こそ、その「期待」に答へて立ち上つたリーダーといふことが出来る。

當社は、福岡縣遠賀郡香月町に本社を置き、若松市本町に出張所を持つてゐるが、その開鑿技術の如きはもつとも精銳にして能率高く、斯業者の模範となつてゐる。特に従業員への待遇については、先代以來の家族主義を踏襲し家長の子女に對する温情と理解をもつてこれに接し福利慰安の施設を完備して従業員への感謝と感激のまとなつてゐるのである。

かくの如く、氏は、内外から「青年社長」として敬愛されてをりその卓越した識見と實力は新しき時代の指導者として、まことに適はしいものであるとして、今後の活躍に多大の期待がかけられてゐる。父君勘吉氏も後繼者にこの偉材を得て、さぞ満足に感じてゐることであらう。吾人も、氏の將來に滿腔の期待を捧げるものであり氏の自愛健闘を衷心より願つてやまないものがある。

躍進日本の若き偉材

岸本機械工作所主 岸本 奎一氏

我が國の機械工業は、久しい間外國依存の風を脱けなかつた爲めに進歩甚だ遅く、國産品は舶來品に比してきはめて劣等であつたが時局以來、生産力擴充の國策と共に質的向上がとり上げられ、以て國産自給、輸入防遏の道が講じられつつあるのである。

而して、時局以來、各工業者の努力によつて、生産の擴充と質的向上の實績は大いに見るべきものがあつたが、その技術の困難をもつて知られる「骸骨」に革命的新製品を送り出し、舶來骸骨を凌駕する逸品として江湖の賞讃を博したのは岸本奎一氏の經營主宰する岸本機械工作所である。

岸本氏は、廣島縣の出身にして明治四十年七月、岸本元次郎氏の三男として生れたが、大正十二年年少の身を以て丸十亞鉛鋼に入り爾來夙夜の努力をもつて斯業の研鑽を積むと共に社業の發展に偉功を樹て、つひに同社常務の要職に推されたのであつた。當時、氏は未だ白面の青年であつたのである。以てその非凡の才を識るべきであらう。

而して、獨立自尊の念強き氏はつひに獨立の機運を掴み、その傑れた技術と經營の才腕をほとんど唯一の武器として當所を起したたのであるが、その天才的頭腦から生れた革新的製品は輸入防遏、國産自給の國策に適應して各方面の絶對的支持を受け、いまや社運隆々

として旭日昇天の如き勢ひを以て發展向上の一途をたどりつつあるのである。

當所は、大阪市西區立賣堀南通四丁目に營業所を持ち、同市旭區放出町に工場を持つほか、東京神田區東松下町に岸本合名東京支店を置いて全國的に販路を持つてゐるが、その國産骸骨の月産能力實に一千個に及び胴體の硬度ショアー四十度、爪の硬度ショアー八十五度といふ壓倒的優秀をほこるもので、各需要方面の壓倒的な支持需要を受けてゐる。氏自らこの優秀品の壓倒的な支持需要を以て、「技術の勝利」といつてゐるが、事實、多年の研究苦心の結果が、優秀なる材料と精密なる加工と、特殊技術とをもつて、世紀の最優秀品たる該品を生んだのである。

しかも、この革新的なる優秀品を生んだ氏が、本年未だ三十三才の前途尙幾春秋に富む青年なのであるから驚かざるを得ない。氏は技術第一、技術報國を以てその處世の方針とし、當所のモットーとして来たがこの若さにしてこの素晴らしい優秀品を生んだ氏が、今後尙十年乃至二十年、更に三十年の努力によつて、如何なる成功をあげるか全業界人が一致の期待をかけてゐるところである。

而して氏が將來必ずや我が機械工業界の指導的實力者として斯界に君臨するに至るであらうことを想像するのは決して過當の期待ではないと信するのである。

今や、時局は重大にして前途に富む、行動意欲旺盛な、而して實力ある少壯新人に期待すること多大なるものある時、吾人は氏の今後一層の努力精進を切願せずにはゐられないのである。

住友事業関の智將

住友金屬工業株式會社 常務取締役 木下 亮 吉氏

本邦有數の大財閥たる住友はその豊富なる資力を以てあらゆる産業部門に亘つて進出、多數の直系會社を持つてゐるが、事業の基礎は資本と人材の二つであるといはれてゐるやうに、同財閥の各産業部門がいづれも隆々たる發展を遂げたゆえんは、その豊富の資力を存分に活用し來たつた經營スタッフの優秀揃ひであることにある。事實、住友事業関には、經營、あるひは技術のあらゆる方面に亘つて當代の一流人物が網羅されてをり、各人おの／＼その所を得て思ふ存分の活躍をなしつつあるのであるが、その直系事業中、時局にもつとも深い關係を持つ住友金屬工業の常務として、天性非凡の才腕を縱横に發揮してゐる木下亮吉氏の如きは、その代表的なる偉材の一人である。

そも／＼氏は和歌山縣の出身であつて、明治十九年一月木下善助氏の二男として生れたが、幼少より頭腦明敏、特に科學的方面については深い趣味を持つてゐた。長ずるに及んで將來工業が近代國家にとつて最重要の産業になるであらうと洞察するに至り東京帝大工学部機械科を選んで入學、同四十五年抜群の成績を以て卒業後、住友伸銅鋼管に入社したのであつた。以來、住友系諸會社に關係し次第に重職に經昇つて、現在では當社常務たるほか、住友系の多數會社の重役として敏腕をふるつてゐるのである。

當社は、明治三十年四月の創立であつて、大正十五年、住友伸銅會社と改め、在來の資本金一千五百萬圓を五千萬圓に改めたが、昭和十二年十一月今次事變の勃發によつて、その使命が増大するや住友金屬工業と改稱すると共に一舉一億圓に倍額増資し工場の増設を行ひ生産力の倍大擴充を決定したのである。

その事業種目は極めて廣汎であるが、就中當社の輕金屬プロペラは日本航空工業界の花形として知られ、昨年八月制定された航空機製造事業法による許可會社として時局下に素晴らしい貢獻をなしてゐる。當社の誇る住友デニラルツトの完成は大正八年であつて、我が國に於ける最初の偉業として傳へられてゐるが、大正八年輕合金鑄造を開始し、更に金屬プロペラの製作に乗り出し、我が國の航空界を世界の最高水準に迄、引き上げることに成功したのである。一昨年、改稱倍額増資に際して分離・同社プロペラ製造所と呼ばれてゐるのが即ちそれである。

氏が、技術家として、斯かる當社の技術界に於ける偉大な貢獻の蔭の人として偉功を樹てたのであるが、現在では常務として製作部門の指導にあたりと共に經營方面にも快腕をふるひ、今では住友事業関になくてはならぬ偉材として内外の尊崇を一身にあつてゐる。特に部下の後進に對しては肉親の如き愛情をもつて接し、相談相手となつてやるといふ風があり、部下からは慈父のやうに慕はれてゐるのである。

氏は本年五十四才といふ働き盛り、この時局下に際して一層の努力を以て國策に協力されんことを切願に堪えない。

函都財界の飛將

角田無線電機株式會社
取締役社長

岡本榮三郎氏

角田無線電機社長たるほか、株式會社ウロコ製作所専務として、又函館製網船具常務として、その他多數諸會社重役として、本邦産業界に不拔の地位を持ち、かつ函館財界の雄として重きをなす岡本榮三郎氏は、和歌山縣の出身で、湯川林兵衛氏の三男として明治二十一年六月を以て生れ、北海道財界一方の重鎮たる岡本康太郎氏の養子となつたのであつた。

梅檀は双葉より香ばしのたとへに漏れず、今日、一代の俊材と謳はれてゐる氏は小學校時代から學業の成績も拔群であつたが、大正六年、東京帝大法科を卒業後、米國商工業の視察に赴き歸朝後その新智識をひたして業界人としてのスタートを切つたのであつた。爾來、その天與非凡の才幹は遺憾なく發揮せられ、一代の俊材として仰望されるやうになつたのである。

氏が、現在社長として社務を統轄してゐる角田無線電機は「角田無線真空式管SIPG型水晶制御式」と呼ばれる優秀機を主流製品としてゐるが、之は、小型船無線電信電話用として各官廳指導船及び漁船に取付け、噴々たる好評を博してをり、内地本土はもとより遠く朝鮮、臺灣方面からの注文が殺到してゐる盛況である。その本社は、東京市日本橋區北新堀にあり、水産國日本の斯業者の爲め、多大の利便を供してゐる。

また、氏の専務をしてゐるウロコ製作所は、東京市城東區南砂町に大規模の理想的工場を持ち、從來、製材、木工機械、ベニア製造に最高級品を供給してゐたが、時局以來、生産力擴充の先決要件としての工作機械の生産力擴充が叫ばれるに至るや、たゞちに工作機械製造に進出したものであつて、今や五大メーカーの巔を靡せんとする盛況にある。更に、氏の常務として重きをなす函館製網船具株式會社は製網界の花形として、北方生命線たる北洋漁業界の爲めに多大の寄與貢獻をなして來たのである。

氏の經營手腕の卓越したることについてはすでに定評があるが、又、氏は至純至誠の人格者として知られ、かつ識見高邁、きはめて公共精神に富んだ人として在り地函館市民の尊敬を一身にあつめてゐる。氏の處世の信條は、國民は各自その才能と能力に應じて、その最善を傾倒し、以て、國家社會に貢獻することが、國民として、社會人としての神聖なる義務である、と説いてゐるが、眞に味ふべき至言といはねばならない。

氏は、性、溫良恭謙にして、そのおれを空しくして、ひたすら國家社會の福祉を顧ひかつ謙讓の態度を以て、いさゝかも自分の地位を誇つたり功績を鼻にかけたり、するやうなことの無い態度は各方面の賞讃のまとなつてゐるのである。まことに當代に得がたき偉材といはねばならぬ。

氏は、本年五十一才、いまが正に油の乗り盛り、働き盛りといふべきで、その眞價の發揮されるのはむしろ今後にあるといふことが出来る。時局重大の時、切に自愛健闘を祈つてやまない。

時局工業の最新鋭

株式會社日本鐵工所
取締役社長 稻井勳造氏

今次事變の勃發とともに、産業總動員が叫ばれ、生産力擴充が第一の國策として取り上げられるや、何よりも焦眉の急務として、その生産力の擴充を第一に要求されたのは工作機械工業、鑛山用機械工業であつた。それは當然のことである。何故かならば、一はあらゆる工業の基礎工業であるとともに、航空機、艦船等々重要兵器の一部を成すものだからであり、一は、あらゆる重工業に不可欠の資材たる鑛物の開發に必要不可欠の出來ぬものだからである。

この要求に應じて、既設工作機械工業及び鑛山用機械工業會社はいづれも、その生産力の擴充に拍車をかけ、増産に次ぐ増産を以て時局の要求に答へると共に、一方自信あるメーカーは斯業へ進出、新たな勢力をこの部門に加へて、ひたすら國策に協力して來たのであつたが、その新興勢力中の花形として自他ともにみとめるものは住友系事業の敏腕家として知られた稻井勳造氏の社長として統率してゐる當日本鐵工所であらう。

當社は、住友系の日本板硝子が時局産業への進出、國策への協力貢獻を企圖して、昨十三年七月創立したものであつて、その資本金三十萬圓、大阪市天王寺區北日東町の既設大阪工場では主として航空機資材用工作機、並に鑛山用機、水壓機、電線用機械の製作に力を注いで來たが、更に積極計劃にもとづいて、大阪府中河内郡久寶

寺村に四千坪の新工場を建設、こゝに一大擴張を實現した。

當社長として創立以來、社務の統轄に任じて來た稻井勳造氏は廣島縣人、稻井實一氏の三男であつて、明治二十二年五月を以て生れた。性得、才智衆にすぐれ、かつ進取向上の精神に富んでゐた氏は大正三年東京高商專攻部を卒業後住友製鋼所に入るや、物産まじいまでの努力精進をつゞけて、その天賦の才幹を遺憾なく發揮し、その才を認められて漸次に重用せられ、商務部長、副支配人へと累進した。而して、昨年、當社の創立成るや氏は擧げられて、その社長の任に就き、經營の大任を一身に委ねられたのであるが、時局に對する正しき認識の持主である氏は、工業報國の赤誠を一層固くし、従業員を督勵して社業の發展に盡力した結果、創立後一年を出でずしてはやくも倍大の擴張を斷行、時局下にすばらしい貢獻をなしつつあるのである。

この成功は、當社の創立が時局の波に乗つたことにあるのはむろんだが、社内上下一致の協力があつて始めて、この大を成し得たものであつて、この一致の協力をかち得た氏の功績、並に經營方面に發揮した氏の才腕の力を見通すことには出來ない。氏はその偉大な人格の力を以てまづ全従業員の信服をかち得、工業戰士としての自覺を促して、工業報國の社是のもとにこれを統率、直往邁進してつひに今日の大を成したのであつた。しかも、氏は本年五十一才といふ働き盛りである。氏の前途は、當社の前途と共に多幸多望を約束されてゐるといふことが出来るのであつて、今後一層の努力精進を願つてやまないのである。

川越産業界の統率者

川越商業會議所 頭 鈴木徳次郎氏

天恵地福の産業都市である川越市は埼玉縣下に於ける最初の市制施行地であり、中部商工業の中心地であるが、最近交通の發達と共に各種産業の一齊勃興によつて益々發達し、商工都市として、又縣産業の主産地として躍進も雄々しく進展の一途を辿つてゐる。而してこれら諸産業の指導者となり推進力となつてゐる人は實に川越商議會頭たる鈴木徳次郎氏である。

一新しくいふまでもなく商工會議所會頭たるべき人は、同地方の商工業者の指導の實權を握るものであるから、第一に公共精神に富んだ人でなければならず、また産業、經濟はいふまでもなく政治方面から國際關係についての傑れた識見の持主でなければならず、眞に實力ある萬人を敬服せしめるに足る才徳兼備の人材でなければならぬが、鈴木氏はこの商議會頭としての資格を満點に備へた偉大なる人物である。

氏は、先代徳次郎氏の二男として、明治十年五月八日を以て生れた。一代の俊豪をもつて譲られた先代の血を受けその薰陶を受けた氏は若くして才徳兼備の敏腕家をもつてその名を川越産業界に喧傳されたものだが、先代のあとを繼いで第一線に登場以來、ますますその才幹を發揮して今日の大をなしたのである。

氏が、まさに武州倉庫事務として、關東倉庫界に活躍したことは

衆人の知るところだが、現在、その牙城であるところの製材界の重鎮丹波屋の經營に主力を注ぐほか愛國製粉の取締役として敏腕をふるつてゐる。その事業經營の手腕についてはすでに定評があるが、その識見高邁にしてつねに國際狀勢から政治、經濟の動向についての觀察を怠らず、その判断はまたつねに正鵠を得てをり、従つて一般商工業者の指導を誤ることなく、各方面から絶對的な信任を得てゐるのである。氏が、人材あまたある全國商議會頭中でも屈指の敏腕家と誦はれてゐるのも、亦故なきことではない。

他方において、氏は後進の指導誘掖といふことについても大いに意を用ひてをり現に氏の推挽によつて各部門の第一線に活躍してゐる人材は多数にのぼつてゐる。氏は、國民は各自の才能と能力に應じ、その最善をつくして國家社會につくすべきであり、これが國民たり社會人としての神聖な義務であり、同時に權利でもある、と説いて後進を教へてゐるのだが、同時に、有爲有能の人材をしてその處を得せしめるのが、先輩たるものの義務である、として自らこれを實踐してゐるわけである。堯舜の世に於いては野に遺賢なしとしてその名君の名を一層高めてゐるのだが、實業界に於いて遺賢なからしめつゝある氏も亦君子の器といふべきであらう。

氏は、本年六十二才、その人格、才腕ともにますます圓熟味を加へ來たつて、壯年の意氣をもつて努力をつゞけてゐるが、これは戦時下に於いてますます活躍を要望される川越産業界のため衷心慶祝にたえない事である。吾人は氏の健康に留意せられ、一層の奮闘されん事を心から願ふものである。

才腕徳望兼備の巨材

倉持製作所主 倉持新吉氏

時局以來、我々は我が工業界をはじめ全産業部門に幾多の俊材の輩出を見るに至つた。これ等の俊材はいづれも多年それ／＼の部門にあつて、努力經營をつゞけて來た豊富な經驗の持主なのであつて生産力擴充の國策に呼應して、いづれも産業報國の決意も固く輝かしい時局のフットライトを浴びて堂々と第一線に進出して來たものであるが、それ等幾多の俊材の中にあつて、特に注目をひくのは大阪の倉持新吉氏の率ゐる倉持製作所である。

氏は、多年の經驗と技術とによつて、製鐵、機械製作界に斷然として不拔の地位を占めてゐるが、當所を設立以來の苦心努力は並大抵のものではなかつた。しかも、幾多の苦難に堪え、困難を排してつひに今日の成功を収めたのは、内に確固たる信念があり、もし事成らずして死することも斷じて中途にて挫折することはないといふ、強固な意志を持つて押し通して來たが爲めにほかならない。信念の如何に大切であり、意志の力の如何に大なるものであるか、吾人はそれを氏によつて教へられるのである。

今日、氏は、大阪市港區石田町一丁目に廣大なる本工場と營業所を持つほか、同區湊屋濱通一丁目第二工場を持ち、陸船諸機關、大型引出臺車、冷却槽、鐵骨建築、各種鐵製運搬臺車、各種鐵槽、各種蒸氣罐の製作販賣に全力を傾注し、應接に遑なき需要の消化に

つとめてゐるのである。

當社の技術の優秀なることについてはすでに業界に定評がある。それは、氏の信條であり、當所のモットーとして掲げてあるところの「技術第一」のモットーのもとに全社員が一致團結して作業にあつてゐるからであるが、この全社員的一致團結といふことは事業繁榮の基礎とされてゐるものであり、それを得る爲には經營者が眞に衆望を得るに足る徳望の持主であることが必要だとされてゐる。氏は溫良恭謙讓の五徳を備へ、萬人を畏服せしめるに足る人格の持主である上に、技術方面にすぐれた識見を持つてゐるのであるから全社員の氏を尊敬することは非常なものであり、全員一致、氏の統率に悦服して一糸亂れざる行動をとつてゐるのである。

論語に謂ふ所の「徳」の人は、眞に氏の如きをいふのであり、この徳とこの才を持つ氏の如きこそ、眞に日本的なる工業家の典型といふべきであらう。

時局以來、生産力擴充——産業總動員と並べて國民精神總動員が二大國策として取り上げられたが、氏は自社の生産力擴充に最善をつくすと共に、その部下従業員の精神動員に心を用ひ、つねに時局に對する正しき認識をうながし、銃後産業戰士の使命の重大さを説いて、各自が各自の最善をつくして國策に協力するやうに指導してゐるのである。

而して、時局は當社に對して、今後更に一段の飛躍を要望してゐる。氏の一層の努力の精進をもつてこの時局の要望に應へられんことを切願してやまない。

老練達識の俊材

昭和飛行機工業株式会社
常務取締役 木瀬和吉氏

事業の成否を決定するものは資本と人材とその事業の発展性の三つだとはよくいはれるところだが、当社ほどの三つの要件を具備してゐた会社は少いであらう。即ち資本的には本邦財界の巨頭数人を迎へて強力無比の資本陣を張るとともに人材の方面ではそれら巨頭連のほかに三井系の敏腕として知られた木瀬和吉氏の如き偉材を常務の要職に持つてをり、昭和十二年六月五日といふ、支那事變勃發の直前に創立されたのであるから、その將來性が輝かしいものであつたことは改めていふまでもない。

もつとも、今次事變の勃發は航空工業の急激なる発展を要求するに至つたにかゝらず、建築資材その他の關係で、当社では工場完成が思ふにまかせず、久しい間隔靴搔痒の感を抱かしめられたものであつたが、それも間もなく解決し、航空機製造事業法による許可會社として活潑な活動を開始し、軍部への納入にも最善をつくしてゐるのである。當社の創立當時株式公募に際して應募株式は三十倍に上り空前のプレミアが付いて世間をあつといはせたが、この事實によつても如何に當社の誕生が各方面の歓迎を受けたか、想像に餘りあらう。

而して、その常務の要職に推された木瀬和吉氏は、三井鑛山、釜石鑛山、昭和石炭その他の重役として重きをなし、つとに三井系事

業家中の俊材としての聞えが高い人物である。氏は、京都府の人遠山佐七氏の三男として明治九年八月京都に生れ、同府士族木瀬安吉氏の養子となつた。少年時代から頭腦明敏、神童のほまれ高かつた氏は同二十七年京都商業學校を卒業後、同三十年三井鑛山に入社、爾來一貫して三井にあり、前記の如く三井系諸會社の重役として、特に鑛業部門に重きを成すに至つたのである。

この間、目録戦役に出征、從七位勳六等の勳位を持つ陸軍主計中尉でもあるが、大正十二年には歐米各國を巡遊、つぶさに先進諸國の産業、經濟界を視察して來たのであつた。

當社は、東京市日本橋區小舟町に本社があり、東京府下北多摩郡拜島及び朝鮮平壤に工場を持ち、公稱資本金三千萬圓を以て、活潑な活動をつとけてゐる。工場完成に引續いてたゞちに擴張計劃を進めてゐると傳へられるが、軍需工業の尖端を行く航空機工業の使命は今後より一層重大を加へんとしつある時、此新勢力を加へ得た事は國家にとつて何よりも慶祝すべき事といはねばならぬ。

木瀬氏は、本年六十四才、その定評ある才腕はいよ／＼圓熟味を加へ來たつたが、尙青年の如き意氣と體力を持ち、烈々たる行動精神を持つて當社をはじめ前記諸會社の運営にあたつてゐる。しかも性謹直にして敦厚、身を持つること固き反面に他人に對しては極めて寛容な美徳を備へてゐるので先輩同輩はもとよりその部下からも痛く敬慕されてゐるのである。吾人は氏の今後一層の努力を以て國策への協力に最善をつくされんことを切望すると共に切に自愛して長壽を重ねられんことを祈念してやまない。

當代の理想的人材

藤田鐵工所主 藤田次郎左衛門氏

近代戦は工業戦なりといはれ、近代戦に於いて戦捷國たらんが爲めには自國工業力の擴大強化を必要とするといはれてゐる時代に當つて、興亞の一大聖戰を遂行しつある我が國內工業がいづれも未曾有の發展を遂げ活潑なる活動をつとけつあることは、邦家の爲め、衷心より慶賀すべきことといはねばならない。これは、各會社工場主腦部と全従業員を打つて一丸となした産業戰士の一致團結協力のたまものであるが、それら多數會社工場中にあつて、ひと際その實績顯著なるものに、大阪重工業界に勇名を馳する藤田次郎左衛門氏の經營する藤田鐵工所がある。

當所は、各種汽罐及び爐用燃焼機、築爐設計、送風機、排風機、銃砲及び部分品製造、その他高級機械の設計製作をなしてゐるが、特に、その特許を有する藤田式全自動石炭完全燃焼機は、機構の堅牢無比なると、石炭節約及び能率増進の三大特徴をもち、本邦の最優秀品として廣く江湖に認識せられ、壓倒的の支持需要を受けてゐる。燃料節約が國策の第一に取り上げられるに及んで該機の聲價はとみに上り、生産力擴充の一方策として能率の増進が叫ばれつつある時、該機の需要が急増するに至つたことは當然の勢ひであるといはねばならない。

されば、當社の時局以來の躍進ぶりは眞に驚異に値するものあり

現在、大阪市東淀川區田川通の本工場のほか、同區三津屋南通の第二工場、及び同區加島町の第三工場を有して全能力をあげ、殺到する需要の消化につとめてゐるのである。

この優秀なる機械の生れたのは本邦最古の誇るべき歴史を持つ氏が多年苦心研究の結果になるものであつて、良貨は悪貨を驅逐するの法則に従ひ、該機が今日の名聲を博し、堂々他品を壓して王者の地位を獲得するに至つたのは自然の理である。氏は生れ乍らの工業家であつたといふことが出来よう。即ち、年若くして工業人としての巨歩を踏み出し多年營々苦心研究、經營をつとけて今日の大を成したものであつて、氏が、「貴下の趣味は？」との問に對し「仕事が自分の趣味である」と答へることによつても如何に氏が熱心な努力家であるか分るのであらう。その答へを一步進めて「仕事が自分の生命である」といふのが氏の眞の氣持ではなからうか。

とはいつても、決して氏は人間味のない人だといふのではない。寧ろ人間味のあり餘る人として——温情の人として、その部下従業員からは慈父のやうに、といふよりも慈母のやうに敬慕されてゐるのである。こゝに、氏の偉大さを見るべきであらう。イブセンの、「人形の家」の主人公以來、仕事を生命とする男はともすれば人間味を缺く嫌ひがあるとされてゐるのであるが、氏の場合は、以上のやうにあふるゝが如き愛情を持つてゐるのであつて、この氏の爲には如何なる努力も惜しまぬといふ従業員の献身的作業あればこそ、當所が今日の大を成したのであつた。まことに事業家としての理想的人材として氏を擁すに躊躇しないものである。

興亞日本要望の人材

日進鑛業株式會社 專務取締役 福島 豐氏

多年、鑛山界にあつて技術、經營の兩部門に傑出した才腕を發揮し、その名を廣く江湖に知られてゐる福島豐氏が專務取締役としてもつばら經營の衝にあつてゐる日進鑛業株式會社は戦時下の財政經濟確保と國防軍需工業の資源たるべき、金、銀、銅、鉛、亜鉛、安質母尼、硫化鑛等の資源開發及び鑛物の製鍊、硫酸の製造に目醒ましい躍進を見せ今や、斯業一方の覇者として堂々君臨するに至つたことは衆知の通りである。

氏は、少年時代から國志あり、將來の大物として、密かに周囲の期待をあつめてゐたのであつたが、長ずるに及んで鑛山業に志を立て、爾來、専心斯業に没頭して快腕をふるひ、特に數年前から敏腕福島の名を江湖に謳はれるやうになつたものである。而して、最近はその多年の経験によつて琢磨した技術と經營の手腕を、もつばら當社の上に揮ふ爲めに、重役として指導的要衝にあつた他社の椅子を去つて、夙夜の努力をつゞけてゐるのである。

今、當社の鑛區を見るに、總計二十一鑛區、面積八百六十三萬四千二百坪にのぼり、更に近く百八十萬坪を越える新鑛區の開發にあたらんとしをり、前記二十一鑛區は、龍山、山口、蒲生、中山の四鑛業所に所屬されてゐる。その中、最も力を注いでゐる龍山銅山はかつては準重要鑛山たりし由緒を持つもので、品質良好、埋藏量

豐富の定評があるもので、本年五月より新富鑛脈への着鑛をはじめ従前に數倍するの好成績を収めてゐる。

右の内、中山、影浦の二鑛山は、含銅硫化鐵鑛山であつて愛媛縣下屈指の優秀鑛山として聞え、機械化掘進増産計畫の下に工場新設裝備の擴充計劃が進められてをり、その他、蒲生、洗井(銅)佐喜濱山口、高山、金生(銀、銅、亜鉛)長瀬(鐵)立野、瀬戸(安質母尼)の諸鑛山を擁して、鑛山部門の完璧を誇つてゐる。その上、金鑛石の處理に日産七十噸の青化製鍊場と低品位銅鑛日産四十噸處理の機械選鍊場、並に硫酸、硫酸の製造所の建設を計劃して自産鑛物の自家製鍊及び附帯事業への進出の強味も併有しようとしてゐる。

かくの如く、當社最近の擴張躍進振りには實に、驚異に値するものがあるが、これ等の躍進計劃はすべて、我が福島氏の手によつて設計され、かつ、着々成果を挙げつつあるのは一に氏の敏腕によるので福島氏にして始めて成し得る所といふことが出来よう。躍進途上に立てる當社がその専務に氏の如き敏腕を持つ事は當社にとつて、最大の強味であり、國防的見地から我々後國民の國家の爲に大いに慶賀すべき事といはねばならない。

氏は、資性謹嚴にして廉直、ひたすら國家公共の利益を願つて、献身的に斯業の發展に努力、其高潔なる心事には敬服の外はない。かゝる態度こそは眞に「日本的なる」事業家の態度といふべきであり、特に興亞の大事業を遂行しつつある躍進日本のもつとも要望してゐる人材であり、尙鑛山經營に當つては氏は家族主義を採用し、全山、露々たる和氣に包まれ他の模範とされてゐる。

造船界のナンバーワン

株式會社東京石川島造船所 村田 哲磨氏
常務取締役

時局下に躍進めざましきものある株式會社東京石川島造船所は、明治二十二年一月の創立であつて本邦斯業最古の歴史を持つものであるが、その常務として快腕をほしいまゝに發揮してゐる村田哲磨氏は、明治四十三年東大機械科を卒業後當社に入り爾來一貫して當社にあつて技術經營の兩方面に天賦の才幹をふるひ當社の今日の大を築き上げた功勞者の一人であり、その偉功によつて今日當社の常務たる重任に推されると共に、當社と資本的に聯關を持つ日本飛行機株式會社の取締役として重きをなしてゐるのである。

氏は、明治十七年四月、東京府士族村田昌寛氏の三男として呱呱の聲を上げたが明敏なる頭脳を持つて生れた氏は長ずるに及んで工業家として立つべく志し前記の如く東大機械科に學んだのであつた。當社入社以來の研究よりは眞に涙ぐましいものがあつた。實地について技術の鍊磨をなすと共につねに學理の研究を怠らず、その創造的頭脳によつて幾多の功績を造船技術界に記録したのである。

當社は東京市京橋區佃島町に本社があり、大阪市中之島三井物産ビル内に出張所がある。事業は小型艦船からタービン、艦船用主補機械、發動機、起重機、自動車部分品、各種機器の製作であるが投資會社として自動車工業立川飛行機、石川島タービン、日本飛行機の各社を持ち時局下軍需工業界の一大勢力を形成して、興亞日本の

大國策に絶大なる貢獻をなしてゐるのである。而して時局以來、當社の生産力擴充の實績は眞に驚異に値するものがある。即ち造船工場は新たに月島に移轉して大擴充をなすと共にその移轉跡には機械工場を設置し、又、横濱杉田の飛行機發動機工場特殊鑄物工場等の大擴張をなしたほか、第二次計劃として立川の發動機工場建設計劃を進めてゐるなど、他に比肩するものを許さぬ驚異的な躍進ぶりを示して居るのである。

かゝる急激なる躍進は一には時局の好響によるものではあるが、事業の成否を決定するものはこれが經營を掌る人材の如何にかゝつてゐるといはれてゐるやうに、當社主腦部の時局に對する認識の正しさから、その計劃の宜しきを得たるに依るものである。特にこの時局に際して、當社の生字引とまでいはれる村田常務の豊かな経験と才幹が大いに物をいつてゐることを見通すことは出来ない。氏は前述のやうに、多年當社にあつて造船技術界のナンバーワンといはれてゐるばかりでなく、造船界の表裏に精通してゐる第一人者であり、昭和七年には歐洲先進國の斯業の實際を視察して來た新智識であつて現時局に際しては單に當社の爲のみでなく、本邦造船航空界に缺くことの出来ない權威者なのである。

しかも、氏は教養高く、識見また高邁にして一點の非の打ち所もない人格者なので、社内はもとより業界全般の尊敬のまこととなつてゐる。まことに、氏の如き人格才腕ともに傑出した人材こそ非常時局を擔當する事業家として最適の人材といはねばならない。今後一層の努力精進を切望する次第である。

旋盤のエキスパート

加藤 鐵工所主 加藤 幸太郎氏

「濱松の加藤の旋盤」といへば業界人にして知らぬ者はない。技術の卓越せることに於いて、本邦有数の優秀メーカーであるが、氏が今日この不動の信用を勝ち得るに至るまでの苦心努力といふものは並大抵のものではなかつた。新業に進出以來、文字通り血の出るやうな努力が續けられたのであつた。旋盤は周知のやうに高級の技術を有するもので、我が國では長い間外國品に依存してゐたため、技術遅々として進まず、今次事變の直前に於いては、いまだ世界の水準に及ばざること、遠いものがあつたのである。

されば事變以來、工作機械製造事業法が設けられるなどして、工作機械の生産力擴充が叫ばれると共に、その質的向上——即ち技術の向上が要望されて來たのであつたが、この時潮に乗つて多年苦心研究の結果なる氏の眞價は普ねく人の認める所となり、今では前述のやうに「加藤の旋盤」といへば、業界では誰知らぬ者もない優秀メーカーとして喧傳されるに至つたのである。

當所で製作してゐるのは、KBI型米式五呎高級旋盤（十四吋スキング）、米式四呎六吋旋盤（十三吋スキング）、KSLI A型四呎八吋英式旋盤、單獨運轉裝置付電直型（十四吋スキング）、五呎、六呎、八呎、十二呎、十四呎、十六呎各英式旋盤等々であるが、長尺物においては二十五呎までの受註に應ずることが出來、材質、仕上共に一

點の否の打ちどころなきもので外國品を完全に凌駕するものとは各方面一致して認めるところである。

二四

氏は、技術を生命として來た人だけに従業員の指導にあたつてもつねに「技術家にとつては技術が生命である、昔の武士が兩刀を生命として尊んだ様に、技術家は技術を生命として尊ばねばならぬ」と説き「技術を粗末にあつかふことは生命を粗略に扱ふのと同様である、もし生命を大切にしようと思ふならば、技術を大切に、即ち一個の旋盤を作るにあたつても全生命を打ち込まねばならぬ」と教へてゐるのである。これは單に當社従業員に對してのみでなく、廣く技術にたづさはるもの全員に及ぼすべき至言であり、吾人のこゝに特記するゆゑである。

しかし乍ら氏は決して嚴格一方の人ではない。その従業員に對しては慈父の温情を持つて接してゐるのであつて、その待遇も好條件であるから、従業員はその厚遇に感激し氏の統率下に悦服し、その指導精神のもとに、全生命を打ち込んで——最善の注意をもつて作業にあたつてゐるのである。寛嚴その宜しきを得たる人格者とは、まさに氏の如きをいふのであらう。

而して、時局以來の當社の發展は眞にめざましいものがあるが、新業の使命が將來へかけて一層重きを加へんとする時局に對する正しき認識にもとづき、氏は一層優秀なる製品を贈つて國策に協力すべく、旺盛なる研究心を以つて、夜となく日となく努力精進をつゞけつつある。今や時局は氏の如き敏腕家を必要として居る折柄、氏の今後の活躍と、そして、一層の自愛を願ふものである。

精密工作界の雄

京阪精密機械製作所主 林 嘉 之氏

工作機械工業時代の到來によつて、最近にはかにその存在を重視され來たつた人に京阪精密機械製作所の林嘉之氏がある。

今や、我が國は興亞の一大聖戰遂行の爲めに生産力擴充を一大國策として取り上げ、軍需工業を中心として全産業部門の生産力擴充に大重の努力をつゞけてゐるのであるが、これらあらゆる工業の基幹工業としての工作機械、精密機械工業の生産力擴充が總てに先行すべきものとして全業者の奮闘が仰望されてゐる時に當つて、林氏はその優秀なる技術を武器として躍起し、増産に次ぐ増産を以て殺到する需要に答へつつあるのである。

當社は、大阪市東淀川区下新庄にあり、各種精密機械、各種工作機械、スクロールチャック、インデペンデントチャックを製作種目としてゐるが、由來、精密機械、工作機械等は高度の技術を要するものだけに極めて至難のものとしてされてゐたのであつて、久しい間外國依存の弊風を保つてゐたのを國家産業の發達の爲に愛へた氏が、國産自給、輸入防遏の愛國的信條から新業に乗り出したのであつて、爾來、技術の向上をモットーとして傘下の技術員を督勵、つひに不斷の研究はこゝに美事な實を結んで、時局下に重大の貢献をなすに至つたのである。

梅檀は双葉より香ばしいといふが氏の幼少年時代を見るならば、

今日あるのも決して偶然のことでないのを知るのである。氏は幼少より頭腦明敏にしてすこぶる研究心に富み、學業の成績もつねに拔群で神童の名をほしきまゝにしてゐたといふ。而して、獨立人として實社會に出るや、工業家として一身を皇國の發展に捧ぐべく決意して工作機、精密機の製作に乗り出したのである。

もとより、氏が今日の隆盛を見るまでには多年に亘る苦心努力があつた。如何なる道にせよ、成功への道は平坦なるものではないとはよくいはれるところだが、氏が當業に乗り出してから今日までの道中にもまた幾つかの困難があり障礙が待ち受けてゐたのである。それを押し除け乗り越えて來たものは、一に氏の強固な意志と信念とにもとづき、不撓不屈の努力勇猛心であつて、それは後進の範とするに足るものなのである。思ふ念力岩をも通すといふが、今日、氏が氏の過去を振り返るとき、特にこの言葉は味はひ深いものがあらう。

ひるがへつて思ふに、我が國はいまや興亞百年の大計にもとづいて新東亞建設の大事業を遂行しつつある。この大事業をして遺憾なく遂行せんが爲めには、銃後産業陣營——わけても工業陣營の一段の躍進が期待されるのであつて、その最重要部門たる工作機械、精密機械工業にたづさはる氏は對して時局の期待するところは極めて多いのである。

いふまでもないことながら、吾人はこの時局に際して氏の一層の努力精進を期待するとともに氏の健康を衷心より祈り、奮闘されんことを切願して止まないものである。

工作機界の權威

岡山工作所主 岡山賢次郎氏

新東亞建設てふ一大國策の遂行上、生産力の擴充といふことが何よりも急務であるが、これが先決問題として取り上げられたのが工作機械の生産力擴充であつた。工作機械はあらゆる工業の母胎の役割を果す重要なものであるばかりでなく、航空機をはじめ兵器の重要な部分をなすものであつて、戦争目的遂行上不可缺の重要工業なのであるから、これは當然のことであつた。

而して、工作機械工業はその技術もつとも高度難解にして、戦前の我が國に於いては世界の水準のはるか下位にあつたのだが、時局以來、各業者、技術家等の不撓不屈の努力研究はつひに美事な果實を結んで、量的に大擴充が實現すると共に質的にも大躍進を遂げて今や、世界の最高水準を示すに至つたのは邦家の爲めまことに慶賀すべきことといはねばならない。而して、その功績は全工作機械業者の共同の功績とされるべきものではあるが、最も功績顯著なる人をあげるならば、先づ、大阪の工作機界にその人ありと知られた岡山工作所の岡山賢次郎氏の如きがそれであらう。

氏は、多年斯業に携はつて、豊富な經驗と優秀なる技術を持ち、今日「工作機の岡山」といへば大阪工業界で誰知らぬものもない權威者となつたのだが、かの亭々として天を摩するが如き大樹も一朝一夕にしては成らず、多年の培養によつて始めてその大を成すもの

であるやうに、氏が今日の大を成すまでには、長年の苦心努力があつたのである。屢々、人の成功不成功を決定するものは意志の強弱によるといふことがいはれるが、氏は不退轉の意志をもつて斯業の研究經營に没頭し來たつたのであつて、その強固な意志と倦まず撓まざる努力には敬服のほかない。

而して、時局以來、その多年の研究の結晶たる當社製品は比肩を許さぬ壓倒的優秀品として各方面の絶讃を買ひ、完全に輸入品を凌駕防遏するに至つたのである。されば、需要殺到し、從來の設備をもつては到底消化しきれぬ状態になつたので、昨十三年秋以來、大阪市東成區大今里町の老なる地域に大工場を建設中であつて今春三月完成、非常時國策に順應することを第一義の目的として全社員の強固なる團結を求め、日夜業務の進展に最善の努力を傾けてゐるのである。

氏は、人となり、謹嚴寡黙、不言實行をモットーとしてひたすら研究努力に全身を打ち込んで來たが、従業員も氏の感化を受け、何れも「技術を生命」として仕事を熱愛し最善の注意と最善の努力を傾けて業務に精勵してゐるのである。この事實を見て吾人は今更の如く人の感化力の偉大さに驚かざるを得ないと共に、百の說法よりも一人の傑れた人格の無言の教化力のむしろ勝つてゐることを知るのである。

しかも氏は尙前途幾春秋に富む壯齡である。皇國の前途尙多事にして氏の才腕に俟つ所多き時、氏の自愛して時局に貢献されんことを衷心より切願してやまない。

金融界一方の重鎮

株式会社加州銀行 取締役頭取 森信敬二氏

本邦有数の大銀行たる三和銀行の常務にして、かつ石川縣下最大の銀行たる加州銀行の頭取である森信敬二氏は才徳兼備の敏腕家として我が國金融界に鳴り渡る俊傑である。

氏は、明治十五年八月の誕生で、森信安一氏の養子となつたのであるが、蛇は寸にして人を呑むの譬の如く幼少より才智衆にすぐれ後年必ずや成すあるの偉材たるを思はせるものがあつた。學業の成績も常に拔群で東大政治家に進んだが、同四十三年、優秀の成績をもつて同科を卒へてのち、山口銀行に入り金融人として出發した。天性非凡の才華はこゝに見事な開花を見せて三十代にして早くも俊材森信の名を斯界に喧傳されるに至つた。昭和五年に至つて同行常務の任に就くに至つたが、のち三和銀行と合併すると共に引續いて同行の常務として才腕をふるつて來たのである。

一方、氏の頭取として全權を握つてゐる加州銀行は、現在三和銀行と密接な關係を持つて、石川縣金融界に君臨してゐるのだが、その創立の歴史は古く明治二十五年であつて、縣下の最古參である。本社は金澤市にあり、縣下樞要の地に支店を配置して水も洩らさぬ營業網を布き、石川縣本金庫と市金庫を取扱ひ、地方産業に貢献して來た功績は極めて甚大なるものがある。

その最近の業績をみると、昨十三年末の預金は二千八百六十萬圓

の巨額に達し、縣下十二銀行中の總預金の四割を占めてゐるのである、これによつても如何に當行の信用が、縣民の間に深いか知られるであらう。

今日の經濟組織下に於ける金融界の使命は、全産業部門の死命を制するほどに重大なものであるが特に、興亞の大事業遂行の途上にある現下の日本に於いては、特にその重要性を増して來てゐる。即ち、生産力擴充の國策に沿ふ諸産業部門の擴充資金の潤滑なる運行は一にかゝつて斯業者の双肩にあるからである。時局に對する正しい認識を持つ氏は、時局以來念激に發展して來た地方軍需工業の育成に全幅の支援を與へ、各方面から絶大な賞讃の辭を贈られたのである。

而して、事變下に於いて金融業者の上に課せられた今一つの使命は、國民貯蓄運動の重要な一翼をになふことになつた事である。政府は百億貯蓄をめざして一大貯蓄運動をつゞけつゝあるが、これは今次聖戦をして有終の美を濟さしめんが爲には必須の事である。氏はこの國策に應へ、その營業網を通じて地方民の愛國心に呼びかけ著々として美事な成果をあげてゐるのである。

氏の金融人としての卓れた識見、手腕については先に述べた通りだが、氏はそのほかに金融人としての重要な資格であるところの至誠至公の理想的な人格の所有者である。銀行程信用を尙ぶところはないが、銀行に對する信用もその資的背景と經營主腦部の人格に依據するものであつて、當行に對する縣民の絶對的信賴、支持も亦氏のこの高潔な人格に據るところが多いのである。

フランジ製作界の覇者

株式会社大阪フランジ
製作所 代表取締役 中村武茂氏

フランジ製作の専門会社中、最高の技術と、最大の規模を持ち、かつ、斯界最高の權威者たる中村武茂氏を代表取締役兼に載いてゐる株式会社大阪フランジ製作所は、大阪市港區中通一丁目本社營業所を持ち、多年苦心經營の結果築き上げた、強固な地盤を基礎にして堅實な發展をつけて來たが、時局の風は當社にも一新飛躍を促し昨年六月、同市港區湊屋町にある湊屋工場の倍大擴張が完成されて目下めざましい活躍をつよめてゐるのである。

この當社のめざましい發展は、一に、中村氏の卓越した經營手腕のたまものといふことが出来る。氏は、機略縱横ともいふべきすぐれた經營の才腕の持ち主だが、その一面に、眞摯かつ誠實な人格を持つてゐる。元來、才氣煥發ともいはれる、いはゆる才人は自己の才に溺れて思はぬ非難を買ふことがあるものだが、それは自分の才をセーブする能力を缺いてゐるからで、小人といふほかはない。氏においては、この天性の才氣は眞摯かつ誠實な人格に涵化されて現はされるために、いかなる點からも非難の餘地なく、各方面の推服のまとなつてゐるのである。まことに、事業家としての理想的資格をそなへた偉材である。

當社は、銅板製及鍛鋼製フランジの専門製作會社だが、また、フランジ材料、齒車材料、鐵鋼鍛工品、並にドロップフォージの製作

をもなし、その販路は全國到らぬ限もなく、わが國フランジ製作界に堂々王者の貫録を示してゐる。近代の産業機構は複雑多岐を極めあらゆる部門に亘つて高度の分業化が行はれてゐることが近代産業の特徴になつてゐるれば、一小部門の停滞はたゞちに全産業部門に影響し、その作業の進行を阻害する結果になるのであつて、生産總動員下の今日にあつては特に各業者の緊密な連繫が必要とされてゐるのだが、特にフランジ製作事業はあらゆる工業と密接不可分の關係を持つものだけに、その使命はいつさう重大である。

氏は、氏に課されたこの使命の重大さを痛感、工業報國の初志の貫徹を期して、設備の充實擴張をなすとともに、製品の良選、納期の迅速確實のモットーのもとに、努力邁進をつよけてゐる。而して事業經營の衝に立つものにとつて、缺くことの出来ないのは、従業員の一一致協力を得るといふことである。それが爲めには、經營者の人格が問題になつて來るのだが、眞摯、誠實な人格を持ち、かつ理解と温情に富んだ氏は、求めずして従業員の尊敬と信頼を勝ち得、その協力を得てゐるのである。

斯く觀じ來たつて、吾人は、いま更の如く人格の力の大きさに驚かざるを得ない。この人格を持ち、技術、經營の兩方面に卓越した識見を持つ氏が、今日の大を成したのは寧ろ當然のことといへる。而して、氏がその眞價を發揮するのは寧ろ今後であり、今や、國運の飛躍期に際會した我が國の工業界は實力あり、かつ徳望ある人材の活躍をまつこと、切實なものである。氏がこの機運に除て、如何なる成長發展を遂げるか、期待の内にある。

北海道百貨店界の王者

株式会社今井商店
取締役社長 今井雄七氏

北海道百貨店界に最古の歴史と最高の規模をほこる今井百貨店は明治五年新潟出身の故今井藤七氏が、北海道の中心都會たる札幌市に於いて吳服太物の販賣をいとなんだことに發祥し、爾來、氏の卓越した經營手腕によつて、北海道の發展を併行して隆昌向上の一途をたどり、つひに今日の大今井百貨店を築き上げたものである。同家の當主として、この大今井家の事業を主宰する雄七氏は、すなはち先代藤七氏の甥であり、今井武七氏の長男として明治十一年四月を以て生れ、藤七氏の養子となつたものである。

氏は幼少より頭腦明晰にして、かつ才氣煥發、神童のほまれが高かつたが、長じて慶應義塾に入り、同三十年拔群の成績を以て卒業後、アメリカに渡り、シカゴ商業に入つて更に漢典をきはめたのである。歸朝後、當時合資組織であつて今井家に入つて先代の膝下にあつて、つぶさに斯業の實際についての薰陶を受けたのであつた。

今井百貨店は、明治三十一年に至つて、從來の個人經營を合資組織に改めるとともに、全道各樞要地に同系事業網を張りめぐらして一路發展をつよげ、大正八年に至つて更に株式會社に改組、今日の磐石の基礎を築き上げたのである。現在の資本金は三百萬圓、本店を東京市日本橋區橋町一〇に置き、札幌市南一條西十一と同三の一に壯麗な店舗をほこる札幌の店は形式上支店になつてゐるが、この

ほか、旭川、小樽、函館、室蘭等の北海道樞要都市はもとより、東京、京都に支店を持ち、尙大阪に出張所を置いて、一年の總收入約二百二十萬圓を擧げてゐるのである。

當百貨店の中心は何といつても札幌の店であるが、しかし、旭川、函館、小樽、室蘭等にある各支店はいづれも各一店だけでも優に一會社をなすに足るだけの素晴らしい業績を擧げてゐるのである。百貨店は今日の都會生活とは切つても切れぬ關係にあり、言ひ得べくんば百貨店は都會生活者の共同の購買機關なのであつて、百貨店が都會生活者の利便に資するところは甚大なるものがあり、他面都市の繁榮が百貨店に負ふところもまた大なるものがあるのである。

されば、この見地からして、氏は北海道各都市の繁榮の恩人といふことが出来るのであつて、道民は絶大の感謝と尊敬を氏に捧げてゐるのである。氏も亦、百貨店が都市生活者にとつての半公共的事業であるとの見地から、薄利多賣をもつてモットーとし、かつ百貨店が都市生活者の流行をリードし、ひいては精神上に影響する所大なるものがあるといふ見地からして、特に時局以來は實質剛健の氣風の涵養に資する爲めに、實利的商品の供給に全力を注いでゐるのである。氏の至高至純の人格、高邁なる識見はこの經營方針のうちにおのづから現はれてゐるといふことが出来る。

氏は、當社のほか、藤武良商店の社長をも兼ねてゐるが、本年六十二才半ら意氣體力共に矍鑠たるものあり、百貨店報國の唯一念に邁進してゐることは敬服の至りに堪えず、今後一層の自愛精進を祈つてやまない。

飛行機王國の核心

中島飛行機株式会社
取締役副社長

中島乙未平氏

中島の飛行機か、飛行機の中島か、——中島飛行機といへば三才の童兒もこれを知らぬ者はない我が國最大の飛行機会社であるが、その飛行機王國中島の副社長として、社長たる今兄喜代一氏を援けてゐる乙未平氏は、當社の創設者であり、我が國民間航空事業界の先覺者であり、斯業最大の功勞者である長兄知久平氏と併せて、有名な中島三兄弟の末弟である。明治二十九年四月の誕生で、本年四十五才、仙臺高工出身の技術家であつて、中島王國の智囊といはれ参謀長といはれてゐる頭腦明敏、才氣煥發の智將である。

當社は、衆知の如く政界の巨頭中島知久平氏が、海軍機關大尉の時分、航空工業の將來に着目して大正六年十二月、群馬縣下太田町に建設したのが、その淵源であつて、初めは日本飛行機製作所と稱し、翌七年五月合資會社中島飛行機製作所としたが、翌八年十一月再び個人經營に變更すると共に名稱も中島飛行機製作所と改めたのであつた。爾後の當社の發達史はそのまゝ我が國飛行機製作業の發達史であるが、知久平氏の天才の手腕によつて社運は逐年隆昌の一途をたどり、十年を出でずして巨人中島の名はたんに航空事業界のみならず、全財界に喧傳されるに至つた。

而して、昭和六年一月、中島知久平氏は政界に巨歩を踏み出すこととなり、所長の職を次弟喜代一氏に譲つたのであるが、喜代一氏

三〇

は同年十一月、組織を株式組織に改めると共に現在の社名を採用、更に、同八年に至つて末弟乙未平氏を副社長に迎へ、こゝに鐵壁の陣營を完成したのであつた。かくて長兄知久平氏によつて磐石の基礎を築き上げられた當中島飛行機は、喜代一氏、乙未平氏兩弟の絶好のコンビによつて育て上げられ、今日世界屈指の大會社となり國寶的存在となつたのである。その資本金は現在五千萬圓。工場は太田、東京、武蔵野田無に分在するが、昨年八月三十日より施行された航空機製造事業法によつて許可された十四社中に、まづ先きに當社が挙げられたのは極めて當然のことである。

我が國は今や新東亞の建設をめざして一大聖戰を遂行中であり、未履有の國運飛躍期に際會してゐるが、この聖戰を遲滞なく遂行して有終の美を擧げ東亞の盟主として永遠に天下に號令せんが爲めには、今日より永遠の將來にかけて我が航空工業の無限の發達を必要とする。されば當社の健全なる發展は國家的立場から期待され、要望されるのであるが、その主腦者たる社長、副社長ともに本年未だ四十代の前途尙幾春秋に富む壯齡であることは、吾人の大いに力強く、頼母しく感ずるところである。況して、乙未平氏は智の人として中島王國の參謀總長の役割を果すと共に、情の人として従業員の信望を一身にあつめてをり「千萬人といへども我往かん」底の強固な意志の人であるに於いて、當社の前途は無限の期待がかけられるのである。尙、氏が中島商事の社長としても才幹を縱横に發揮しつゝあることは衆知の通りであるが、今後、一層の努力精進を以て邦家の要望に應へられんことを、衷心より冀望してやまない。

静岡鐵工界の元締

株式會社マルクニ鐵工所
取締役社長

田中國五郎氏

「近代戦は工業戦である」といはれてゐるやうに、戦争に勝たうと欲するならば工業力を横充し、工業力に於いてまづ世界に勝たなければならぬとして、歐洲大戰以來、世界各國はいづれもその工業力の擴大強化に腐心して來たのであつた。我國に於いても亦さうであつたが、特に今次事變の勃發と共に生産力の擴充といふ新しい旗幟のもとに工業部門を中心として、銃後産業諸部門の生産力擴充に大奮の努力をつゞけて來たのであつて、今次聖戰に於いて、世界戦史上未曾有のはな／＼しい戦果を擧げ得た蔭に、此銃後の生産陣營の強力なる團結があつた事を見通すことが出来ないのである。

而して、静岡市にあつて、同市重工業界の花形として萬疊の氣焔を吐いてゐる株式會社マルクニ鐵工所の飛躍ぶりこそは眞に驚異に値するものがある。當社は時局以來、擴張に次ぐ擴張を以て時局の要求に答へ來たつたが、本年に至つて、資金調整法によつて増資の認可を得、いよ／＼待望の百三十萬圓増資を斷行し、組織機構の強化擴充を行ふこととなつて前社長守谷正毅氏は勇退し、そのあとに當社の生みの親育ての親ともいふべき鬼才田中國五郎氏が就任するにいたつたのである。

田中氏は、人も知ることく、當社の生みの親、育ての親ともいふべき、當社最大の功勞者であつてその技術、經營の兩方面に卓越し

た手腕についてはつとに定評があるところであつた。而して今次の組織強化に際して、氏はその専務に令息田中熊雄氏を、常務に令姪田中茂雄氏を選任、經營のスタッフを一族によつて固めると共に、職制を改革して工務、營業、企劃の三部建てとし、人材を登用し、全社員の精神的團結をはかつて、こゝに水も洩らさぬ陣營を形成すると共に、草雉新工場の完成と共にマルクニ青年學校を開設、従業員に智育、體育、徳育に専念することとなつたものである。氏の當社設立以來の功績はこゝに擧げるまでもなく衆知のところであるが、氏は終始一貫工業報國を以て自己の信條とし、同時に當社の經營の根本方針として來たのである。工業報國——それは誰でもいふことであることが、いふことは易くして行ふことは難い、氏が他の模範とするに足るゆえんは實に、氏が、この信念を胸深く疊んで、不言實行して來たことにあるのである。そこに、氏の尊さを見るものが出來、氏の風俗と異なるゆえんを見ることが出来るのであつて、眞に日本的なる事業家の典型として廣く他の範とするに足るものである。

又、氏は、篤行の人としても知られ、その善行美譽は枚舉にいとまがないが、過般、令息熊雄専務の名をもつて、静岡聯隊區司令部に對し、出征遺家族恤金を献金、又静岡署に對し下級官慰勞金を献金したことは、當時新聞紙上に傳へられ、ひろくその篤行を謳はれたものであつた。

今や、斯業の使命いよ／＼重且大を加へんとする時、氏の今後一層の努力精進を切願してやまない。

獨力成功の巨材

株式會社久保田鐵工所 社長 久保田權四郎氏
取締役 社 長

躍進日本の推進方なる鐵工業の重鎮として仰がれる久保田權四郎氏は、獨力今日の大を成した當社立志傳中の巨材であり、眞の實力者である。世にはたゞその父祖より受け継いだ財力のみをもつて高い地位を持ち、技術、經營の何れにも傑れた點を持たぬが故に、いたづらにロボットの役割をつとめてゐる者もなしとしないが、今日の日本が求めてゐるものは、經驗に富み、かつ徳望ある眞の實力者なのであつて、氏の如き老練達識の實方者こそ眞に時代の要求する巨材といはねばならぬ。

氏は、明治三年十月、大出岩太郎氏の三男として呱呱の聲をあげ、先代久保田藤四郎氏の養子となり、同三十年家督を相続したのだが、梅檀は双葉にして香ばしのたとへの如く、今日一世の巨材として仰がれる氏も亦、幼にして才智業にすぐれ、郷黨の間に神童としてその將來の大成を期待されてゐたのである。長ずるに及んで、鐵工業の國家的大事業であることを痛感し、斯業によつて身を立て國家に貢獻すべく決意し、獨力鐵工業をいとなみ、爾來、汝々營々として努力經營をつゞけた結果、業績は國運とともに隆昌の一途をたどり、つひに、今日の輝かしい地位をかち得るに至つた。

即ち、氏は今日、その牙城たる當久保田鐵工所の社長たるほか、關西製鐵、鞍山鋼材、大阪鐵工業會社、日本鑄鋼管、日本ビクトリ

ツク等々、いづれも我が重工業界にかくれもなき有力會社の重役に現任、特に時局によつてその使命の増大した斯業の指導者の役割を果しつゝあるのである。

而して、當社では、大型機械鑄物鑄型、鋼鐵用鑄物、硫酸、染料肥料、製紙、紡績、人絹、製糖、セメントその他化學工業機械鑄物各種アンボール鐵管類、その他一般諸機械をはじめ、特殊耐熱及耐酸並に耐アルカリ鑄鐵等の高級鑄鐵管を主流として來たが、時局以來、當社の優秀な技術と實力に信賴する各方面からの懇懇と、氏の鐵工報國の赤誠によつて直ちに、鑛山用諸機械、ディゼルエンジン旋盤鑄物、自動給炭機その他、時局機器製作へ全面的に進出し、目下その方面に全力を傾注、各方面の絶對的支持のうちに、はな／＼しい活躍をつゞけてゐるのである。

氏は人と爲りきはめて謹直の人格者であるが、獨力今日の大を成した人だけに部下従業員に對する思ひ遣り極めて深く、従業員から眞の父親のやうに敬慕されてゐる。他の一面に於いて、氏は篤行家として知られ、朝野官民の畏敬のまゝとなつてゐるが、昨年十一月の明治の佳節に際し、畏くも近衛首相に賜つた御詔勅に感激し、軍人遺家族の善行美風を教育資料として後世に遺されんことを希望し、その經費として、大阪府知事を訪問して金十萬圓を獻金、同時に陸海軍へも各五萬圓を國防獻金したことは、當時新聞紙に報道され、その美譽を讃へられたものであつた。氏は本年恰度古稀の齡を重ねた譯であるが、才腕、徳望兼備の氏に百歳の長壽を願ふのは決して筆者一人のみではあるまい。

非常時炭坑の偉材

田籠鑛業株式會社 社長 田籠寅藏氏
取締役 社 長

筑豊炭坑界の精銳として戰時下の重要國策たる燃料の資源確保に重大な役割を果しつゝある。田籠鑛業株式會社は人も知る如く我が田籠寅藏氏の創設にかゝりかつ氏の才腕によつて、經營されてゐる所である。今や我が炭坑界は一大躍進期に際會し、その經營方面に幾多の俊材を輩出してゐるが、氏はそれら多士濟々の俊豪の中にあつてひとときは目醒ましい活躍を見せ俊豪の名を轟はれてゐるのだが氏が今日の大を成すまでには大正三年以來、實に二十有餘年の苦心努力があつた。古來「努力は成功の母である」といはれてゐるが、氏はこの古語の眞理であることを身を以て實證したのである。

そも、氏は、福岡縣の出身で、明治十四年十月、田籠金太郎氏の長男として生れたが、生來明敏な頭腦を持ち、かつすこぶる進取の氣象に富んでゐて、一度志を立てた以上は死すともこれを成就せねば止まぬ底の強固の持名であつた。長ずるに及んでこの傾向はいよ／＼烈しかつたが、大正三年獨力を以て福岡縣嘉穂郡大隅町に日の出炭坑を開坑し炭坑界に乗り出して以來、石炭報國の烈々として燃ゆるが如き赤誠のもとに努力經營を續け、つひに、三上、昭嘉の二炭坑を經營するに至つて、嶄然として抜くべからざる地位を築き上げるに至つたのである。

當社が、氏の個人經營から株式組織に變更したのは、政府の燃料

國策に呼應し以て、大量増産をもつて時局の要求に答へんが爲めには、其組織の擴大を必要とするに至つた、爲めであるが、其事業が氏の獨裁經營になるものであるに變りはない。而して、時局以來、氏が斯業へ出發當初よりの信念である石炭報國の赤誠を最高度に發揮して、國家に貢獻するのはこの秋にありとして、今や全社員従業員を督勵、自らその第一線に立つて采配を振りつゝ、赤誠の努力奮闘を續けてゐるのである。

而して、氏を中心とする社内上下一致團結といふことこそ、當社の斷然他社に誇るところであり、これが氏の今日の大を成した重大原因の一つだが、この従業員の一一致團結といふことは、肝心の兩方面から氏の統率に絶對的に信服してゐる結果にほかならない。即ち精神的には氏の高潔圓滿な人格に對する尊敬の念と恩情ある態度に對する思慕の情によつて、恰かも親子の如き愛情によつて結ばれてゐるのであり、物質的にはその厚待待遇條件をはじめ、慰安、衛生修養の萬般に亘つて到らざるなき福利的施設がなされ、些かの不満も持つてはゐないのである。

されば、當社の各炭坑にはあたかも平和な一大家庭に見る如き瀟々たる和氣が漂つてゐるのであり、筑豊地方の模範炭坑として各方面から賞讃を受けてゐるのである。氏は、本年五十九歳、人格、才腕ともに益々圓熟味を加へ來たつて、非常時炭坑界の實質的指導者たるの賞録もいよ／＼加はつて來たのである。斯業の使命益々重きを加へんとする時毒の今後に期待する所は大きい。切に自愛健闘を祈つてやまない。

富山財・政界の巨豪

高岡電燈株式會社 菅野傳右衛門氏
取締役 社長

富山縣多額納税者にして代議士當選二回輝かしい閱歴を持つ菅野傳右衛門氏は縣下の雄郡高岡市財界隨一の名門の當主であつて、富山縣財、政界に嶄然たる勢力を有する巨豪である。

氏は、先代傳右衛門氏の長男にして明治十三年十二月の出生東京商業の出身で家督相續と共に襲名して名門の當主となつたのだが、先代より受け繼いだ才氣と明敏な頭腦とはその至純至誠の人格と相俟つて衆望のあつまることとなり同縣財、政界の大御所として畏敬をあつめるに至つたのである。同縣財界における氏の閱歴は、くどくどしく書き立てるまでもなく衆知のところであるが、先に高岡商工會議所會頭として名會頭の名を天下に轟かした事實はあまねく人の知るところであり、現に、當高岡電燈をはじめ高岡商業銀行、富山合同貯蓄銀行、高岡合板の各社長、頭取であり、又、大日川電氣代表取締役、高岡打綿、温泉電氣軌道、高岡銀行、金澤電氣軌道越中倉庫、北陸信託、高岡新報等々、その他教擧の迫なき多數會社銀行の重役として三面六臂の活躍をなしてゐるのである。

これ等、氏の主宰し、又は關與してゐる銀行、會社等は、いづれも同地方に輝々たるもので、その對社會的信用、ひいてはその信用に基礎を置くところの活況は、氏の財界に於ける地位と德望、及びその卓越した經營手腕によるものとされてゐるのであり、單に財界

人業界のみならず、同地方民全體の崇敬のまよになつてゐる。この尊敬と信頼あればこそ、氏を國政參與の國會に送つたのであり、又、其傑れた政見と政治的手腕が縣民の期待を滿たしたのである。それら多數會社中、頭書の高岡電燈について少しく述べるならば、同社は、明治三十六年の創立であるが、昨年度に於いて風至電氣の事業譲渡に成功し又出町電燈を買収して、その配電區域は富山縣下から石川縣下に及び、一市三十六郡に亘つてゐる。ことに石川縣下の風至郡をその配電區域に加へたことは劃期的の成功で、これによつて當社の事業に一段の光彩が加へられたのである。

當社は、北アルプスを水源とする諸河川に水力發電所を設けてあり、現在の供給電燈数は約三十萬八千八百燈、供給電力は大日約二萬二千キロ、小口並に電熱その他約一萬キロに達してゐるが、その電力は低廉かつ豊富であり、目下増加の一途を辿つてゐる。時局以來、高岡市が工業都市として、急發展を遂げつゝある一斑の理由として、當社の電力利用が安價であることが擧げられてゐるのも當然のことであらう。

この安價なる供給は當社が天然の恵みを受けてゐることにもよるが、氏の電力國策に策應しての犠牲的愛國的經營方針によるところ亦大である。時局の進展に伴ひ、財界、産業界の使命は一層重且つ大を加へんとする時、氏の健在を見ることは當地方財業界の爲のみならず、國家的見地からも衷心慶賀にたえないことであつて、吾人はこゝに衷心より敬意を表すると共に、今後一層努力を願つてやまない次第である。

躍進工作機界の期待

株式會社大阪若山鐵工所 若山瀧三氏
専務取締役

工作機械は機械を造る機械、即ちあらゆる機械器界の生みの親であり、又、飛行機、軍艦、兵器等の製造に不可欠の資材であるから一國の工作機械工業の設備能力はその國の國防並に産業上の基礎的資源を表徴するものだといはれてゐる。されば、今次事變の勃發以來、國防の強化と生産力の擴充といふ國策的見地から、工作機械工業の確立が要望され、これが實現を早からしめる爲め、昨年六月一日より工作機械製造事業法の施行をみるに至つたのである。

この工作機械製造事業の劃期的躍進期に際して、堂々王者の貫録をもつて斯業をリードしてゐるものに、斯業最古の歴史と最高の技術をほこる當大阪若山鐵工所がある。そも、常社は、前社長故若山瀧三郎氏が、明治三十一年四月を以て創業以來個人經營をつゞけて來た若山鐵工所であつて、若山瀧三郎こそは、我が國斯業のパイオニアであり、その一生の歴史——即ち、若山鐵工所の歴史は、そのまゝに我が國工作機械工業の發達史なのである。

若山氏は、すでに歐洲大戰當時に於いて、池貝、唐津と並んで斯業に馳名を馳せたものだが、昭和九年七月、株式會社に改組以來、滿洲事變を契機とする斯業の躍進期にたつて、如上の傳統に不斷の研鑽琢磨を以てして、主として高級工作機械の製作に精進し、輸入機械を凌駕驅逐すべき優秀品の完成を目標として、品質精度の向上

に努力して來たのであつた。この苦心は空しからず、當社製品は、本邦最優の精巧品として折紙を付けられ、陸海軍をはじめ諸官廳の指定工場たる名譽を擔ふとともに、民間の有力諸會社工場を納入先として不動の地位を確保し、時局下にはなくしい活躍を演じてゐるのである。

而して若山瀧三氏は、前社長瀧三郎の在世當時から専務の重職にあり、高齢の前社長を援けて敏腕をふるひ、當社の今日の基礎を確立、いまや一大飛躍の態勢を整備した當社の經營の樞機を擔つて縦横の活躍をしてゐるのである。

即ち、時局以來の當社の躍進のあとをみるならば、それは驚異の一語に盡きる。即ち一昨年十二月、資本金二百萬圓を以て創立した第二若山鐵工所を、昨年二月吸収合併して資本金三百萬圓とし、信太山工場の、第一期、第二期擴張を矢繼早に斷行、昨秋、一躍一千三百萬圓に大増資を斷行するとともに、更に目下第三期擴張を繼續中で、これによる新工場は、實に四萬五千坪の龐大な地域をほこり我が國工業機械製造界の一大勢力となるに至つた。

この驚異的發展を遂げ得たゆえんのもの、時局の好轉によるとはいひ難、故瀧三郎氏の遺徳と、而してその工作機械報國の信念を受けついで若山瀧三氏をはじめ、重役及び従業員の一體協力のたまものにはかならない。今や、躍進日本の「力」の一表徴たる工作機械製造界の精銳として、氏の上には舉國的期待があつてゐる。天性非凡の才幹と旺盛な實行力を持つ氏は、決してこの期待を裏切るやうなことはしないであらう。

函館財界の指導者

東邦水産株式会社 坂本 作平氏
取締役社長

北海道財界の重鎮にして、函館市財界の實質的指導者たる坂本作平氏は、石川縣人たる坂本市郎氏の三男として明治八年四月二十六日を以て生れ、努力奮闘もつて一代にして今日の大を成した立志傳中の人物である。

氏は函館商業に學んだが、青雲の志を抱いて擇捉島に渡り露語研究のかたはら漁業監督の任にあつた。同三十四年函館の小川米穀問屋に營業主任としていつたが、その非凡の商才はあまねく人のみとめるところとなり、同四十四年小川合名に入つた。爾來、氏はその實力を以て成功への道を切り拓き、漸次にその地位を高めつひに函館財界の實質的指導者たる現在の榮位をかち得たのである。

氏は、現に當東邦水産の社長たるほか、その實業界雄飛の温床となつた小川合名の代表社員であり、また、東和水産、七星商事の各社長をはじめ多數會社の重役を兼ねてゐる。又、先きには函館商工會議所の會頭として商工界の發展に絶大な寄與をなし、今日では顧問として指導の任にあつてゐるのである。

函館は、安政條約によつて開港された日本最古の貿易港たる歴史を持つてゐるが、本州との連絡地點であり北海道の關門である關係から、道内外の物資の集産地として、北海道最大の商業都市として發展して來たのである。特に、千島樺太の海を舞臺とする水産業は

函館を本據とするものであつて、その殷盛は水産業によつてもたらされたものといつてよいであらう。

多年商議會頭として敏腕をふるつた坂本氏の當市の發展に寄與した功績はきはめて甚大なものであり、市民のひとしく感謝と尊敬の念を捧げてゐるところだが、又、前記多數會社の社長重役として、當市經濟界の發達に貢獻した數々の功績に至つては、枚擧のいとまがない程である。

氏の社長として主宰してゐる東邦水産について少しく述べるならば、當社は北千島の六漁場及び擇捉島の豊富な鮭鱒建網漁業を經營するもので、漁業のほか、自社經營の罐詰工場を擇捉島に置いて活潑な業績をあげてゐる。その資本金は百萬圓昨十三年度に於いて利益金十萬四百四十圓を挙げたのである。かく當社が逐年隆昌の一途をたどりつゝある所以は、坂本氏のかゝける水産報國の社是のもとに従業員全體が一致團結努力を續けて來た賜ものにほかならない。

氏が、水産報國をもつて社是とし自身の信念とするゆえんは、一は水産業を以て立つ函館市の發展を思ふ愛市中心からであるが、他面——これこそ最大の理由であるが——函館を本據とする北洋水産業が我が國の重要産業の一つだからである。氏はこの國家的要求に答へん爲め、當社をはじめその主宰し關與する水産關係會社従業員を督勵して、倍々努力してゐるのである。

かく、北洋水産業の使命の重大なるを思ふとき、今や、坂本氏は單に函館の坂本氏ではなく、日本の坂本氏であり、その功績は國民的感謝を以て報ひねばならぬものである。

本邦發動機界最大の功勞者

きしろ發動機株式会社 木代 重行氏
専務取締役社長

時局下の重要工業たる内燃機關並に船舶用機械器具メーカーとして、名聲噴々たる木代重行氏はその半生を機械報國の信條に捧げて來た、熱の人であり、至誠至純の人格者であり、たんに技術方面のみでなく經營方面にも卓越した手腕を持つ偉材である。

そも、氏は、宮崎縣士族木代太郎氏の長男として、明治二十一年七月を以て呱呱の聲を擧げたが、幼少より頭腦明晰にして神童のほまれ高く、かつ、獨立自尊の烈々たる氣魄を持つてゐた。關西商工を卒業後長谷鐵工所に入つたが、のち、木下鐵工所に移つて技師となり、絶えざる研究をもつて技術を鍊磨し、二十五、六才の頃から、敏腕木代の名を技術界に謳はれたものであつた。

かくて前後、約十年間斯業實際に就いて技術の奥義を極めるとともに、旺盛なる求知心をもつて學理を究明した氏は、その抱懐する「技術報國」の信念を最大限に發揮する爲には獨立するに如かずとの信念に到達し、大正四年、獨力當社の前身たる木代鐵工所を起したのである。爾來、優良國產發動機の製作に従事し、黎明期にあつた我が國發動機界に巨大なる足跡を遺したのである。

氏の我が國發動機界に記録した幾多の功績中、特筆大書に値するのは、創業當時、早くも舊來の燒玉式發動機の缺陷を指摘し、これが改良研究に没頭し、つひに完全無缺の「きしろ式無水發動機」を

完成、業界多年の懸案であつた、この問題に解決を與へ、以て斯業の一大躍進の契機を作つたことである。されば、この眞價はたちまち世の認むるところとなつて製品の需要急増、つひに業務擴張の必要にせまられて、大正十五年、一舉資本金一百萬圓の株式會社に改組するに至つたのである。

氏が、獨立創業した當時は、未だ二十八才の青年であつたが、爾後十年にして、早くもこの大を成し遂げたことは異數のことといはねばならず、この氏に贈るに「天才」の名を以てする以外に適當なる褒辭を見出すことは出來ないのである。

當社最近の業績を見るならば、昨十三年度に於いて、發動機年産實に七千軸馬力、諸機械八千臺といふ驚異的數字を上げ、それら製品の納入先も陸軍運輸部を始めとして、全國の著名造船所、船舶會社の殆どすべてを網羅してゐる狀況である。その製品は、過般の國產發動機博に出品して名譽賞金を受け、馬力率制限の農林省認定工場たるの榮譽をになつてゐるのである。

而して、時局以來は、小型ステーマンチン、吸水油ポンプ、コンプレッサー、ウィンチ、排氣弁等の船舶機械器具の製作に専念して國策への協力をなすなど、その功績は甚大なるものがある。

されば、我が國發動機發達の恩人としての氏の名は永遠に青史にとゞめられて、國民的感謝を受けるものであるが、氏は本年未だ五十二才の働き盛りである。興亞日本の氏の才幹に俟つところは甚大なるものがあるのであつて、氏の今後一層の努力精進を冀つてやまないものである。

時局炭坑界の寵兒

菅原鑛業合資會社 長 菅原 誠氏

燃料資源はあらゆる工業の原動力を成すものであるから、それはすべての産業部門の生産力擴充に先行して行はるべきものであり、時局以來、政府のまつ先きに掲げた燃料國策の旗印のもとに、燃料資源の開發にあたりつゝある業者は、古豪、新銳の別なく、いづれも、競つて増産、新規開發に火の出るやうな努力をつゞけて來たのである。

石炭は、石油と並んで燃料資源の双璧を成すものだが、この國策に呼應して活潑な働きを見せ來たつた多數の石炭開發會社中、ひときは目立つて勇ましい武者振りをみせ、業績また拔群であつたものは、九州炭坑界に英名鳴り渡る菅原誠氏のひきゐる菅原鑛業合資會社である。戦線の勇士の勳功にもおのづから甲乙の別がある如く、何れも優劣を分ちがたいこれ等同業者に強いて甲乙を付するならば正しく、氏の功績は殊動甲をもつて顯彰せらるべきものであらう、そも、氏が當社を個人經營によつて起したのは昭和七年七月であり、古豪並で立つ九州炭坑界にあつては比較的新進に屬するが創業三年にして早くも合資組織に飛躍。今日の大を成すに至つた裏面には、氏の斯業についての多年の苦心研究が秘められてゐるのである。その半生史を識るならば、何人といへども強き感銘を受けずにはゐられない。

關西財界の驍將

株式會社渡邊鐵工所 常務取締役 林 良吉氏

「海を制する者は世界を制す」とは歐洲大戰前後にもつとも聲を大にして呼ばれたことであつて、世界列強は競つて大海軍と商船隊の建設に邁進したものであつたが、今日ではすでに海を制する者は……云々の時代であると共に、また新たに「空を制するものは世界を制する」時代となつた。軍事的に然り、又平時の經濟戰に於いてさうならうとしてゐるのである。

これを我が國について見るならば、こゝ數年來の我が航空工業の進歩發達は大いに見るべきものがあり、まさに神風の偉業あり、航研機の翹業成つて世界は我が國産機の性能に一驚し、更に今次事變において示され來たつた陸、海空軍の偉力に再嘆三嘆しつゝあるのである。而して政府はこの重要な航空工業の保護助成の目的から昨年八月三十日より航空機製造事業法を施行したのであるが、その指定會社として——特に海軍機の製作組立を主流事業として時局に至大の貢献をなしつつあるものに我株式會社渡邊鐵工所がある。

當社が海軍の信望を得て海軍機體の製造、組立を開始したのは昭和九年以來のことであるが、その常務取締役兼總務部長として全面的に經營の重衝を擔當してゐる林良助氏は兵庫に於ける多額納稅者の一人であつて、その豊富な資力と俊敏なる經營の才幹をもつて關西財界に鳴る重鎮である。

そも、氏は、福岡縣の産にして、明治十九年七月菅原清之助氏の二男として生れ、才智衆を凌ぎ、神童の名をうたはれたものであつたが、幼にして父君を失つた氏は家計に恵まれず、あたら向學心に燃える有爲の人材も草薙に空しく雄圖を抱いて終るかと思はれた。この時、氏の才を惜しんだ郷黨の豪農某氏が學資の提供を申し出でくれたのである。この知己に感激した氏は自己の才と斯業の將來を考究した結果、東北帝大採鑛冶金科を選んで學び、同四十三年、拔群の成績をもつて卒業した。

爾來、氏は前記某氏の恩を忘れず、その報恩の道は自己の才を磨き全努力を傾注して國家社會に貢献することにあると考へ、血のじむやうな努力をつゞけて來たのであるが、三菱鑛業在社中、體の無理がたゞつて不幸病魔におそはれるところとなり、退社するの止むなきに至つた。

而して、健康恢復後、山下鑛業に入つたのであるが、鑛業報國の信念を實踐するが爲めには獨立するに如くはなしと考へるに至り昭和七年に至つて獨力當社を起したのである。爾後の變遷は前記の通りだが、現在、本社は福岡市地行町東町にあり、福岡縣鞍手郡西川村所在の神田炭坑と同村所在の新三笠坑、及び佐賀縣西松浦郡山代町所在の山代炭坑をもつて、時局の要求を満たすべく大童の活躍をつゞけてゐる。氏は苦悶よく今日の大を成した人だけあつて人格圓滿にして、すこぶる温情に富み、従業員に對しては慈父の愛と理解をもつて接してゐるので、従業員も亦氏を家長の如くに敬慕し、美しい勞資協調の社風を作つてゐるのである。

氏は、明治十六年二月、林良助氏の二男として生れ、同四十二年拔群優秀の成績を以て神戸高商を卒業後財界雄飛のスタートを切つたのであるが、天性明敏の頭腦の持主であつた氏は不斷の努力精進によつて、いよゝその天才に光輝を添へ、敏腕林の名を四方に喧傳されるに至つた。當社が今日の股賑をみるに至つた一因として、常務としての氏の敏腕を見通すことは出來ないのである。

當社は、福岡市に本社及び工場を持ち、資本金六百萬圓、前述の如く航空機製造事業法による許可會社として我が海の荒鷲機の機體の製造及び組立を營んでゐるが、時局以來の生産力擴充の實績は大いに見るべきものあり、今後一層の飛躍發展が期待されてゐる。衆知の如く今次事變は所謂始めなく終りなき戦ひであつて、今次事變の戦果をあげ、以て東亞の盟主として世界に號令せんが爲めには、我が國の航空工業は今日より將來へかけて無限の發展を要望されるのである。當社がその要望に答へるもの一つであることは朝野のひとしく認めるところであるが、その經營スタッフに氏を持つことは當社最大の強味といはなければならぬ。

氏は、温良恭謙讓の五徳を備つた人格者である孔子のいはゆる君子であつて、その徳望は一世を掩ふものあり、その才腕と資力と、而してこの徳望の三者を一身に兼備した氏の如きをこそ、精神主義の國日本の事業家として理想的な人材といふべきであらう。氏は本年五十七才、その人格、才腕ますゝ圓熟味を加へ來たり、工業報國の赤誠のもとに夙夜努力を續けてゐられることは衷心邦家の爲めに慶賀に堪えないことである。

國産自動車界の新鋭

和歌山日産自動車株式会社 社長 野崎定楠氏
取締役 野崎定楠氏

自動車はたんに平時の交通機關としての使命を持つ許りではなく、高度に機械化せられた近代兵器の重要なもの一つとして、近代戦には欠くことの出来ないものであり、それは今次事變に於いて如實に實證せられたところであるが、これが爲めに、我が國に於ける自動車工業は急速の發展を促されるに至つた。事變勃發後まもなく昭和十二年末「國産自動車製造法」が制定せられるに至つた事實がもつとも雄辯に這般の事情を證明してゐる。

この國産自動車工業興隆の波に乗つて、事變以來素時しき躍進を遂げたものに、紀州工業界に燦然たる光を放つ野崎定楠氏の主宰する和歌山日産自動車株式会社がある。當社は、昭和十一年三月、野崎氏の個人經營によつて起されたものであるが、業界にすでに定評のあつた氏の快腕によつて堅實なる發展をつづけ、工場擴張の要に迫られて翌十二年四月新築と共に營業所を移轉擴充して、着々業績を擧げ來たつたのである。

かゝる躍進の途上に於いて、須臾にして今次事變の勃發にめぐりあひ、更に華々しい躍進譜を奏しつゝ前進をつづけるうち、昨年九月、大型ニッサン號の販賣權を獲得するに至り、これを機會として株式会社を改組を斷行、今や旭日昇天の勢ひを以て紀州工業界に覇を制しつつあるのである。

四〇

この驚異的な躍進は一に社長野崎氏の快腕によつてもたらされたものであつて、その炯眼よく時流の機勢を洞察して斯業に乗り出し時局が斯業の急發展を促すに至るや、快腕よく大日産との連繫に成功した、その明敏なる才腕にはたゞ／＼敬服のほかはない。しかも温良恭謙讓の美しい性格を持つ氏はいさ／＼かもおのれの功に誇る色なく、またこの成功に慢する色なく國産自動車報國の信念のもとに致々營々として業務の發展に努めつゝある熱誠にはおのづから頭の下るのを覚えるのである。

氏は、熱血の士であり、果斷實行の力であつて、その強固な意志と不撓不屈の努力が當社の今日を築き上げたものではあるが、そのかけに氏の部下たる重役以下全従業員が氏の統率下に一致團結して事にあたつて來たその協力のあることを忘れてはならない。重役以下従業員は氏の崇高な人格に全幅の信頼をばらひ、その愛國の熱誠に感激しかつ同化されて、氏の手足の如くになつて氏を輔けて來たものであつて、所詮、氏の人徳の然らしむるところと云はざるを得ず、斯く、才徳兼備の氏の如きをこそ、眞に理想的なる事業家といふべきであらう。

而して、與亞日本の事業界が期待する人材は正に氏の如き才徳兼備の敏腕家にほかならず、特に銃後産業陣營中の最重要部門たる國産自動車界に氏を迎へたことは眞に慶賀に値することといはねばならない。今更云ふまでもなく氏の充分に認識されてゐることではあるが、皇國百年の大計をして遺憾なく遂行せしめうるやう、氏の今後一段の努力精進を切願してやまないものである。

日本海運輸界の精鋭

日本海運輸株式会社 社長 竹谷内惣太郎氏
専務取締役 竹谷内惣太郎氏

能登半島隨一の重要都市である七尾港は、良港に乏しい日本海沿岸中の稀有の良港であり、南北航路をはじめ、裏日本航路、大連航路、北海道樺航路のほか諸外國との自由航行が行はれ、内外貿易を生命として發展をつづけて來たのである。されば、町の死活を握るものは、實に海陸の輸送にあたる運輸會社であるが、その大役を一手に引き受けてゐるのが、竹谷内惣太郎氏が専務としてもつぱら事業を指揮してゐる當日本海運輸株式会社である。

氏は、同港の出身で、明治二十三年一月二日を以て生れ、明治大學法科を卒業後、警視廳に勤務したが、のち實業界に入り、極爪商店常務を経て、昭和八年現社を創立、専務として快腕をふるひ、當社の今日の隆昌を招來したのである。その當社經營の根本信念となつてゐるのは、その事業を通じて郷土七尾の經濟的發展を願ふ、烈々たる愛郷精神であつて、氏のこの熾烈な愛郷心を知らぬものは何れもその徳を偉とし、町民はいづれも衷心からの尊敬と感謝を捧げてゐるのである。

七尾港は、先きにもいつたやうに貿易港として發展をつづけて來たのであつて、最近一ケ年の内國貿易額は一千八百萬圓、外國貿易額は五十八萬圓に達したが當社に於いては七尾セメント工場の原石採掘、海陸運輸一切を一手に引受け、その他石炭の陸揚げ、セメン

トの積出し等、七尾港輸出貨物の六割輸入の九割までは當社の手によつて扱はれてゐるのである。

特に、七尾セメントが時局に策應して休止釜を利用し、山陰大江山から、鐵、ニッケルの原礦を移入して粗精鍊操業に乗出すことになり、これに要する莫大な石炭は當社が陸揚の實權を掌握するに至つて、いよ／＼その業績はめざましいものがある。

氏は、さきにも述べた如く、郷土の發展を願ふ愛郷精神からして當社を起したのだが、創立以來、六年に滿たずして今日の輝かしい發展をみるに至つたのは、その愛郷の赤誠にもとづき、すでに定評ある才腕を縦横に發揮、眞に不眠不休の活躍をつづけたが爲にほかならない。これが爲めに七尾町も急激な發展を遂げ、近く市制の實施を見るに至らんとしてゐるが、この功績の一斑は當社の擔ふものであり、而して、その主宰者たる竹谷内氏の努力に負ふところ大なりとして、今や氏は町民の崇慕のまゝとなつてゐる。

以上、述べ來たつたことによつても察知される如く、氏はたんに事業經營の才に於いて卓越してゐるばかりでなく、極めて眞摯誠實な人格の持主であるが、また識見高く、郷土の後進の指導育成にもつとめてゐる。しかも氏は、本年恰度五十才といふ若さである。五十才といへば事業家としては恰度働き盛り、油の乗り盛りといふ若さであつて、その眞價が發揮されるのはむしろ今後にあるといつてもよいのである。躍進七尾港が當社の協力に俟つこと、今後一層大なるものあらんとするにあつて、氏の層一層の健闘を期待するのは一人筆者のみではないのである。

埼玉縣の模範工場社長

丸中織物株式會社 中里正治氏
取締役社長

近代産業の基礎は人にあるといはれ、事業の興ると廢れるとは一にその經營の衝にあたる人材の如何にかゝつてゐるといはれてゐるが、まさに適切な言葉といふことが出来る。事業の成否を決定する他の要素として、その事業の將來性と資本が擧げられてゐるが、經營者にして眞の俊材であるならば、事業の將來に對する見透しを誤ることはない筈であるし、またかゝる人材のもとには資本は求めずして集まつて來るといへるのである。

されば、何ものよりも經營者の手腕が問題になつて來るのだが、こゝに關東の雄縣埼玉縣飯能町にあつて織物界にその英名をうたはれてゐる丸中織物株式會社の創立者にして社長たる中里正治氏の如きは、自己の才腕をもつて今日の大を築き上げたのであり、事業家としての資格を完全に備へた偉材の一人といふことが出来る。

氏は、當縣の出身で、明治十七年一月十三日を以て、中里才次郎氏の二男として生れたが、少年時代から機略に富み、すこぶる進取向上の精神に富んでゐた。而して大正五年その事業に對する完全なる見透しのもとに、豊かな資力をもつて飯能町に丸中合名を起し、織物界に乗り出したのであつたが、その才腕の縦横にふるはれるところ、さながら天馬空を行くのがあつて躍進に躍進を重ね、大正十三年には組織を株式に改め、更に躍進の一途をたどつて遂に今日

の大を成したのであつた。

當社は、現在、婦人夏の服飾地、男子ワイシャツ地等の廣中織物を主として生産してゐるが、その多年苦心研究の結果によつて品質の優秀なことは壓倒的であり、販路は全國的に及んで、好評を博し愛用を受けてゐる。

而して、當社について特筆すべきことは、完備した工場設備と共に、寄宿舎の設備から従業員に對する理想的な營養食給食、體育施設の完備など、衛生、娯樂、修養等の諸施設が驚くほど整つてゐることである。それは縣工場課の折紙付きで、縣下の模範工場として賞讃されてゐるのだが、これは一に、中里社長の信念とする共存共榮勞資協調のあらはれにほかならない。

かく、待遇、施設に於いて理想的に行つてゐる氏は、また社長は父で社員は子である、社員全體は一家族の氣持で結ばなければならぬといふ、従業員に對してはつねに慈父の温情を以て接觸を保持し、従業員に不満や希望があればこれを聞き、もしその不満や希望が間違つたものであれば、懇々とこれを諭すとともに正しい道理に導つたことであれば、必ずこの不満を除き希望を満たすやうにしてやつてゐるので、従業員はあたかも實の父を慕ふ子女のやうに敬慕し慕ふたる和氣のうちに作業にあたつてゐるのである。

されば、従業員たちは同社に於いて働くことを幸福とし、また誇りとしてゐるのであつて、この美しい愛情で結ばれてゐる同社工場は他の羨望のまとなつてゐる。まことに、氏は當代に得がたき、才徳兼備の人であつて、後世の模範とするに足るものである。

本邦養鶏界の權威

玉置種鶏場長 玉置庄五郎氏

玉置種鶏場の經營者にして、又玉置人工孵化場をも經營してゐる玉置庄五郎氏は、多少とも養鶏事業に關係を持つものは誰でも知つてゐる所の斯業の第一人者である。

そも、愛知縣は我が國養鶏事業のメーカーといはれ、同地方の養鶏はあらゆる點に於いて日本一の稱があるが、氏はその中心地たる名古屋市中區廣路町に玉置人工孵化場を經營、同縣下東春日井郡味岡村に種鶏場と孵化分場を經營して、同縣下の養鶏界——ひいては、全日本の養鶏界をリードしてゐるのである。養鶏事業は、いふまでもなく、農業生産物の主要な部門を占めてをり、農村の振興上重要な産業であるとともに、國民の健康保全といふ見地からも極めて重要な事業である。

されば、その重要性は、戦時下の今日に於いて、特にその程度を數倍してゐるわけであるが、不幸にして、事變勃發により、爲替管理案の實施をみるごととなり、飼料の輸入制限が行はれた爲めに、飼料の暴騰を來し、養鶏事業は一時非常な苦境に沈淪するに至つた。元來、日本の養鶏業者は事業と副業とを合して三百有餘萬戸と稱され、斯業の振不振の影響するところは絶大なものだが、これ等養鶏家の一ヶ年の飼料需要量は一百五十萬噸と推算され、内百二十萬噸は國內産出、殘餘三十萬噸が海外より輸入に依存してゐた。

この三十萬噸に輸入制限が行はれた結果、以上の如き養鶏業の悲境時代を招來したのだが、その後、關係業者と政府當局との奔走の結果、滿洲より約七八萬噸の輸入をみるごととなり、國內飼料業者の献身的努力による増産もあり、且つは半官半民の飼料會社の設立と、輸入制限の緩和等によつて、漸次好轉するに至つた。而して、事變以來從來、上海卵隨一の市場たる英獨方面の需要地も日本内地卵を輸入するやうになつた爲め、我が養鶏業者に對して一段の奮起が要望されるやうになつたが、養鶏報國を以てその事業經營の根本方針とする氏は、農林省當局の養鶏獎勵の掛け聲に呼應して大々的増産に乗り出したのである。

氏は、南京陥落後でもない昨年四月、皇軍將兵慰問を兼ねて、揚子江沿岸地區の養鶏情況視察の旅に上つたが、大平原の中に、鶏はもとより、北滿で見るとやうな野放しの豚や牛の姿さへ見えないことから、皇軍將士の健康上、鶏卵鶏肉の國內増産が必須のことであることを痛感し、爾來、いよゝゝその抱懐する養鶏報國の信念を強くして、ほとんど利害を超越して、増産に努めてゐるのである。その強い國家觀念には、ただ、敬服の頭が下るのみである。

氏は、その資性、温厚にして篤實、きはめて温情に富んだ人であつて、多數の従業員からは慈父のやうに慕はれてゐる。その大養鶏場を一度訪れるならば、何人もあたかも平和な家庭に見るが如き驚々たる和氣が漂ひ流れてゐることに氣付くであらうが、これは、實に、氏の温情にもとづく家族主義的經營方針の現はれに外ならならず、同養鶏場が業者の模範とされてゐるのも故なきことでない。

工作機界の最新鋭

大阪莫大小機械株式會社
取締役社長 阪田好朗氏

多年莫大小機械の製作にあつて、本邦莫大小工業の發達に多大の貢献をなした大阪莫大小機械株式會社は、數年前より炯眼よく時流を察して工作機械製作に進出、今や高級米式四呎旋盤をはじめとして優秀工作機を世に送り、生産力擴充下に躍進をつづけつつある我が國諸工業部門から絶大な支持を受けつつ高らかに躍進譜をつづけつつあるのである。而して、この躍進大阪莫大小機械の社長として社務を統率しつゝあるのは、躍進時代にふさはしき生氣瀟灑たる少壯の敏腕家、阪田好朗氏その人である。

氏は、當社の前社長にして當社の創立者であり、紀州鐵工界の指導的勢力者と謳はれてゐた故阪田好吉氏の令息なのである。今、當社の沿革を述べんに、遠く明治時代に其郷國たる和歌山市に阪田鐵工所を創業、爾來個人經營をもつて經營にあつて來たが、大正十三年、當時隆昌を極めてゐた和歌山の織維工業界の受託をはかる目的で、莫大小機械の製作に着手すると共に、組織を株式會社に改め社名も亦大阪莫大小機械株式會社と改め、現在の所在地たる和歌山市久保町四丁目本社を置くとともに大阪に分工場を設置して堅實なる發展を續けて來たのであつた。

而して一昨年、氏の長逝のあとを受けて當主好朗氏が社長の任に就き、主力をもつばらと歌山本社に注ぎ、時局以來は特に工作機方

四四

面に餘力を傾注して、工場の擴充、設備の充實、人員の整備をはかつて、いまや息繼ぐ暇もない受託の消化につとめてゐるのである。當主好朗氏は、先代の血とその薫陶と、而して「機械報國」てふ信念を受けつぎ、頭腦明敏、才氣煥發、しかも誠實主義の權化ともいふべき人格をもつて、今や先代を凌ぐ偉材との評判高く、同地方業者の期待を一身に浴びつつ、縦横無盡の活躍をなしつつあるのである。

當社が目下主力を注いでゐるのは、前記の高級米式四呎旋盤であるが、これはいはゆる精密小型工作機械中でも最も技術困難とされるもので、我が國では數年前までは、その需要の多くを海外の輸入に仰いでゐたのであつたが、この困難な技術を征服し、外國品にも優る優秀品とし定評を勝ち得るに至つたのは、一に阪田氏父子二代に亘つて技術第一「機械報國」をモットーとし、多年努力研究をつづけて來たたまたまのほかならないのである。

今や、我が國は前古未曾有の國運發展期にあるが、この興亞の大事業を完成せん爲めには、尙一段の銃後産業力の擴充が要望せられるのであり、この要望に應へん爲めには、總ての工業部門の生産力擴充の土臺となる工作機械工業の一段の飛躍が要望されるのであるが、その一翼として當社を加へ、其指導者として前途有爲の少壯阪田好朗氏を持つことは邦家の爲にも衷心慶賀に値することといはねばならない。氏は極めて思慮に富む一面に果斷實力の旺盛な行動精神を持つてゐる。されば全日本工業界に堂々覇をとる日も遠いことではあるまい。

養鶏飼料界の第一人者

伊藤商事株式會社
取締役社長 伊藤喜代和氏

名古屋に本社を持つ伊藤商事株式會社は、衆知の如く日本一の養鶏飼料問屋であり、その社長伊藤喜代和氏は斯業最高の權威者である。抑々當社は、初代伊藤和四五郎氏の創立になるもので、初め合名會社伊藤和四五郎商店と稱したが、事業發展に伴ひ昭和十二年四月組織を擴大して伊藤商事株式會社と改稱した。

喜代和氏は、昭和十二年七月、二代目四五郎氏逝去のあとを受けて社長の任に就いたものだが、學窓を出てからたゞちに斯業の研究に着手、社長就任の昭和十二年には海外に赴いて先進國の斯業を視察、つぶさに研鑽して歸朝後は、飼料の製造方面に劃期的な改善を行ふとともに、米國、カナダ、南洋諸國、シンガポール等への輸出に力をつくし、素晴らしい成績をあげたのである。

當社の完全飼料の内容や性能については、こゝに喋々するまでもない。その使用先きの絶對的な信頼がもつとも雄辯にその優秀性を實證してゐるが、何が當社の飼料をしてかくも有名ならしめたか、何故にかくも優秀なる飼料が生産發賣されるに至つたか、といふに前記の如く、社長を陣頭に多數の有能な技術家が不斷の研究をつづけて製品の改良につとめてゐる一方、つねに自社専屬の三和農場に於いて飼育してゐる多數の卵鶏にこれを與へて、その性能の實驗をしてゐることのたまものである。

この三和農場は、名古屋市の大高町にあり、その研究設備の完璧

なることに於いて、日本一の稱がある。三百卵鶏は數多飼養され、二萬羽を飼育するベタリー舎から、素人でも出来る簡易鶏舎に至るあらゆる設備がなされ養鶏大學の稱がある程である。同所では一般養鶏家の利便をはかつて、屢々、講習會、座談會等も催してゐるが、されば、養鶏を事業とし、又それに趣味を持つものは必ず一度は同農場を訪れるといはれてゐる。

又、當社では、三菱完全飼料をも取扱つてゐるが、これはもとより天下に定評のあるもので、前記入・完全飼料と相俟つて、當社の存在を斯界に重からしめてゐるのである。

時局以來、爲替管理法によつて養鶏飼料界は一時はなほだしい苦境に落ち、一方卵價の暴騰を招來するに至つたが、最近に至つて漸次に好轉するに至つたのも、一に、當社の眞摯な努力のたまものにはかならない。而して、時局下に於ける當社のこの献身的な努力は敏腕識識のほまれ高き社長伊藤喜代和氏の烈々たる報國心の發露なのである。養鶏業は農村振興と國民保健上、今日時局下に於いて特に重要な事業である。この重要な養鶏事業の基礎事業といふべき飼料生産配給に献身的な努力を捧げつゝある氏も亦、時局の功勞者たるを失はない。

氏は、また、學識、教養ともに高き人格者として社内はもとより一般業者からも厚く尊敬されてゐるが、この地盤と、この手腕と、而して、この徳望を持つ氏こそ、まさに當代飼料界のナンバー・ワンたるにふさはしい偉材である。

鑛山機界の先覺者

株式會社田原製作所
代表取締役社長 田原久吉氏

あらゆる工業の生産力擴充に先行して、その生産力の擴充を必要とされるのは鑛山業であるが、鑛山業の生産力を擴充せんが爲めには鑛山機械メーカーの協力に俟たなければならないのであつて、鑛山機械工業の生産力擴充こそあらゆる部門のそれに先行して行はれなければならないものである。されば、時局以來の、我が國鑛山機械工業の發展よりは眞に驚異的なものがあるが、なかなづくその躍進目醒ましく、功績顯著なものは、三十有餘年の経験者にして斯業に關係ある者は誰一人として知らぬ者もない、エキスパート田原久吉氏の主宰する當株式會社田原製作所である。

氏は、明治七年五月、島根縣土族に生れ、同三十五年、先代カヨ氏の入夫となつて家督を繼いだのであるが、幼少より頭腦明晰のきこえ高かつた氏は、將來の國運が工業力の如何にかゝつてゐるとの見解に到達してエンチニアとして立つべく志を立て、東京高工機械科を選んで入學した。同三十四年、抜群の成績を以て同校を卒業後藤田工業會社にはいつたが、同四十年久原鑛業會社に轉じた。

爾來、同社にあること十餘年、その英才をみとめられて、大正十年同社佃島製作所長に擧げられたが、斷立自尊の念厚き氏は胸中深く決するところあつて、同年これを辭し獨立、以て鑛山機械製作に乗り出したのである。當時、わが國の鑛山機械工業は未だ濫觴期に

あり、各鑛山會社使用の鑛山機械の多くは海外よりの輸入に仰いでゐた状態であつて、技術も極めて幼稚なものであつた。氏はこの状態が決して國家に利益するものではなく、我が國鑛山業の發達をはかる上からも、また輸入を防遏し國益をはかる上からも、國産機械の量的且つ質的、發展向上に資さんとの烈々たる信念を持つて獨立を敢行したのである。

それからの氏の努力といふものは眞に涙ぐましいものがあつた。優秀なる技術家連を傘下にあつめて品質の改良に専念せしめると共に自らその指導監督にあたり眞に不眠不休的努力をつゞけた結果、數年ならずして完全に外國品を凌ぐ優秀品の製作に成功、かくて鑛山機械メーカー中の寵兒となつて、今日の大を成したのであつた。

而して、時局以來、急増する需要に應じて擴張に擴張を重ね來たつたが、本年二月、つひに組織を擴大して資本金二百五十萬圓の株式會社となすと共に、現在の東京市東區龜戸にある工場の隣接地に、鐵骨建の大型機械工場三棟八百五十坪と木造の機械工場三棟六百五十坪を増設、更に第二次第三次の擴張計劃を樹て、何れは更に倍額五百萬圓に増資されるのは必須と業界各方面から期待されてゐるのである。

この大事業を一代にして完成した田原氏は本年六十六才、意氣、健康ともに矍鑠として壯者を凌ぐものがある。時局が氏の老練の手腕に期待するところ、尙大なるものある折柄、氏の一層健康に留意して斯業の發展に、ひいては興亞の大國策に貢獻されんことを祈つてやまない。

當代事業家の師表

株式會社山口商店
取締役社長 山口英一氏

近代戦は工業戦であるといはれてゐるやうに、歐洲大戰以來、戰爭の勝敗は交戦國家間の工業力如何に繫るものとなつて來た。歐洲大戰において、ドイツが殆んど全世界を相手として、あれ程までに頑強な抵抗をなしたものは、もとよりその國民の精神力の勝つてゐたことにもよるが、彼の國の工業力が斷然世界の最優位にあつたが爲めにほかならない。

我が國は世界に冠然する國體を有し、その精神力に於いて世界の如何なる國よりも傑れてゐるのである。それはあまねく世界のみとめるところであつて、今次事變に於いて、世界戦史に比類なき輝かしい戦果を收め得たのは、一にこの精神力——靈忠報國の赤誠のたまものにはかならないが、その精神力が戦線に於いては向ふ所敵なき勇猛果敢な進軍となつてあらはれたとともに銃後にあつては産業戦線——なかなづく工業部門の驚異的飛躍發展となつてあらはれ、工業を始めとする生産陣營が、がつしりと固められ、國民全體が一致協力して生産力の擴充に務めたが爲にほかならぬのである。

斯界に令名普き山口英一氏のひきゐる株式會社の時局以來の活躍こそは、群雄競躍の鐵鋼界において、ひときは目醒ましいものである。當社は、大阪市東區南中濱町二丁目にあり、東京銀座八丁目の共同火災ビル内に東京出張所があるが、その營業種目は、鐵鋼各

種鋼材、中間鋼、特殊鋼、製鋼鑄鋼原料、軌條及附屬品、鋼塊及半製品等を網羅してゐる。その事業を通じて軍需工業界に貢獻せる功績は甚大なもので、いひ得るならば、戰場に於ける殊勳中に匹敵するものである。

氏は、その少年時代から才智ともに衆にすぐれ、且つすこぶる進取向上心に富んでゐて、勵志を抱いてゐた。長ずるに及んで、いよいよその志は固く、文字通り鐵鋼をも溶かさずんば熄まぬ底の熱意をもつて努力精進をつゞけた結果、遂に今日の大を成したのである。古人の言葉に「努力は成功の母である」といふのがあるが、この言葉は氏によつて眞理であることの證明を得たわけである。されば、氏は後進に對してはつねにこの努力は成功の母であるといふ言葉を教へ、自分の才が、その仕事に適する限りは不屈不撓の努力をつゞけるならば必ず成功する、といつて教へ勵ましてゐるが、氏の尊い體験から生れたこの教訓こそ、廣く天下の青少年に贈るに足るものである。

氏は、その人と爲り、謹直にして自ら律することはきはめて嚴格であるが他面温厚にして他人に對してはきはめて寛容な美德をもつてゐる。しかもその度量潤く、清濁併せ容むの概があるので、氏に接するものは何人も氏の崇拜者にならずにゐられぬといふ。傳へられる言葉に多少の修飾があつても、これによつて氏の面目の一端をうかゞふことが出来るであらう。

まことに、氏は當代事業家中の理想的な人材であり、後進の模範とするに足る偉材である。

本邦電力界一方の重鎮

新潟電力株式會社 山縣鼎一氏
専務取締役

新潟、福島兩縣下に配電網を布く新潟電力株式會社専務山縣鼎一氏は昭和五年、現職に就任以來、その非凡の才幹を縦横に發揮してもつて當社今日の隆盛を招來した功勞者の一人であり、本邦電力界一方の重鎮として、今や隠れもない巨大なる存在である。

そも、當社は、本社を新潟市上大川前通五番町に置いてゐるが、昨年七月、伊南川水力を、十月には黒谷川水力を、而して更に十一月には御藏入電氣を買収して劃期的飛躍を遂げるに至つたのである。即ち、その資本金は三千七百萬圓、供給區域は、新潟、福島兩縣に亘つて、二市二十七町百六十三ヶ村に及ぶに至つた。

十三年度下半期の業績をみるに、電燈電力ともに躍進をみせ、就中、農事電化國策に順應する農事電力新規需要は三千三百二十七臺に達し、總需要數一萬一千七百三十五臺、一萬六百三十八馬力といふ驚異的數字を見せてゐるその収入を見るに、電燈収入においては料金更改のため幾分の減少を見たが、電力収入においては定期季節大口共に激増して四十八萬八千餘圓の増收となつてゐるのである。

これに對して經常支出は上記會社の買収と伊南川發電所の運轉開始の爲め、三十三萬七千餘圓の増加となつたが、尙純利益百五十萬圓をあげ、年八分の株主配當を行つたのである。

斯くの如く、當社が一ヶ年に三社を買収合併して飛躍的發展を遂

げ、劃期的の好成績をあげ得た裏面に、敏腕山縣專務の活躍のあつたことを見通してはならないのである。氏は、明治二十年二月十日の誕生であるが、幼少より才智業にすぐれ、將來の鳳凰としてその大成を期待されてゐた。同四十二年東京高工を卒業後、エンヂニアとしてスタートを切つた氏は、次第にその鋭鋒をあらはして地位を高め、昭和五年に至つて當社專務の重任に就いたのであつた。

當社專務就任以來、まさに十年に亘るとするが、この十年間は當社の劃期的躍進期に相當するのであり、この躍進發展の功勞者としての氏の名は、永遠に當社史上に記録せらるべきものである。而して、今日の産業並に文化は電氣事業をはなれて考へることは出来なもので、近代の産業、文化の隆昌は電氣事業によつて招來されたといはれてゐる位であるが、當社の新潟地方の産業界及び文化方面の發達進歩に貢献した功績は甚大なもので、現時局にあつては、前記の如く農事電化國策に協力し來たつたばかりでなく、生産力擴充の國策に應じて續々と起された各新興工業會社工場が、所期以上の成果をあげつゝあるのも、一に當社の豊富かつ低廉な電力供給のたまものといはれ、各方面の感謝と賞讃を受けてゐるのである。

氏は、本年五十三才、實業家としての眞價を發揮するのは寧ろ今後にあるといふ壯齡である。興亞の大事業完成をめざして邁進しつゝある祖國が、その聖使命遂行の爲の重要な一翼たる産業戦線の指揮者として期待するのは、氏の如く實力あり覇氣ある人材にほかならず、吾人の邦家の爲に氏の今後一層の健斗を祈つてやまない所以である。

紀南重工業界の指導者

紀南重工業株式會社 壺井幸七氏
常務取締役

明朗新東亞の建設といふ大使命になつて、躍起した皇國の、この前古未曾有の大事業に翼賛すべく、紀南重工業株式會社の常務として敏腕をふるつてゐる壺井幸七氏は周知の如く、その令名をわが國重工業界にうたはれてゐた同地方斯業の最大權威であり、實質的指導者である。

即ち、氏は衆知の如く新生紀南重工業會社の主體となつてゐる元紀南鑄造所の經營者だつたのであるが、この紀南鑄造所たるや、實に明治中葉に、氏の祖父の手によつて紀南地方の中心たる田邊町に起されたもので、祖父より嚴父へ、嚴父より氏へと、三代のレレによつて經營され發展を遂げ完全に紀南重工業界をリードしてゐたのである。父君より受繼いで以來氏は、先々代よりの家訓ともいふべき重工業報國の信條と、郷土發展を願ふ愛郷心とから、營々苦心經營をつづけた結果、氏の代に於いて全く面目一新するの隆盛を見たのであるが、はからずも今次事變の勃發に當り、産業總動員が叫ばれるに至るや、氏は諸勢力を合して一大組織のもとに國策に協方すべく決意し、率先主唱して、同志の賛同参加を得こゝに當社の設立とはなつたのである。

即ち、當社の樞軸は、氏の個人經營であつた元紀南鑄造所であるが、同社は、多年の經營にもとづく優秀な技術と信用とを持ち、特

殊製品としてのセミスチール鑄物、耐酸耐熱鑄物の如きは一流會社の追隨を許さぬものであり、又、當社に合流参加した京都西京製作所は精密機械工業に抜群の技術を持つものであり、同じく參加の釣木鐵工所は無水式重油發動機の製作をもつて聞え、更に田邊合金所は、ジルジン青銅、マンガング銅、プロペラーなど、合金術に特殊技術を誇つてゐたもので、それらの合體によつてこゝに和歌山縣下最大の重工業會社が出来上つたわけである。

かくて、當社は、前記の各特殊製品をはじめとして、各種ポンプ製材木工機械、高級工作機械及びヤマナ式超高速ガンダソー、同式切斷機等の石材加工機械、精密理化學機械器具、大島式象嵌機等、何れも優秀な製品を世に送り、創立後いまだ日向淺きにかゝはらずめざましい發展をみせてゐる。

この合體新會社の成立は、一に我が壺井氏の手腕と徳望によるものであり、又、新出發後の急躍進もまた、經營の中心に立つ氏の敏腕のたまものにはかならない。氏はその實力と卓越した識見によつて、紀南重工業組合理事及び、和歌山縣鐵工聯合會監事に推され同縣下斯業界の實際的指導者として重きをなしてゐるのみでなく、多年田邊町議として郷土の發展に多大の貢獻をなし、いまや同町が人口三萬に達して市制實施を急ぎつゝあるに際して市制調査委員に推され、郷土發展に盡力してゐるのである。

されば、田邊の人たちの氏の敬愛することは非常なものであり、田邊發展の恩人としてその名は永遠にその發展史上に記録せられるべきものである。

本邦ゴム業界の王者

日東ゴム工業所主 酒井廣次氏

小樽市湖見臺に本工場を持ち、北海道に亘つて實に二十有二工場を有して、斷然、本邦ゴム業界に君臨してゐる日東ゴム工業所は實に、斯界の最高權威者たるが酒井廣次氏の經營する所である。その創立は大正十四年五月であつて、爾來、十有五年刻苦經營の結果今日の大を成したものだ、それは一に我が酒井氏の敏腕によるところであり、氏が當所の事業を通じて、我がゴム工業の發展に寄與し、かつ、我が國民生活の上に貢献した功績はきはめて甚大なものである。

當社の製品は、各種長靴、漁業用特長靴、水田用特長靴、特許スキー靴、スノーシューズ、ルームシューズ、夏向一般淺靴、冬期用各種防寒靴、漁業用合羽、その他一般労働用各種合羽、紳士用雨傘合羽、漁業用及農業用各種、ズボンに前掛、手袋、機械用各種スッキング類、製絲ロール等々、北海道獨特の氣候、風土、産業に適應した製品をはじめ、全国各地の需要をみたすゴム製品全般に及んでゐる。その他、特許及び、實用新案多岐を有し、品質の堅牢無比なることは世上すでに定評があり、國産振興東京博覽會優良國產賞、第三回化學工業博覽會進歩賞、國産振興北海道拓殖博覽會優良道産賞、社團法人帝國發明協會良等賞をはじめ、幾度か各府縣博覽會に出品して受賞した事實が、もつとも雄辯にその優秀性を物語つてゐる。

五〇

當社が、小樽本工場のほか、全道各地に二十二の工場を持つてゐることは前述の通りだが、本工場の規模を見ると、工場敷地二千五百五十餘坪、建坪七百五十餘坪にして、職工数は男工約百名、女工約百五十名、その使用動力二百五十馬力といふ強力なものである、その販路は道内はもとよりのこと、樺太、東北六縣、關東、關西、四國、九州、朝鮮、臺灣等、全國に亘り、更に外國市場にまで進出してゐるのである。

かくの如く、當所は創立以來十有五年にしてゴム業界の王座に就くに至つたが、これは、一に工場主酒井氏の卓越した經營的才腕と、氏の徳を慕ふ従業員の一致の協力のたまものにはかならない。その經營的才幹はほとんど天才的なもので、衆知のところだが、氏に於いて感ずべきは、その偉大な徳の力であらう。論語の爲政の章に、政治は徳を以て成すべきであると説き、徳を以て政治を行ふときは、あたかも北辰が其の處にゐて衆星が、これに嚮ふやうに、人民はそれを中心にして動くといふのであるが、これは、事業家にもいへることである。それを身を以て實踐してゐるのが氏であつて、吾人の衷心より氏を推服してやまない所以である。

ゴム工業者は、今次事變の勃發によつて一轉機に際會したわけだが、それ故にこそ、斯業者の使命は一層重、かつ大を加つて來てゐるのである。この時にあたつて、氏の如く、才徳兼備の敏腕家の健在をみることは、衷心より慶賀にたえないところであり、今後、自愛、健闘、ます／＼ゴム報國の信念の達成に、邁進されんことを切願に堪えないのである。

富山賣藥界の重鎮

株式會社廣貫堂 常務取締役 金尾義信氏

株式會社廣貫堂といつたのでは馴染が薄いが、富山の「反魂丹」といつたなら知らぬ者はないであらう。それは、遠く徳川時代から全國的に知れ互つた賣藥界の王者であり、いはゆる藥の都、越中富山の代表的藥品として、今も尙全國的に行き亘つてゐる良藥中の良藥である。その有名さは「反魂丹」は越中富山の代名詞だといつても過言でない程だが、株式會社廣貫堂こそ、その製造販賣元であり富山賣藥界の重鎮として、本邦製藥界にあまねくその名を知られてゐる金尾義信氏が常務として才腕をふるつてゐる所である。

そも／＼、富山賣藥のいはれを尋ねるに、富山二代の藩主前田正甫侯は濟世救民の心篤く、自ら藥草園を造り、藥劑を創製してゐたが、偶々幕府在勤の折某大名が急病を發して苦しんでゐたのを、携帶の反魂丹を與へて救つたことから、各大名にその効能を認識され領布を乞はれるに至つた。こゝに於いて侯は歸國後、藥商松井屋源右衛門に「反魂丹」の處分を與へて大量製劑に當らせ、八重崎源六に命じて諸國へ行商せしめたのである。

これが、今日の富山賣藥行商の濫觴をなしたものだ、特に醫藥の利便に恵まれぬ山間僻村を廻つて治療に憫む人々を助けるよう——と命じた正甫侯の博愛精神が、今日の行商人にも傳はつて、先づ藥を置いて翌年廻業の際に服用數量だけの代價を受け取るといふ

論語にいふ所の「義を先にし利を後にする」相互信用の取引制度を續けてゐるのである。

この傳統に輝く良藥反魂丹の本舖たる當廣貫堂は、富山市梅澤に本社と廣大な工場を持つてゐるが、その資産千五百萬圓「反魂丹」を始め諸種の賣藥年産八百萬圓にして、製藥従業員實に一千人、その賣藥行商人二千人といふ大世帯である。當社は明治九年に富山市内の主なる賣藥業者が結合して創立したもので、大正三年株式會社に組織を變更すると共に、科學的研究機關を整備して、傳統の秘藥に科學的検討を加へ、効能百パーセントの良藥として世に送り、各方面の絶對的支持を受けつつ、今日の大を成したものである。

この大世帯を切り廻してゐる金尾常務は、正甫侯以來の傳統精神たる博愛精神をもつて當社の經營方針とし、保健報國の赤誠のもとに、夙夜孜々として經營の重衡にあつてゐるのである。

當社附屬の研究室には幾多優秀な藥學研究者が招聘され、科學的研究をつゞけてゐるが、製藥業の使命と責任の重大なるを痛感してゐる氏はつねに繁忙な業閑を見ては研究室を訪れて、彼等の指導につとめ、また絶えず製藥工場を巡視して、従業員の手指導監督にあつてゐるのである。

これは、誠實そのものともいふべき氏の人格の自然の發露であるが、製藥業が國民保健の上に重大なる影響を及ぼす事業である點からみても斯業にたづさはる者は總て氏の如くありたいものである。而して、この誠實そのものの如き人格、その經營態度こそ、氏の斯業者の異常な尊敬をあつめてゐる所以なのである。

工作機界の新興勢力

株式會社小島鐵工所 兒玉安藏氏
代表取締役 締役

戦時體制下に於ける重要國策の一として生産力の擴充が掲げられて以來、戦線を馳驅する皇軍將兵の盡忠報國の赤誠に勝るとも劣らざる烈々たる産業報國の至誠をもつて、我が銃後の産業戦線を守る戦士たちは活潑なる活動をつゞけてゐるのであるが、あらゆる産業部門の生産力擴充に先行して、まづその生産力の擴充をはかる必要のあるものとして取り上げられたのが工作機械工業であつた。

工作機械が、あらゆる軍需兵器をはじめ諸工業にとつて必要不可欠の基礎的工業である以上、これがまづ先に生産力の擴充を必要とするに至つては極めて當然な話であり、特に、工作機械が久しい海外国依存の弊風を抜け切らず、事變勃發の直前に於いてすら、その大部分を輸出に仰いでゐたのであるから、特にその生産力擴充と質的向上が問題とされるに至つたのは當然のことである。この重要性から、昨年、工作機械製造事業法の制定を見るに至り、斯業の發達助成がはかられるに至つたのだが、この國策に呼應して、多年、水壓機械界の雄として、その優秀な技術を謳はれてゐた高崎の株式會社小島鐵工所が、その傳統の技術を武器として堂々工作機械へ進出するに至つたことは、正に早天に慈雨の福音として業者に歓迎されこれを斷行した代表取締役兒玉安藏氏の機宜を得た處置は江湖の絶讃を博したのである。

そも、當社は高崎市歌川町に本社及び工場を有し、小型及び大型水壓機械を主流製品として來たが、當社は實に文政六年創立の長き歴史を持ち、爾來幾多の改變を加へて今日に及んだものである兒玉氏は經營手腕に長じ、かつ良心的な人格者として青年時代から早くも令名を謳はれてゐたものであるが、當社代表として全面的統率に乗り出して以來、當社傳統の名譽を守る爲には技術第一をもつて製作にあたるべきであるとして全社員を督勵、よく、その主流製品たる水壓機械製作にかけては、當社に比肩するものなしとの名譽をかち得るに至つたのであつた。

而して、工業報國の念厚き氏は、時局以來工作機械工業の生産力擴充が叫ばれるに至るや、その技術を武器として大型工作機械製作に着手、その傘下に幾多の優秀技術家を蒐めて優秀機械の製作にあたらしめた結果、その製品一度市場に出づるや、絶對的優秀品としての折紙を付けられるに至り、需要殺到するにいたり、今やこの方面に全力を注いでゐるのである。

この當社の成功は、一に氏の明智の判断にもとづく機宜を得たる處置と、技術を第一とする氏の指導精神下に、技術家及び従業員が一致の協力をもつて作業にあたつて來たが爲めであつて、傳統古き小島鐵工所育ての親として氏の名は永遠に當社史上に記録せられるものである。今次事變は新東亞の建設をもつて目的とするものであつて、この大事業を完成するが爲には工作機械工業はじめ重工業方面の一段の努力を必要とする。この時にあたり、氏の自愛と健闘を祈るや切である。

福井工業界の中心勢力

東洋セロファン株式會社 西野遠三郎氏
専務取締役 締役

福井地方有数の素封家として知られる西野家の現主権者西野遠三郎氏は、また、福井工業界の中心勢力者として、あまねく人の知るところである。

そも、西野家の事業は、敏腕をもつてきこえた先代市兵衛氏によつて磐石の基礎が築かれ、遠三郎氏によつて發展成長を見るに到つたものであるが、中でも東洋セロファン株式會社は西野家の中心事業たる製紙事業から發展したもので、昭和七年同縣今立郡五分市驛前東洋セロファン製紙場として生れ、同九年四月、資本金五十萬圓の株式會社に改組して、今日の隆盛を築いたものである。

當主遠三郎氏は先代の三男として、明治十年四月二十八日を以て生れた。先代の血を受け繼いだ氏は頭腦明晰にして智略に富み、先代社長亡きあとに當社の専務として、また、同族會社たる西野製作所、西野商會、西野商店及び日出織物の各重役として、西野家事業の實權を掌握、これを統率してめざましい活躍をなし、先代にまさるとも劣らぬ俊才として各方面の注視をあびてゐるのである。

いま、その事業内容を概観してみると、當社は月産實に六千連、年産額二百五十萬圓のセロファンを産出し、なにかんづくその防水セロファンは他の追随を許さぬ特質を持つてをり、各方面から絶讃を博してゐる。されば、その販路は英本國をはじめ、印度、濠洲及び

支那、その他各國に及んでをり、その總産額の約八割を輸出して戦時下の重要問題たる外貨獲得の國策に、多大の貢獻をなしてゐるのである。

この戦時下に於いて、生産力の擴充と共に輸出の振興が經濟の確保の上に重要な二大要件であることはこゝに改めていふまでもあるまい。輸出の振興こそ、戦時重要物資の輸入増加に對應して國際收支の均衡を保つための唯一の方策なのである。されば、この見地から、氏は輸出セロファンの増産に最後の努力をつくし以て國策に協力してゐるのである。

而して、一方、西野家事業の濫觴をなしたところの西野製紙所は、まず、活潑な活動をつゞけてゐる、即ち、和紙は同縣下今立郡岡本村の工場で、洋紙は武生の工場でそれ、造つてをりセロファン及び和洋紙は、いづれも同系の株式會社西野商會によつて前記の如く全國に亘つて廣く販賣されてゐる。

その販賣網は、同商會の東京出張所(日本橋本町三丁目)及大阪出張所(東區淡路町四丁目)をはじめとして、大阪の内外セロファン販賣店、大阪商會、高田紙店、其の他有力諸會社と特約を結び、確固不動の地盤を持つてゐる。

氏は、本年六十三歳、その才腕、人格ともに圓熟味を加へ來たつて、西野家事業の主筆者として、また福井財界、産業界の指導者としての實績もまた充分に、戦時下の重要使命遂行に直往邁進してゐる。またその篤行は、あまねく人の知るところであつて、一般業界人を始め同地方民は、衷心より感謝と尊敬を捧げてゐる。

北陸財界の實權者

株式會社高岡銀行
取締役頭取 高廣次平氏

高岡銀行は、北陸地方隨一の大銀行として知られてゐるが、當行頭取として北陸地方金融界の實權を握つてゐる高廣次平氏は北陸財界に名立たる名家であり、同地方財界の指導的勢力者である。

氏は、明治十八年八月、先代次平氏の長男として生れ、前名を欣藏といつたが、大正九年襲名したもので、先代より受け繼いだ物質的富と精神的富——即ち、その財力と遺傳せられた才と徳とをもつて堂々と財界に君臨、大正十四年には四十そこ／＼の若さをもつて衆望の歸するところ、貴族院多額納税議員に推されたのである。昔から親の光は七光といつて、名門の二世は實力のあるなしに拘はらず相當の地位を得るものやうに思はれてゐるが、この若さによつて幾多の先輩に互選せられ貴院議員となつた事實によつても、氏の實力の如何に卓越してゐるかを知らることが出来るであらう。

而して、氏は現に頭書の高岡銀行頭取として北陸地方金融界の實權を握つてゐるばかりでなく、立山貿易の社長として特に戦時下に於いて重要な役割を持つ貿易界に活躍、又、山又機業の代表取締役北陸信託、高田新聞、その他多數會社の重役として、重きを成してゐるのである。

當行は、多年北陸金融界に重きを成して來たが、大正九年六月、高岡共立銀行との合併による第一次飛躍についで、同年十一月、

共通銀行と合併、更に昭和二年三月瀨波銀行を合併したが、越えて昭和十年八月には岩瀬銀行を、同十二年四月には銀行を、更に同十三年二月には泊銀行を相次いで買収併合し、堂々北陸金融界に君臨するに至つたのである。

即ち、當行の資本金は一千六百三十三萬二千五百圓に達し、高岡市守山町の一角にドイツ式の堂々たる本店を構へ、富山縣下に三十七の支店と十一の出張所、石川縣下に八の支店と三の出張所、更に福井縣下に二の支店を配備して鐵壁の陣を張り、さらに大阪市東區西久太郎町に大阪支店を置いて、關西金融界の中心とも密接な連絡を保ち、縣民の絶對的信賴と支持のうちに、金融報國の旗幟のもとに猛進をつゞけてゐる。

今日の經濟制度下にあつて、金融界の使命が如何に重大なものであるかはこゝに繰説するまでもあるまい。諸産業機構の潤滑なる運行發達をはかるものは即ち金融業者なのである、北陸地方の産業界が今日の殷盛をみるに至つたのも、一にその金融のキイポイントを握る我が高廣氏の協力のたまものなのであつて、この見地から氏をもつて同地方産業界の恩人といふも決して過言ではない。

氏は、識見高邁にして敦養ゆたかな、眞の人格者である。しかも本年未だ五十五才、財界人としては特に働き盛りの壯齡である。今や我が國は興亞の大事業を遂行しつゝあるのであつて、これが完成の爲めには實力あり徳望ある人材の協力を俟つこと切實なるものある時、氏のこの健在を見ることは衷心慶賀に堪えないことであつて氏の一段の努力精進を冀望せずにはゐられないのである。

戦時下重工業界の花形

川崎重工業株式會社
取締役社長 志村次雄氏

川崎市は、今や、全く重工業都市となつて、戦時下日本産業界の重要な一翼を占めるに至つたが、その新興工業都市川崎に於ける代表的會社の一つとして、時局以來、ひとときはめざましい活躍をなしつゝあるものに、志村次雄氏が社長の任にある川崎重工業株式會社がある。

當社は、同市濱町四丁目にあり、各種精密機器の設計製作、航空機、自動車内燃機用部分品一式、精密鍍金一般加工、オルタス塗裝工事一式、各種塗裝一式等を營業種目とし、最新の設備と、最高の技術とをもつて、志村社長の統率下に上下一致協力して業務にあたり、時局に絶大な寄與貢獻をなしてゐるのである。

戦時下に於ける重工業界の使命が如何に重大なものであるかは、こゝに改めていふまでもないが、事變前までは、その技術に於いてはまだ世界の最高水準までには達してゐなかつた我が國に於いては特にその感が深く、事變勃發とともに、重工業者の奮起を願ふ聲が各方面から澎湃として起つたのである。斯業にたづさはる人々も亦この國家の要求に應へて黙然として立ち上り、設備の擴張をはかるとともに、その能力を最高度に發揮して、遺憾なき飛躍活動をみせたのであるが、かく量的に一大飛躍を遂げるとともに、質的に即ち技術的にも全く面目一新的の向上ぶりをみせたのである。

先にも記したやうに、量的擴張とともに、この質的向上といふことが、わが國の重工業者に課された重大使命の一つだつたのだが、事變勃發以來、僅々二年に満たずして、世界の最高水準を凌駕するの域に達したるは、斯業經營者のよき指導と、技術者群の努力精進の結果にほかならないのであり、而して、この技術向上に偉大な貢獻をなした功勞者の一人として、わが志村社長の名をあげることを忘れてはならないのである。

氏は、當社社長に就任以來、技術向上が刻下の急務であるとして技術家を督勵、鋭意研究にあたらせて來たのだが、その結果、當社の製品は、我が國斯業の代表的な最優秀品であるといふ折紙をつけられるに至り、この時局下の重工業界に、かゞやかしい貢獻をなすに至つたのである。

而して、今次事變は新東亞の建設を最終目的とした一大聖戰であり、その目的の貫徹までには尙相當長期の期間を要することを覺悟せねばならないが、それが爲めには、重工業者の一段の奮起に俟たなければならず、量的大擴張と共に、技術的向上は今後より一層要望されることなのである。氏は、この國家の要求に應へるべく、技術家をして研究に専念せしめる一方、實際作業にあたる従業員に對しても、當業の使命の重大なことを自覺して、良心的態度をもつて作業に當るやう指導してゐるのである。

まことに、氏のこの態度こそは、全重工業者の範とすべきものといふべく、吾人の深い尊敬を捧げるとともに、今後一層の健闘を期待してやまないものである。

名門安田の若き偉材

株式会社第九十八銀行 安田 楠雄氏
取締役 頭取

千葉市通町に本社を持ち、縣民の絶對的信賴と支持とを受けてゐる第九十八銀行は、本邦財界の名門たる安田財閥を背景とするもので、明治十一年創立といふ、我が國斯業に於いても最古の一つたる榮譽を擔つてゐる所の有力銀行である。その歴史からみて、またその資本的背景からみて、當行が縣民全體から全幅的信賴と壓倒的な支持を受けてゐるものは當然のことだが、現頭取として行務を主宰してゐる安田楠雄氏は、名門の名をはげかしくめぬ俊敏快腕の少壯頭取として、これまた縣民の信望を一身にあつめてゐる。

氏は、當行の前頭取であつた先代安田善四郎氏の長男にして、明治三十六年二月に生れ、大正十五年、東京商大を卒業後、日本銀行にはいつて、金融資本家として立つべき將來に備へて、修業を積んだものだが、その天賦の才幹と眞摯な努力とは須臾にして儕輩を抜く結果となり、安田財閥の明日を背負つて立つ俊材として、内外の期待を一身にあつめるに至つた。

而して、昨春秋、先代善四郎氏の逝去と共に、安田家事業の第一線に參劃することとなつたのだが、早くもその鈿茫は先代を凌ぐものありと噂されるに至り、大安田の明日も亦安泰なりと評判されるに至つたのである。古來一代の偉人といはれ俊豪と稱される人々はその後嗣に恵まれること少い例が多く、天の配劑の皮肉なるを嘆ぜ

しめて来たものだが、現在日本の大財閥と稱はれるものの中でも、安田財閥程その後嗣に恵まれたものはないといはれ、一門の繁榮は美望のまよになつてゐる。

氏も亦、その一人だが、このことはひとり安田家一門の幸福である許りでなく、當行の助力にまつ所多い千葉縣產業界全體にとつての喜びであり、ひいては全縣民の慶びである、なかなづく、現下の時局は常縣にも生産總動員を要求してゐるが、當縣產業界がよくこの國策に順應して、素晴らしい好況を呈してゐるのも、金融界の健を握る當行の加力に俟つところ多く、安田頭取の經營よろしきを得たたまものにはかならない。

當行は、現在資本金百三十萬圓、縣下各地に支店十六と、出張所三を配置して全縣下に水ももらさぬ營業網を張つて、縣下各産業の振興、農村經濟の助長、一般庶民階級の金融機關としても、完全にその使命を遂行してゐるのである。

氏は、本年三十七才、名門の人らしい沉着きを持つてゐる半面に烈々たる氣魄、青年らしき抱負を持つてゐる。今日の産業機構は金融部門と密接不離な聯關を持つてゐるので、長期戰遂行の爲には、而して大陸經營の圓滿なる遂行の爲には金融界の一段の奮闘努力に俟たなければならぬ。

この時局にあつて、氏の如く強力なる背景を持ち、俊銳無比の實力を持ち、かつ前途に幾春秋を控へた少壯の敏腕家の健在をみることは、國家の爲にも衷心慶賀せねばならぬことである。吾人の氏に對して滿腔の期待を捧げるゆえんも亦そこにある。

近代的青年紳商

株式會社野口商店 野口 誠一郎氏
専務取締役

「北海道民の酒」として誕生し、「我等の銘酒」として全道民の絶對的支持愛飲のうちに成長をつけて来た「北の譽」は、その純良な品質と芳醇な味覺とによつて全道を席捲するとともに餘勢を驅つて本州へ進出、いはゆる灘の銘酒に優るとも劣らぬ眞價はたちまち愛酒家の歡迎を受け、今では、單に北海道民の地元酒としてではなく、全日本有数の銘酒として、全國的にその名を喧傳せられ日本國內「北の譽」の互らざる限ない發展をみるに至つた。

この「北の譽」は、今から四十年前、野口家の先代吉次郎氏によつて創釀されたものだが、その獨創的な醸造法による優秀な品質とすぐれた經營手腕によつて、また、く間に本道産酒の主位を占めるに至り、吉次郎氏のを繼いだ當主、野口喜一郎社長、また先代を凌ぐ才幹を縱横に發揮して、その販路を擴め、いまや、本邦酒造界の重鎮として、嶄然拔くべからざる地位を築き上げるに至つた。

今や、野口喜一郎社長は、本邦酒造界の重鎮たるのみならず、北海道事業界の元老として、飛ぶ鳥を落とす勢にあるが、同社の専務として、少壯三十才、潑刺たる生氣を持つて同社長を輔け、縱横の活躍をつとめてゐる野口誠一郎氏こそは、同社長の御曹子である。「名家に二代なし」といはれ、古來、偉人俊傑は後嗣に恵まれること少い例が多いが、初代の吉次郎氏から當主喜一郎氏、その御曹子

誠一郎氏と、三代に亘つて傑出した人材を生み出した野口家は、こゝに「三代隆昌」の快記録を作り「名家に二代なし」の古語を痛快に粉碎したのである。

野口商店は、小樽にある第一、第二兩工場から年産八千五百石を市場に送つてゐるが、更にその分身たる旭川市所在の野口合資會社札幌市所在の西尾商店、及び小樽銘釀株式會社の三同族會社と「北の譽」プロックを結成して、その酒釀造高は實に二萬一千石を超え全國的にその覇業を誇られてゐる。「北の譽」がその品質を誇るゆえんの一つは、氣候が酒造に適し、水質が清純であるといふ天恵によるもので、かつ直屬の醸造研究室には幾多優秀な技術家を擁してつねに品質の向上改善につとめてゐる、良心的な經營法のためのものである。

當主喜一郎社長は佛教に歸依すること厚く、きはめて精神的な人として知られてゐるが、誠一郎氏は明敏な頭腦の持主で、利刃を思はせる才幹を縱横に發揮し、事業の合理化をはかつてゐる。氏は、明治四十三年を以て生れ、小樽高商出身の俊才だが、學窓を出てからたゞちに父君の膝下で酒造業の實際を學び、今では父社長の片腕としてなくてはならぬ人となつてゐる。

氏は、きはめて教養高く、かつ社交術に長じた理想的な、近代的青年紳士として業者の間に評判よく、その將來には多大の期待がかけられ、後嗣に恵まれた野口家は全業者の美望のまよとなつてゐるのである。吾人も、野口家の萬代の繁榮を祝福し、氏の自愛と健闘を祈つてやまないものである。

直流電機界の明星

株式會社黒崎製作所
常務取締役 内田 守氏

事業の成否を決定する三要件としてあげられてゐるのは、その事業の將來性を資本、そしてそれが經營を擔當する人材の三つである。我が直流電機界の最高峰として知られる株式會社黒崎製作所は、黒崎社長の創立にかゝり四十有七年の斯界最大の歴史を持つ會社であるが、時局以來、急増する需要に應へて増産に拍車をかけつゝある今日、高齡の黒崎社長の片腕ともなり、技術の指導監督、經營の全面的監理にあたつてゐる内田守氏は、工科出身の斯業技術界のオーソリテイであり、また、すぐれた經營手腕の持主として、今や業界の話題の中心となつてゐる偉材である。

當社は、日本最大の工業都市たる大阪の西淀川區野里町に本社があり、東京芝の田村町内田ビル内に出張所を持つてゐるが、時局以來直流電機の需要の急増は技術の優秀をもつてきこえた當社に對して擴張を要求し、昨年、在來の資本金二十萬圓から一舉五十萬圓に増資を敢行するとともに、新工場を建設して諸設備の充實をはかり、從來の能力の實に三倍に近き鐵鑿の陣を布いて、殺到する受注の消化につとめてゐる。

當社の製品が如何に卓越し、信用が厚いかといふことは、海軍省指定工場たる榮譽が何よりも雄辯に證明してゐるが、又、それ故にこそ當社の使命は一層重大なのである。即ち當社が前記のやうに新

工場の建設を敢行して生産能力を三倍大し、量的發展を遂げた他面において、優秀な上にも優秀なるものを生まんが爲に不斷の研究をつゞけてゐるのであり、又、従業員の製作態度を良心的にと指導し完全品の産出に腐心してゐるのであるが、この技術方面の監督指導にあたつてゐるのは、即ち斯界のオーソリテイと謳はれる内田常務その人である。

内田氏は幼少より頭腦明敏にして科學に對する深い趣味と憧憬とを持つてゐた。而して將來はエンジニアとして立つべく志を立て、大學に進むにあつても躊躇なく工科を選んだのであつた。學窓を出でエンジニアとして出發してからも、研究を怠らず、つひに今日斯業に並ぶ者なき權威者と仰がれるに至つたのである。その今日に至る半生を一言をもつて蔽へば努力精進の四字に盡きる。古人は努力が成功の武器であるといつたが、氏は身を以てその眞理であることを證明したわけで、後進を披益するところは少くない。

而して、今や氏は黒崎社長の智囊となり片腕となつて、經營方面にも活躍してゐるが、その卓れた手腕は誠實そのものの如き人格の力と相俟つて業績の進展に顯著な働きをみせてゐる。氏が、たんに技術界のオーソリテイとしてのみでなく、經營方面の俊英として斯業者の注視を浴びるに至つたのはその實力の力である。

今や、斯業の前途は興亞日本産業の重要な一翼としてますます多事多幸ならんとしてゐるが、この時にあたつて、俊材内田氏の濼淵たる活躍の姿を見ることはまことに慶賀にたへないことである。吾人は、今後一層の自愛精進を祈つてやまないものである。

徳望高き敏腕家

栗橋紡績所主 中村卓爾氏

孔子の曰く「徳孤ならず、必ず隣あり」と。又曰く「政を爲すに徳を以てす。譬へば北辰の其所に居て衆星の之に共ふが如し」と共に徳をもつて世に處するならば決して孤獨で終始するものでなく必ずや衆望を得て成功するに至るであらうことを教へたものである。政を爲すに云々は、爲政家への教へになつてゐるが、それはたんに爲政家のみでなく、事業家はもとより多數の人間をひきゐ、治めてゆくものに共通の教へであることはいふまでもない。

物質文明が輸入せられるやうになつてから、我が國古來の精神文化はその勢に押されて地をはらふが如き有様を呈して來たが、滿洲事變を契機として日本精神へ還れの運動が澎湃として起り、今次事變に於いてそれは全國的な趨勢となつたのはもとより當然の勢であり、國家の爲、衷心慶賀に値することである。従つて、事業家に對しても「徳を以て従業員に望む」といふことが要求されて來たのだが、この要求を待たずして、早くより徳を以て工場經營にあたり、つひに衆望のあつまるころ、所在町民一致の支持を受けて獨立、輝かしい成功をかち得た俊材がある。埼玉縣下の栗橋町に栗橋紡績所を經營する中村卓爾氏が即ちその人である。

氏は、廣島縣の出身で、明治十七年四月、中村熊次郎氏の二男として生れ、昭和十年兄量藏氏方より分家したものが、明治四十年

大阪高工機械科を卒業後、たゞちに東洋紡績にはいり、爾來勤続實に二十八年、一貫して同社にあり、同社の發展につくすとともに、その優秀な技術を天下に謳はれたのであつた。

その敏腕は同社にも重用せられ、後年は栗橋及び王子兩工場長として主宰して來たのであつたが、同社は經濟界の不況の爲め栗橋工場を操短の爲め利用したので、同町は少からぬ經濟的打撃を受けるに至つたのである。多年、工場長として町民に親しみ、またその徳を町民から敬慕されてゐた氏は、この町民の苦境を見るに忍びず、栗橋工場の立直しを決意し、これに町民有志の懇請もあつて、東洋紡績を圓滿に退社し、同工場を栗橋紡績所と改名して個人で經營するに至つた。

東洋紡績では、氏の過去の功績に酬いる爲に金盃を贈つたが、一般的苦況時代に個人經營に立ち上つた氏は幾多の困難に遭遇しつつも不撓不屈の強固な信念と意志とをもつて道を切り拓き、これに、町民一致の支持協力があつてつひに今日の隆盛をみるに至り、その多幸な前途を約束されるに至つたのである。

されば、栗橋町は當社によつて、今日の繁盛をみることになつたのであつて、町民の氏に對する尊敬感謝の情といふものは大變なものだが、そも／＼氏が町民の一致的支持を受けるに至つたのも、東洋紡績工場長時代からの徳望によるのであり、孔子のいはゆる徳をもつて成功をかち得た實力者である。吾人の聲を大にして氏の人と爲りを讃へるゆえんも亦、實に其處にあるのである。併して、今後この紡績界の進展に一層の貢獻されんことを望むことや切である。

輸出報國に邁進の巨材

丹後水産株式会社 取締役社長 渡邊彌藏氏

礦物資源に恵まれることの多い我が國は、これ等の資源を海外に仰いで來た關係上、國際收支の均衡を保ち、經濟力を確保する必要から、他の物質の輸出振興をはかつて來たのであるが、特に、戦時下に於いては、礦物資源を中心として軍需工業用の原材料の輸入が急増して來たために、不念物資の輸入制限を行ふと共に極力輸出振興につとめ、もつて國際收支の均衡をはかり、銃後經濟力の確保につとめてゐるのである。

而して、我が國からの輸出品としては生糸を中心とする紡織品をはじめ多數ある中であつて、その輸出品中でもつとも重要な地位を占めるものに水産物の加工品がある。これは世界有数の水産國たる日本としてはきはめて當然な成行であるが、我々はこの機會に於いて天然の水産資源に恵まれたる天恵に對して感謝するとともに、水産業者及びその加工工業者の努力に對して滿腔の感謝を表したいと思ふ。

水産物の加工品といふのは主として罐詰類であるが、數ある水産加工會社中에서도輸出向高級罐詰類の製作にあつて、もつとも異色ある存在をなしてゐるのは、舞鶴市宇北田邊に本社を置く、丹後水産株式會社であらう。當社は、大正九年の創立にして資本金五十萬圓であるが、才德兼備の敏腕家として知られる社長渡邊彌藏氏の誠

實主義にもとづく經營によつて順調な發展をつづけ、殊に、時局以來輸出振興の國策に順應してもつばら歐米人向きの高級品の生産に注力してゐるのである。

社長渡邊氏は、才德兼備の敏腕家として業界にとくに名聲高き偉材であるが「梅檀は双葉より香ばしく、蛇は寸にして人を吞む」の譬へのやうに、今日一代の敏腕を以て聞える氏は幼少時代から頭腦明敏、斷然衆童を壓して神童のほまれが高かつた。長じて實業界にはいつてからは不斷の努力修養をもつて、その天性非凡の才腕をいやが上にも磨き立て、また人格を陶冶して、つひに今日衆望のあつまる大成を見たのである。その半生の努力の歴史はそのまゝ後進の範となるものであり、何人も「努力は成功の母である」といつた先人の言葉の眞理であることを今更の如く痛感せざるを得ない。

當社の製品中、特に異色あるものは「トマトサーヂン」「オイルサーヂン」等であつて、なかんづく「オイルサーヂン」の如きは歐米人の嗜好に適する最高級品として世界市場に覇をとなへてゐるのであり、斷然當社の獨壇場である。

今や、氏は營利よりもまづ國策に添ふ……といふことを主眼として、外貨獲得、もつて國際收支の均衡上に資さんとの至誠をもつて全従業員を督勵、輸出品の生産に全力を注いでゐるが、全従業員もまた、氏の指導精神のもとに一致團結し、日夜攻々として作業にいそしんでゐる。吾人はこゝに氏の偉功を記録し後代に傳へて以て永遠に顕彰せんとするに當り、氏の今後一層の努力をもつて國家の要求に答へ國策に協力されん事を切望してやまない。

少壯敏腕の俊英

芳澤化機工業株式會社 取締役大阪支店長 大久保鹿式氏

本邦鉛管製作界の最高峰たる芳澤化機工業株式會社の大阪支店長として、大阪工場の經營と、關西方面の販賣網を一手に掌握してゐる大久保鹿式氏は少壯敏腕の俊英として、各方面からその大成を期待されてゐる逸材である。

氏は愛知縣人大久保市藏氏の長男として、明治三十五年二月月以て生れ、大正十二年小樽高商を卒業したが、學生時代から秀才のほまれ高く、將來の大鵬として、その成長を期待されてゐた氏は、同校卒業後、明治製菓に勤務するや、たちまちにしてその鋒芒をあらはし、同僚先輩の注目するところとなつたのである。而して、昭和二年、當社に入つてからはいよ／＼その頭角をあらはし芳澤社長の矚望するところとなつて、同八年、大阪支店經營の重任を委ねられたのであつた。

由來、當社の大阪支店はその傘下に獨立工場をもち、製作販賣の兩部門を掌つてゐるのであつて、たゞ販賣のみ目的とする一般の支店とはことなり、宛然、大阪本店、乃至關西本店の概があるのである。年やうやく三十才を超えたばかりで、この大規模の大阪支店の經營の重任を委ねられたのだから、如何に氏の才腕が非常なものであるか、その一端がうかがはれるであらう。

いまや、大阪支店長として、いはゞ一國一城の主となつた氏は、

思ふさまその驥足を伸ばすべき活躍舞臺を與へられたわけであつたあたかも、雲を得た龍の勢ひをもつて驚進的活躍をつづけ、大いに業績をあげたが、更に、今次事變の勃發によつて、鉛管その他の鉛製品の使用先きたる重工業、化學工業界の發展は必然に當社へも擴張を促すに至り、在來の工場が手狭となつた爲めに、大阪市旭區今福町に新工場を建設、營業所も同所に併設して、躍進の態勢を整備した。これは昨年三月のことである。

而して、この新工場の完成によつて、在來の鉛管並に硬鉛製品兩製造部門の大擴張をなしたほか、鉛板部も一層擴充して、銃後諸工業の進展に備へたのである。これと共に、同市南區末古橋通一丁目にあつた舊營業所をそのまま市内販賣部として存置し、需要者の便益に資してゐるものである。

氏は、本年いまだ三十八才の少壯である。この若さにして、すでに今日の大を感した氏の今後の成長、飛躍には多大の期待がかけられるわけであるが、曠古の大業たる新東亞の建設にあつて、何よりも必要なのは、實力あり、氣魄に富み、かつ將來性ある少壯の敏腕家である。新しい時代が、三十代、四十代の少壯の手によつてのみ建設されるものだといふことは、古今東西の歴史がもつとも雄辯にそれを證明してゐるのである。

この見地から氏の今後に對して、より一層の期待がかけられるのであつて、吾人は、たんに當社の爲のみでなく國家的な見地から、氏の健康と、而して努力とを持つて斯に盡されんことを衷心より要望する次第である。

才徳兼備の敏腕家

日本電氣冶金株式会社 常務取締役 安部政次郎氏

日本電氣冶金株式会社常務として、時局下工業界に雄飛、多大の貢献をなした。ある安部政次郎氏は、明治十六年一月、神奈川県磯部吉助氏の三男として生れ、安部幸兵衛氏の養子となつたものが、幼少より頭腦明敏、才氣煥發、氣宇宏大にして、鵬志を抱き、將來の大成を期待されてゐた。長ずるに及んで大陸に活躍せんと志し、安部洋行を興して、上海、天津、青島、大連の各地に開業、其めざましい活躍によつて事業は逐年發展の一途をたどり、大正十三年遂に組織を擴大して安部商店社長となるに至つたのである。

斯くの如く、一代にして大陸に覇を唱へるに至つた氏の飛躍よりは雲を得て天に昇る蛟龍の昇天ぶりに、比すべきものだが、しかもその成功への道は決して平坦なものではなかつた。山あり、谷あり又、行手を阻む妨害者の出現もあつたのである。しかも、それを登り越え、飛び越え、撃墜して、つひに今日の大を成したゆえんのは、百折不撓の強固なる意志と天才的な經營手腕のたまものにはかならない。氏は、つねに後進に對して、成功への道は努力によつてのみ切り拓かれる、と説いてゐるが、これこそ、氏の貴重な體験から生れた言葉にほかならない。

氏が、現にその常務をしてゐる、當日本電氣冶金株式会社は、從來資本金三百萬圓であつたが、事變以來の國策に順應して、工作機

械方面への進出を企圖し、昨年十一月、一舉六百萬圓を増資して、こゝに資本金九百萬圓の大會社となるに至つたのである。これによつて、工作機械用鑄物鑄造、機械工場設置及び電極製造工場新設の三新規事業に着手時局への積極的協力に乗り出した。

即ち、當社は、岐阜縣吉成郡内に埋藏量實に百萬噸に達する優良な磁鐵礦四礦區を持つてゐるが、この鐵礦を利用し、特殊の電氣熔鑄爐と電氣精煉爐を並用して、低燐鐵、高硅素鐵を製造すると共に鑄物用熔銑の製造を行ひ、かくて、一貫作業のもとに工作機械用鑄物の鑄造をなすわけである。

この當社の工作機械への進出は、工作機械の増産要求の聲しきりなる折柄、大歓迎を受け、かつ當社の獨得の方法によつて自社内で精煉された材質はききめて優秀なものとして、各方面の折紙をつけられてゐるのである。又、電極製造工場は、年額一千二百萬の生産能力を持ち、主として自家用電極の生活を行ふものだが、これによつて社外購入品に比し三分の二強の電極節約を行ひ得るといはれてゐる。

斯様に、當社の發展はめざましいものがあり、今後の活躍に期待することきはめて甚大なるものがあるが、その常務に敏腕安部氏を持つことはこの飛躍期に際會した當社の最大の強味とするところである。氏は、ひとりその經營平腕において傑出してゐるのみでなく、きはめて高潔な人格の持主として、内外の畏敬を一身にあつめてゐる。この敏腕家にして、この徳望あり、正に事業家として理想的な人材といふべき、吾人の衷心より推服をかざるゆえんである。

東海鐵工界の雄

丸善鐵工所主 望月善太氏

昭和十二年七月、聖才を執つてからまさに二年に垂んとし、皇軍は南北中支の戰野に連戰連捷、正に疾風枯葉を捲くの概あるは、邦家の爲めまことに慶賀に堪えないところだが、しかも今次の聖戰たるや、新東亞の建設をもつて最終目的とするものであるから、たとへ蔣政權が完全に覆滅し去らうとも、それで事變は終熄したのではない。最近、各方面でしきりにいはれてゐるやうに、今後の聖戰は「始めなく終りなき戰爭」であつて、この一大建設戦は我々の子孫に傳へても完成しなければならぬものである。

かゝる状態の中にあつて、銃後産業の使命は今日より將來へかけて、いよ／＼ますますその重要性を加へ來たる勢にあるのであつて、なかんづくあらゆる製造工業の基幹的工業であるとともに、また兵器、艦船、航空機に不可欠な資材であるところの工作機械工業の使命はきはめて重大なものである。されば、我が國の工作機械製作會社はいづれもその設備の擴張充實をはかつて増産に拍車をかけてゐるのだが、この工作機械のめざましい活躍ぶりは、我々をして銃後の護り安し、の感を強く抱かせるものがあるのである。東海の雄都静岡市にあつて、高級工作機械の製作に専念しつゝある、望月善太氏經營の丸善鐵工所もまた、その尤なるもの一つである。

望月氏は、優秀メーカーとしてつとに名高き、その製品の優秀

なることについては早くから各方面の認識を得てゐるのであるが、今次事變の勃發によつて、工作機械の黄金時代が到來するや、かねてから同氏の技術に嚮望してゐた各方面から増産懇願の聲が澎湃として起り、氏もまたこの聲に應じて驍然として起ち上り、設備の擴張充實をはかると共に人的整備を敢行して、大々的増産に乗り出したのである。

元來、我が國の工作機械は、事變前迄は歐米依存の域を未だ脱け切らず、その技術上に於いても尙劣るものがあつたのだが、事變の勃發はあらゆる意味から國內自給の必要を生んだのである。されば我が國の工作機械業者に課せられた問題は、たんに量的増産といふことばかりではなく、質的向上といふこともあつたのである。この使命は一に技術家の精進にまたなければならぬのだが、早くよりその技術の優秀を謳はれてゐた望月氏は夙夜寢食を忘れるていふ努力を以て質的向上につとめ、つひに歐米品を摩する優秀品の製作に成功したのである。

氏が斯業にたづさはつた動機は、一に工業報國の赤誠にもとづくものだが、國家觀念の熾烈な氏は現下の時局に對する正しき認識から、斯業の發展向上を願つて日夜努力をつとめてゐるのだが、従業員もまた氏の赤誠に同化されて、献身的作業をつとけてゐる。

氏は、資性温厚にしてきはめて謹直、かつひときは温情に富んだ人格者である。而してその誠實な態度はすべての人に好感を與へ、それが巧まずして氏の經營上の武器となつて、今日の隆々たる業績發展をみせてゐるのである。

紀州業界の誇る天才

笠野化學工業所主 笠野正幹氏

弱冠二十六歳にして獨力當所を起し、爾來僅々七年に滿たざる今日、群雄多き紀州業界に斷然たる地位を占めるに至つた笠野正幹氏こそは、興亞日本の最も期待する生々潑潑たる新銳中の新銳でありその異常な才幹は「天才」と稱する以外に適當な批評の言葉が見付からぬのである。

氏は、當和歌山縣の出身にして、同縣士族笠野忠藏氏の長男として明治四十年十月を以て生れた。昭和七年十一月三日、前記の如く弱冠二十六歳にして和歌山市外和田村に當社を興したのであるが、かゝる早熟の天才であるだけに、少年時代から頭腦明敏、才氣煥發にして神童のほまれ高く、父君を始め周囲の期待が氏の一身に注がれてゐたといふのも當然のことである。

化學工業の將來に對する正しい見透しと抜かりない計劃のもとに當社を興した氏は技術第一をモットーとして従業員を督勵、不撓不屈、如何なる困難障礙をも敢然排除して進む強固な意志を以て自己の所信にまつしぐらに直進、次第にその眞價をみとめられるに及んで業績は急激に發展向上の一途をたどつて來たのである。その躍進の途上に於いて勃發したのが今次の事變であつた。生産力擴充、産業總動員の叫びは當然に時局下の重要工業たる當所にも賦起を促すに至つたが、滿身これ化工報國の熱誠、ともいふべき氏がこの時局

の要求を默視する筈はなかつた。愈々その化工報國の誓ひを固くし生産力の擴充をはかり、増産に次ぐ増産をもつて、一大躍進を遂げるに至つたのである。

斯く、氏が短年月にして驚異的大成を遂げたのはもとよりその天才の然らしむるところであり、前記の如く化工報國の赤誠の下に起人的努力をつゞけて來た當然の歸結であるが、更に仔細に見るとき、氏は、事業成功に必須の要件とされてゐる「人の和」を得ることに恵まれてゐたといふことが出来る。人の和——即ち、従業員の氏を中心として的一致協力といふことが、それであるが従業員は氏の理解と温情に富んだ厚遇に満足し、かつ感激して、氏の説く「自分の仕事」「自分たちの工場」といふ觀念のもとに美はしい勞資の協力團結をなして職務に精勵して來たのである。

この従業員の一致の協力がある上に、更に和歌山工業應用化學科出身の令弟清氏の協力があつたのだから、正に鬼に金棒の強味を加へた譯で、氏が今日の大を成したのも決して偶然の事ではない。

されば、村民の氏を尊敬すること篤く、年若くして同村々議に推されてゐるが、教養高くかつ識見高邁なる氏は自治行政にすぐれた手腕を發揮して郷村の發展に多大の貢獻をなし、又青年團長の任にあつて特に戦時下の今日、銃後青年層の指導に全幅の努力を注ぎ、「和田青年團長に笠野あり」の名聲を全國青年團に喧傳されてゐるのである。この若さにしてこの大を成した氏が、今後十年、二十年、更に三十年後に如何に大なる飛躍發展を遂げるか、吾人の絶大なる期待をかけてゐるところである。

九州炭礦界の耆宿

九州探炭株式會社 取締役社長 清水利貞氏

戦時體制下に於いて、最も重要視されるのは各種資源開發事業であり、これに對しては凡ゆる角度からの保護助長がなされてゐる。なかんづく、燃料資源として重要視せられる石炭事業は、事變以來急激な發達を遂げ、いまや正にゴールドラッシュを現出しつゝあるのである。而して、我が國の石炭事業のメツカはいふまでもなく九州だが、この九州炭界にあつて、その尖銳なる活躍ぶりを謳はれつゝあるのが、九州炭礦界の耆宿として、夙に合名高き清水利貞氏が社長として采配を振つてゐる、當九州探炭株式會社である。

清水利貞氏は、元具島鑛業の總務として活躍、その敏腕にはすでに定評があり斯界の生手引といはれてゐたが、時局以來、石炭報國燃料報國の赤誠を旗印として全従業員を督勵、増産に次ぐ増産を以てして、國策に協力して來たのである。この時局以來、當社の示した急激なる發展ぶりは、全業者の驚異のまとなつてゐるが、これは一に氏の敏腕の然らしむるところであり、今更の如く業者の讚嘆をあつめてゐるのである。

當社は、福岡市片土居町十五ビルに本社があり、新手法、土井坑、五町田坑の三鑛區を持つてゐる。新手法は福岡縣遠賀郡中間町にあり、土井坑は同縣糟屋郡多々良村に、又、五町田坑は、佐賀縣藤津郡五町田にある。その鑛區はいづれも埋藏量で豊富、昭和十二年に

同社が稼行中であつた二鑛區についてのみの探炭可能量が八百萬噸であると、鑛山監督局が發表してゐたが、以て、その全貌を推すことが出来やう。

しかも、當社の鑛區は、一は省線香月線に一は博多鐵道に近接し運輸至便といふ地の利を得てゐるので、採算もきはめて有利である。かやうに、天の恵みと地の利とを得てゐる當社は、更に清水社長を中心として一糸亂れざる統制ある行動をとつて、炭礦報國に邁進するところの「人の和」があるのだから、事業成功に必須の三條件を備つてゐるわけで、當社が今日の隆運を誇つてゐるのもけだし故なきことではない。

この「人の和」を得るといふことは、事業を成功に導くについて最も必要な條件の一つが、當社が上下一致の美風をあげてゐるのは一に社長清水氏の徳の力だといふことが出来る。論語の爲政の章に「政を爲すに徳を以てす。譬へば北辰の其處にゐて、衆星のこれに向ふが如し」とあるが、徳の人たる氏を中心として、全社員、従業員が一致協力して各自の職分に最善を盡してゐる有様は、あたかも北辰を中心として衆星の列り動くさまに似てゐる。まことに、徳の力は偉大なりしといはねばならぬ。

今次事變は、始めなく終りなき戦争である。興亞の大使命を持つ長期戦である。これが圓滿なる戦果をあげる爲めには、他の産業部門と共に、石炭界の層一層の活躍を必要とする。この時にあたつて才徳兼備の偉材を當社の主宰者を持つことはひとり當社の爲のみでなく、國家的見地からもまことに慶賀にたえない。

軍需工業界の花形

國華工業株式會社 山中政三郎氏
取締役社長

今や我が國は有史以來最大の戦局に當面し、いはゆる終りなき長期建設にあたりつゝあるが、この時局に於いて、軍需工業に従事するものは、即ち、銃後産業の第一線に立つ産業戦士である。されば、その責任は戦線に鉦とる將兵に劣らず重かつ大であるが、幸ひにして、軍需品關係工業者は、事變勃發以來誠心誠意をもつて、國策に順應、生産擴充に精進しつゝあり、邦家の爲、まことに慶賀に堪えない次第である。この軍需關係工業界にはまことに多士濟々、皇國の前途泰しの感を抱かせるものがあるが、それ等の中にあつて識見、才幹、人格の三者何れも兼にぬきんで傑出した、偉材として、業者の注目を浴びてゐるのは、山中政三郎氏その人である。

氏は、當國華工業社長たるほか、高島屋飯田株式會社、株式會社富岡光學機械、日東工業株式會社等々、多數會社の重役に現任し、世上すでに定評ある才腕を縦横に發揮して、工業報國の信念の達成に直往邁進してゐる。

そも、氏は、兵庫縣人高島仁右衛門氏の二男にして、明治十四年五月を以て生れ、先代山中與三治郎氏の養子となつたものだが同三十年、高島屋飯田にはいり、參事、東京本店副支配人等を歴勤その才腕を内外に喧傳され、今は高島屋飯田の生字引とまでいはれてゐるのである。氏は一言にしていへば努力家である。努力は成功の

母である、といふが、氏は實業界に第一步を踏み出した最初から、今日まで終始一貫努力をつとめて來たものである。すでに、功成り名遂げた今日ですら、祖國の直面しつゝある、この重大時局にあつて國民が各自の最善を盡して國家に貢獻するのは國民の神聖な義務であり、且つ權利であるとの信念から、斐然たる意氣と健康とを以て、夙夜、寢食を忘れて努力をつとけてゐる。將に、努力の權化ともいふべく、その超人的な體力、意力には驚嘆のほかない。

氏は、時局以來、機會ある毎に支那事變の重大性と軍需工業家の使命とについて説いて來た。軍需關係工業家が、生産擴充につとめねばならぬのはいふまでもないことであり、又事實、その量的飛躍ぶりは實に目醒ましいものがあつたが、この量的飛躍のみによつて斯業者の使命が終るものではない。生産擴充と相俟つて、質的にも向上改善をはかり、もつて優秀な軍需器材の製造をなすべきは、因より當然のことであり、殊に科學化した近代戦においては、痛切にこれが必要を感ずるとして自社内の技術員にも優秀兵器の製作研究を發願してゐるのである。

氏は、資性温厚にして謹直、きはめて數養高い人格者である。その高邁な識見と卓越した手腕と相俟つて、内外の信望は氏の一身にあつまつてゐるが、特に、従業員を敬慕することは非常なもので、その統率に悦服、工業報國といふ氏の指導精神のもとに日夜孜々として、各自の職分に最善の努力を傾注してゐるのである。氏は本年五十九歳當社及び我が軍需工業界が氏の才腕にまつところは極めて多い。吾人は衷心より氏の健康を祈つてやまない。

科學日本に誇る發明家

安田合名會社 安田建一氏
代表社員

現代の文明は幾多天才の發明發見によつて築かれたものであつて文明の思恵に浴する我々は寸時の間も、それら天才に對する感謝の念を忘れてはならない道理だが「怨恨は忘れないが、恩恵は忘れ易い」人間の常で、これら天才の恩恵など恩恵と意識しないばかりか寧ろ當然のこととして享受してゐる。これは決してよいことではないが、忙しい生活をなしつゝある人々に、つねに天才に對する感謝を忘れるな、といつてもそれは無駄であらう。たゞ、朝夕に、神佛を拜して感謝と祈願を捧げるやうに、機會ある毎に、天才の功績を讃へ、それに感謝の誠を捧ぐることは忘れてはならない。

さて、この輝かしい天才、發明、發見家とはいへば、その殆どすべては歐米人であるやうに、我々は思ひがちであるが、明治の歐米文化の輸入時代は兎も角、大正から昭和へかけて、堂々歐米先進國と比肩するやうになつてからは、我が國も亦、幾多の輝かしい天才を生み、その天才的頭腦から生まれた發明、發見の成果を世界に送り出して、人類の福祉に偉大な貢獻をなして來たのである。横濱の安田合名會社代表社員たる安田建一氏も、また我が國が世界に誇る發明家の一人である。

氏は、神奈川縣都筑郡中里の産だが、幼少より頭腦明晰にして、すこぶる發明心に富み、後世恐るべき神童として郷黨の期待を一身

にあつてゐた。長じて西歐科學の洗禮を受けるに及んで、その天才は美事な開花を示し、今日までに實に五十を超える發明をなし、特許權を獲得して、多大の功績をのこして來たのである。

その數ある發明考案の中でも、特筆に値するのは「眞田製機の耳組装置」であらう。これは輸出眞田の製織に實施使用されて、歐米婦人帽として噴々たる好評を博してゐるが、現に同機を使用してゐる全國輸出眞田工業組合の各工場において生産される輸出額は實に八百萬反を超える盛況を示してゐる。同機の特徴は、眞田の生命であるところの耳部の編目及び山部相互の間隔を一定し、且つ幅員を一定均一にするなど製帽用眞田として最も適した装置であるため、生産能率を高め仕上の優美を誇つてゐるのである。又従來、本綿針用のものが使用されてゐたが、同機では獨特の耳組綿針を使用されてゐる。かやうに優れた性能を持つてゐるので、同機による眞田製造界の發展ぶりはめざましく、すでに同機によつて生産される眞田の輸出額は全輸出の八割を占める歴史的優位をたもち、かつその製品は海外需要家の絶讃を博してゐる。

これは氏の數ある發明中の一端を示したものにすぎないが、その他の發明特許品も何れも使用者の好評を博してをり、我が國産業の發展に多大の貢獻をなしつゝある。氏はその功によつて、さきに發明協會から有功賞を授與されたが、氏の功績はひとり我が國民からばかりでなく、全人類の名に於いて感謝されねばならない。吾人はこゝに氏の功績を記録し感謝の微意を披歴するに當り、氏の今後の精進を祈つてやまない。

本邦伸銅工業界の重鎮

三寶伸銅工業株式會社 社長 久野晴雄氏
取締役 社 長 久野晴雄氏

當三寶伸銅工業株式會社は青年社長久野晴雄氏が、昭和十年五月資本金七十萬圓を以て堺市中生島町に創立した新界の新興會社だが僅々數年にして、古河、住友、神戸製鋼所等、斯界一流の大工場と堂々比肩する隆昌をみるに至り、時局以來陸海軍の軍需工場としてめざましい躍進をみせ昨年、百五十萬圓に増資を敢行すると共に工場の大増築を行ひ、今や我が國伸銅界に押しも押されぬ存在となるに至つたのである。これは社長久野晴雄氏の努力と久野父子の協力一致の奮闘の然らしむるところであり、今や、氏の努力振りは業界の話題の中心であり、久野父子の眞に一心同體的な睦じさは内外の羨望のまとなつてゐる。

そも、久野晴雄氏は、明治三十四年三月の生れにして、當社監査役の任にある久野紋太郎氏はすなはち氏の嚴父であり、久野家事業の中心をなす大阪の久野兄弟商店主として才腕をふるひ、當社の取締役を兼ねてゐる久野保雄氏は氏の令兄、同じく當社の取締役の任にある久野正雄氏は氏の令弟である。この父子、兄弟の圓滿さははたの見る限も羨しい程だが、三兄弟、いづれも事業家としての傑れた手腕の持主であることも、また稀にみるるところで、業界一般から、久野紋太郎氏は子供運に恵まれた人であると羨望されてゐるのも、た宜なるかなである。

敏腕達識の少壯實業家

株式會社田嶋商店 西岡直一郎氏
取締役兼支配人 西岡直一郎氏

株式會社田嶋商店は神戸に本社を持つ我が國、有数の貿易商店だが、同社名古屋支店は同市に於ける海運界の最高位にありなかつく外國船扱ひに於いては、堂々王座を占めてゐる。名古屋港が、今日、世界主要航路の大部分が寄港し、神戸、横濱、大阪の三港と並んで我が國の四大國際港となつたのも、一に、同社名古屋支店が各國有力汽船會社に名古屋寄港をしようとした不斷の努力のためにもよかならない。而して、同支店を主宰する人こそ、敏腕達識のきこえ高い少壯、西岡直一郎氏その人である。

氏は、和歌山縣の山身、西岡彌四郎氏の四男として、明治三十一年七月を以て生れた。大正七年の和歌山商業出身で、當社にはいつたのは大正十三年だが、入社勿々にしてその非凡の才をかはれ、昭和元年、その將來に多大の望みをかけられつゝ、當名古屋支店勤務を命ぜられたのである。正に、龍の雲を得、猛禽の籠を放たれたのにもたとへようか。當時は海港としての地位ははめて低かつた當支店に移された氏は、その事業を發展せしめることによつて名古屋港の發展を招かせんと決意し、縦横にその才腕を發揮して、各國有力汽船會社の寄港斡旋につとめ、當支店の業績を高めるとともに、つひに名古屋港をして、我が國四大國際港たる地位に引き上げること成功したのである。

久野晴雄氏が、同族會社として當社を起し、その社長に就任したのは三十五才の時だが、生來頭腦明晰果斷力行の人である氏は、献身的努力奮闘の結果、つひに今日の大を築き上げたものである。當社の生産能力並に諸設備は軍需關係のものであるから公表されないが、その總敷地實に八千坪に近く、銅板、眞鍮板、銅棒眞鍮棒の陸海軍規格品等の生産にあつてをり、その製品は久野兄弟商店を通じて販賣せしめてゐるのである。

當社製品の販路は内地一圓に亘る各軍需品製造工場、各造船所、各航空機製造會社、各電氣會社だが、又滿鐵をはじめ滿洲所在の諸會社を顧客に持つてをり、最近では中北支から更に印度方面にも進出せんとしてゐる。現下の銅使用制限強化並に銅原料配給制度の確立は、業者全般に劇的な生産變調をもたらしたが、現在使用されてゐる銅原料は始んどすべて直接乃至は間接に軍需品に所屬してゐる折柄、當社の躍進的存在は、我が國工業界にとつて特に長期國防軍需工業の安定の上からいつて、極めて慶賀すべきことである。

而して、軍需工業の重要な一翼を擔當する當社の使命はきはめて重かつたであり多大の期待がかけられてゐるが、この數年間に於いて實證された社長久野晴雄氏の才幹力量を以てするならば、充分にその期待は満たされるものと思はれる。而して伸銅界に課せられたこの使命は、單に今次事變の戰事行動の終熄によつて輕減されるものではなく、殆ど半永久的に持續されるものと覺悟せねばならないが年齢未だ四十にも進まぬ青年社長を戴く當社の前途は、まことに恵まれたりといはなければならぬ。

その功がむくいられて、昭和十一年、田嶋商店取締役にあげられ名古屋支店統轄主宰の大任を委ねられたのだが、特に事變勃發以來は、わが海運界の船舶不足の憾みを補ふべく、これら諸外國汽船會社の定期航路船を利用し、偉大な貢獻をなして來た。されば、氏は今やひとり田嶋商店の柱石なるのみならず、名古屋港發展の恩人として、全海運界並に名古屋市民から絶大な感謝を受けてゐる。さきには亦、名古屋港百年の大計を樹立すべき調査委員會には委員に選任せられ、その濫著を傾倒して、公共の爲め盡力してゐる。

氏は、以上によつても分るやうに、公共精神きはめて篤く、かつ熱烈な愛國者である。その事業の性質から連日外國人と近接してゐるが、國粹論者である氏は、つねに皇國精神の顯揚を念願とし、眞摯直な態度で應接して彼等の畏敬を一身に宛めてゐる。氏は、モニング類の洋式禮装に各人の定紋を刺繍せよと叫んでゐるが、これは氏の面目を躍如たらしめてゐるもので、各方面から支持激勵を受けてゐる。

かやうに、國粹主義者である氏はまた劍道二段の腕前を有し、支店屋上に道場を設けて社員にも武士的精神を鼓吹してゐるが、社員の中にも數名の有段者がある。されば、その人格は謹嚴剛直なるうちに圓滿明朗な反面を持ち、その卓越した手腕、明敏な頭腦と相俟つて、貿易場裡に立つ國際人としてまことに打つてつけの人材として、識者の推服を受けてゐるのである。しかも、氏は本年未だ四十二才、前途尙幾春秋に富む少壯で、將來ますます多事多端ならんとする我が海運貿易界のホープであり、至寶である。

本邦プレス界の花形

株式会社大阪プレス製作所 社長 山川儀一郎氏
取締役 社 長 山川儀一郎氏

皇國日本は今や國運隆々、東亞の盟主として大陸に堂々の行進譜を奏しつゝあるが、この國運の隆昌ぶりをさながらに反映して、生氣澄潤たる躍進譜を奏で、ある我が工業界にとつて、ひときは目醒ましい發展をみせてゐるのは、良心的メーカーとして業界に絶大な信任を得てゐる山川儀一郎氏のひきゐる當大阪プレス製作所である。當社は、山川儀一郎氏の個人經營を以て、フリクションプレスに主力を置く、各種鍍金加工用機専門メーカーとして工業都大阪の西成區南開町に出發し、氏の良心的な經營方針のもとに年々隆昌の一端を辿つて來たものであるが、特に、時局以來の躍進ぶりはめざましいものがあり業界の驚異のもととなつてゐる。すなはち、事變以來、急増する需要に答へて工場を増設設備の擴充をはかるとともに昨年七月、個人經營から組織を擴大して資本金四十八萬圓の株式組織に改め、氏は自ら社長として經營の陣頭に立ち、活躍をつづけて來たのである。

而して、その優秀なる技術を信頼する需要者よりの受注は引きもきらず、更に、第二次増産計劃を樹立して、第二工場隣接地一千坪に第三工場増設を敢行、かつ資本金を百萬圓に増資した。この増設によつて生産能力は實に三倍増となり、本邦プレス界の一大勢力となるに至つたのである。

七〇

かゝる急激な發展は、時局の影響によるものであるとはいふまでもないが、經營の才に長じた山川社長の眞摯な努力によるところが大きいのである。近代になつて、事業の興廢を決定するものは、「資本」だといふ風にははれるやうになつて來たが、如何に豊富な資本を以てしても、それを運用する人にその人を得なかつたならば正に猫に小判の譬への如く、資本はその力を發揮することは出来ない。されば、事業の興廢を決定するものは決して資本ではなく、「人」なのである。その經營者に人を得れば、資本は求めずして宛まつて來る——、その資本を巧みに運用して事業の成功をもたらす——といふのが眞相である。

それは、當社に於ける山川社長をみると、直ちに納得出来ることなのであつて、當社の今日は、一に氏の一人の力によつて築き上げられたといふも過言ではなく、吾人は今更の如く人の力の偉大なるに驚嘆せずにはをられないのである。氏は一言にしていへば、熱の人であり、努力の人である。熱し易しい人は冷め易いといはれるが氏の場合にはその根柢に確たる信念が横たはつてゐるのであり、何處までも信念を貫徹せずにはをかない強固な意志があるのである。この信念と意志が氏に輝かしい今日の成功をもたらしたといふことが出來よう。

今や、時局はいよ／＼重大性を加へ來たつて、當社に一段の奮起活躍を望むこと切なるものがある。この時にあたつて、氏の意氣、體力ともに、ます／＼軒昂たるものあるをみるのは、邦家の爲、衷心慶賀に堪えない次第である。

時局造船界の花形

東海造船株式会社 社長 甲賀英逸氏
取締役 社 長 甲賀英逸氏

時局の進展に伴ふ造船、工作機械工業等の急躍進に伴ひ、華しいフットライトを浴びて、我が國工業界の第一線に進出、その目醒ましい活躍ぶりに各方面の視聽を一身にあつめてゐる人に、東海造船の社長甲賀英逸氏がある。

一口に、近代戦は工業戦だといはれてゐるやうに、今日の戦争は戦線に戈をとる戦士の活躍とともに銃後の生産に従ふ人々の奮闘があつて、はじめて華々しい戦果をあげ得るのであつて、さればこそ新東亞の建設といふ大使命になつて起つた、我が國に於いても、産業總動員の政府の掲げた旗印のもとに、朝野一致、生産力の擴充に邁進して來たのである。その結果は事變前に數倍する生産力の大擴充となつてあらはれ、今や新東亞建設の大事業は着々として完成の域に進みつゝあるのである。

それは、銃後の生産に従ふ人々の一致協力のたまものであり、その功績に甲乙は付け難いのであるが、戦線の勇士の勳功にも甲あり乙あるが如くに強ひて甲乙の區別を付けるならば、正しく東海造船は殊勳中であり、従つてその主宰者たる甲賀社長は、殊勳甲を以て表彰せらるべきであらう。その時局以來の努力精進ぶりは眞に超人間的なるものがあり、東海造船の躍進ぶりは實に驚異に値するものがあつたのである。

當社は、幕末の俠客次郎長で名高い清水港にあり、各種船舶の新造修理にあたるほか、各種機關、ポンプ、その他一切の機械器具の製作修理販賣及び、あらゆる工業の基礎的工業たる工作機械、化學工業機械の製作にあつて各部門の生産力の擴充に絶大な貢獻をなし、又、鐵橋、鐵柱、鐵塔、電氣熔接、水壓鋼管、木工家具、船具等の製作工事をも營んでゐる。

今や、東海造船の名が高まるに連れ、清水港は工業都市として、時局の前面に押し出されて來た。昔は、清水港の自慢は次郎長であつたが、今は東海造船がその誇りとなつたのである。當社が斯かる大躍進を遂げたゆえんは、社内上下が時局に對する正しき認識にもとづき、工業報國の赤誠のもとに協力一致、努力をつづけた賜ものほかならないが、更に仔細に検討するならば、社内統率者としての甲賀氏の人格と手腕及び對外交渉者としての甲賀氏の徳望と才腕を見通すことは出來ないのである。社内上下の一致といふことも、その中心となる人物に對する社内一同の敬愛の念にもとづく信服があつて始めて求められるものであり、又需要も顧客方面のその社の代表者に對する信頼があつてはじめて得られるものであるが、氏は人格の點においても、又その力量の點においてもこの條件を完全に具備してゐるのである。

即ち、氏の至純至誠、かつきはめて温情に富んだ人格は内外の信望を當社につなぐ楔となり、そこに天性非凡の才腕が縱横に發揮せられて、當社の今日の隆昌を見たのであつて、今や氏が當社の社寶であるといはれるに至つたのも決して偶然のことではない。

鑄造報國實踐の敏腕家

昭和鑄造合資會社 代表社員 林喜代太郎氏

創業以來正に半世紀の經驗を土臺として、我が國鑄造界に巋然として拔くべからざる地盤を持つ昭和鑄造合資會社は、時局以來、工作機械へも進出し鑄造報國を目指して一路邁進をつゞけてゐるが、才徳兼備の敏腕家と謳はれる、當社代表社員林喜代太郎氏は、當社の創立者であり、鑄造界の先覺者の一人として知られる、先代吉兵衛氏の御曹子である。

そも、當社は、明治十八年、先代吉兵衛氏が當時の大坂府下西成郡難波村に於いて鍋釜の鑄造業を開始したのが濫觴で、爾來、漸次に發展をつゞけ、大正十二年頃からは、ヘツツイ、カマド、カシラ等の間屋物に乗り出したのだが、當主喜代太郎氏は、昭和三年先代より事業を繼承して、その陣頭に立つや、翌四年、人絹、紡機等の諸機械鑄造へ一大轉向を敢行、こゝに機械鑄造界制覇の巨歩を踏み出したのである。爾來、氏の天與非凡の才腕は縦横に發揮せられ、業績は日に向上發展の一途をたどり、昭和九年に至つて合資會社に組織を擴大、俊英林の名を業界に喧傳せしめるに至つた。而して、昭和十二年四月、本工場に六千坪の機械仕上工場を新設し、工作機の鑄造より仕上げまでの工程を一括して行ふことになつたが、須臾にして今次事變の勃發にめぐりあひ、工作機増産時代に入るに至つて、當社の優秀な技術に信頼する各方面から、當社の大

々の擴張が要望されるやうになつた。氏は昨年初め、これが要求に答へて、前記仕上工場を百五十坪に擴張六尺、八尺旋盤、シカル盤ミ、リングマシン等の製造に乗り出し、一流諸會社の需要に答へてゐるのである。

この急激な發展によつても、氏の非凡な才腕を知ることが、出来るが、識見また高邁、行政的手腕にも長じてゐるので、與望をになひ大阪鑄物工業組合特別委員に推され、又信用評定委員に選ばれ、又大阪西成區の同業者の親睦機關たる大阪西成鑄友會の幹事長にも推されてゐる點から見ても、氏の人格を知ることが出来る。

かく、實力、人望ともに申し分ない、氏は本年未だ四十の坂を越えた許りの少壯であるが、その今後の活躍に於いてこそ氏の眞價は發揮されるのであり、業者も多大の期待をあつめてゐるが、國家觀念のきはめて強い氏は、現下の時局に對する正しき認識から、國民精神總動員運動の趣旨に則つて、社内に國民精神總動員實行委員會を設けた。これは従業員をして國民精神總動員の精神の實踐に邁進せしめ、産業陣營の強化に努めしめることを目的とするもので、氏自ら委員長として率先篤行、以て範を垂れ、これを指導する。

氏は「我々メーカーは、精神總動員の主旨に沿ひ、國策的見地から事業にあたるべきで、營利觀念に捉はれ、生産力擴充を第一義とする現在の情勢を忘却するが如きは國家の一員として最大の恥辱である」と語つたが、氏にしてこの言あるはまさに適言である。當社の前途は氏の前途と共にまことに洋々たるもの、吾人は衷心より祝福するとともに氏の今後一段の努力を願つてやまないのである。

戦時下伸銅界の智將

三谷伸銅株式會社 専務取締役 中井卯之助氏

事業の成否興廢を決定する最大要件として擧げられるものに、資本とその事業の將來性と而して經營の衝にあたる人材の三つがある。この三つのどれ一つをでも缺いたならばその事業は決して成功するものではない。而して、この三者は何れを軽く何れを重いと區別を付けることは不可能に近いが、強いて輕重を付けるならば、筆者は人材を最も大切な素材として擧げたいと思ふ。もし、その人にして事業家としての天才の持主であるならば、必ずや事業の企劃にあつても將來性を見透し、判斷を誤らぬであらうし、又、かゝる傑れた才の所へは、資本は求めずして集まつて来るものだからである。まことに、近代事業の興廢は一に人材の如何にかゝつてゐるといふも過言ではない。

今や、我が國は新東亞建設といふ前古未曾有の一大事業を遂行しつつあるが、この事業の完成の爲には、諸生産部門の最善をつくしての協力を俟たなければならず、それが爲には、識見、才腕、經驗のあらゆる點に於いて傑出した人材の活躍を必要とするのだが、本邦伸銅工業の最高峰たる三谷伸銅の専務として、同社の智將と呼ばれ最大功勞者の一人と仰がれてゐる中井卯之助氏こそは、この國家の要求に答へる完全な條件を備へた随一人者である。

氏は、滋賀縣の産にして、中井吉五郎氏の二男として、明治十二

年一月を以て生れたが、同三十二年、二十一才の時、創業十周年にして、やうやくその事業の緒に就いた當社に入社、爾來正に四十有餘年の久しきに亘つて一貫して當社の發展につとめ、當社をして今日の大を成さしめるに與つて大なる貢獻をなすとともに、本邦伸銅の發達に絶大なる寄與をなして來たのである。氏の一生の歴史はそのまま、當社の發展史であるとともに、實に本邦伸銅の發展史そのものであるといふも決して過言ではない。

されば、氏は本邦伸銅の表裏に精通し、斯業の技術經營の兩方面に亘つて卓越した才腕を持つてゐるが、さすがに三谷伸銅の智將と呼ばれる人だけあつて頭腦明晰にしてかつ俊敏、深く且つ正しい洞察眼と判斷力を持ち、しかのみならず、烈々たる行動精神の持主なので、産業總動員下の統後産業戦線の重要な一翼を成す伸銅工業部隊の部長として、眞に格好の人材である、といふ事が出来る。

今や、當社は、京都本社と東京支店及び大阪出張所によつて東西に販賣網を布き軍需品工場として陸海軍の需要に應じつつ、各官廳及び一流諸會社に納品し、又、滿支、南洋、印度各方面にも販路を持つてゐる。その主流製品は、銅、黄銅、白銅、洋白、その他合金の板、線、棒、條等だが、品質の優秀なことについては需要先の絶對的信用がある。

氏は、資性謹直にして己を律すること堅き一面に、他人に對しては極めて寛容な徳を持つてゐる。これこそは多數の従業員をひきゐる又、顧客に接する事業家として理想的な性格であり、氏をして今日の大を成し遂げしめた一大原因といふことが出来る。

「技術第一」の勝利者

山本放熱器製作所主 山本 一二氏

支那事變を契機として、我が國の自動車工業は、量的にも質的にも、驚異的な飛躍發展を遂げ、久しく待望された國產自動車時代の到來をみるに至つた。このまゝで推移するときは遠からずして、明治末年約三十年間に亘つて國內市場を壟斷した外國車を完全に驅逐し去り、遂に國產車輸出時代が到來するに至るであらう。而して我が國の自動車工業は先行的に發達してゐた部分品工業を基礎として出發したものと云つてよく、されば部分品製造方面には、早くより俊材が多數輩出してゐた。今日、ラヂエーター製造にかけては、國內一の稱ある我が山本一二氏も、その一人である。

氏が、ラヂエーターを主流とし、自動車部分品製造に乗り出したのは昭和四年であつた。山本放熱器製作所が即ちそれであるが、苦節數年よく今日の大を築き下げた裏面には血の滲むやうな苦闘があつた。氏の雄圖を拒まうとする困難や障礙に遭遇したことは幾度であつたか知れない。それにも屈せずして初志を貫き、つひに今日の國產自動車時代に際會して、多年の苦節の實を結ぶに至つたのは、一にその百折不撓の強固な意志の力である。而して氏は、盟邦イタリー有数の技術者たるバートン氏の薰陶を受け自動車工業技術界の最高權威といはれる名古屋高工岩藤教授の後援を受け、自ら技術陣の第一線に立つて研究をつづけ、つひに今日の完璧の製作に成功し

たのである。

ラヂエーターは、エンジンの機能を左右するもので、いはゞエンジンの生命ともいふべきものだが、多年に亘る努力研究と良心的な製作態度によつて絶對的完璧品を世に送りつゝある當所では、日産自動車をはじめ「六甲」「トヨダ」等、我が國の代表的自動車會社の需要を受け國內一の折紙を付けられてゐるのである。

當所は、はじめ東京市荒川区日暮里一丁目に創立されたが、昭和十三年八月事業の大擴張の要にせまられて、荒川区町屋三丁目の現在の地に新工場を設け、特殊機械數十臺、従業員三百有餘名を擁して大活躍をなしてゐる。氏はこのほか、時局の要求に應へて、昨年十月荒川区日暮里一丁目山本精器製作所を開設して、航空機部分品、自動車部分品、特殊精密機、板金作業、醫療器部分品を製作と同時に、現在の放熱器製作所附近に山一鐵工部を新設して、航空機部分品、精密機械並に器具類の製作にあたつてゐるが、操業日淺きにかゝらず、氏の優良な技術と良心的製作態度は素嗜しき成功品を世に送つて、各方面の絶對的支持を受け、業績は日に／＼向上をつけてゐる。

氏は、山本放熱器製作所創立の當初から、技術第一をモットーとして經營にあたつて來た。而して今日の輝かしい成功は、このモットーの勝利であるといへるが、その今日までの努力を思ふとき、吾人は自ら湧き來る敬虔の情に頭の下るのを覺えるのである。氏は名は我が國自動車工業の先覺者の一人として永遠に斯界の發達史上に残るであらう。

興亞日本のホープ

松尾鑛業株式會社 常務取締役 中村正雄氏

戦時下の重要産業たる硫黄資源開發會社として天然に恵まれた本邦最大の硫黄鑛山を持ち、最大の規模をほこる松尾鑛業の常務として才腕を發揮し、少壯敏腕のきこえ高い中村正雄氏は、すなはち、當社の社長であり、京濱財界の重鎮たる中村房次郎氏の二男にして明治三十年一月生れの本年四十三才、躍進日本産業界の明日を背負ふ俊材として滿天下の期待を一身にあつめてゐる人である。

今や、我が國は新東亞建設の大事業を遂行しつつあつて、未曾有の國運發展期に際會してゐるが、この大事業を完成せんが爲めには經驗に富む老練の古豪の指導、活躍に俟つこと多いとともにこれら古豪よりバトンを受け繼いで明日への建設を擔當する前途に富む少壯新銳の人材を俟つことはきはめて切實なものがある。この時局の要求に應へて近時産業界財界の第一線に登場した少壯、新銳も數多くあり、その頼母しい武者振りは吾人をして興亞日本の前途泰しの念を抱かせるのであるが、それ等、數ある新銳中にあつてもつともその武者振り勇ましく、各方面の期待の注がれてゐるのは即ち我が中村正雄氏である。

氏は大正九年の早大經濟科出身だが、父君の血を受けて天性非凡の經營手腕を持つ上に、頭腦明晰にしてつねに政治、經濟の兩面についての觀察研究を怠らず、また國際關係の動向にも注意を怠らな

いが、その判断正鵠にして三十代にして、早くも財界首腦としての資格充分なりとの折紙を付けられたものであつた。而して昭和四年以來、父君の懇篤なる指導下に斯業の實地についての研究をつづけ來たのだから、その才幹は一層光彩を添へ今日俊材のほまれを顯はれるに至つたのも決して偶然のことではない。

氏は、現在父君の社長のもとに常務として、當松尾鑛業株式會社に才腕をふるひ、時局に多大の貢獻をしてゐるのだが、松尾鑛業は横濱市中區本町四丁目本社があり、岩手縣の松尾村に鑛業所がある、その鑛山は硫黄鑛、酸化鐵鑛及同粉鑛を多量に産出し、科學的方法と設備とを以つて採掘にあたり、かつ最新の科學的製鍊法たる燒取製鍊法によつて製鍊し、自社専用の鐵道によつて搬出してゐるのである。

その従業員は三千人に達んとする大世帯で、松尾村人口の實に半數は當社従業員であるが、當社では教育機關として、私立松尾鑛山尋常高小學校及び同青年學校を置き、又、青年團を結成してゐるをはじめ、病院、保險組合、公會堂、體育機械、娛樂機關等の福利的施設完備し又神社を祀つて敬神崇祖の念の涵養に資する等、到らざるなき施設をなし、従業員の醇風美俗は他の模範とされてゐる。

氏は、また時局以來國民精神總動員運動に呼應して従業員の精神的緊張を促し、出征従業員の遺家族に對する待遇にも最善をつくして來たが、本年初頭には、恩賜財團軍人援護會に二十五萬圓を獻金し當時新聞紙上に、その美舉を謳はれたものであつて正に才德兼備の理想的俊材といふべきであらう。

新潟電力界の驍將

新潟電力株式會社
常務取締役 畑 時 雄 氏

近代の産業、文化は、電氣事業の高度の發達によつて今日の美事な開花を見たのであつて、吾人の電氣事業關係者に負ふ恩恵は自然に於ける太陽にも比すべくきはめて廣大なものである。これを新潟地方に見るならば、すなはち、同地方の産業界をして今日の殷盛を見せしめ、文化を發展せしめたものは實に新潟電力株式會社にほかならない。

當社の歴史はきはめて古く、もし當社の發達史をひもとくならばそれはそのまゝに當地方産業、文化の發達史になるのであつて、到底こゝには記し切れないが、現在常務として經營の重衡にあたつてゐる畑時雄氏は、大正七年當社へ入社以來、一貫して當社の發展につくし、その偉功によつて今日の榮位に累進した當社にとつての社寶的な人材である。

氏は秋田縣の人、畑隆太郎氏の二男にして、明治二十二年二月二十日を以て生れたが、大正二年東大工學部を卒業後同七年に至つて當社に入社した。その傑れた技術と眞摯な態度とはたちまち先輩のみとめるところとなり、技師より技師長に累進を重ね、つひに常務の大任を委ねるに至つたのであつた。かゝる超スピードの累進は異數のことで、如何に氏が天性非凡の才幹の特主であり、かつ異常な努力家であるかと窺はれるであらう。

而して、當社は時局以來、農事電化國策に順應して好成绩をあげるとともに、生産力擴充の國策に策應する重工業方面の擴充工作に最善の協力をなし、素晴らしい成績を見せてゐるが、特に昨年度に於いては伊南川水力、黒谷川水力、御藏入電氣の三社を買併合して今や新潟福島兩縣に亘り二市二十七町百六十三ヶ村に蜘蛛の巣の如き配電網を布くに至つた。

されば、その業績もすばらしく好調度であつて、昨年下半年において農事電力について新規需要三千三百二十七臺を得、總需要數一萬一千七百三十五臺、一萬六千三百八十八馬力に達するに至つた。もとよりこれは昨年下半年の數字であるから、今日では更に驚異的な數字に上つてゐる筈である。他方、大國電力も、伊奈川發電所の落成によつて未曾有の活況を呈してゐるのである。

當社常務としての畑氏は、電力報國をもつてその經營方針にしてゐる。氏がそも、電氣事業によつて身を立てようといふ決意したのも、斯業が實に全産業部門に原動力を提供するところの所謂基礎的事業であるとの認識から、進んで斯業に據つて國家社會に貢献しようと思へるに至つたからであつた。而して電力報國といふことは戰時體制下の今日に於いて特に重要である。氏はこの時局に對する正しき認識から、今や夙夜を分たす努力をつゞけてゐるのであつて、その熱心な態度は内外の尊敬のまとなつてゐるのである。

氏は資性濃厚にして篤實、きはめて圓滿な人格の特主として、先輩、同輩はもとより、部下従業員からも絶對の信頼を受けてゐる。今後一層の精進を祈つてやまない。

工作機界の新銳

株式會社岐阜工作機製作所
取締役社長 兒玉保一氏

今次事變の勃發はあらゆる産業部門に生産總動員を要求し、各部門とも、いづれも最善の策を樹てて増産につとめ、時局の要求に答へてゐるが、中でもその躍進ぶりのめざましいのは軍需工業部門である。

今日の戰爭は既に武力の戰爭でなく工業戰だ、とは某國軍事専門家の言葉だが、それには幾分の誇張があるにせよ、一面の眞理が含まれてゐる。即ち、今日の戰爭は科學的兵器による戰爭で、この兵器を生み出すものは工業であり、その國の工業力が微弱であるときはいかに精神的に、また體力的に優れた兵隊をもつても、圓滿なる戦果を擧げることが不可能なのである。さればこそ、事變勃發以來軍需工業を中心とする生産總動員が呼號されてゐるのであつて、この國內の工業界の頼もしい活躍ぶりが、戦線に戈をとつてゐる、我が忠勇なる將士の志氣を如何ばかり鼓舞してゐるか知れない。

されば、我が工業界のいはゆる古豪と呼ばれる諸會社が擴張に次ぐ擴張を以て増産に拍車をかけてゐる一方に、幾多の新興會社が輩出して、いづれも、工業報國の同じ旗印のもとに國策遂行に邁進してゐるのだが、兒玉保一氏を社長とする當岐阜工作機製作所もまたこの時局の要求に答へる岐阜縣下中小鐵工業者の團結のもとに、事變最中の昨年六月に創立された新興會社である。

社長兒玉保一氏は、兵庫縣人兒玉次男氏の長男にして、明治二十四年十月を以て生れた。關西商工の出身だが、工業報國の赤誠によつて工業界に身を投じた人だけに、今次事變の起るや、年來の志を果すはこの機にありとて奮起、岐阜縣工業振興會を母體とし縣下中小鐵工業者を組織分子として、地方鐵工業の振興を目指して當社の創立を主唱、つひにこれに成功した。而して、その創立成るや、氏は輿望をになつて社長の任に就いたが、岐阜市外岐垣國道附近に建設した第一工場が小型工作機を主要製品として操業開始して一ヶ月を出すして受注能力に満腹を來たすに至つた爲め、同年九月、第一工場隣接地に第二工場として機械工場の建設を取行、創立當初の資本金十萬圓も直ちに十八萬圓に増資したのである。

かやうに、創立後僅か三ヶ月餘にして、早くも倍加に近い擴張をみるに至つたのは、當社の誕生が時局の要求に合致したものであることによるのであつて、これを卒先主唱して成功にみちびいた兒玉氏の炯眼は業者讚嘆のまとなつてゐるのであり、かつその卓越した經營手腕はいづれも衷心より敬服してゐるのである。

氏は、性、外柔内剛の理想的人格者である。他人に對してはどこまでも寛容で、その温容は慈父の面影があるが、しかも、内には確固たる信念と烈々たる氣魄を蔵してをり、自己の信念を貫徹する爲には如何なる困難障礙にも屈せず、直往邁進するといふ強固な意志の人である。しかも齡未だ五十に満たざる壯年である。この氏を社長に戴く當社が今後何處までの發展を遂げるか、業者の期待の注がれてゐる所以である。

北洋水産界のバイオニア

北洋水産株式會社 專務取締役 横山 將來氏

北海道を本據とする北洋漁業は開進日本の將來を賭けた南と北と大陸の三大生命線の一翼をなすものである。我が國の水産業は世界に冠絶するもので、また重要輸出産業の一つであるが、ことに大陸の本格的經營の段階に入るとともに廣大なる輸出分野が拓かれるわけであつて、その使命は今日よりも將來へかけて、次第に重要性を加重してゆくものであるといふまでもない。

北海水産界の一大中心地たる函館市に本社を置く當北洋水産株式會社が事變中の昨年二月、資本金五百萬圓をもつて創立されたのも一にこの國策に答へんが爲めにほかならず、朝野の支持のうちに雄々しく誕生、一年餘にして、すでにすばらしき業績を擧げてゐるのである。この理由は幾つもあるが、その重要な一つとして經營スタイルに偉材を網羅したことをあげねばならぬのであつて、なかんづくその専務に水産界のオーソリテイをもつて夙に名高い横山將來氏を擁することは、當社最大の強味であり、誇りであるといはねばならない。

氏は、石川縣士族横山隆緩氏の長男として明治十七年九月十三日を以て生れたが、早くより水産業の將來に着目して、斯業に據つて身を立て國益をはからうと志し、東京水産講習所にはいつた。同四十二年同講習所を卒業後北海道余市水産試験所技師として斯業に貢

七九

献したが、昭和九年に至つて北千島合同漁業の専務となつた。而して、昨年當社の創立とともにその専務として快腕をふるふことになつたのだが、創業幼々の昨年度に於いて、當社は二十一萬四千二百四十四圓九十四錢の純益を計上するの好成績を擧げたのであつた。同期に於ける北千島に於ける各社の總漁獲高は四十三萬石にのぼつたが、その内、當社は實に十六萬二千五百五十石を漁獲したのである。この成績から推すならば、今後の發展は眞に期して待つべきものがあり、我が國の北の生命線に新たに強力なる勢力を加へたわけである。

氏は、性謹直温厚なる反面にすこぶ積極的な性格を持つてゐるその性格は、明敏な頭腦と相俟つて新與北洋水産株式會社のバイオニアとしても適し、開進水産界のためにも慶祝に値することである。氏が、斯業に志した動機は、先にもいつたやうに、水産業によつて國家に貢献しようといふ愛國の至誠からであつた。而して水産界の使命が今日より重大なことはかつてなかつた。而してそれは開進日本の一の推進力たる意味から將來へかけてますます重要性を加へんとしてゐるのである。

この時にあたつて、氏の健闘を願ふことはまことに切實なものであるのだが氏の水産報國の熱意はます／＼固く、その全力を傾注して當社の經營にあたつてゐられることは吾人の意を強くするに足るものである。吾人はこゝに氏の過去の功績を記録してこれを顯彰するにあつて、今後一層の努力精進を冀つてやまいと同時に、その將來に大なる期待を有するものである。

埼玉財界の巨壁

株式會社山吉百貨店 取締役社長 渡邊 吉右衛門氏

關東の雄縣、埼玉縣下に鳴り渡る百貨店株式會社山吉は、埼玉財界の巨壁として仰がれる多額納税者渡邊吉右衛門氏の牙城であり、文化年間開業の長き歴史をほこる本邦同業中有数の老舗である。

渡邊吉右衛門氏は、先代吉兵衛氏の長男にして明治十九年十二月を以て生れ、前名を仲治郎といひ、後、現名に改めたものだが幼少から頭腦明敏才氣煥發にして、かつ傳統の名門の血は争はれず、おのづからにして備はる長者の風格を備へてゐた。長じて財界人としてスタートを切るや、その高潔な人格には期せずして衆望のあつまつるところとなり、才腕の發揮せられるところ、往くとして可ならざるなき勢ひをもつて發展向上をつとけて來たのである。

傳統の老舗山吉は、氏の經營にして綜合百貨店としての完全なる體裁内容を具備し、いまや、縣下同業中の最高峰と仰がれ市民の絶大な支持を受けつゝ、優秀品の廉價提供をモットーとして都市生活者の利便をはかるとともに、文化指導者としての百貨店の使命を果しつゝあるのである。特に時局以來は、國民精神總動員の國策に順應すべく輕兆浮薄の風を作りがちな華美な流行品を避けもつばら、實利實益を主張とした優秀品の廉價提供に努めてゐるのである。

かやうに、商品の撰擇に心を砕く一方において、氏は百貨店が都市生活者に缺くことの出來ぬ消費購買機關であつて、半公共的なもの

のであるとの信念から従業員接客態度にもつねに心を用ひ、親切丁寧をモットーにして應待するやうに説いてゐる。かつ従業員の待遇も厚遇をきはめてゐるので、従業員も心から満足し、その満足は明らかな接客態度に現はれて顧客に好感を與へてゐるのである。

されば、市民は「われらのデパート」「市民の山吉」と呼び親しんで足を運んでゐる他面に於いて、氏が縣下業界並に社會事業に貢献せる功績は枚擧のいとまがない。されば縣民の氏を尊敬することは非常なもので、また篤行は一世の龜鑑として廣く天下に喧傳され縣民の家庭にあつては子女教育の材料として氏の篤行が説かれてゐるといふ。

氏は、その性謹直にして敦厚、きはめて謙讓の美德に富んでゐる論語のいはゆる「富みて驕ることなく、禮を好むこそ眞の君子でありと言はれたその篤行と、その業界につくした功績と相俟つて後世に語り傳へ、永遠に顯彰さるべきものである。

又、氏の推挽、指導によつて産業界の各方面に活躍してゐる人材はきはめて多い。これは、有爲の人材をしてその力を充分に伸ばさせ、もつて社會の爲めはた又國家の爲めにとの信念にもとづくものであるが、氏は有爲の人材とあればこれが實力を發揮せしめる爲には如何なる助力をも惜しまぬのである。されば、これ等後進の氏を徳とし、敬慕することは非常なものである。

しかも、氏は本年未だ五十四歳、業界人、財界としては尙前途春秋に富む壯齡である。今後の活躍には多大の期待が寄せられるのであり、吾人は火いに氏の今後に視注を寄せるものである。

興亞日本の期待する偉材

富永鋼業株式会社 富永良三氏
専務取締役

我が國薄鐵飯界一方の雄として知られ、時局以來製鋼界に進出した富永良三氏は、本邦斯業の最高峰たる富永鋼業株式会社専務に現任し、社長富永恒太郎氏の片腕となつてめざましい活躍をなしつつある練達敏腕の士である、その功績は當社發展史上に燦然と輝くものであると共に、また、我が國薄鐵飯業發展史上に永遠に記録されるべきものである。

當社が、富永恒太郎氏の個人經營から現在の株式會社に改組したのは、昭和十年三月のことであつたが、その資本陣に三井物産を迎へ三井との緊密なる連絡のもとに、我が國薄鐵飯界に一大王城を形成してゐるのである。その株式改組後の發展のあとをみるならば、資本的には、改組當時の四百萬圓から、昭和十二年九月に至つて一舉七百萬圓に増資從來尾崎市にあつた中型條鋼工場第一薄板工場、第二薄板工場、鍍金工場、製釘工場、ラス工場の整備をはかると共に時局の要望にこたへるべく、大阪市西淀川區中島町の神崎川尻に製鋼工場、鑄鋼工場の建設に着手して昨年これを完成、時局の需要もつとも烈しい大型の鍛鋼品の製造に乗り出したのである。

薄鐵飯界に於ける當社の地位はすでに嶄然として頭角を抜き、その完備した工場設備と優秀な技術とは斯業の最高峰と評されてゐるのだが、今次事變の勃發するや、たゞちに國策に協力すべく増資を

八〇

敢行して、製鋼、鍛鋼、鑄鋼工業へ乗り出したところに、主腦部の烈々たる工業報國の信念を見るのである。當社が薄鐵飯事業に着手したのも、バラック建、工場建築等に需要のトタン板のすべてを輸入に俟つてゐたのを國家的にきはめて不利益であると痛感し輸入防遏國產自給もつて國益をはからうといふ愛國心から出たもので、その愛國心は、この時局に際して再び開花を見たのである。

この當社の工業報國といふ經營方針は、また富永専務の信念でもあるのである。氏は頭腦明晰見また高邁にして、旺盛な國家意識の持主であるが、時局に對する正しき認識を有し、國民の各自が各自の最善をつくして、新東亞建設といふ國家百年の大計に協力することこそ、光輝ある歴史にかゞやく日本國民に課された神聖な義務であり、同時に權利であるとの信念から、夙夜文字通り寢食を忘れて努力をこらしてゐるのである。

而して、薄鐵飯部門は、時局柄製産を自制すべく餘儀なくされてゐるが、その傑れた工場設備はたゞちに特殊鋼板に利用せられ、なにかんづく中型條鋼工場は今日最も需要の多い中丸角の壓延を行つて時局に多大の貢獻をなしてゐるのである。

かくの如く、當社は今や平戰兩時に必要なくべからざる一大綜合工場となりその前途は洋々として多幸多望なものがある。而して専務として重きをなす、氏の今後の活躍にこそ興亞日本の舉國的期待がかけられてゐる。吾人は、氏がこの舉國的期待を自覺し層一層の努力を以て、これに應へられんことを切願してやまない。

機業王國福井の王者

福井商工會議所 岩堀 正氏
副 會 頭

福井縣は由來機業地として發展して來たものであり、今日では人絹王國として全國に冠絶してゐる。試みに昭和十二年の織物産額をみると實に一億五千萬圓に達し、縣總生産額の八割を占めてゐるがその内一億二千萬圓は人絹織物で、その内約一億圓は海外輸出であり、日本全國の輸出織物の六割を當縣から送つてゐるのである。その長き歴史を通じて就中戰時下の今日、國際收支の均衡上に貢獻しつつある所重大なものがある。

この機業王國福井縣の王城所在地——中心地はいふまでもなく福井市であるが、この一大王國の一城主としての岩堀正氏の名を知らぬものはない。氏は當縣出身で、明治九年二月、岩堀明敏氏の長男として生れたが、多年機業に従事してその才腕を誦はれ、當縣下機業の發達に盡した功績は甚大なものがある。また早くより商工會議所議員として斯業を中心とする市内商工業者の福利増進につとめて來たが、昭和八年には副會頭に推され、爾來今日に至るまで重任して偉功を遺して來た。

試みに福井市を訪れるならば、わが國最大の國營織物検査所をはじめ、人絹取引所、人絹會館、織物諸商店が市街の中樞をなしてゐるのを見るのであり、流石に織物王國の首都たるを思はせるものであるが、最近、隣接の和田、木田、兩村を併合してからは、郊外は

紡績、染色、織物の大工業地となつてゐる。而して今次事變の勃發以來、市を主體として織物工業の振興對策の委員會が結成され、商工會議所、織物同業組合と提携して、第三國への輸出増進をはかる一方、政府から補償生糸の大量拂下を受けて、新規織物の考案や織維工業の多角經營化の研究を進めてゐるが、氏はその中心となつて業者の指導につとめてゐるのである。

されば、同業者はもとより、縣市民の氏を尊崇することは、非常なものであつて、福井機業界發達の恩人として感謝のまこととなつてゐるのである。しかも、郷土の發展を願ひ、重要輸出産業の一たる斯業の發達によく祖國に貢獻せんとする至誠以外に一點の私心なき氏は、いさゝかもおのれの功を誇る色なく、日夜孜孜として斯業の發展に砕心盡力しつゝあることはまことに敬服のほかはない。實に富みて驕らざる眞の君子とは氏の如きをいふのであらう。

又、事業經營者としての氏は、家族主義をもつてその經營方針としてゐる。即ち従業員の待遇については慈父の理解と温情とをもつて事を決し、その雇傭条件はもとより諸種の福利施設が完備してゐるので、従業員も亦家長の如くに氏を敬慕し、自家の事業に精出すが如く孜々として、業務にいそしんでゐる。まことに事業家としても研究的な器と言ふ可きである。

氏は、本年六十四歳、意氣體力ともに乾昂なるものあり、最善の努力をもつて國策に沿はんことを決意、活潑な活動をつづけてゐることは、國家の爲まことに慶賀にたえないことであつて、吾人の衷心より氏の健康を祈る次第である。

電氣熔接機界の父

株式會社東洋特許品製
作所 取締役社長 高木清次氏

電氣熔接機械の製作會社として本邦最高最大の規模をほこる株式會社東洋特許品製作所は、斯界の權威として、自他ともにゆるす高木清次氏が社長として主宰するところである。

そもそも、電氣熔接は、製鐵、鑄造、銲接等の作業をはじめ、製作、修理、工場、船舶、橋梁、鐵道、あるひは、飛行機、自動車、工作機械、高壓汽罐等々と、近來著しくその應用範圍を擴大され、これに伴つて熔接機械器具の需要は激増し、製品も、次第に改良向上されて來たが、當社はその社名に表徴せられてゐる如く、實に七種目の特許を持つ、國産品中、當社製品に比肩するものなしといふ折紙を付けられてゐるのである。即ち、熔接機部として、交流電弧熔接機の電弧熔接用作業具、電氣抵抗スポット熔接機、自動交流電弧熔接機、電氣抵抗バット熔接機の自動電氣抵抗シーム熔接機と七種の特許品を製作してゐるほかに、電氣熔接製理部、チェンブロッツ製作部、電氣熔接パイプ製作部の各製作部門を設けてゐるほか、昭和十二年には多年苦心研究の結果、獨特の鹽浴電氣爐を完成してこれを世に送り、精密工具工場をはじめ、其の他の各工場から絶讃を博してゐるのである。

この電氣熔接機は、事變以來、軍需工業が大繁忙をきはめるとともにこれら各工業に必要不可欠のものだけに、需要激増、當社でも

増産に大量の努力をつとめてゐるが、公共精神のきはめて厚い高木氏は、その一方に、中小工業者をはじめ一般需要者の便宜をはかる爲めに、早くから特許してゐた貸機械部の大擴張をなし、もつて一般需要者の利便に資し、時局への貢献をなしてゐる。他方に於いて、斯業の發達を願ふ大乗的見地から、東京銀座の中心に電氣熔接學校を設けて、熟練熔接士の養成に力を盡してゐるのである。

これ等は、みな、氏の斯業の發展をはかり、以て國家への貢獻を成さんといふ烈々たる報國心から出發してゐることであつて、吾人の衷心より推服してやまぬ所以である。而して、氏のこの烈々たる報國心は、國內需要への充足から更に一飛躍して、大陸經營の國策への協力に向けられてゐる。

即ち北支の建設工作の進捗とともに當然熔接機の需要がその反面から起るのは必然であつて、氏は、この事態に備へ、着々増産計畫を立て、大陸進出の態勢をととのへつつあるのである。されば、當社の今後の活躍こそ、眞に見るべきものがあらう。

當社が今日あるのは、一に氏の熱心なる經營のたまものである。その經營ぶりは堅實そのもので些かのケレン味もなく、ひたすら技術の研鑽につとめ、上述の如く、幾多の優秀品の製作に成功したのである。これは、一に氏の着實直なる人格の反映にほかならず、内外の齊しく氏を畏敬してゐるゆえんである。特に、社員、従業員、氏の尊敬することは非常なもので、彼等も亦氏の偉大人格の感化を受けて、報國の至誠のもとに、日夜孜々として各自の持分に最善の努力をほらつてゐるのである。

産金報國戰線の花形

土肥金山株式會社
専務取締役社長 進藤淳之佑氏

戦時下の重要國策として産金奨励が取り上げられて以來、全國の産金會社は古豪、新銳の別なく、いづれも増産、新規開發に大量の努力をつとめてゐる。この産金戰線の花形としてその素晴らしい業績に滿天下の注視をあつめてゐるのは、才德兼備の偉材として、つとに名聲高き進藤淳之佑氏が率ゐる土肥金山株式會社である。

當社は、大正六年八月の創立にして、大阪の北濱四丁目本社を置き、土肥、湯ヶ島、茂倉の三鑛區を傘下に擁して、時局下に豊富優秀な金鑛を送り出し、絶大な貢獻をしてゐるのである。それら三鑛區のうち、土肥鑛業所について述べると、同鑛山は靜岡縣田方郡土肥町地内にあり、産金事業とともに、鑛脈中に共存される硫化鑛としての黄鐵鑛、白鐵鑛、黄銅鑛、方鉛鑛、内亞鉛鑛などの採掘を行つてゐるのである。

同金山の歴史を訪ねると、遠く天正五年に、市川助右衛門尉が金山奉行となつて採掘せしめたのが、濫觴をなすものといはれてゐるが、地質は高地山岳部は第三紀の安山岩で、低部は凝灰岩、角礫凝灰岩、集灰岩等から成り、砂岩、頁岩の薄層が介在し、各岩石とも鑛液によつて著しい變化を受け、土肥川河岸には第四紀層の耕地がある。而して鑛床はこの岩石に反覆生じた裂隙を重填せる平行脈であつて、極めて豊富な優良鑛である。

進藤氏は、斯業に乗り出して以來、産金報國をもつてその信念とし、その社是として一貫努力をつづけて來た。而して、今次事變の勃發とともに、國際收支の適合の上に於ける金問題の重要性が加重し、産金奨励國策がとられるに至るや、かねての信念を實踐するはこの秋にありとの決意も固く、社員的一致協力をもとめ、増産に拍車をかけて來たのである。

氏は、自分を律すること、きはめて厚い君子人であるが、他人に對しては極めて寛容で、特に従業員に對しては理解と温情に富んだ人である。されば、その従業員の待遇も極めて厚く、その鑛山には保健、衛生、慰安、娯樂の設備から、教育施設まで、到らざるはなほいまだに完備してゐるので、従業員は、その厚遇に満足し、氏の恩感備はる人格に絶大な敬慕の情を捧げて、氏の指導精神をよく守り日夜孜々として業務に精勵してゐるものである。

これを要するに、氏は至誠の人である。古語に至誠人を動かすといふのがあるが、従業員がかくの如き美しい協力一致を以つて氏の事業を輔けるに至つたのも氏の至誠の賜であり、又「至誠天に通ず」といふやうに、氏が今日の輝かしい成功を得たのも亦氏の至誠に天の感應があつたが爲と見ることが出來よう。氏は、その部下従業員をはじめ、氏を慕つて集まる後進に説くに、この誠實の二字を以て處世の方針とせよ、と諭へてゐると傳へられるが氏の貴重な體驗から生れたこの二字こそは廣く天下の青少年に贈りたいと思ふ。

欄筆にあたり、時局益々重大の折、氏の愈々健康に留意して「産金報國」の信念に邁進せられんことを切願するものである。

躍進工業界の誇る天才事業家

株式会社横山工業所 専務取締役 横山公雄氏

興亞の大事業完成の爲めには、何よりも鑛業の生産力擴充が焦眉の急務とせられ、時局以來各鑛山會社は生産力擴充に文字通り大童の努力をつぎつけてゐるのだが、この鑛業の生産力擴充の先決要件となるものは、いふまでもなく鑛山用機械の生産力擴充である。されば國を擧げての要望が、まづ鑛山機械メーカーの奮起に向けられたのは當然のことであるが、時局以來、躍進めざましきものある幾多鑛山機械メーカー中であつて、その優秀な技術と尤大なる生産能力とをもつて、巔然頭角を抜いてゐるものに我が株式会社横山工業所があるのである。

當社は、斯界の最高權威として自他ともに許す、現當社専務横山公雄氏の創業に成るものであり、その卓越した技術的才幹と經營手腕とによつて、逐年隆昌の一途を辿り、つひに今日の殷盛を見るに至つたのであつた。その努力成功のあとを見るならば、後進青少年は感奮興起せずにはゐられぬものがある。

そもく氏は、山梨縣人横山恭太郎氏の三男として、明治三十二年九月を以て生れ、大倉商業を卒業後、大倉組、大島製鋼所に勤務したが、少年時代から研究心に富んでゐた氏はこの間に於いて斯業の實際的智識を體得したのである。而して、進取向上心に富んでゐた氏は、獨立自尊の氣風がたくして昭和六年に至り獨力をもつて横山工業所を興し、鑛山機械の設計製作に着手したのであつた。爾

來、滿洲事變を契機として澎湃として湧き起つて來た鑛山熱に惠まれて、その製品が世間に紹介せられるに及び、漸次技術的試練を積み従つてまた業界に於ける認識も急激に高められて、事業は發展向上の一途をたどるに至つたのである。

かくて、發展膨脹の一途をたどるにつれて、組織の擴大を必要とするに至り、昭和十一年五月、資本金五十萬圓の株式会社すると共に、氏は専務とし専ら社務を統率、鑛山機械のほか製糖機械へも進出工場の新設擴張を行ひ、翌十二年、一舉三倍増資を敢行してその資本を百五十萬圓とし、大躍進を遂げたのであるが、其折柄、今次の事變の勃發に逢つたのである。

澎湃として起つた國防經濟の強化、生産力擴充の國策に添ふべく氏は、新たに製糖工場並に鑛鋼工場を新設して一貫作業を敢行するに至り、十二年十一月まづ資本金百五十萬圓を以て株式会社第二横山工業所を設立、さらに同年十二月、第二を當社に合併し、三百萬圓となり、更に一千萬圓に増資せんとしてゐる。

現在、當社の機械製品は、前記の鑛山、製糖機械のほか、石油、製紙、セメント、土木、輸送各機械、起重機、ポンプ及壓搾機、その地諸機械から、汽罐、煙突、水壓及水道鋼管、鐵槽、鐵骨、鐵塔鋼桁、橋梁、その他各種製糖工場の廣汎に及んでゐる。

創業以來、僅かに八年にしてこの大を成した横山氏は、本年僅かに四十一歳の少壯である。氏を評するには「天才」の二字以外適當の言葉はないが、躍進日本の期待が氏の如き少壯敏腕の俊材にかゝつてゐる時、一段の努力精進を切願してやまないものである。

大陸進出の巨星

株式会社竹内榮一商店 取締役社長 竹内榮一氏

興亞の大使命を擔つて立つた我が國にとつて、大陸經營は子々孫々に傳へて完成しなければならぬ國家的大事業である。この大事業を完成する事こそ、滿支の野に骨を埋めた幾多の忠勇なる皇軍將士の靈に答へる唯一の道であり、今尙、征馬を進めつゝある陸海空將兵の勞苦に酬ひる全國民の神聖なる義務なのだ。

この自覺のもとに、すでに滿洲の天地には大陸開發の挺身隊をはじめ、幾多敏腕の事業家が活躍を開始してゐるのであり、また北支開發、中支振興の兩國策會社の成立によつて占領地域の資源開發が遂行されようとしてゐるのだが、わが國バルブ界の泰斗として自他ともにゆるす竹内榮一氏は、昨冬、大連にその出張所を設けると共に個人經營のもとに滿洲富士バルブ製作所を設立、こゝに大陸に於けるバルブ事業に先鞭をつけるに至つたのである。

バルブ界に於ける氏の地位については、も早くこゝに繰り返す要もない。富士印すなはちバルブといはれる位に有名な富士印バルブの製作販賣元たる株式会社竹内榮一商店こそ、氏の主宰する牙城であり、内地バルブ界を牛耳つてゐる偉材である。氏は、早くより大陸經營の國策に順應して大陸への進出を斷行すべく企圖し、綿密周到な計劃を樹て、まづ大連に同店の出張所を置いて、富士印バルブ・コックの販賣網を布き、すでに確固たる基礎を築いてゐたが、昨冬

大連に赴いて現地視察の結果、同地へ直接工場を建設、現地生産による大陸への全面的躍進策を樹てるに至り、大連市裾野町に千坪を購入、たゞちに工場の建設に着手したのであつた。

同工場は、竹内商店の傘下より獨立せしめ、氏個人の經營として前記のやうに、滿洲富士バルブ製作所の社名のもとに誕生したのであるが、前述の如く、すでにその販賣先きについては確固たる地盤を持つてゐるのだが、操業開始とともに需要殺到するのは當然の結果である。かくて、氏は、こゝを基點として、全滿洲から北支、更に上海へと、大陸への全般的進出を企圖してゐるのである。

その用意の周到、計劃の緻密、而してその些かの危なげもない堂々たる實行力。これこそ竹内氏にしてはじめて求めらるることであつて、大陸建設の選手の一人として、氏の前途には各方面の期待がかけてゐるのである。

氏が頭の人であるとともに腕の人でもあることは先に述べた通りだが、同時に又氏は心の人でもある。心即ち誠實無比の高潔な人格の持主なのである。人に完全を求めることは至難とされ、頭の方は腕や心に缺點があり、腕の人、心の人、みなそうであつて、この三者を兼備してゐるやうな人は、稀にみるところとされてゐるが、氏は實にこの當代に得難い人材なのである。願はくは、氏が健康に留意せられ、大陸經營の國策實踐の指揮者として、今後一層の努力をなされんことを。——これは、氏の活躍に滿腔の期待を捧げてゐる吾人の衷心よりの願ひなのである。洵に氏は大陸進出の巨星としてその巨歩を踏み出したのである。

民間航空界の先覺

伊藤飛行機製作所
代表取締役 伊藤音次郎氏

今次事變に於いて示された我が海陸の荒鷲の勇猛果敢なる活躍は抗日蔣政權の心膽を寒からしめ、今日の赫々たる戦果をあげる上に偉効を奏すると共に、廣く世界の人士の耳目を衝動せしめたのであるが、これは海陸軍航空関係者の不斷の研究訓練の結晶であることはいふまでもないが、また民間航空関係者の多年の苦心研究が間接的に絶大な貢献をなしてゐることを忘れてはならない。この民間航空関係の功勞者としての第一人者として挙げなければならないのは我が伊藤音次郎氏その人であらう。

氏は、明治二十四年六月三日、大阪市浪花區に生れたが、幼少より科學に深い憧憬と趣味を持ち、かつすこぶる進取の氣象に富んでゐた。成長するに及んで、當時いまだ播磨期にあつた航空界に志し航空事業にたづさはつて國家に貢献せんと決意し、奈良原飛行機研究所に入つたのであつた。

奈良原研究所にあつて飛行術を修得するとともに、飛行機製作の技術を修めた氏は、大正二年に至つて、千葉縣津田沼に現社を創立爾來、不撓不屈の意力をもつて努力研究をつづけ、後の下の力持ちとなることを厭はずして、一意専心わが國航空界の發達に努力して來たのである。その功績はわが國航空發達史上に燦として永遠に不滅の光を輝やかせるであらう。

今や、その發祥地たる津田沼には宏大なる飛行機製作工場を設け各種航空機の製作に大童の努力をつぎつけてゐるが、就中、伊藤式A2型ブライマリーは、同所多年の飛行機製作上の技術をもつて伊藤式ユニバーサル型ブライマリーに改良を加へて製作したものだけにその優秀なことは絶對他の追隨を許さず、きはめて輕快で、しかも主要部分には十分な強度を有ち、航空力學的性極めて良好にして分解組立て、並に運搬が非常に容易であることが、その特長になつてゐて各學校及び諸團體では、航空思想普及のために本機を採用、噴々たる好評を博してゐる。

氏が、當社を創立したのは、年齢僅かに二十三才の時であつた。この事實にみても如何に氏がすぐれた天才の人であるか分るが、爾來、努力に次ぐ努力、研究に次ぐ研究をもつてして幾多のすぐれた優秀機を生み、つひに今日斯業に並ぶものなき權威と仰がれるに至つたのである。その超人的努力こそは、氏の天才をして遺憾なく發揮せしめたものであつて、吾人は今更の如く「天才は努力なり」の感を強くせざるを得ないのである。

しかも、氏は本年未だ四十九才の前途尙幾春秋に富む壯齡である氏は、現下の時局及び國際情勢に鑑みてます、民間航空思想の普及發達を圖る必要ありとして、自ら工場に出でて従業員の指導監督に采配を振つてゐるが、この健闘を見ることは國家の爲め誠に慶賀に堪えないことである。氏は本邦民間航空界の先覺者として、その名は永遠に記念さるべきであらう。

北陸重工業界の權威

株式會社本江機械製
作所 常務取締役 本江義忠氏

北陸重工業界の代表的會社として、戦時下の我が重工業界の前面にタロイズアップされて來た本江機械製作所こそ、現常務本江義忠氏が、いまだ北陸重工業界が今日の版圖を見るに至らなかつた當時から家業として、多年個人經營のもとに攸々營々として經營にあたつて來たものである。當社の前身時代からの歴史——即ち本江義忠氏の半生史こそは、そのまゝに富山重工業——北陸重工業界の發達史なのであり、生きた記録なのである。

而して、滿洲事變を契機として我が國の重工業界が來るべき非常時局に備へて躍進發展を懸念されるに至るや、氏は重工業界への全面的進出を企圖し、現社長連沼氏の協力を得て株式會社に組織を擴大するとともに、事業内容を多角的ならしめたのは昭和九年四月のことであつた。爾來、氏はその武器たる優秀な技術的手腕をもつてまづ專業のロードローラーから汽罐車及びスチム・ロードローラーの製作を開始したが、良貨は悪貨を驅逐するの法則通り、その優秀な品質は無言の威力を發揮して需要先きの絶對的支持を得るに至り磐石の地盤を獲得するに至つた。

かく、躍進の一途を辿りつゝある所へ勃發したのが今次の事變であつた。澎湃として起り來たつた生産力擴充の要求は技術卓越せる當社へも當然に奮起を促すに至つたのである。工業報國を以て其信

念とする氏が此時局の要求を默視する譯はない。まづ一昨年は製鋼場を、昨年十月には工作機械工場を増設完成し、今や特殊合金鋼、一般鑄鋼品の製作から、鑛山用機械、土木機械、ロードローラー、機關車、捲揚機の生産に分野を擴げ、大躍進を遂げたのである。

氏は、技術をもつて機械工業家の使命と信する人だけに、従業員に指導にあつても、つねに誠實を旨とし、最善の注意と最善の努力をもつてあたるやうに説いてゐる。その製作部門の重要ポイントたる工場長並に設計課長には氏の兩腕とも頼む一族、本江政治郎氏及同弟次郎氏を任じてゐるもその爲めである。かういふと、従業員に對しては嚴格一方の人のやうに見えるが、決してさうではない。慈父の温情と理解を持ち、その待遇には最善の注意を配つてつねに従業員に接觸して、その希望や不満を聞き、間違つた考へは懇々とさとすが、道理に叶つた要求は必ず、これを容れて、希望や不満を満たすやうにしてゐるので、従業員は、あたかも實の親を慕ふ子女のやうに氏を敬慕してゐる。

いはゆる、寛嚴宜しきを得た眞の事業家であつて、他の模範とするに足るものである。當社は、今般三千坪の地に中等程度の本江工科學校を建設したが、これによつて産業界の二大資源の一たる人的資源——即ち優秀な技術家を世に送つて時局の要求に應へんとするものがあつて、こゝに氏の眞面目を見ることが出来る。

又、氏は、敬神崇祖の念きはめて厚く、従業員にも敬神崇祖の念の涵養につとめてゐるが、先般立山の雄山神社の昇格にあつた當社の名を以て多額の寄進をなし關係者を感激せしめたのであつた。

躍進日本炭坑界のホープ

筑前炭坑長 西田隆男氏

今や我が國は新東亞の建設といふ聖使命を擔ひ、長期建設戦を遂行しつつあるが、この時局にあつて、いはゆる老練達識の古豪の指導とともに、生氣溼潤、前途春秋に富む少壯の敏腕の輩出を俟つこと、きはめて大なるものがある。この要望に應へて筑豊炭坑界にあつて、才腕をほし、いまに發揮してゐる新鋭に、我が西田隆男氏がある。

氏が、福岡縣嘉穂郡稻葉村山野にある筑前炭坑をひきゐて、獨力炭坑界に乗り出したのは昭和十一年二月、三十五才の時であつたがその颯爽たる登場ぶりは、まさに風雲児の名に値するものであつた氏は、大正十三年の早大法科出身だが、炭坑界に志して一時大倉組經營の常盤炭田入山坑にはいつたが、のち、福岡縣鞍手郡木屋瀬町の秋山鑛業所に移つた。この兩社を通じて炭坑業の實地についての研究を怠らなかつたのだが、其結果は漸次に頭角をあらはすに至り次第に重用されて、三十一才の時、同所の椎森及二瀬町兩炭坑の坑長に擧げられ、作業員の指導經營の大任を委ねられたのであつた。この事を以て見るも、氏の手腕の程が窺はれるであらう。

然し、獨立自尊の念強く、鵬志の持主である氏は何時までもその状態に満足してゐる筈はなかつた。昭和十一年二月に至つて現在の優秀な鑛區を入手して驍然として立ち上り、獨力これが經營にあつた

ることになつたのである。而して天はこの風雲児に與へるに豊富な天然の資源をもつてしたのである。

その炭層は、上石炭層群に屬す五尺層小石三尺層、八尺層七尺層及び尺無層だが開坑以來八尺層及び七尺層に主力を注ぎ、礎柱式及び長壁式採掘法を併用して優秀な成績をあげてゐる。その撰炭機や水洗機、積込機等は多年の経験によつて最新最高のものを用ひ、その他の設備も遺憾なく備つてゐる。その上、事變以來の燃料資源の生産力擴充の國策に應へて鴨生に新坑を開掘したが、これまた埋藏量は無限といはれてをり素晴らしい成績をあげてゐる。

而して、事業成功の基礎は「人の和」にあるとはよく云はれるところだが、氏の生れ乍らにして備はる徳は勤めずして衆望のあつまることとなり、全員共和一致の美風をもつて社業の發展につとめてゐるのである。その下にあるものは事務長をはじめ全職員が何れも三十才前後の、旺盛な行動精神に燃える青年のみであつて、青年社長の下にこれらの青年社員が、一糸亂れざる統制を保つてまつしぐらに、石炭報國の社是のもとに邁進しつつある有様は、まことに溼潤として、躍進日本の姿をそのまゝに現はしてゐるかの、感を受けるのである。その従業員福利施設が如何に完備したものであるか、それは早いだけ野暮であらう。

この若さにしてこの大成を成し遂げた氏が、今後、十年、二十年更に三十年後に於いて、如何なる成長、發展を遂げるであらうか？それは吾人に課せられた大きな楽しみの一つであり、躍進日本炭坑界の期待でもあり、そして注目でもある。

本邦斯界の新鋭

株式会社東京精鐵工所 専務取締役 石川隆三氏

本邦軍需工業會社中の異彩として、今や目醒ましい躍進をなしつつある株式会社東京精鐵工所は、本邦斯業のエキスパートとして令名高き當社専務石川隆三氏の創業にかゝり、氏の天才的手腕によつて今日の隆昌を見るに至つたものである。氏は本年未だ四十七才の少壯であるが、大正九年、弱冠二十八才にして獨立開業以來、今日までの輝かしい躍進のあとを見るならば、正に「天才」と稱する以外、適當なる評語を見出すことは困難である。

そも、氏は明治二十六年七月十日の誕生であつて、富山縣士族石川彌太郎氏の三男として生れ、魚津中學を修業後、三谷伸銅所に勤務したのであるが、性來頭腦明晰にしてきはめて研究心に富んでゐた氏は、旺盛な研究心をもつて斯業の奥儀を極め、早くも斯業にその天才を誦はれるに至つたのであつた。

而して、性不羈、獨立自尊の念の強かつた氏は大正九年に至つてつひに獨立、銅板製造業を創め、爾來刻苦經營の結果次第に業績向上するに及び、同十三年現在の市川市市川新田に移轉した。爾後逐年向上發展の一途をたどり、昭和九年に至つて東京精鐵工所と改めるとともに事業範圍を擴大して更に躍進をつづけ、同十一年、組織を擴大して株式會社に改めるとともに氏は専務に就任、もつぱら經營の衝にあつて來たのである。

かゝるところへ勃發したのが今次事變である。時局の要求は優秀な技術をほこる當社に對して當然に生産力の擴充を促すに至つたが滿身これ工業報國の赤誠とともいふべき氏の何處黙して居るべき、工場擴張整備を斷行、従業員の自覺ある協力を得て、氏に課せられた重要使命の遂行に直往邁進してゐるのである。

當社は資本金百萬圓、その事業は、成形鍛造品たる航空機、兵器船舶、自動車、諸機械、各鍛造部分品の製作だが、事變以來、ドイツ及びアメリカより輸入した優秀機械を据え付け、エキスパートたる氏の指導によつて歴倒的優秀品を世に送り、文字通り、本邦鍛造界の雄として斯業に堂々君臨してゐるのである。

この優秀な技術と設備と共に、當社がもつとも強味とし、誇りとしてゐるのは、勞資の關係が純日本的なる大家族主義をもつて圓滿なる結果を見せてゐることであつて、待遇條件の良好なるはいふまでもなく、福利施設は遺憾なく完備し、また寄宿舎には教育家出身の舍監を置いて従業員の善導にあたらせ、また、智育、德育、體育三方面の機關を設けて、有爲な産業人の育成につとめてゐる。なかんづく昨年十月開設の青年學校は百餘の生徒を收容し、縣下工業界の範となつてゐるのである。

正に、氏は當代日本工業界の誇るべき至寶であり、躍進日本の推進的勢力者の一人として、時局下に缺くことの出来ぬ偉材であり、斯界一方の動向を牛耳る指導者として、その責任の重大なるものがある。即ち吾人の衷心より今後の自愛と健闘を祈つてやまない所以である。

生産力擴充の推進力

西林工作機械ベアリ
ング製作所 所長 西 賞 治 氏

工作機械、ベアリング製作界に於ける西賞治氏の存在は斯業に多少とも智識を有するものは誰知らぬものもない。その經營にかゝる西林工作機械ベアリング製作所の製品はS N Hのマークによつて、斯界の最高級品たる折紙が付けられてゐる。

今や、我が國は新東亞の建設でふ聖なる使命をになひ、一大聖戰を遂行中であるが、この聖戰をして有終の美を成さしめんが爲めに各産業部門の生産力擴充が焦眉の急務である。而して、すべての産業特に諸工業の基礎となるのは工作機械であつて、工作機械の生産力擴充と、その質的向上こそはあらゆる部門の生産力擴充に先行すべきものなのである。

この見地から、事變勃發とともに逸早く工作機械製造事業法の公布をみて、工作機械工業の生産力擴充に保護助成が加へられるに至つたのであるが、この工作機械工業の黄金時代の到来によつて愈々その眞價を發揮するにいたつたのが、即ち當西林工作機械ベアリング製作所である。當社の製品は品質の優秀なることによつて夙に定評があり、特に、機械部に於けるブランチヤード型平面研磨機や、獨逸ゲルガー會社型高速度旋盤等は斯界の最高級品の折紙付であり、又、ベアリング部に於いても、スチールボール鋼材の精選と特有なる技術の發揮によつて、斷然他の追隨を許さぬ優秀品を世

に送つてゐる。

而して、事變以來、殺到する需要を消化し、もつて工作機械生産力擴充の國策に答へる爲めに事變勃發と共に大阪府中河内郡長吉村大字出戸に新設中であつた大工場も、昨年十一月完成を見るに至り大阪市南區谷町六丁目所在の營業所から、廣く全國的に營業網を布いて活潑な活動をつとけてゐるのである。

當社は、西氏とそのよき片腕である林正一郎氏との提携によつて起されたものであるが、今日の隆盛をみるに至つたのはこの絶妙のコンビが、兩々相補け、努力精進を續けて來た賜ものにほかならぬ。西氏は一口にいふと意志の人であり、努力の人である。如何なる障礙困難に遭遇するも決して初志をひるがへすことなく、あくまでこれを貫徹せんばやまぬ底の強固な信念の持主である。氏が當社をして今日の大を成さしめたのは一にこの信念にもとづく努力精進のためのものであつた。我々は今更の如く「努力が成功を生む」といへる古人の言葉の眞理であることを思ふのである。

而して、成功に不可解の要件として、「人の和」があげられるが、徳の人である氏は求めずして衆望の歸するところとなり、全従業員一致の協力をかち得たのである。論語の爲政の章にある「政を爲すに徳を以てす。譬へば北辰の其の所に居て衆星之に向ふが如し」の教へを事業界におし及ぼした氏が人であるといふことが出来よう。今や、興亞日本の推進力としての當社の前途は、氏の前途とともに赫々たる光明に照されてゐるのであり、吾人の衷心より祝福を送るゆゑんである。

斯界のエキスパート

共立モスリン株式会社
取締役兼中山工場長 奥村 石 二 氏

優秀な製品を内外市場に送つて噴々たる名聲を博し、特に戦時體制にはいるとともに、輸出報國の社是のもとに直往邁進して、戦時下經濟界の重要課題たる國際收支の適合上に、多大の貢獻をなしてゐるものに當共立モスリン株式会社がある。

當社は、日本毛織株式會社の直系にして、資本金四百萬圓、編糸は共立モスリンといふ歴史的定評をとつてゐる會社であつて、工場長は千葉縣中山と群馬縣館林にあるが、なかんづく中山工場は、規模の宏大にして設備の完備してゐる點に於いて、東洋第一の名實を兼ねた大工場である。この中山工場の工場長として經營の實權を握つてゐる人こそ、我が國モスリン界のエキスパートとして隠れもなき偉材奥村石二氏である。

氏は、明治二十五年兵庫縣に生れたが、幼少より頭腦明晰にして科學に深い憧憬を抱くにいたり將來 技術家として立つべく志を立て名古屋高工に入つたのである。而して、拔群優秀の成績をもつて同校を卒業後日本毛織にはいつたが、その研究熱心と努力とはたちまち頭角を抜くに至り次第に重用せられた。而して昭和二年、その同系會社たる當社にはいつたのだが、中山工場長としてその全權を委任せられるやうになつてからは、その定評ある才幹を縱横に驅使して面目を一新、大發展を遂げたのである。

當社の經營方針は産業報國といふことであるが、それはたゞちに氏の信念でもあつて、この精神に則り、營利よりも國策の線に沿ふことを第一義とし、今時局以來は前記の如くもつぱら優秀品の海外輸出に全力をつくして奮闘してゐる。世界市場に於ける日本モスリンの代名詞の如くに共立モスリンの名が行き渡つてゐる事によつても、當社の貿易界に於ける地位を想望する事が出来るであらう。正に當社は斯界の中心的勢力である。

當中山工場が斯く素晴らしい成績をあげてゐるのも、一に斯業のエキスパートたる氏が、その蕩著を傾倒して經營に専念してゐる賜ものにほかならないが、他方に於いて、氏は、従業員を遇すること厚く、各種の福利施設が遺憾なく整つてゐる。特に時局以來、國民精神總動員と、國民體位向上の二大國策に順應して、まづ、事變下に於ける産業人としての認識を深めることにとつて、毎朝、工場内に奉安せる皇大神宮に全員の參拜を行ひ、又、青年學校、國防婦人會在郷軍人會、各種運動部の機構を設けて、智育、徳育、體育の三方面に充分なる教育を施してゐるのである。

斯様に、待遇が厚遇を極めてゐるので、全従業員は心から満足しその指導精神に従つて業務に精勵してをり、かくて、當工場は名實ともに日本の理想的大工場として、東洋、いな世界にその英名をとどろかしてゐるのである。

又、近時の國策に添つて、千葉縣に、同縣地方工業化委員會が結成されるや氏は第一委員にあげられ、工場經營者としての長年の經驗に基き適切な獻策を行ひ重きをなしてゐる。

機械設計の第一人者

三田工業所主 三田 繁 雄氏

我が國の機械工業は、事變以來、急激なる發展をみるに至り、今や、斯業はその技術方面からはもとより、事業規模の上からいつても、完全に先進諸國の領域に迫るに至つた。この事實は、世界の驚異のまゝであると共に、今尙大陸の野にあつて興亞の聖戦に身命を捧げて鉾をとりつゝある我が忠勇なる陸海空軍將士の士氣を鼓舞するに、如何ばかり大なる貢獻をなしてゐるか知れぬのである。

この頼もしき飛躍的發展は、深き時局に對する認識の上に立つ努力經營のたまものにはかならないが、その蔭の人として、デザイナーの苦心努力のあることを忘れてはならない。デザイナー、即ち機械設計家は機械工業が今日の時局に際して活潑なる活動を営んでゐる、その蔭の功勞者であつて、表面にあらはれず、従つてその功績を感謝されることも少いが、その功勞は機械工業の實際にあたる人々に決して劣るものではなく、寧ろ優つてゐるといふことが出来るのである。

當三田工業所は、即ち本邦機械設計界の第一人者として自他ともに許す三田繁雄氏の經營するところにして、その傘下には六十名を超える優秀なるデザイナーを擁し、時局以來、不眠不休の努力を以て、擴充に次ぐ擴充の積極策をとりつゝある各重工業會社の機械設計に當つてゐる。當社の手によつて設計された機械の使用先きは、

製鋼會社、工作機會社等々、本邦一流大會社の殆ど總てを網羅してゐるのである。

九二

當所は、日本最大の工業都市たる大阪の港區北境川町二丁目にあるが、當所の關係會社は單に大阪市内のみにとどまらず、ほとんど全國的に及んでゐる。今では、我が國の工業會社で三田氏の名を知らぬ者はなく、その名はデザイナーの代名詞として通用するまでに有名になつてゐるが、氏が獨力當所を起し、今日の名聲を獲得するまでの苦心といふものは並大抵のものではなかつたのである。それは如何なる道についてもいへることだが、一道の權威と諷はれ、一藝の達人と稱される人々はすべて多年に亘る努力研究の結果、その高嶺に到達したのであつて、その旺盛な研究慾、強固な意志こそ、凡人と非凡人とを分つものなのである。

氏が今日の大を成したのは、その不斷の努力研究のたまものであるが、また一つにはその謹嚴剛直なる反面に、他人に對してはきき極めて寛容な、而して温情に富んだ人格が依頼筋の信用をかちうるもとなつたと共に、その傘下のデザイナー達を心服せしめ、氏の事業に打算を忘れて協力せしめるもとなつて、當社の信用を増大せしめる因由となつた。この國に物質文明が浸潤するやうになつてからは、事業の成功は資本の力と技術經營の手腕のみによつてもたらされるものだとする傾向が強くなつて來てゐたが、氏の場合を見れば、人權の力も事業の成否を決定する重大な要素となるものであることを知ることが出来る。かくてこそ眞の日本の事業家といふことが出来、吾人の衷心より敬服措かぬ所である。

國策線を往く巨材

株式會社東洋特許品製作所 常務取締役

石原 豪 雄氏

石原豪雄氏は、人も知る如く國産電氣熔接機界の最高峰たる株式會社東洋特許品製作所の常務として才腕を凝はれてゐる、斯界の重鎮である。その性内剛外柔、子夏のいはゆる「之を望めば儼然たり之に即けば溫其言を聽けば厲し」といふ儼、溫、厲を打つて一丸とした君子人であつて、當代業界人中屈指の偉材である。

當社は、東京市城東區龜戸町に本社を有し、横濱市鶴見に子會社たる東洋特許ドラム罐製作所を有つてゐる。その機構は、熔接機部をはじめ、電氣熔接製銀部、チェンブロッツ製作部、電氣熔接、パイプ製作部の各部門に分れてゐるが、その熔接機部の七種の製品は、いづれも特許品であり、實地使用の需要先きから絶對的信用をかち得てゐる。この電氣熔接機は、軍需關係工業をはじめ、あらゆる工業にとつて必要不可欠のもので、今や電氣熔接機製作工業は、世界各國に於いて一大新興工業として革命的な發展を遂げてゐるのであるが、戦時下に於ける我が國では特に重要な工業で、當社の時局に貢獻しつゝある功績は極めて大なるものがある。

なにかんづく、特筆に値することは、當社が電氣熔接工業の發達を促すといふ大乗的な見地から、東京銀座西七丁目電氣熔接學校を設け熟練熔接士の養成に盡力してゐることと、貸機械部を設けて需要者の便宜をはかつてゐることである。この貸機械部のあることが

小工業者及び一般需要者に與へつつある利便は非常なもので、當社の社會奉仕的なこの美譽は絶對的となつてゐるのである。而してこの如き奉仕的諸施設は、全く經營の重衝にあたる首脳部諸氏の奉仕的精神のあらはれにほかならず、特に石原常務の事業界出發の當初からの信條であつた工業報國の赤誠——國家社會の利益を思ふ以外に一點の私心のない赤誠は、ひろく業界の賞美のまとなつてゐるのである。

電氣熔接機の需要は時局以來の軍需工業の股盛に正比例して急激な増加を見たが、この傾向は將來に向つていよいよ増大してゆくのは火を睹るよりも明らかである。何となれば周知の如く今次事變は新東亞建設、大陸經營といふことを最終目的とするものであるがゆゑに、國內諸工業はほとんど無限の將來に亘つて極限なき發展を要望されてゐるのであり、かつ、その國內工業家の活躍舞臺は、廣大なる大陸へ擴がつてゐるのであるからである。當社に於いても、すでに大陸進出の第一歩を踏み出さんとしてゐるが、氣宇豪宕の敏腕家石原氏の眞價はこゝに最高度に發揮されるであらう。

氏は、少年時代から太閤秀吉を敬慕して、將來は海外への發展を希つてゐたといはれるが、その好機は將に到來したのである。蛟龍は雲を得たとでもたとふべきか。その今後の活躍こそ、眞にみるべきものがあらう。しかも、前述の如き儼、溫、厲を打つて一丸とした端尻すべからざる人格の持主である氏は、その部下従業員から異常な尊敬と愛慕を受けてゐる。これ等従業員を手足の如く驅使してひたすら國策線を邁進する姿こそ見物であらう。

千葉財・政界の大御所

葛飾瓦斯株式会社
取締役社長 浮谷権兵衛氏

千葉財界随一の名門として知られる浮谷権兵衛氏は、先代権兵衛氏の長男にして、明治十一年二月を以て生れたが、先代逝去のあとを受けて、十七代権兵衛を襲名した。名門の血を受けた氏は幼少より頭腦明晰にして才氣煥發、すこぶる公共の精神に富んでゐたが、明治法律學校を卒業後、あるひは町會(市川市の前身)議員として、或ひは郡會議員として、又或ひは縣會議員として郷土の發展に資すること多大、縣會議長としては全國的に名議長の名を謳はれたのである。

而して、その一方に於いて當社をはじめ、市川土地興業株式會社社長、東京コーパス株式會社取締役等々として實業界に活躍、往くとして可ならざるなき才腕を謳はれてゐるのである。特に、當葛飾瓦斯株式會社は、今日、關東一の地方瓦斯會社として斯界に君臨してゐるが、當社をこゝまでに盛り立てたのは一に氏の才腕によるのであつて、その非凡なる經營手腕はあまねく天下に喧傳されてゐるところである。

氏は、又市川市外一市四ヶ町村耕地整理組合長、所得税相續稅調査委員、一府六縣利根川治水協會千葉支部長、千葉縣耕地組合副會長、帝國耕地協會千葉縣代議員等々の公職にあつて、統後強化に全力を傾けつゝしてゐるが、斯く公共の爲め、國家の爲め、寧日なき

努力をつゞける氏の赤誠には敬服のほかはないのである。

九四

されば、同地方民の氏の徳を敬慕することは非常なるもので、千葉縣發展の恩人として、その功績を口々に贊へてゐるのである。論語に政を爲すに徳を以てす、たとへば北辰の其の所に於て衆星の之に向ふが如しとあるが、氏がこの衆星をあつめてゐるのもその徳の力であつて、氏も亦君子の質たるを失はないものである。

氏は斯く、政界、財界、實業界の指導者として功績普漫たる一面に篤行の人として知られ、その社會事業に貢献せる功績は枚擧げいとまがない。而してまた氏は、後進の指導誘掖といふことについても大いに心を用ひ、有爲の人材をして世に出でしめる爲には、精神、物質の兩方面からの助力を惜しまず、現に、氏の推挽によつて各方面の第一線に活躍してゐる人材は多數にのぼつてゐるが、これ等の人々の氏を徳とし仰慕することは非常なるものである。

又、時局以來は生産力擴充の國策に應じて躍進しつゝある千葉實業界の指導に全力を注ぐ一方、出征遺家族の保護、慰安に最善をつくし、多大の感謝を受けてゐる。正に、統後を護る財界人中の模範的偉材と稱すべきであらう。一般に名門に生れた者は何程の才もなくても相當の地位に就けるものやうに思はれてゐるが、氏の場合には以上説き來たつた所によつても明らかならず、全く氏の實力によつて、その徳の力によつて今日の地位と信望を勝ち得たのであり、同地方民の間で浮谷家中興の祖といはれてゐるのも決して故なきではない。尙、現市川市長浮谷竹次郎は、氏の令弟であり、兄弟揃つて、名門の俊材のほまれを謳はれてゐるのである。

國策線上を往く驍將

株式會社三榮商店
取締役社長 山本東治氏

北海道財界一方の重鎮にして、北海道重工業界の第一人者たる山本東治氏は、重工業報國の赤誠を以て株式會社三榮商店を統率し、多年北海道重工業界の爲め、萬丈の氣焰を吐いて來たが、支那事變の勃發とともに、斯業の使命の重大性を加へ來たるや、かねての信條を實踐して、國恩に報ずるのはこの時であると許り、もの凄程の緊張をもつて、擴張に擴張を重ね、時局の要望に答へて來たのであつた。即ち事變勃發の直後たる昭和十二年九月には、當三榮商店三榮精機製作所は一舉百萬圓に増資を敢行、精機部門の擴充整備をはかると共に、同年十二月には、三榮製鋼所を新設、製鋼業へ堂々の進出を開始したのである。

而して、遠大な志の持主である氏は、この擴張によつて國內の需要に答へるとともに、更に滿洲國、北支方面への進出を行ひ、以て大陸經營の大國策に順應せんと企圖し、昨春、約二ヶ月に亘つて現地視察をなし、同五月、大連の進和商會と代理契約を締結、こゝに大陸進出の第二步を踏み出したのである。その志の大なる、まさに後進の模範とするに足るものがある。

而して、この大陸への本格的進出に備へて、生産擴張のため、敷地三千百坪、建坪千七百坪の老なる第二機械工場を建設、すでに完了操業中であり、更に、市外朝里村に買収済であつた廣茫實に二

萬七千六百坪の地に第一期計劃として、約三千坪の分工場の建設に着手したのである。これは間もなく竣工の豫定だが、これが完成と相まつて、天神町の三榮製鋼所を移轉し、鑄鋼、鑄造の二工場として原料の自給自足、即ち一貫作業を強化するわけである。これと同時に鍛造工場も移轉するが、そのあとは大型機械工場として轉用するといはれる。

斯くの如く、當社の發展ぶりは驚異の二字に値するものがあるが氏の所期する如く、大陸への本格的進出が實現するとともに、當社の業績はいよゝ／＼向上發展の一途をたどるであらうことは想像にたかない。その時は目前にある。而して、氏の眞價はます／＼光を放つて發揮されるのである。

氏は、前述の矢繼早な計劃の發表、そしてその實踐といふ事實によつてもうかゞはれるやうに、きはめて進取の氣象に富んだ、果斷の人である。もとより、明智の人だから、その實行の前には慎重にして緻密な熟慮がなされるのはいふまでもないが、その計劃には一つとして狂ひがないのだが、結果に於いて毫末の失敗もないのは當然のことである。この明晰な頭腦と而して旺盛な實行力を持つ氏のごときは、事業家として完璧に近い資格を備へてゐるものといふことが出来る。興亞の大使命を擔つて立つた我が國が明智にしてかつ果斷な、實行力に富んだ人材の活躍をまつことは、きはめて切實なものがある。氏は決してこの國家の要望と、國民の期待を裏切るやうなことはないであらう。吾人は衷心より氏の自愛健闘を願ふものである。

直方工業界の父

合資會社飯野鐵工場 飯野憲一郎氏

戦時下にあつて、國防經濟の強化、生産力の擴充が國策的要求として極度の關心をあつてゐる折柄、その根幹として何よりもまづ天産資源の開発と利用厚生が焦眉の急務とされてゐることはいふまでもない。されば、礦物の増産促進の爲めに舉國的努力が傾倒されてゐるわけだが、この鑛業の生産力擴充にとつて不可欠のものたる鑛山機械工業者の使命が、それに正比例的に増大して來てゐるのもまた當然のことである。

斯業の先覺者として知られる我が飯野憲一郎氏のひきゐる飯野鐵工場がその長い歴史を通じて、その所在地直方市を中心とする筑豊炭坑界に寄與した功績は甚大なものがあるが、特に時局以來自社に於いてはもとより直方市をはじめ、飯塚、若松等筑豊炭坑界近傍所在地の同業者の自覺を促し、筑豊炭坑界の鑛山機械地元供給を目標としてめざましい活躍をなし、擴張に次ぐ擴張を以てすばらしい成績をあげてゐるのである。

氏が、直方市に當社を起したのは實に明治三十年四月のことであつた。由來、鑛山用機械は他の諸部門と、同様に、久しい間海外よりの輸入に待つてゐたもので、それが國産が行はれるやうになつてからも、他の工業都市に於いて製作され、筑豊炭坑界をはじめ九州の鑛山界はすべて、他都市よりその供給を仰いでをり、當社でも亦

多年、局部修理、部分品製作に甘んじてをつたのである。

九六

然し、郷土の發展を願ふ心厚き氏はこの状態を以て何時までも満足することはなかつた。近くに日本最大の鑛業地帯を持ち、需要地を持ちながら、この鑛山用機械の製作を他都市に委ねて、恬然としてゐることは九州工業人の恥辱でもあり、經濟的に不合理も甚だしいことであるとの見地から、衆望をになつて直方機械組合の理事長の椅子に就くに及んで同志に呼びかけ、地元供給の實を興げべく猛運動を起し、つひにこれに成功したのであつた。

されば、今や直方市は鑛業の中心都市であると同時に、工業都市としての名實を具備し、事變下の鑛業生産力の擴充に遺憾なき活動をなしてゐるのであるが、この端緒を作つた最大の功勞者として、今や氏は鑛、工業をはじめ地元民全般の絶大な感謝と尊敬のまとなつてゐるのである。

しかも、謙讓の美德を備へた氏は些かも自身の功を誇る色なく、たゞ機械報國、ひいては鑛業報國の赤誠にもとづいて、斯業の發展につとめてゐるのである。又特に注目し値するのは、氏の主宰する飯野鐵工場に於いては勞資間の協調が純日本式の大家族主義をもつて、圓滿なる結果を見せてゐることで、全従業員が氏を慈父の如く敬慕しその採配のもとに一糸亂れざる統制をもつて、孜孜として業務にいそしんでゐる姿は、見た目にも心樂しいものがある。同工場が、縣下の模範工場といはれてゐるのも亦故なきことではない。長期戦下に於いて、斯業の使命ますます重きを加へんとする時氏の今後一段の努力精進を願つてやまないものである。

北海道産業界の推進勢力

株式會社北門銀行 壹岐隼太氏

今日の經濟制度下に於いては金融界と産業界はあたかも主従の如き關係にあり、金融界の協力なしには各産業部門は所期の活動をなし得ぬ現況である。されば、如何なる地方に於いても、産業諸部門が今日の殷盛を招來するに至つたのは、當該地方の金融界にたゞさはる人々のよき協力があつたからにほかならない。なかんづく、明治以來、新拓殖地として發展して來た北海道の産業界が今日の如き隆盛を見るに至つたその蔭に、本道金融界の鍵を握る人々の絶大な貢獻のあつたことを忘れてはならないのである。その本道金融人中の逸材として令名あまねき人に、我が壹岐隼太氏のあることを知らぬ者はあるまい。

壹岐氏は、本道銀行中の異彩として知られる當北門銀行の頭取として、本道産業界の發達に多大の貢獻をなして來たばかりではなく北海道拓殖鐵道の重役にして、又旭川電氣の重役でもあり、それ等の諸事業を通じて本道の産業文化の進展に貢獻して來た功績はまことに絶大なるものがある。

氏は、鹿兒島縣人壹岐隼太氏の二男として明治十八年十二月を以て生れ、大正三年家督を相続したが、少年時代から頗る進取向上の精神に富み、周囲の期待を一身にあつてゐたのであつた。明治四十二年、山口高商を卒業後實業界に雄飛のスタートを切つた氏は、

當時に於いて日本の北の生命線として、その拓殖事業を焦眉の急務とされてゐた北海道の産業開發に貢獻すべく決意するに至り、爾來天性非凡の才幹と烈々たる行動精神を武器として直住邁進し、本道拓殖史上に不滅の足跡を遺すとともに本道財界の重鎮たる榮位をかち得るに至つたのである。

しかも、その人格高潔にして識見また高邁、公共精神に富んだ人なので道民の氏を尊崇することは非常なものであり、氏のこの功績を識る道民の家庭にあつては、子女教育の活模範として氏の半生の足跡を語り聞かせてゐるといふ。洵に以て宣なる哉また才腕、徳望兼備の偉材として、たんに本道財界のみならず、廣く全國的にその功績を顯彰せらるべきものと信ずる。

當北門銀行は北海道拓殖銀行を背景とし、北海道廳本金庫として一般金融業務を營んでゐるが、昭和五年、氏が頭取に就任して以來の活躍は特に見るべきものがあり、なかんづく、時局以來、本道を中心とする北洋水産業の使命がにはかに重きを加へるに至つたと共に、鑛工業及び木材業等の時局産業が生産力擴充の國策に照應して未曾有の飛躍發展を遂げるに及び、氏は金融報國の一大信念のもとに才腕を縱横に驅使して多大の功績を記録したのである。

氏は、國際政局から、國內政治經濟の動向について常に深甚の注意を怠らず、しかもその明敏な頭腦による判断はつねに正鵠にして時局照應の處置をとり、つねに偉功を納めて來たのであつて適材適所とは氏の金融界に於ける地位の如きをいふものにほかならない。洵に氏は北海道産業界の推進勢力と言ふべきである。

發明報國に邁進の偉材

岡本鐵工所主 岡本彌三郎氏

和歌山市外御膳松に岡本鐵工所を営む岡本彌三郎氏は、紀州——和歌山が全日本工業界にほこる發明王である。過去十數年間に氏によつて發明せられ世に送られた發明品は、既特權として登録せられたもののみでも十件以上のほり、我が國産業文化の進展に貢献した功績はまことに甚大なるものである。

「天才は造物主の人類に對する最の贈り物である」とはよくいはれるところだが、まことにその通りである。我々人類が今日の文明の恩恵に浴してゐるのも、自然の恵みを最高度に利用する道を發見發明した幾多の天才の頭腦のおかげによるものであり、我々人類のつねにその恩恵に對する感謝を忘れてはならないところである。

我が岡本彌三郎氏も近代日本の生める天才の一人であつて、國民の名に於いて世界に誇るべき人である。近代生活は、文明の高度の發達によつて、きはめて高い分化が行はれ、専門化せられた爲めに専門以外のことに對しては智識が薄く、従つて一般人はたとへば工業界に如何なる發明家がをり、功勞者が居るかといふことは全く知らずにあるが、これは決して喜ぶべき現象ではなく、天才的發明家功勞者に對しては國民の名に於て感謝すべきものであつて、吾人はこの見地から機會ある毎に、一般に知られざる發明家や功勞者の功績を顯揚して、以て一般人の認識を求めてゐるのである。

築爐工業の權威者

大阪築爐工業所主 山口嘉藏氏

大阪築爐工業所は、本邦築爐工業界の權威者として、その需要先たる全國高熱工業會社ともより、多少とも斯業に關心を持つ者の誰知らぬもののない我が山口嘉藏氏が、昨十三年四月、多年、勤続して多大の貢獻をなして來た藤田鐵工所を退所、獨立して創業した斯業の新銳會社である。

事實、氏が、これまで藤田工業所の爲めに盡して來た功績は極めて甚大なるものがあるが、この間、不撓不屈の努力研究の結果、つひに築爐界の最大權威として認められるまでの實力を得るに至つたのである。されば藤田工業所在社當時から、すでに「築爐の山口」の名はその顧客方面に喧傳せられてつたのであつて、かねての氏の所願たる「築爐報國」の赤誠を、もつとも端的に現はす爲めに獨立するに如かずとの考へから、昨春、獨力を以て當大阪築爐工業所を起すや、氏の實力を知る顧客筋はこぞつて氏の前途を祝福、創業日成らずして注文殺到の好況を見るに至つたのである。

すなはち、氏は、營業所を大阪市北區梅ヶ枝町梅ヶ枝ビル内に、工場を同市旭區放出町に置いて、着々業績の發展に努力してゐるがその主流事業たる築爐一切は斯業の専門工場として知られてゐる元藤田鐵工所專屬の生駒工業所と合併したもので、創業後、須臾にして素晴らしい成績をあげ、一年餘の今日では、當所は早くも斯業の重

岡本氏の數ある發明中、最近の發明になるものについていへば、今や、各工業部門の壓倒的賞讃を博してゐるベルト安全休止機がそれである。これは、氏の多年苦心研究の結晶になるものだが、その卓れた性能は各工場の能率増進に偉効を發揮し、事變下に於いて生産能力倍大運動をつやけてゐる各方面の壓倒的な支持を受けてゐるのである。

氏は、本年五十七才であるが、その體力、意力ともに豊饒として青年を思はせるものがある。これは天才の特徴であるところの旺盛な生命力を意味するものにほかならないが、その少年時代を聞くに梅檀は双葉より香ばしのたとへに洩れず、頭腦明晰にして才氣煥發神童のほまれ高く、郷黨の期待を一身にあつてゐたといふ。而して、獨立自尊の念強く、きはめて研究心に富んでゐた氏は、そのすぐれた技術を武器として現在の地に常所を興すとともに、何もものも焼きつくさねばやまぬ底の強固な意志を持つて發明に没頭し、その結果は多くの新發明品を生み出して、今日の不動の地位と信用とを築き上げたのである。

氏は、技術家にふさはしく、謹直にして敦厚な人格の持主である。この人格を慕ふ従業員は氏の下に働くことを誇りとし満足として、あたかも自家の家業にいそむやうな嬉々たる態度をもつて作業にいそんでゐるので、業績はすばらしく活況を呈し、縣下の模範工場と評判されてゐるのである。吾人はこゝに氏の功績を記録し顯彰するにあつて、今後一層の努力を以て我が工業界の發達に貢献されんことを切願してやまないのである。

要なる地位を獲得するに至つた。

その營業科目は、築爐工事一般請負、設計、製圖、各種燃機機販賣、各種耐火煉瓦販賣、鐵切斷用諸機械販賣であるが、創業當初、各方面に送つた挨拶状の中に「優良、安價、親切の三ヶ條を當所不動のモットーとなし……」云々とあつたが、この三ヶ條は確實に實踐され「さすがは築爐の權威、山口氏の仕事だ……」と各方面の讚嘆を浴びてゐる。

「優良、安價、親切」この三ヶ條のモットーは、格別目新しいものではなく、また當所に特別なモットーでもないが、當所の他に誇るところはこの三ヶ條を確實に實踐するところにある。この三ヶ條のモットーは他の會社工場にもみることが出来るが、このモットーを實踐してゐる會社、工場は少い。我々は、優良を看板にしてゐる工場の製品が如何に劣悪であり、親切を標語としてゐる工場の態度が如何に不親切極まるものであるか、その例を數多く知つてゐる。論語にもあるやうに「言ふは易く行ふは難い」孔子は、言行一致を以て君子人としてゐるが、これ等の事實からも、吾人は眞の君子人の如何に渺いかを知るのである。

氏は、即ち、言行一致の君子人であつて、この標語についてのみでなく、言つたことは必ず實行し、信義を尊ぶ當代稀にみる紳士なのである。當所が創業間もなくして今日の殷盛を見るに至つたのは、氏の前述の卓越した技術的手腕と、この人格上の美點に對して、顧客筋の絶對的な信頼があるからである。この支持の上に立つ氏の前途は誠に祝福されたりといはねばならぬ。

獨力成功の偉材

椿本チエイン製作所主 椿本 本 説 三 氏

事業成功三要素として挙げられるものは資本とその事業の将来性とその経営の衝にあたる人材の三つである。而してこの三つの内で根本的なるものといふ意味に於いて最も重要なのは人材であらう。近代の経営機構に於いては資本が事業成功にもつとも重要な要素とされてゐるが、吾人をしていはしむれば、最重要なものは人であつて、その人にして傑れた手腕の持主であるならば、資本は求めずして集まつて来るのであり、また、一の資本をも十の力に活用することさへも可能なのである。

吾人は、その活例を、今日、チエイン製作界の太陽的存在として仰がれてゐる椿本説三氏に見ることが出来る。氏こそはその天才的経営手腕をもつて、技術至難とされるチエイン製作の技術界の第一人者と謳はれ、その事業規模に於いて本邦の最高峰と讃へられる椿本チエイン製作所の今日の大を築き上げた人なのである。

氏は大阪の出身で、明治二十三年三月、椿本説應氏の二男として呱呱の聲をあげ、明治四十二年神戸商大を抜群の成績を以て卒業した。學生時代から、頭腦明敏の秀才のほまれ高く、その大成を期待されてゐたのであつたが、確實な見透しと緻密な計劃のもとに、いよくチエイン及び、機械器具、電気材料の製作販賣に着手することを決意して、當社を創立したのが大正六年氏が二十八才の時のことであつた。

とであつた。

爾來、今日に至る二十餘年間の努力は眞に超人的なるものあり、その天才的頭腦によつて続けられた研究の結果は技術的に高度の發展を遂げて、つひに海軍省指定工場たるの榮譽を獲得するに至つたのである。これより、氏はこの名譽に感激すると共に、その責任の重大なるを自覺して一層努力研究をつゞけた結果、つひに今日の隆盛を見るに至つたのである。

これを要するに、氏は氏一個の力をもつて今日の大を成し上げたものであつて、氏の如き傑れた才腕の持主の前にも早資本の力などは微々たるものといはねばならない。吾人が事業の成否を決定するのは、その經營者の才腕如何にあるとの感を強くするのはこの爲にほかならない。當社は、大阪市東淀川區南濱町にあり、各種チエインを主流製作品として時局の要求に答へてゐるが、その主なるものをあげると、輸送機用RFブツシユド・ローラー・チエイン及び鎖車、標準型ブツシユド・ローラー・チエイン(FS型エキスト)及び鎖車、大荷重捲上型SD型スチール・チエイン等、その代表的なものである。

而して、前述の事業成功の根幹は經營者の人材にあるといふことに關聯して、吾人は事業の成功の鍵は「人の和」を得ることにあるといつた先人の言葉を想起するが、自らにして備はる氏の人徳は従業員の一一致の推服のまこととなり、勞資協調の美しい社風を作り上げて、全員一致攸々として業務にいそしんでゐる様は他の美望のまこととなつてゐるところである。

本邦斯界の新鋭

青木化学製油株式会社 取締役社長 青木 定 治 氏

青木定治氏は、化学製油製藥界の權威として、わが國化学工業界に特異なる地位を占める才德兼備の敏腕家である。

氏は、多年、青木化学製油所を經營、セイカフロート、ザンセイト各種、パインオイル類、鍍山用油脂藥品を主流製品として斯界に活躍、そのすぐれた技術と旺盛なる研究心をもつて製法技術その他に幾多の革新的改良をなし、斯業の發展に多大の貢獻をなして來たが、事變以來、需要の急増によつて、組織の擴大、工場設備の擴充を促され、昨年、株式組織に改め、青木化学製油株式會社の名のもとに新出發をなし、今や、戦時下工業界一方の驍將として、國策協力の第一線に活躍してゐるのである。

而して、當社は、事變以來動員契約軍需品製産工場として指定されたが、この事實は何よりも雄辯に、當社製品の優秀性を物語るのであり、同時に、主宰者たる青木社長のすぐれた技術と人格に對する信頼の如何に強くかつ高いかを示すものである。氏が技術界の權威であることはさきに述べたが、その人格は誠實主義の權化ともいふべく、良心的なその製作態度には、絶大な尊敬と然して絶對的な信頼がよせられてゐるのである。

當社は、また、日本製鐵株式會社八幡第二浦製鐵所、住友化学工業株式會社、三井鑛山株式會社、三池染整工業所、三菱商事株式會社

社燃料部、日本電気工業株式會社等、我が國有数の大會社の特約販賣店として活躍してゐるが、これ等大會社とかゝる緊密なる聯繫を持つてゐることも亦、氏に對する前記の信頼を裏書きするものにはかならない。「徳孤ならず必ず隣あり」といふが、まさにその通りである。氏が一代にして今日の大をなした事實も、そのすぐれた人格を思へば決して偶然のことではない。

かく、すぐれた手腕と人格とを有する氏はまた超人的な努力の人である。努力は成功の母であるといはれてゐるが、氏の成功の要因をなしたものはその超人的努力であつた。仕事に對する熱烈な愛情と百折不撓の強固な意力と、そして天才的手腕とをもつて、一身を擲つて當社の發展の爲、斯業の向上發達の爲めにつくして來たのである。この努力家に、前記の如き各方面の絶對的信頼と後援がありその上に従業員一致の協力があつたのだから大成しないといふ筈はない。この従業員一致の協力といふことは事業成功に缺くべからざるものだが、當社の従業員は、さながら氏を慈父の如く敬慕し、自家の事業に出精するが如き態度で、おの／＼の業務に精勵してゐるのである。これは氏の經營方針たる家族主義によるのであり、理解と温情に富んだ待遇の當然の反映なのである。まことに氏の如きこそ、模範的事業家といふべきであらう。

當社は、現に、大阪市港區南境川町に本社を同市西淀川區佃町に營業所を持つてゐるほか、京城市永樂町に朝鮮出張所を有し、軍需關係品の製産に主力を集注、目醒ましい活躍を續けてゐる。その前途は、氏の前途と共に、洋々たるものがあるのである。

山川プレス製作株式会社 社長 山川重松氏

山川重松氏は信念の人であり、努力の人である。一つの事を成すにあつては慎重熱慮、微に入り細に亘つて考察検討を加へることを怠らないが、その結果、一度、これは正しいとの信念に到達した時には、たとへ、その途行途上に於いて如何なる困難又は障碍に遭遇しても、断然初志を變更せず、不撓不屈の意力を以てこの困難障碍を排除、目的達成に向つて直往邁進するのである。これが、氏の今日の大を成すに至つた最大要因であつて、この點に吾人の學ぶべきものが多々あるのである。

氏が主宰してゐる山川プレス製作株式会社は、現在資本金一百万圓、重壓機、プレス、シャリソグ等を主要製作品とし、斯界に嶄然として抜くことの出来ぬ地位を確保してゐるのであるが、大正元年の創業以來、今日に至るまでの氏の努力は決して生易しいものではなかつた。如何なる事業にしてもさうだが成功への道は決して平々坦々たるものではない。その前進には山あり、川あり、或ひは豺狼にも警ふべき妨害者の出現もあつたのだが、この山を乗り越え、川を渡り越え、豺狼を驅逐して、今日の大を成したものは、實に、前叙の確固不動の信念と、百折不撓の意志とを武器としての不斷の努力があつたからである。

而して、當社の製品には、今日では顧客筋の絶對的な信用が付いてゐるが、これは、その多年の研究によつて、その品質が最高度に改良せられ、業界に比肩するもののない優秀性を持つてゐる爲めである。

あり、又、氏の誠實な性格の自然な流露であるメーカーの良心に對する信頼があるからである。この良心的な製作態度といふことは、メーカーにとつて何よりも大切な資格であつて、いかに技術的に優秀であつても、その製作態度が没良心的であるならば、その多數の製品の中には、不合格品、不適格品が混入してゐるのであつて、主宰者がこのやうな態度の人であつては、決して顧客筋の絶對的な信用などは得られるものではないのである。

「山川プレスの製品なら安心して使へる」といふ、この絶對的な信用を保持しつゝある原因には今一つ見通すことの出来ないものがある。この献身的作業はどこから來てゐるかといふに、社長山川氏に對する絶對的な信頼と尊敬があるからにほかならない。氏は誠實主義の権化ともいふべき、稀にみる至誠至純の人格者だが、従業員に對してはきはめて厚い理解と温情に富んだ態度を以て接してをりかくて、従業員は心からなる信服を勝ち得てゐるのである。まことに、氏は當代の模範的事業家であつて、後進の就いて學ぶべき偉材であると言ふことが出来る。

當社は、大阪府中河内郡加美村旭町に本社があり、第一、第二兩場の敷地合せて實に一萬五千坪の老大な規模をもつて、時局下に活潑な活動を續けてゐるが、時局は今後重壓機、プレス、シャリソグ等に對する需要の増加を示す傾向があるから、斯業の最高峰を占める當社が、今後更に如何なる發展膨脹を遂げるか、豫測したいものがある。洵に山川氏は斯界の動向を牛耳る中心的存在として、その名は永く青史に留めらるべきである。

本邦斯界の重鎮

増成動力工業株式会社 取締役社長 増成萬吉氏

近代の産業、文化は電氣事業によつて起つたといふも過言ではなく、我々が今日享受しつゝある文化の恩恵の大半は電氣事業から直接或ひは間接に受けてゐるのであり、又、戦時下に於いてその使命の増大せる産業界が支障なくその使命を遂行しつゝあるのも亦、電氣事業の協力の賜ものである。斯く重要なものであればこそ、電力の國家管理が行はれるに至つたのであつて、特に生産力擴充下の今時局に於いて、その重要性が加速度に加はつて來つゝあるのはいふまでもない。而して、この電氣電力事業の基礎的工業たる火力發電所設計、建設工事を擔當する増成動力工業株式會社の使命もまた重大なるものがあり、當社は時局以來、斯業のエキスパートたる増成社長の統率下にめざましい躍進を遂げ、もつて斯業に絶大な貢獻をなしたつたのである。

そも、増成社長は、廣島縣人増成岩輔氏の長男にして、明治十三年十二月を以て生れたが、幼少より頭腦明晰にして、然も殊更に科學に深い造詣を有してゐた氏は、断然技術家となつて國家に貢獻すべく決意し、海軍技工養成所に入つて學び、爾來、大阪安治川、共進鐵工所、工場長、海軍工廠、大阪電氣局各技手、大阪堺電軌各技師、東邦電氣建設課長、大阪市電氣局技師、同建設部長に歴任その間に修得した優秀な技術を武器として大正十三年に至り大阪に

當社を起したのであつた。

當社を起した時は、氏は、四十五才の少壯であつたが、明治十九年以來斯業に就いて修めた貴重な體験と技術とは熾然たる光を放つて業績は月に年に向進發展の一途をたどり、つひに今日の大を成すに至つたのである。

當社の營業種目は、汽機、汽鍋、その他原動機類据付工事請負又は監督、自家發電計劃、研究、設計及び同上關係工事材料機械器具販賣、發電所關係建築並に電氣設備工事、高溫、高壓、パイピング設計製作、運炭、灰出装設計製作、發電所附屬裝置設計製作、中古汽機汽鍋の賣買その他關係事業投資等の廣汎に亘つてゐるが、本社を大阪市西區江戸橋の日本海上ビル内に、東京支店を東京丸ノ内海上ビル内に置き八幡市に九州出張所を、臺灣に臺灣出張所を置いて全國的に活躍してゐるほか、滿洲及び北支に進出、大陸經營の推進力の役割を果してゐるのである。

即ち、滿洲國では新京に支店を、大連に出張所を置いて滿洲國の經濟開發に絶大な貢獻をなしつゝあり、北支においては、天津に出張所を置くほか、青島、張家口に假出張所を置いて、いまや全北支に亘つてめざましい活躍をなしつゝあるのである。今や、我が國百年の大計たる大陸經營は、いよ／＼本格的段階にはいらうとしてゐるが、此時にあたり、今後當社の活躍に俟つところは極めて多い。氏もその全力を傾けて國策に協力せんと誓ひ努力を傾注してゐるのであつて、吾人の感激にたえない所である。洵に氏は本邦斯界の重鎮として、その名は永く青史に記録せらるべきである。

至純至誠の人格者

株式會社笹村製綱所 笹村竹造氏
取締役 社長

「事業は人である」といふ言葉は二様の意味を持つてゐる。即ち一は、事業の根幹を成すものは人であるといふことであり、他は、事業はその經營者の人格の表現であるといふことである。資本主義時代にはいつてから、人間の力は魔力を持つ資本のかけにかくれてしまい、資本のみが事業の興廢を決定するものであるかのやうな印象を與へるやうになつて來たが、その資本も資本單獨では死物である。何等の力を發揮し得るものではない。これに力を與へ、その力を發揮させるのは人なのであつて、その人の手腕如何によつて資本は如何なる働きをもするものである。されば、事業の興廢を決定するものは實にそれが經營にあたる人の手腕如何によるものであつて資本は單にその武器の役目を果たすにすぎない——といふのが、事業は人であるといふ言葉の持つてゐる一つの内容である。

而して、もう一つの意味——事業は經營者の人格の表現であるといふのは、前者が經營者の手腕とか力量とかをいつたものであるに對して、その精神的方面をいつたもので、東洋の君子國たる日本の事業家には特に重視されねばならない事柄である。孔子は「利義に合せざればとらず」といつてゐるが、利益の爲には手段方法を選ばぬといふが如きは日本の事業家のとるべからざること、義——いはゆる商業道德は飽く迄これを守らなければならない。經營者の人

格は直ちに事業の上にはあらはれるものであり、低劣悪辣な人格の待主は世間の指彈を買ひ、決して成功を勝ち得ることが出来るものではないといふ意味を含んでゐるのである。

前置が長くなつたが、筆者が「事業は人である」といふことについての特見を述べたのは、常笹村製綱所の社長たる笹村竹造氏について、技と心、手腕と人格の渾然たる一致を見たが爲にほかならぬ。氏は、和歌山縣の人辻忠左衛門氏の二男で、明治九年一月を以て生れ、先代竹造氏の養子となつたもので、先代の逝去後斯業たる棕桐製品商を繼承、後、現業を創めたのであるが、そのすぐれた經營手腕と篤實敦厚なる人格から出發した誠實主義經營法によつて着々販路を擴張、顧客の信用を高め、つひに今日の確固不動の信用を保持するに至つたのである。その業務に於ける信用は、海軍省指定工場たる榮譽が何よりも雄辯に證明してゐるが、又その顧客の間に「笹村の製品なら安心して使へる」といふ定評がある事が、氏の至誠至純の人格とその卓越した技術とを裏書きしてゐるのである。この定評こそは、その技術に對する信用とともに經營者の人格に對する絶對的な信頼があつて始めて生れるものであつて、吾人は今更の如く事業は人であるといふことを痛感するのである。

而して、時局以來、當社の發展には見るべきものがあり、昨年来大阪府下三島郡三宅村に建設中の第一、第二の新工場も完成して、全能力をあげもつばら我無敵海軍の需要に應へつゝあるのである。その工場設備の優秀なるはいふまでもないが、食堂社宅の社員従業員の福利的施設も完備同業中の理想工場として知られてゐる。

本邦斯界の新鋭

佐野安船渠所主 佐野川谷安太郎氏

四方を海に圍繞された我が國に於いては、造船業者の使命は、平時に於いてもきはめて、重大なものだが、ことに戦時下の今日、その使命の重大さは平時の二倍、三倍、否数字にあらはせぬ程、無上の重大さを加へて來てゐるのである。しかも、今次の聖戦は新東亞の建設といふ天の使命を帯びたものであるから、たとへ、軍事行動が今後數年にして終熄するやうなことがあると假定しても、造船業の使命の重大さは少しも緩和されることはないのである。されば、今日の状態はほとんど永久的に繼續されるものと考へてよく、造船業者は國策遂行の第一線選手として、造船報國の赤誠に燃えつゝ大童の活動を續けてゐるのである。

洪都大阪の住吉區北加賀屋町にある佐野安船渠は、斯界の重鎮として知られる佐野川谷安太郎氏の經營するところにして、各種船舶建造並に修繕船舶用諸機械の製造修繕のほか、船渠、一般鐵工業をも營んでをり、事變以來、設備の擴張改善をはかり、めざましい活躍をつとめてゐる。その乾船渠は、長さ三百三十呎、渠口幅五十呎、盤木上深十五呎で、浮船渠は長さ百六十呎、幅四十五呎、盤木上高十四呎、船臺の最大能力二千噸の規模を持つてゐる。

氏が、當所を起したのは、氏の少年時代からの念願であつた「造船報國」の至誠からである、氏は幼少よりきはめて進取の氣象に富

み、烈々たる氣魄の持主であつたが、小學生時代地理を學んで、日本が四面海にとりかこまれてをり、將來、日本が國際的に雄飛し世界に君臨せんが爲めには、造船事業の發達に俟たなければならぬと考へるやうになり、いつしか、自分も將來、斯業に入つて、國家に貢獻しようとの確い決意を持つやうになつたのである。この少年時代の志は、つひに今日に及んで實を結んだわけだが、當所が、幾多の大資本會社に伍して、寸毫も遜色のない活動を續けてゐるのは實に、氏にこの烈々たる信念があるからにほかならない。

氏は、つねに後進に向つて「成功を願ふならば志を大きく持たなければならぬ。そして、その志す道が何であるにせよ、必ず國家社會の利益をはかることを主眼として努力すべきで、私利私慾を思ふやうでは決して大成は出來ない」と説いてゐると傳へられるが、誠に味ふべき至言である。而して氏は従業員に對しても、常に造船業の使命の如何に重大であるかを説き自己の最善をつくして業務に従ひ、以つて國家に報恩すべきであると論じてゐる。従業員もまた氏の偉大な徳の教化を受け氏の訓へを守つて、心から仕事を樂しむつゝ、各々の持場に最善をつくして當つてゐるのである。

この主宰者とこの従業員の一致協力があればこそ、當社は創業以來、幾多の障碍にも挫折せずして今日の大成を遂げ、この空前の非常時に際して多大の貢獻をなしたのである。吾人は、こゝに氏の徳を讃へ、當社の前途を祝福するとともに、氏が今後一層の努力を以て、國家の要求と國民の期待に應へられんことを切望してやまないものである。

窯業界を率ゐる敏腕家

美濃窯業株式会社
取締役社長 近藤 匡文氏

今や、我が國の耐火煉瓦は未曾有の黄金時代を現出してゐる。即ち、耐火煉瓦は、製鐵、製鋼、化學工業、セメントをはじめとして高熱工業にとつて不可欠のものであり。それ等諸工業の基礎的工業であつて、前記の諸工業が生産力の擴充を促されるに至るや、それに先行する耐火煉瓦工業も亦、急躍進を促されるに至つた。

爾來、各耐火煉瓦會社は何れも設備の擴張充實をはかり、もつて増産に次ぐ増産を行ひ時局の要求に答へて來たのであつて、斯業者の功績も亦戦線に戈とる勇士のそれに劣らぬものであるが、それ等多數同業中、その躍進もつとも目醒ましく功績また拔群を以て認められてゐるのは、斯業のエキスパートにしてリーダーたる近藤匡文氏のひきゐる當美濃窯業株式会社である。

當社は、本邦耐火煉瓦界の中樞地たる岐阜縣下土岐郡瑞浪町に本社工場があり、愛知縣下の龜崎港に龜崎工場を持つて、シヤモット蠟石三三番以上三八番の高級品をはじめとして凡ゆる品種の生産にあつてをり、東京日本橋通二丁目大同生命館内に東京支店を置き大阪、名古屋の兩市に出張所を置いて全國的に販賣網を布いてゐるのである。その品質の優秀なことは各方面の折紙付きだが、これは窯業報國をもつて、その経営方針とする近藤氏の指導下に幾多優秀な技術家が不斷の研究をつづけ、八百の従業員が誠實主義をもつて

處世の根本要諦なりと説く近藤社長の論へに従つて、誠實な、良心的態度をもつて製作にあたつてゐるからに他ならない。

そも、近藤氏は岐阜縣人近藤奇文氏の長男にして、明治二十四年五月、呱呱の聲をあげ、同四十二年、名古屋商業を卒業後、實業界に入つたのだが、郷土の發展を願ふ愛郷心と國家の利益に資さんといふ愛國心から當社の経営には全智全能を打ち込んで當つて來たのであつた。併して當社のめざましい發展によつて、その工場所在地たる、瑞浪、龜崎兩地方が受けた經濟的利益は幾干なるかを知らず、兩町とも當社によつて、その今日の殷盛を見るに至つたといつてもよい程である。されば兩地方民の氏を徳とし、感謝尊崇することとは非常なものだが、一方、また時局以來、その適切なる生産力擴充策の實施によつて、製鋼、製鐵化學工業等、時局産業界の發展に寄與した功績も亦甚大なものがあり、各方面の賞讃のまよになつてゐることは、因より當然のことである。

而して、新東亞の建設といふ前古未曾有の大事業を遂行しつづける我が國が、今後尙斯業の協力に俟つところは大きい。されば當社の前途も亦、多事にして多幸なのであるが、その社長に、氏の如き才徳兼備にして且つ澄澗たる行動精神に燃えてゐる少壯を戴いてゐることは、最大の強味であるといはなければならぬ。而して、また興亞の大事業を完成せんが爲には氏の如き前途春秋に富める少壯にこそ、もつとも大きな期待がかけられてゐるのであつて、この見地から、吾人は當社の前途を祝福するにあはせて、氏の今後一段の努力精進を切願せずにはゐられないのである。

鑄造機械製作界の泰斗

鑄物機械製造株式会社
取締役社長 酒井良太郎氏

時局以來、鑄造機械製作界は好況の一途を辿りつゝあり、その使命はいよ／＼重きを加へ來たつてゐるが、この時局の要求により、近來めざましい躍進を遂げて來たのは、本邦鑄造機械製作界のオーソリテイとして自他ともに許す我が酒井良太郎氏の率ゐる鑄物機械製造株式会社である。當社は、斯業に二十七年の經歷を有するエンヂニア出身の氏が、その多年苦心研究の結果なる幾多の專賣特許、實用新案の優秀品と、卓越した技術とをもつて創立し、主宰してゐるもので、我が國の大會社の鑄造工場は、ほとんど當社の手によつて成つたものだといつてもよい程である。

事實、氏は斯界の元祖ともいふべき古い經歷の持主で、S.A.K.A Iのマークは斯界最高のものとして認められてゐる。氏が一技師から出發して今日の大を成したのは、もとより、その天資の非凡なるにもよるが、その不斷の研究、超人的な努力を見通すことは出來ない。いな、寧ろ、その超人的な努力研究によつてのみ今日の大を成し遂げたといふ方が正しいかも知れない。金剛石も磨かなれば光を發せず、名刀も手當てを怠れば鈍刀と化し去る、といはれてゐるやうに、如何な天才も努力がなくては折角の才も發揮することは出來ず凡才以下の一生を送ることになるものだからである。

當社の營業種目は、鑄造工場用諸機械、設備、裝置、工具をはじめ

め多岐に亘つてゐるが、その製品の中には氏の發明、改良になる幾多の特許品新案品が入つてゐる。その一例をあげてみると、酒井式サンド・プラスチック各種、酒井式コンプレッサー・ロータリー・パキニウムポンプ、空氣壓縮機及油分離器、サカキ・ターボプロワー、高度真空掃除機械等、いづれも、專賣特許もしくは實用新案を得てゐるものである。このほか、金屬分析及金相檢鏡、鑄物砂分析及物理試驗等の理化學的檢定をも行つてをり、更に、アルミニウム・マグネシウム合金鑄物をもやつてゐるのである。

今や、當社は、鑄物機械の製造にかけては文字通りの第一人者として重きを成してゐるが、この巔然として抜き得ざる地位を獲得したたのは、一に、我が酒井氏の卓越した技術家的手腕と、その經營の巧みなるによるのである。技術方面に卓越した人や、經營方面に拔群の手腕を持つ者は決してその例に乏しくないが、この兩者二つながらに傑出した人材といふものはさうざらにゐるものではない。氏は實にこの稀にみる偉材の一人である。翻つて思ふに、今次の事變は蔣政權の覆滅によつて終想を告げるものではなく、新東亞の建設といふ大使命のもとに戦はれつゝあるのだから、この大使命が完全果されるまでは、ほとんど半永久的に繼續されるものである。されば當社の事業の如きは今日より寧ろ將來に向けて、一層その使命の重大性が増加してゆくものと覺悟しなければならぬ。この重大な時局にあつて、氏の如き偉材の健在することは、ひとり、當社の爲めばかりでなく、斯業全體の爲め、ひいては國家の爲めにも慶賀にたえないことである。

山林・製材界の王者

小野合名會社 長 小野喜與三氏

上越の山林王として我が國山林業界に名だゝる小野喜與三氏は、徳望一世に高き人格者であり、土地第一の名望家である。その所有にかゝる山林は、坂東太郎の名に高い大利根川の水源、峡谷深き上越國境の群馬縣利根郡水上村大字藤原の原始林高原一帯がそれであつて、廣茫實に六千町歩、小野氏の父祖代々繼承して來たところである。その山林中には、ブナ、楓、枌、檜、杉、桐等の天を摩するが如き巨木大樹が密生し、これを伐採しつくすには百年以上を要するといはれる大資源である。

この資源の伐彩、製材を一貫的に、かつ大規模に開始したのは昭和十年來のことである。即ち、同年、年來の親友たる胎中代議士の應援を得て、水上村大字藤原字横山に、出資金二十萬圓の藤原製材所を創設し、ブナ人工乾燥材をはじめとして建築用材の大量生産にあつたのであるが、その材質の良好なること天下一品で、良貨は悪貨を驅逐するの法則通り、またたくまに本邦製材界を席捲するに至つたのである。

現在、フローリング、曲木用材は一日百坪の生産能力を持ち、ブナ人工乾燥材の産額に於いては全國第二位を占める大製材工場である。創立以來、僅かに四年そこ／＼で、今日のすぐれた業績をあげたのは、もとより天然の恵みによるところ大であるが、その製材

技術が優秀なると。而して小野氏の經營手腕が卓越してゐることを見通すことは出来ない。兵法には、天の時と地の利と人の和を得ること必勝の條件とされてゐるが事業界にあつても、天の恵と地の利と人の和が成功の秘訣である。即ち、當社には、天の恵、地の利ともに備はつてゐる上に、この才徳兼備の敏腕社長あり、下に、社長の手足の如くになつて働く二百餘の従業員の一致協力があるのであつて、これで成功しないといふ道理はないわけである。

このほか、小野氏はその所有地内に於いて、寶川温泉と湯の小屋温泉を經營してゐるが、寶川温泉は、日本武尊が御東征の御際に、御發見遊ばされたといふ由緒ある我が國最古の温泉であつて昔から子供の疳に特効ある名湯として喧傳されて來たものであつた。他方湯の小屋温泉は、工費三十萬圓を以て新館を建築したが、至佛山麓の幽邃の地にあつて温度九十三度といふ高熱温泉であり一分間二十二石を湧出するといはれてゐる。

されば、近時、名士をはじめ郡人士の清遊に訪れるものやうやく繁きを加へ來つたが、郷土の發展を願ふ氏は、更にこの高熱温泉を一里半下方にある、スキーで有名な上野高原に引き湯して、上野原曰樺温泉を建築する計劃を樹て、中央政界諸名士の賛同のもとに大ホテル温泉別荘地の實現に邁進してゐるのである。これが實現の曉には輕井澤を凌駕するに至るものとして、各方面の期待をあつめてゐるが、これらは總て氏の愛郷精神のあらはれに他ならず、地元民から多大の感謝と尊敬を受けてゐるのである。吾人も亦その完成の一日も早からんことを切望してやまない。

工業報國の實踐者

押谷工業株式會社 取締役社長 押谷惣助氏

軍需工業界に異色ある存在として、早くよりその才腕を顯はれてゐた押谷惣助氏の率ゐる押谷工業は、時局以來、フェルト、コルク、パッキング等の製造販賣に、沿凍低温絶縁工事の設計及請負に、また一般商品仲介代理販賣に、活氣横溢、縦横無盡の活動をつやけてゐる。その目醒ましい發展ぶりは、正に驚異に價するものである。

當社は、大阪市西區立賣堀北通五丁目目本社があり、同府下豊能郡庄内に三國工場、岡山縣上道郡三幡港に岡山工場を有ち、東京市京橋區木挽町に東京出張所、吳市堺川通三丁目に吳出張所、佐世保市長尾町に佐世保出張所を置き、陸海軍各工廠への納品として、實に活潑なる活動をつやけてゐる。當社の製品は、白光印のマークによつて斯界に權威ある存在を誇つてゐるが、當社の組織は營業部、工事部、商事部の三部門に分たれ、營業部は自社製品の製造から販賣に當つてゐるのである。

即ち、當社の製品は、羊毛フェルト、牛毛フェルト、各種コルク板、一般ガスケット、各種パッキング、皮革製品、鐵道車輛用品でその納入先は前記の如く、陸海軍各工廠をはじめ、各官廳會社等である。又、工業部では、前記の沿凍低温絶縁工事設計及請負、低温工事材料及加工にあつてゐる。而して、一般商品の仲介、代理販賣にあつてゐる商事部は、中小工業者との共存共榮を念とする押

谷社長の博大な公共精神と、國策への協力を願ふ、その烈々たる工業報國の至誠から、今次事變の勃發とともに新設されたもので、平和産業より軍需工業への轉換希望者の相談相手となつて、その販賣方面を引受け、又工場設備技術共に充分でありながら、納入手續等の煩雜不明、又は地理的不便の爲めに、代理者を必要とする者に代つて納入を引受けてゐるのである。

この商事部の新設以來、當社との提携になつて更生した業者、販路を得た業者は相當の數に及んでゐるが、これ等業者の氏を徳とすることは非常なものである。しかも、たゞ前述の報國の至誠と同胞愛から出發した氏は、些かも自分の功績を誇る色なく、他人の喜びを自分の喜びとし、國家の利益を自己の利益として、日夜孜孜として業務に勵んでゐる謙虛な人格には、自ら頭が下らずにはゐない。又事變以來、自社製品の生産力の擴充をはかる爲め、在來各所に分散してゐたフェルト工場、パッキング工場、工事部工場を、一ヶ所に總括し、統一ある機構の下に充分にその機能を發揮せしめる必要から、前記の地に綜合工場たる三國工場を新設岡山工場も亦設備の充實をはかり、續々殺到する需要に應へてゐるのである。

今や、時局は新たな段階にはいつたが、しかも今次の支那事變は所謂始めなく終りなき戰爭である。この戰爭最終目的たる新東亞の建設が完了するまでは、蔣政機の覆滅する与否とに拘らず何時までも續けらるべきものである。それが爲には、氏の如き達識敏腕の工業家の協力が極めて多い。吾人は、衷心より氏の健康を祈り、併せて今後一層の奮闘を願つてやまぬ。

中國財界の雄

福山商工會議所 頭 坂本政七氏

福山商工會議所頭たる廣島縣多額納稅者坂本政七氏は福山の舊家たる坂本家の當主であり、中國財界に噴々たる英氣を驅はれてゐる偉材であり、同地方の財界を牛耳る指導者である。

氏は、明治十八年十二月、稻岡房三氏の二男として生れたが、幼少より利溍にして麒麟兒の面影のあつた氏は、先代政七氏に乞はれてその養子となつたもので、大正九年、家督を嗣ぐとともに前名琴二を改めて政七を襲名したのであつた。先代の眼鏡に狂ひなく、二十代にして早くもその才腕を中國財界に喧傳されたものだが、先代のあとを受けて家業たる備後織物問屋の經營を繼承するや、その機略縱横の才幹を八方に發揮して業績を擴大するとともに、その事業範圍を擴げ、いまや、共榮社代表取締役たるほか、帝國製紙工業、帝國魚網、廣島乗合自動車、その他諸會社の重役として目醒ましい活躍をなしてゐるほか、福山商會議所として福山商工業者の指導助成につとめてゐるのである。

由來、福山は備後織物の生産集散地として發展して來たもので、最近はまだ、この輕工業のほかに重工業工場も興されんとする勢ひにあつて、中國に於ける新興工業都市として更に一新飛躍が期待されてゐる。氏はこの備後織物の中心地にあつて家業たる織物問屋をいとなく、もつて斯業の發達と郷土の發展に貢獻せる功績は甚大な

ものがあるが、更に商議會頭として業者の全面的指導にあたり、その發展に寄與せる功績は筆舌に盡しがたきものがある。

氏はきはめて公共精神に富み、特に商議會頭に就任以來は、すべてを社會公共の利益といふことに重點を於いて決定し、社會公共の利益の爲には一身一社の利益を犠牲にして顧みないといふ高邁な精神を以て事に當つてゐる。その崇高な精神には何人と雖もたゞく敬服のほかはないのである。

氏は、若い時代には、スポーツを愛好し、福山體育會々長として野球、庭球のチームをひきわたすこともあつた。このスポーツマンであるといふことが、氏の如上の性格をもつとも雄辯に物語つてゐるといふことが出來よう。外國の諺にスポーツマンに悪人はゐないといふのがあるが、スポーツマンシップといふ言葉が、明快な、誠實な、そして、互助的な精神の代名詞として使はれてゐるやうに、氏の公共的精神も、またその明朗な性格も、誠實な人格も、氏のスポーツマンであつたといふ一事が何よりも明らかに證明してゐる。

而して、時局以來、銃後産業人——銃後國民の使命の重大さを認識した氏は、廣く福山市民に産業報國の赤誠のもとに團結して奮起するやうに呼びかけ、自ら陣頭に立つて活躍してゐる。由來、福山人は何方かといへば進取の氣象に缺ける所があり、その爲に伸びんとして今一息で伸び得ない傾向があつたが、氏等の指導によつて最近漸次積極性に目覺め、烈しい行動精神をもつて躍進の歩みを續けてゐる。この風潮を來した氏の功績は當市發展史上に燦として永遠にその名を輝やかせるものである。

工作機へ進出の古豪

愛光機械製造株式會社 取締役社長 富田利吉氏

敏腕達識の士として知られる富田利吉氏のひきゐる愛光機械製造株式會社は、創業以來實に二十有六年の長き歴史を通じて、一般農機具及び農用發動機の製作販賣並に修理にたゞさはり「農機の愛光」といへば知らぬものもない斯界のオーソリテイだが、事變以來、工作機の需要が急増するに至り、優秀メーカーとして、その卓越した技術と、良心的な製作態度に無限の信頼をよせられてゐた當社に對しても、工作機への進出を要望する聲が各方面より、熾烈に起るに至つたので、もとより、國家の要求とあれば一身一社の利害を超越してこれを遂行するといふ、烈々たる愛國心の持主である氏は、昨年九月いよ／＼意を決して多年孤守の牙城を出で、工作機製作に乗り出したのである。

もとより、すぐれた見識の持主で、良心的メーカーとして知られた富田氏のことである。いよ／＼、工作機製作へ乗り出すまでには周到な用意と緻密な研究考案を怠らなかつた。よくても悪くてもよい、たゞ工作機の形をしたものを作ればよい、などといふ、不真面目な態度は決して氏の採らぬ所だ。數ヶ月に互つて、優秀な技術家をして、研究に没頭せしめ、試作品の改作を命じ、いよ／＼之でよしとなつて、本格的製作に着手したのだから、その製品の悪からう管はない。たちまちにして「絶對優秀品」との折紙をつけられ今や當

社は工作機界の一勢力となるに至つたのである。

即ち、その出發に際しては、第一、第二工場を整備、まづ、セーバー月産二十臺、ボーリング十臺の製作を開始、その販路としては大阪方面商店と特契を結ぶと共に、新たに名古屋市中區古澤町に營業所を新設し、社長自ら陣頭に立つて采配をふるつたのである。その結果は前記の如くすばらしい反響を呼び、全商車式電動機直結型セーバーの製作をも開始、尙需要に應じきれずに、早くも擴張計劃を樹立中と傳へられてゐる。

時局以來、新たに工作機製造に進出したものも數多くあるが、當社の如く短時間にしてかくも素晴らしい反響を呼び、めざましい發展を遂げた會社はさう多くはない。それによつても、當社のこの成功は單に時の力によるものである許りでなく、富田社長の敏腕と氏に對する従前からの信用が無言の力となつてゐることがわかる。

氏は、たゞに、經營的才幹や、技術家的手腕識見にすぐれてゐる許りではない。さきにもいつたやうに、良心的メーカーとの定評を獲得したそも／＼は、その誠實無比の人格のたまものなのである。まことに、人格の力ほど偉大なものはない「誠實こそ最後の勝利だ」といふが、正にその通りである。

時局の進展に伴つて、いよ／＼工作機の需要は増す一方であり、斯業者の使命は一層重大となつて來てゐる。氏はこのことをよく自覺し、これまで農機報國に打ちこんで來た情熱を工作報國に移し、打ちこんで、揮身の努力を捧ぐべく誓つてゐるが氏の口からこの事を聞くのは、吾人の衷心より心強く思ふところである。

千葉財界の巨星

銚子商工會議所 大里庄治郎氏

千葉縣下最大の商工都市たる銚子市財界隨一の名門の當主にして同市財界、政界の指導的勢力者であり、千葉縣財界の巨星と仰がれてゐる多額納稅者大里庄治郎氏は、本年五十五歳、いよ／＼圓熟味を加へ來たつた才腕を縦横に發揮して、戦時下に於いて益々重大性を加へ來たつた銚子商工界の指導にあたつてゐる。

そも／＼、氏は茨城縣人石橋藤吉氏の二男として明治十八年四月を以て生れ、前名を春吉といつたが、先代庄治郎氏にその英才を望まれて、養子となり、先代のあとを受けて家督を繼ぐとともにその名を襲つたのである。幼少より頭腦明敏、才氣煥發にして學業の成績もつねに拔群であつたが、同四十年、東京高工を卒業後、ミツワ石鹼工場に技師として勤務した經歷を持つてゐる。

氏は、その家業たる大里商店を經營するかたはら、銚子合同運送曉雲閣、銚子瓦斯、銚子鐵道等々、銚子市所在の殆ど總ての有力會社の社長、又は重役として三面六臂の活躍をつゞけてゐるほか、頭書の如く、商工會頭として全商工業者の指導助成にあたり、また銚子信用組合長として、組合員の福利増進につとめ、さらに市會議議長として市政を統べ、市の發展に絶大な貢獻をなして來たのであり、正に氏の生立は當市の發展史とも言へるのである。

その、商工會議所、市會、信用組合……と、銚子市に於ける政治

經濟、産業の三部門の主腦者の椅子を一身に兼ねてゐることによつても、如何に氏が徳望の高い人であるかゞ解るが、その學識教養とも高く、識見また高邁にして、すこぶる公共精神に富んでゐることからすれば、それも決して不思議ではないのである。氏は、國民は各自の才能に應じその全能力を傾注して國家社會に貢獻することが、各人の神聖な義務であり、且つ權利であるといふ信念を持つてゐて、自らこれを實踐すると共にこの信念の鼓吹に勤めてゐるのである。又氏は、性、溫良恭謙讓、孔子のいはゆる君子の資格を完全に備へ、自己の地位や、まして富財に誇る色は毫末もない。されば如何なる點からも一點非の打ち所のない名會頭として、又名議長として名組合長として名譽を博してゐるのである。

當銚子商工會議所は、昭和十一年十二月を以て設立され、翌年三月事務を開始したのであるが、氏は初代會頭として現在に至つたもので、事變下に急速に膨脹發展色をなすに至つた同地方商工業者の利便をはかつて、昨年には商工相談所を開設して諸種の相談に應じしめるなど、適切な施設をなし、千葉縣下唯一の完備した會議所として、各方面の注視をあつめてゐる。

氏は、本年五十五歳、財界人としては今がまさに油の乗り盛りといふべき壯齡であり、その今後には一段の活躍が期待されるのである。戦時下に於いて當地方産業界の使命もまた重かつ大を加へ來たつてゐる時、氏の健在を見ることは國家的な見地からも大いに慶賀すべきことといはねばならない。擲筆にあたつて氏の健康を祈ること切である。

東北工業界の重鎮

株式會社福島製作所 常務取締役 田中元治氏

敏腕を以て東北産業界に鳴る田中元治氏が、その常務としてめざましき活躍をなし、時局に多大の貢獻をしてゐる株式會社福島製作所は、周知の如く東北工業界の最高峰である。そも／＼當社は、大正九年三月、資本金二十萬圓を以て福島市宇曾根田宮ノ内に創業した鑄物工場に出發し、創立直後に見舞つた世界大戰後の財界不況時に際して、幾多の艱難に遭遇しつゝも、社内上下一致の努力によつてこの苦境を突破し、機械、製鐵、電機等の各工場及び電氣工事部を新設、更に逕信省電氣試驗所福島出張所の開設せられるに及んで大正十四年電氣計器調整所を併設するに至つた。

斯く、事業範圍の擴大に伴ひ、社業は逐月向上の一途を辿り社礎はこゝに磐石の如く安定し、昭和八年現在の福島驛前に、敷地四千坪を有する大工場を新築、大擴張を行つた。爾來、滿洲事變を契機とする軍需工業及び一般工業の活況を見るに至つて、陸海軍をはじめ、諸官廳、及び民間化學工業會社の需要利到、しかもその品質の優秀なることは折紙付きで、年一年と飛躍的な發展をつゞけて來たのである。この品質の優秀といふことは競争激甚のこの種の事業會社にあつては生命ともいふべきものだが、當社には獨立した研究部があり、つねに品質の改善向上をはかつてゐるのである。その研究部の成果には多々見るべきものがあるが、なかんづく、人織、人絹

製造機、化學工業機械等は、當社独自のものとして、その優秀なることは、需要先きの定評がある。

この飛躍的發展は、必然的に増資を促し、昭和十一年十月、一躍五倍の一百萬圓に増加したが、支那事變の勃發以來、益々多忙となつた軍需品一般新興化學工業及び東北振興事業關係の受注に對應すべく、生産能力を擴充すると共に、昭和十三年七月、福島電氣製鐵所、福島鐵製品株式會社、福島鐵鋼株式會社の三社を吸收合併し、二百萬圓に倍額増資した。之により當社は、その創業以來の機械鐵工設備と、鑄鋼、製鋼設備の完全なる連鎖に成る一貫作業を確立した譯で、伊達驛前に新設の製鋼工場はすでに昨年九月より作業を開始してゐるに加へて、福島市三河町に二萬坪の敷地を買収し新設中の新工場も、愈々近く完成作業を開始することとなつた。

當社のこの急發展は、もとより時局の影響によるものだが、東北振興株式會社とタイアップしてゐることは當社の他に類のない強味で軍需品、化學工業機械の製作部門により時局に貢獻する一方に此國策會社とのタイアップによつて東北資源開發への協力をなしてゐる當社の前途は、實に洋々として多幸なものがある。

田中氏は、國粹的事業家として夙にその名の聞えた偉材であるが當社の常務に就任以來、「國策への協力」といふことを信條として、文字通り、不眠不休の努力を續けてゐる。氏は、教養高き人格者として、内外の尊敬を一身にあつめてゐる。大陸經營の本格的段階に入ると共に、斯業の使命は一層重大なるものがある時、氏の今後ますます努力奮闘、國策に協力されんことを切願してやまない。

萬人仰望の天才事業家

川南工業株式會社 取締役社長 川南豊作氏

神國日本百年の大計たる興亞の大事業完成の原動力をなすものは實に工業である。近代戦は工業戦だといはれてゐることによつても明らかかなやうに、軍事行動を圓滿に遂行して輝かしい戦果をあげる爲めにも銃後諸工業の協力が何よりも必要なことであるが、特に今次事變は大陸の經營、新東亞の建設を最終目的とし、軍事行動と平行して建設工作が進められるものである以上、その建設面擔當の使命が工業人の上に重加される譯である。

この國策に對する正しい認識に基いて、事變以來の我が工業界の躍進ぶりは眞に目醒ましいものがあるが、就中、少壯氣鋭の巨人川南豊作氏の率ゐる川南工業の躍進振りは驚異に値するものがあり、今や天才川南、風雲見川南の名は業界の話題の中心となり、彼こそ興亞日本の工業界を双肩に擔ふ偉材なりとして、滿天下の期待を一身にあつてゐるのである。

天才川南、風雲見川南、これ等の言葉こそ氏の面目を語りつくして剩すところがない。その生ひ立ちから今日に至るまでの氏の半生史を略記してみると、富山の一家に生れた氏は富山の水産學校を卒業後、青雲の志押へがたく大阪に出で、東洋製鐵株式會社に技術家として入つた。生來向上心に富んでゐた氏は旺盛な研究心をもつて技術の練磨につとめた結果、入社後六ヶ月にして早くも技手補と

なり、一年後には一躍拔擢されて技手となつた。而も向上を求めてやまぬ天才見川南青年はこの小成に心慢することなく、更に研究に研究を重ねた結果、數年にして社内多數の技師となり、入社後五年に滿たずして課長に擧げられ、それより二三年にして米國に出張、先進國の斯業をつぶさに視察研究して歸朝するや、同社の戸畑工場建設の大任を委ねられたのである。

東洋製鐵在社十餘年、不斷の努力精進によつて、完全に斯業のエキスパートとなるに至つた氏は昭和五年に至つて長年の宿志たる獨立を敢行、資本金三萬圓を以て朝鮮の新浦に鑄造工場を起した。これが今日の川南工業の淵源をなすものだが、この資本金三萬圓の會社が、創立後十年に滿たざる今日に於いて、その資本金に於いて正に五百倍の一千五百萬圓の大會社に發展しようとは、當時に於いて恐らく夢にも考へたものはなかつたであらう。

これを以て天才の仕事なりといはずして何をか天才の仕事といひこの躍進をなした氏を一大の風雲兒と言はずして何をか風雲兒といふべきか、吾人は財界人多しといへども、氏の如く短日月に斯る驚異的發展を成し遂げた者のある例を聞かぬのである。

今日、氏の事業は鑄造のほか、時局下重要部門たる造船、造機、水産、肥料、曹達灰、板硝子、炭礦等々の廣汎に亘つてゐるが、興亞の大事業遂行の一大推進力として、氏の前途に全幅の期待をかけるも決して過當の期待ではない。吾人はこの時局に氏の健在することを國家的見地から衷心慶賀してやまないのである。

立志成功の巨材

松本鑄造所主 松本市太郎氏

今や我が國は前古未曾有の大事業を遂行しつつあり、大陸經營の巨歩は一步々着實に踏み進められつゝあるが、この大事業を完成するまでの道中は決して平坦なものではなく、その前途には幾多の困難が横はつてゐることを覺悟しなければならぬ。されば、その大事業遂行の當面の戰士となるべき、工業界の統率者には、不撓不屈の強固な意志と、倦まず飽くことなき旺盛な行動精神の持主が、要求されるは、因より當然のことである。

その要求にもつと適した人材の一人に我が松本市太郎氏があつた。氏は一職工から身を起して今日の大を成した立志傳中の人物であり、史界の一頁に燦として不滅の光りを發するものであるが、その成功を勝ち得るまでの苦闘のあとを見るならば、何人も氏こそ意志の人であり努力の人であるとの感を抱かされずならぬ。

氏は、明治十七年二月、松本孫太郎氏の長男として、石川縣河北郡淺川村に生れた。幼少より、すこぶる進取向上の精神に富んでゐた氏は、青雲の志押へ難く、年少にして笈を負ひ郷關を出でて大阪に現はれたのである。その胸中には、恐らくはかの幕末の志士村松文三の七言絶句「男兒志を立て郷關を出で我が事成らずんば死すとも還らず」この悲壯なる決意があつたことであらう。

爾來、自立獨往、一職から身を起して、今日の大松本鑄造所を起

すまでの苦闘史は、一卷の大著を成すに足るもので、到底こゝには記し切れない。その苦心の結果は、今日の大工場主となると共に、その研究の成果たる「松本式鑄造法」を世界フアドリー工業學界に知らしめるに至り、本邦のみならず世界的な鑄造界の權威となるに至つたのである。

しかも謙讓の美德を備へた氏は今日の大を成すに至つても少しも誇る色なく、對外的にはいふまでもなく、従業員に對してもきはめて謙遜な態度を以て接し、内外の畏敬を一身にあつてゐる。我が國には「實る程頭の下る稻穂かな」といふ格言があつて、眞の大人物は地位が高くなればなる程、謙遜になるもので、これこそ大人物の凡人と異なるゆゑんだとしてあるが、氏を見るに及んで、吾人は一層この感を深めるのである。

當所の營業種目は、電氣溶解による各種重量物乾燥機レトルト、高級定盤平削機、旋盤、特殊人絹機パキユムニード、型クリ盤、瓦斯交換用水盤、船舶及建築用機械の鑄造一式であるが、その鑄造設備、方法は氏獨特の「松本式鑄造法」によつて、その卓越した技術は、各方面の絶對的信賴と支持を受けてゐるのである。

現下の日本産業界は生産力擴充の重要課題のもとに各業者が最善の努力をなしてゐるのだが、その基礎となるものは工作機械であり工作機械の増産と質的向上が焦眉の急務とされてゐる。當松本鑄造所は、この要求を滿たす最有力工場であつて、今や斯業者の關心は氏の一舉手一投足に注がれてゐるのである。氏の今後の一段の努力を願ふ次第である。

福井財界の大立物

敦賀セメント株式会社 熊谷三太郎氏
取締役社長

敦賀工業界の代表的会社にして、時局産業界に至大の貢献をなしてゐる敦賀セメント株式会社を統率してゐるのは、福井財界の大立物であり、本邦土木建築界の重鎮として普くその名を知られてゐる熊谷三太郎氏その人である。

氏の主宰し、關與してゐる事業を數へ上げたら兩手の指を屈しても尙及ばないが、その代表的なもののみをピツクアップしてみても土木建築界にかくれもない熊谷組の社長であり、同じく飛鳥組の顧問であり、又、五十七銀行頭取、福井信託取締役その他福井縣下事業界の有力會社の殆んどすべては氏の主宰し、又は關與してゐるところであり、正に當事業界の指導者である。

しかも、この今日の地位、巨萬の富は實に氏の一代にして、氏一個の力によつて築かれたものであつて、その努力成功の半生史はそのまゝ後進青少年の活模範とするに足るものである。氏は、明治四十年十月の生れだが、少年時代から血のにじむが如き苦闘を續けて來たのであつて、多難の荆棘の道を切り拓き、ついに今日の成功をかち得たのは一にその不撓不屈の意志と倦まず飽かざる努力のためものにほかならない。

斯くの如く、苦闘よく一代の巨人と仰がれるに至つた氏は富みて驕らず、貴きに誇らざる眞の君子人であつて、きはめて博愛心に富

み、貧困階級への寄附をはじめとして、赤十字社の事業や公共施設社事業等に投じた淨財は今日までにすでに數十萬圓の巨額に達してゐる。又、福井市にある有名な飛鳥熊谷報謝財團は氏と氏の永年の盟友飛鳥氏の淨財によつて設立されたもので、貧困兒童の保護農業、漁村公共事業の援助、刑餘者の救護指導にとめてゐる。されば昭和六年には紺綬褒章を下賜せられるの光榮に浴したのであつた又、さきには、縣會議員、市會議員として多年縣及び市の發展に盡力して來たが、今日は政界の第一線から去つて、地方の開發、公共事業及び後進の指導に盡力してゐる。

現に氏は、數々の名譽職に推されてゐるが、それによつても氏の徳望の如何に高いかを知るべきであらう。

當敦賀セメントは、時局下の重要産業として、氏の最近特に力を注いでゐるところだが、その年産十五萬トン、價格二百萬圓に達し北陸一圓から、名古屋、京阪及び中國地方、朝鮮に販路を布いてゐるが、事業以來は、滿洲及び支那へ積極的進出を開始し、すばらしい成績をあげてゐる。當社のもつとも大きな強味は、工場の近くに豊富な原石を持つことと敦賀港による運輸の便を得てゐることであつて、昭和十一年創立といふ、いまだ新興會社乍ら、各地の古業會社を凌ぐ好成績をあげてゐるのも、以上の地の利と天の恵に加へて巨人熊谷氏をその社長に戴いてゐる賜ものである。

氏は、本年六十九才の高齡乍ら尙髮髯壯者を凌ぐものがある、皇國未曾有の躍進期に當面し、統後産業界の使命愈々重大なるの時、氏の自愛健闘を祈ること切である。

誠意誠實の努力家

辻鐵工所社長 辻喜四郎氏

北海道の重工業は、時局以來生産力擴充の國策に順應して目醒ましい發展を遂げ、今や本邦重工業界に不拔の地位を築くに至つた。この本道重工業界の素晴らしい躍進ぶりは、興亞日本の一大推進勢力となるものでまことに慶賀に堪えないことであるが、本道商工界の一大中心地たる小樽市の重工業にあつて、その躍進振り殊に目醒ましく、本道重工業の爲めに萬丈の氣を吐いてゐるものに、立志傳中の人辻喜四郎氏の經營する辻鐵工所がある。

當社は、昭和四年二月、辻氏の手によつて創立されたものであるが、確固たる信念と強固な意志の持主である氏は旺盛な研究心をもつて努力經營をつゞけ創立當初、資本金僅かに二百五十圓程度の市井の一小工場にすぎなかつた當社をして、今日の實際投下資本十萬圓に垂んとする大工場に成し上げたのであつた。その驚異的躍進のあとを見ると、吾人は今更の如く、事業は人であるとの感を深くせざるを得ない。

即ち、當社工場は、はじめ小樽市稻穂町にあつたのだが、昭和十一年九月、現在の同市砂留町に新工場を建設して移り、生々澗洑たる活動をつゞけつゝある所へ、はしなくも今次事變の勃發に遭遇したのであつた。當社の製品は、各種機械、鑄山機械、建築、橋梁、鐵塔、金物、特にトランク火造金物一式の製作にあつてゐるのだ

が、何れも時局下の重要物資であるが爲めに、需要殺到、増産計劃に次ぐ増産計劃をもつてして、尙、需要を消化しえぬ憾みをかこつ盛況を呈してゐるのである。

氏が、今日の大成を遂げるに至つた原因をつぶさに考へてみるにその卓越した技術、經營の手腕を縱横に發揮し、不退轉の意氣をもつて努力をつゞけたことによるのはもとよりだが、そのすぐれた人格の力によつてよく従業員の信望を勝ち得、その献身的な協力を得て來たことを見逃すことは出來ない。

事業成功の基礎は人の和を得ることにあると云はれるが、氏が今日の大成した大きな原因はこの人の和を得て來たことである。人の和を得るといふことはとりもなほさず、従業員が經營者を中心にして一致團結することだが、氏の高潔な人格と温情に富んだ人と爲りが、全従業員の絶對的信服を勝ち得、その團結の力を百パーセントに發揮して今日の大成を遂げたのであつた。

しかも、氏は、今日の成功をもつて安んずることなく、今や全國的風潮となつた工業報國の一大赤誠のもとに業務の進展に努力する一方、所在地小樽の向上發展につとめ、現に市會議員として市政に貢献しつづつあるとともに、機械同業會副會長として小樽鐵工界の指導助成につとめてをり、また郷軍の名譽會員として後進の指導につとめてゐるのである。

されば、今や氏はその従業員からのみならず、一般市民からも絶大な尊敬と感謝を受けてをり、また同業者の敬愛のまとなつてゐる。而してその今後の大成は大いに期待すべきものがある。

電動機界の巨星

株式會社安川電機 製作所代表取締役 安川第五郎氏

一般工業用電動機及びその直接附屬品の製作を主流事業とし、本邦モーター界に萬丈の氣を吐いてゐる八幡市の安川電機製作所は、本邦動力界の最高權威である安川第五郎氏の經營するところであつて、生産力擴充に邁進しつゝある戦時下の工業界に至大の貢献をなしてゐるのである。

氏は、男爵安川敬一郎氏の五男として、明治十九年六月を以て生れた。九州實業界の大立物として知られる松本健次郎氏は即ち氏の令兄であるが、氏は大正元年男爵家から分家した。遺傳と環境に恵まれた氏は、天性の才資を遺憾なく發揮して、明治四十五年、東京帝大工科電氣科を、抜群の成績をもつて卒業した。爾來、實業界にはいつて才腕をふるひつゝ、その専門とするモーターの研究に専念しつゝひに斯業のオーソリティーとして廣く江湖に認容されるに至つたのであつた。昭和五年五月、アメリカに於いて世界動力會議が開催せられた際、氏は日本を代表して出席、その蘊奥を傾けて全世界人の視聽をあつめたことは周知の通りである。

氏は尙、福博電車その他の重役を兼ね九州財界に不拔の地位を持つてゐるが、當安川電機は、八幡市に工場を持ち東京、大阪、名古屋、大連その他各地に營業所を置いて國內はいふまでもなく滿洲、支那方面各地にその優秀な製品を送つてゐる。當社のモーターは前

述のやうに工業用のものを主としてゐるが、その種類は、鑛山、製鐵工作機械、織維工業、化學工業、セメント工業等々、電力を使用する各工業部門に對して、それ／＼最適の型式を完成してをり何れも比肩するものなき優秀性を誇つてゐる。

就中、セメント工業に於ける安川スーパーシンクロナスモーターや、空氣アンモニアガス壓縮機等の往復動機運轉の同期電動機（シンクロナスモーター）等は餘りにも有名で、ことに最近はこの同期電動機を製鐵の壓延に使用し斯業に劃期的な變革をもたらしたのである。又、工作機内にモーターを取入れることに成功、工作機界の懸案であつた單獨運轉方式を確立したのも實に當社であり、現に本邦五大メーカー中の一異彩たる大隈鐵工所の工作機はすべて安川モーターを採用してゐるが、工作機の生産擴充を要求されつゝある時局下に於いて、當社の寄與しつゝある功績はけだし量り知れざるものがある。以上説き來たつた所によつても明らかやうに、當社は技術第一をモットーとしてゐるのだが、これは、實に安川氏の指導方針にもとづくものなのである。

氏は、當業に乗り出して以來、斯業の進歩向上をはかることによつて人類文化に貢献し、國家社會の福祉をはからんとする誠のものと、その傘下に幾多優秀な技術家を集め自身率先指導して製品の改良發明に専念せしめて來たのであつた。

その輝かしい成果が如上の劃期的な新製品となつて現はれ特に生産力擴充の今日、時局に多大の貢献をなしつゝある。其功績は斯業に不滅の光を放つて輝くものである。而してその眞摯にしてかつ熱烈な公共精神は、後進の師表とするに足るものである。

富山産業界の驍將

株式會社本江機械製造所 取締役 社長 蓮沼善之助氏

北陸の工業王國として知られる富山縣の事業界に斷然たる重味を見せてゐる蓮沼善之助氏は、當縣出身の偉材として、郷黨の畏敬を一身にあつめ、郷土の誇りとして縣民から讃へられてゐる人である。しかも、氏は、明治二十六年二月生れの、本年未だ四十七才といふ前途尙幾春秋に富める少壯である。その今後十年、二十年後に如何なる大成を遂げるか、躍進日本産業界の重寶な一翼をなす富山のホープとして、縣民の期待を一身にあつめてゐるのも亦當然のことといはねばならない。

氏は、當縣の人東善助氏の三男として生れたが、幼少より非凡のひらめきのあつた、その才智に囑望されて蓮沼安太郎氏の養子となつたもので、長じて實業界にはいるや、その天與非凡の才幹は縱横に發揮せられ、次第にその事業範圍をひろめ、今日の確固たる地位をきづくに至つたのである。即ち、氏は現在當社々長たるほか、中越無盡、蓮沼土地商事、不二越鋼材工業、三和絹織等各社の重役として縱横の活躍をなしてゐる。

當社は、現常務本江氏の個人經營であつた鐵工業を母胎として、昭和九年四月、かねて縣下の重工業界の發展を願つてゐた蓮沼社長との協力によつて株式會社に改組して創立するとともに、從來のロードローラー専門から蒸氣汽罐車、蒸氣ロードローラーの製作へと

分野を擴め、さらに、事變勃發とともに製鋼所を新設して特殊合金鋼、一般鑄鋼品の製作に乗り出し、更に、時局下の重要工業たる工作機械の製作に進出して同工場を増設完成し、いまや、その製作機械は、鑛山、土木機械、ロードラー、機關車、捲揚機等々を數へるに至つたのである。

株式會社として新出發以來、こゝに五年、面目は全く一新されて今や富山最大の重工業會社となるに至つたが、これは實に本江氏の技術と武器とし、我が蓮沼社長が、すぐれた判斷のもとに既に定評ある所の經營手腕を縱横に發揮したためにほかならない。事實、事業の興廢を決するものは、時流に對する透徹した判斷をなし、その判斷にもとづく企劃のもとに機略縱横の才腕を發揮し得る人材の有るか無きにかゝつてゐるのであつて、當社がこの時局に際してこの敏腕家を社長に戴いてゐたことこそ、最も恵まれた事であると言はなければならぬ。

氏は、斯様に設備の充實内容の擴大をはかる一方に、優秀な技術者の養成が刻下の急務であることに着目して、本江工科學校の設立を斷行、こゝから生れる技術者をもつて自社の技術陣を固める一方に興亞日本の産業戦士として大陸へ送らんとし、遠大な計畫を樹てゐる。その時局に對する認識の深く、かつ志の遠大なる、以て識るべきであらう。今や、我が國は一大躍進期に際會してをり、産業部門にも少壯の敏腕家の輩出を待つこと切實なるものある時、躍進富山の産業界に氏の健在をみることは衷心慶賀に値することである。今後一層の努力を願ふものである。

圓滿高潔なる人格者

福井商工會議所 市橋保治郎氏

北陸の雄縣——福井の財界、産業界の大御所たる人物こそは、現福井商工會議所會頭にして、福井銀行頭取、福井信託社長、その他多數會社の重役であり、多額納税者であるところの市橋保治郎氏であると言ふことに、何人も異存はないであらう。

氏は當縣の名門市橋李兵衛氏の二男として元治元年一月を以て生れ、長兄周治氏亡きあとを繼いで當主となつたものだが、氏は早くより才徳兼備の敏腕家として知られ、同縣産業界の伸展に偉功を樹て、又、曩きには縣會議員に推されて縣政に參與、多大の貢獻をなしたのであつた。而して、今日、氏は福井縣下最大の銀行たる福井銀行頭取として縣下金融界の實權を握るとともに、福井商工會議所の會頭として同市を中心とする縣下産業界のリーダーとして、戦時下にいよ／＼その使命の増大して來た縣下各産業部門の振興助長に多大の寄與貢獻をなすつゝあるのである。

由來、福井市は織物都市として發展し、今日では海内最大の人絹王國として重きをなしてゐるのだが、今次事變勃發以來、重工業部門も漸次に發展をみるに至つた。これは重工業部門の生産力擴充の國策に應へん爲めと、縣の經濟的産業的地位を確保せん爲めの愛國愛郷の立場から、縣下財界人、業界人、及び一般縣民の一致協力によつて起されたものだが、着々としてその成果を擧げることが出來た

のも一に金融の實權をにぎり商工業者の指導的立場にある市橋氏の指導宜しきを得、金融上の運行圓滑をきはめたたまものにはかならぬのである。

かく、過去より現在にかけて、氏が當縣下産業の發展に寄與した功績は非常なものであるところから、業界人はもとより一般縣民から異常の感謝と尊敬を拂はれてゐるが、謙虛そのものゝ如き氏はいさゝかもおのれの功を誇る色なく、ひたすら、郷土産業界の發展を願ひ高齡の身もいとはず、日夜を分たす努力をつゞけてゐる。

氏は、本年七十四才の高齡ながら、意氣健康ともに饒鑠として壯者を凌ぐものがある。本邦財界の生んだ偉人故高橋是清翁はかつて「六十、七十はまだ青年だ」といつてその矍鑠ぶりを謳はれたものだが氏に於いても高橋翁の意氣を見ることが出来るのである。

いまや、我が國は新東亞の建設をめざして舉國一致邁進しつゝあるが、この古今未曾有の大事業をして、有終の美を濟さしめんが爲には生産力の擴充が何よりも緊要事である。而してこの生産力の擴充については老練達識の徳望ある實力者の指導に俟たねばならぬのであつて、この見地からして、指導者としての完全な資格を備へた氏の活躍に俟つところはきはめて多いのである。

氏に百歳の長壽を願ふのは一人筆者のみでなく、福井産業界一致の願ひであつて、氏の健康に留意せられ今後一段の努力をもつて指導成功にあたらんことを切望してやまないものである。即ち其の指導者の指針の如何に依つて、その隆盛に大なる關係があるからであらう。一層の自愛を祈るや切である。

本邦財界の巨璧

株式会社鴻池組 鴻池忠三郎氏

本邦財界の巨璧たる鴻池忠三郎氏の名を知らぬ者はあるまい。鴻池といへば三ツ子ですらその名を知つてゐる。我が國財界の代表的名門の當主こそ忠三郎氏である。

氏は、明治十二年八月、先代忠治郎氏の長男として父祖の地たる大阪に生れた。すぐれた遺傳を受けた氏は幼にして穎悟、氣宇大にしておのづからなる長者の風格を備へてゐた。而して名家の御曹子といふ恵まれたる環境のうちになつた氏は、長ずるに及んで鴻池事業の次代の主宰者としての修業を積み、先代のあとを受けて、その全事業を繼承したのだが、天性非凡の才華はいよ／＼その輝きを發すると共に、おのづから備はる徳は衆望の悉くあつまることとなつて、名實そなはる財界の巨頭として君臨してゐるのである。

吾人は、氏の爲人を見るにつけても論語の爲政の章を思ひ起さずにはゐられない。即ち孔子曰く、「政を爲すに徳を以てす。譬へば北辰の其の所に居て、衆星の之に共(向)ふが如し」。徳政を行ふならば北辰が動かす求めずして、すべての星がこれを中心にして動くやうに、人民は君主を中心にして崇慕し行動するといふのだが、これはたんに爲政家にとつて必要な論へである許りではなく、いやしくも人の長たるものに一般の論へであり、今日でいへば、事業家などにはもつとも必要な心得である。

氏は、即ち巧まずして、この論語の教へを實踐してゐるのであつて、その傘下の社員、従業員は、ひとしく氏の徳を崇慕し、その指揮下に悦服して、おの／＼の職分に最善をつくしてゐる。

氏の主宰してゐる事業は、鴻池組をはじめ、八幡伸鐵、上海製油その他枚擧の追なき程の多數會社の重役として主宰、又は關與してゐるが、その中心を成す鴻池組は、本邦土木建築界有數の大會社として周知のところである。その事業における歴史からいつても、諸設備の完備してゐる點から云つても、さては優秀な技術家群を多數傘下に擁してゐる事からいつても、斷然他の追隨を許さぬ強力陣をほこつてゐるのである。

實に現代の産業文化の根幹をなすものは土木建築業である。我が國が明治の開國以來、僅々六七十年にして、世界の第一等國たる名實を備へるに至つた半面には斯業者の絶大なる寄與貢獻のあることを忘れてはならない。今日、東京、大阪をはじめ大都市が、西洋文明の粹と日本文化の精髓を併せた壯麗なる建築美をほこつてゐるのとはもとより、各種の文化施設、産業設備は實に斯業者の手によつて建設されたものである。而して、當鴻池組こそ、第一等の功績者として、長くその名を記憶さるべきである。

而して、國家百年の大計たる大陸經營の本格的段階に入ると共に斯業者の活躍舞臺はいよ／＼廣汎となつて來たのであり、その使命の重大さは倍加されたのである。この使命遂行の第一線戰士として氏のひきゐる鴻池組の活躍こそ各方面の絶大な期待がかゝつてゐるのである。一層の健闘を祈つて止まない。

工作機界最高の權威者

東洋精機株式会社 專務取締役 三好 廣氏

時局以來、國防上の基幹工業たる工作機械製造事業の重要性は頗る増大し、昨年に至つて、つひに工作機械製造事業法の施行を見るに至つたが、同年十月二十二日の第一回委員會に於いて、十三工場十一會社に對し、工作機械製造事業法許可會社たる指定がなされたのである。この許可會社の指定を受けたものは何れもその規模、技術ともに優秀拔群のものたる認定を下されたものばかりだが、その十一會社中のトップを占めるものは、即ち、斯業最高の權威者たる三好廣氏を專務とする當東洋精機株式會社である。

三好廣氏の工作機界に於ける存在はあまりにも有名である。氏は大阪府の人三好喜十郎氏の次男として明治十六年九月に生れ、同十八年家督を相續したのだが、多年三井物産本店機械部にあり、同副部長としてその英才を謳はれたものである。明治十年十二月同社を退いたが、現に、當社の專務として社務を統率、工作機械國の旗幟のもとに夙夜努力を傾倒しつゝあるほか、津上製作の常務をはじめ、諸會社に重役として關係し、時局下に缺くべからざる英才として、各方面の注視のまとなつてゐる。

當社は、昭和三年十二月、資本金十五萬圓、株式會社津山製作所の社名のもとに起され、東京市蒲田區雜色町に工場を置いてゐたがその後數次に亘つて擴張が行はれると共に、昭和十二年二月現社名

に改稱、現在の地蒲田區下丸子町に本社及び工場を置くに至つた。現在の資本金は四百萬圓である。

而して、當社は、工作機械許可會社としての指定を受けて以來全品種の倍額増産實現を期して、目下現蒲田工場の隣接地(二千坪)内に約六百坪の新工場を建設中であり今年内には完成の豫定だが、新工場は兵器工場に當てられ、現在の兵器工場跡は精密工作機械工場として使用、もつて精機部に注力することになつてゐる。

當社のこの精機工場擴大は工作機械飢饉時代ともいふべき現下の我が國にとつて、正に旱天の慈雨的快舉たるを失はない。しかも、我が國の工作機械製作の技術は世界の水準からはるか下位にある現狀にあつて、當社のみは創立以來の不斷の研究と、技術第一主義の信奉者たる三好專務の指導によつて、斷然頭角を抜き、世界の一流會社の製品と堂々比肩する優秀なものであるから、當社のこの倍額増産計劃は各方面の期待の焦點となつてゐるのである。當社が、精機研究につくし幾多の輝かしい成果を擧げて斯業の發達に貢献した事實は、昭和五年以來、前後五回に亘つて各種研究に商工省より奨励金下附を受け、新製品を完成した事實がもつとも雄辯に證明してゐる。斯様に、當社では優秀製品の増産に對して各種設備の充實化をはかると共に、三好專務を中心として人的融和、相互扶助を強調し、職員従業員の福利施設は、相互扶助的機關から、體育、修養、慰安衛生等々萬般に亘つて、遺憾なく施設され、當社は理想工場として職者の絶讃を買つてゐる。之れらもみな主宰者たる三好氏の人格の現はれに他ならず、内外の信望は氏の一身にあつまつてゐる。

時局工業界の寵兒

京濱機械株式會社 取締役社長 鴨谷嘉久藏氏

今次事變の勃發とともに我が國の産業界は、その部門の如何を問はずして、いづれも生産總動員の國策に順應、その設備能力の整備充實をはかると共に、増産に次ぐ増産をもつて時局の要求に答へてゐるのだが、特にその傾向は直接軍需に關係する諸機械工業に顯著なるを見るのである。而して、如何なる事業にしても人間を離れて考へることは出来ないであつて、今日、我が國の工業界をはじめ全産業界が驚異的發展を遂げ、素晴らしい活況を呈してゐる事實は、即ち、技術、經營の兩方面に卓越した人材が數多輩出してゐることを物語るものである。

こゝにあげた京濱機械株式會社の創立者であり經營者である鴨谷嘉久藏氏も亦、時局下の我が工業界が誇る偉材の一人である。氏は兵庫縣の出身で、鴨谷作右衛門氏の男として、明治二十一年二月を以て生れたが、小にして早くも機械工業が將來の國運の消長に至大の關係を持つところの重要な事業であることに想到し、斯業に據つて邦家に貢献しようとの決意を抱くに至り同縣立工業學校に學んだのである。

同校を卒へてから、工業界にスタートを切つた氏は、明治電氣、鈴木工務所等に勤務し、機械工業の實際的智識を修め、かつ技術を鍊磨したが、昭和三年、年來の宿志たる獨立經營の機運到來して、

現地に開業したのである。爾來、その熱心な經營によつて業績は日に月に興隆の一途をたどり、その優秀な技術と眞摯な製作態度が物をいつて、つひに嶄然として抜くべからざる地位を、斯業界に確立するにいたつた。かゝるところへ、はからずして今次の事變の勃發するあり、急飛躍の機運が到來したのである。

そも、當社は川崎市京町一丁目にあり、かつ、横濱市鶴見區市場町に鶴見工場を持つてゐるが、その營業種目は、軍需製鐵機械部分品の製作、航空機部分品及び計器部分品の製作、諸機械及び電氣機械器具の製作、鑄物製造、製罐並に製罐工事請負等だが、何れも時局とは切つても切れぬ關係にあるもの許りで、その製品にはすでに各方面の絶對的信用がある爲めに、需要殺到、増産に次ぐ増産をもつてして、尙消化しきれぬ好況にある。

されば、氏は工業報國の至誠のもとに、増産計劃を矢張り早にたて、時局への貢献を願つて夙夜努力をつゞけてゐるのだが、氏の徳を慕ふ従業員もまた、氏の至誠に同化せられ、献身的作業を續けてゐるのである。

氏が一技術家から出發して、今日の大を築き上げたのは、一に確固たる信念のもとに不屈不撓の努力をつゞけて來たたまものにはかならず、その成功への道程にはまた幾多の艱難があつたのである。しかも、氏はそれらの艱難に遭遇しても決して女々しい退却をなさず、敢然これを排除して成功への道を切り拓いて來たのであつて實に、「艱難汝を玉に」したのである。その立志成功の道程はたゞちにもつて後進の範とするに足るものである。

金融界生え抜きの巨材

株式会社千葉合同銀行 關 澄龍尾氏
専務取締役 兼 役員

千葉合同銀行の専務として、その敏腕を金融界に謳はれてゐる關澄龍尾氏は、少年時代から銀行界にはいり、一見習行員から叩きあげて、今日の大を成した金融界生え抜きの立志成功者である。

氏は、明治二十年十二月、關澄慶之助氏の四男として、東京に生れ、同三十三年、十四才の時、帝國商業銀行にはいつた。當時に於いてこの小行員が三十年後には金融界一方の重鎮と仰がれる偉材にならうとは、恐らく誰一人夢想もしなかつたであらう。しかし、やがて二十才の聲をきき、青年行員となるに及んで、その少年期に於いて鍛へ上げられた天賦の才幹は、輝かしい光を放つて業目をひき次第に重用され、漸く後世恐るべしとの感と興へるに至つたのである。而して、その才を買はれて川崎銀行に移るに及んで、一層その才華は發揮され、京橋、銀座各支店次長から本所支店長に擧げられるに至つた。

その後、當時の總武銀行に迎へられて支配人となり、益々その異常な才幹をうたはれたものだが、昭和三年、總武銀行が現在の千葉合同銀行に合併されると同時にそれが取締役となり、同九年専務に就任するに至つた。

その異数の躍進のあとに見ても、氏が金融界に於いて天才と呼ばれてゐること、決して過當の褒辭でないことが頷かれる。

薄鐵鈹界の最新鋭

中山鋼業株式会社 上田 高治氏
常務取締役 兼 役員

薄鐵鈹界の新興勢力として知られる中山鋼業の常務として敏腕をふるひ、前途有爲の少壯として識者の注目を浴びてゐる上田高治氏は、靜岡縣の出身で、明治二十六年十一月、上田保太郎氏の二男として呱呱の聲をあげた。幼少より才智業にすぐれ、その大成を期待されてゐたが、大正八年慶大を卒業後實業界にはいり、当社にはその前身たる東京中山薄鐵鈹工場時代から關係し、社長中山半氏を援けて偉功を樹て、昭和十年六月株式会社に改組、現社名に改めるとともに、氏はその常務の任に就いたのである。その当社の上に及ぼした功績は甚大なるものがあり、当社にとつての社實的人物と稱するも決して過言ではない。

當社は、資本金三百萬圓、横濱市鶴見區安善町に本社を持ち、東京市日本橋區大傳馬町の傳馬ビルに東京出張所がある。鶴見の本社所在地に鶴見工場と東京の江戸川區平井四丁目に東京工場を持ち、薄鐵鈹及トタン鈹の製造を主流事業とし、卓越した技術と完璧をほこる設備とをもつて斷然他の追隨を許さぬ壓倒的優位を確保してゐるのである。

更に、當社の強味とするところは、日本鋼管との緊密な提携により原料シートバーの供給を確保されてゐることと、鈹金原料としての亞鉛の自給のために一昨年末、大東化學製鍊所を買収、亞鉛製鍊

當行の現況をみると、千葉市本町二丁目本社を置き縣下及び縣外の樞要地に三十六の支店と二十一の出張所を持ち、資本金六百九十五萬圓を擁して、千葉縣產業界の進展に重要な役割を果しつゝある。その歴史の古いことと、行礎の固いことと、而してその經營主腦部に氏の如き才德兼備の敏腕家を有することによつて、縣民に絶大なる信頼を受けてゐる。現在、縣金庫であり、また日本銀行代理店である事實が何よりも雄辯に當行の縣下に於ける地位を物語つてゐるといへよう。

今日の社會制度下にあつて、產業界と金融機關、銀行業者との關係が如何に緊密なものであるかは、こゝにいふまでもあるまい。金融機關は、いはゞ機械に於ける動力に匹敵するもので、されば金融機關に携るもの手腕の如何はたゞちに全產業界の活動に影響するのである。なかんづく、今日の戰時體制下にあつてはその使命は一層重大だが、當縣下に於いても、時局下に於いて各種産業はいちゞるしい發展をみせてゐるが、その發展のかけに當行の機宜を得た活躍のあることを忘れてはならず、而してその主腦部に敏腕關澄専務のあることを忘れてはならない。

氏は、單に金融手腕にすぐれてゐるのみでなく、きはめて教養の高い人格者として知られてゐる。對人的には極めて社交的な紳士だが、決して附和雷同の輕薄人ではない。内には牢固たる信念を持つてをり、自己の正しい信念は飽くまでも譲らぬ確固たる意志を持つてゐる。それ故にこそ、内外の信望は一層強いのであり、又、それ故にこそ氏が今日の大成を遂げ得たのである。

に進出し、完全な自給に成功したこと、これである。この亞鉛は市販をも行つてゐるが亞鉛製鍊は、國策的見地からも重要意義があり各方面の支持を受けてゐる。

當社製品中の薄鐵鈹及トタン鈹は本來平和的商品であるが、時局による股販產業諸部門の工場の増設擴張に伴ひ、いはゆる生産力擴充に缺くべからざるものであり、又、他の一面に於いて、大陸の經濟開發の進行に伴ひ、この方面からも漸次需要増加の傾向にある。もしそれ、大陸經營の本格的段階に入つた際を想ふならば、その活況はけだし想ひ半ばにすぎぬものがあらう。而して、昨年来、本格的操業に入つた亞鉛製鍊事業は、時局下の重要工業であり、活潑な業績をあげてゐるのである。

されば、當社の前途は、將來、ますます多幸多望なるものがあるが、この當社が他社にほこる強味は、その主腦部にあまたの人材を擁してゐることである。上田常務もそのプレントラストの一人である。その明敏な頭腦による判断はつねに正鵠を得、綿密な思慮による計劃はつねに凱切であつて、その上に果敢な實行力をもつてゐるのであるから、事業經營の樞樞を握る常務として、まことに打つてつけの人材である。

しかも、氏は、本年未だ四十八才、事業家として尙壯年に屬する若さである。この若さにしてすでに今日の大を成した氏の、今後の活躍こそ眞に眩目に價するものがある。吾人は、こゝに滿腔の期待を捧げるとともに、氏のいよゝ／＼自愛して斯業の將來の爲め、ますます努力精進されんことを切願してやまない。

茨城財・政界の重鎮

常陸セメント株式会社 大内竹之助氏
専務取締役

茨城縣財界、並に政界の重鎮として、今を時めく大内竹之助氏は茨城の生んだ當代傑出の人傑であり、その高邁なる識見と人格、卓越した政治的手腕と經營的才幹は、全縣民の尊敬と期待のまとなつてゐる。しかも、氏は明治二十一年生れの本年五十二才、油の乗り盛りである。長期戦下にある我が國が、實力あり、かつ年齢的に將來性ある人材の活躍に期待すること、きはめて大なるものある時、氏に對して、縣民の全幅的期待がかけられてゐるのもまた故なきことではない。

蛇は寸にして人を呑み、梅檀は双葉より香ばしいといふが、今日鳳凰として政・財界を縦横に、席捲しつゝある氏は、幼年時代から神童のほまれ高く、その才智のひらめきは屢々六尺の男子をすら凌ぐものがあつた。されば、その將來には周囲の期待があつまつたのだが、水戸農學校を卒業後、實社會に打つて出た氏は須臾にしてその頭角をあらはし、壯年にして縣會議員に推され、同副議長となり、早くも縣政界に不拔の地位をきづくに至つた。

而して、今や同縣選出代議士として、國政に參與してゐるのだが他方財界にあつては、頭書の如く、本邦セメント界の雄として知られる常陸セメントの専務として、天與非凡の才幹を縦横に發揮し、我が國セメント界の發展に資すると共に、茨城産業界の伸張につと

めてゐるのである。

當社は、助川驛の北方常磐線に沿つた地點にあつて、豊富な資源と地の利とを得て、現下の時局に對處すべく、優良品の増産に邁進してゐる。そも、當社の創立は大正六年だが、爾來、數次の變遷を経て現在に至つたもので、その設備の完備してゐることは世上すでに定評のあるところ、品質また最優秀の折紙付きであつて、需要先の絶對的信用を勝ち得てゐる。

構つて思ふに、わが國のセメント界の將來はますます多幸多望である。すなはち、滿洲をはじめ、中北支の建設工作の進捗に伴ふ土木建築事業の活躍はセメント業の協力を得てはじめて成し得られるのであつて、セメント需要額の増加は必至の情勢にある。さればわが國のセメント業者はその情勢に備へ、増産の準備におさ／＼怠りないが、當社にあつても、大内専務の統率下に、新業を以て長期大陸建設に盡さんものと、最善の用意を整へてゐるのである。

氏は水戸學發祥の地たる茨城の出身だけに、烈々たる愛國心の持主で、すべてを國家的見地から決定し、遂行してゐる。國家總動員して興亞の大使命を完成せんが爲には、國民はすべて一身一社の營利觀念を捨て、國策の遂行に協力するのが、日本國民の神聖な義務であるとして、従業員にもこの精神で業務に當るやうに説き、自らこれを率先して實行してゐるのである。

まさに、氏の如きこそ、當代の師表的人物といふべく、その今後の活躍には充分の期待がかけられるのである。吾人は、衷心より、氏の健康と今後の努力を願つてやまない。

圓滿高潔の人格者

常陸鐵道株式會社 飯田憲之助氏
取締役社長

當常陸鐵道株式會社社長たるほか、多數會社の重役として、茨城財界に重きをなしてゐる飯田憲之助氏は、同縣財界隨一の徳望家である。その事は、氏が郷村豊岡村の消防組頭、村農會長の職にあること、實に二十年といふ、驚異的な事實によつても知ることが出来る。論語に、「徳孤ならず、必ず隣あり」といひ、「政を爲すに徳を以てす、譬へば北辰のその處に於て衆星の之に共ふが如し」といつて徳の偉大さを説いてゐるが、實に氏のごときこそ、この偉大なる徳を身に備へた人といふことが出来る。

氏は、明治二十二年三月、飯田盛之助氏の次男として生れたが、幼少より頭腦明晰にして緻密、且つおのづから備はる長者の徳を備へ、郷黨の麒麟兒として期待を一身にあつめてゐた。而して長ずるに従ひ、天賦の才智はいつさうその閃きを増し、徳はいよ／＼重きを加へて三十を出るか出ないに、早くも衆望をになつて消防組頭、村農會長の公職に推された。

若くして衆に推され擔がれた者は、えてして増長高慢となり、次第に衆の聲を買ふに至るものだが、その資性あくまで謙虛無私、公共精神に富み、かつ向上心に燃えてゐた氏にはいさ／＼かもそのやうな風はなかつた。老子のいはゆる、良賈は深く藏して虚しきが如く君子は盛徳容貌傲なるが如しで、たゞ／＼おのれの力の足らざる

を憂へ、惧れるが如く、謙虛な態度を以て、ひたすら正心誠意、郷村の發展を願ひつゝ、その職責を全うして來たのである。

かくの如き氏に對し、郷黨の徳望がいや増さり、敬愛の情の強まるのは當然の歸結である。同地方の住民はいづれも師父の如く氏を敬ひかつ慕つてゐるが、かく郷村發展の恩人である氏は、昭和四年當社取締役兼常務代理として入社以來、縣下財界の第一線に乗り出し、今やその高潔な人格と卓越した經營手腕とを以て縣下財界に君臨、縣民全體からその徳を慕はれてゐる。

氏が、當社にはいつたのは、前記の如く昭和四年で、常務代理としてであつたが、その卓れた手腕によつて業績は日に増し向上、今や縣内地方隨一の交通機關となるに至り、氏は推されてその社長の任に就き、全面的に社務を主宰してゐる。當社の本社は縣下の水海道町にあり、常磐線取手驛を起點として筑波の西側を一直線に走り水戸線下館驛に至る五十一軒餘を本線とし、太田郷驛から分岐して鬼怒川砂利の搬出を主とする三所驛に至る鬼怒川支線六軒をはじめ沿線各方面を連絡する所の總延長二百五十キロの乗合自動車を経営してゐる。資本金は二百五十萬圓、縣内地方文化産業の發展に貢獻しつゝある功績はきはめて大なるものがある。

かやうに、氏の當縣文化産業の上に及ぼした功績は甚大なものであり、その名は永久に縣民の胸に刻まれて消えることがないのだがかくまでに傑出した徳望と力量の持主である氏は、本年未だ五十一才の壯齡である。その今後の十年間乃至二十年間の活躍こそ眞にみるべきものがある。

工作機界の寵兒

株式會社昌運工作所 山口春吉氏
取締役 社長

時局以來の、我が國マシンツール・メーカーの示した活躍ぶりは眞に驚異的なものがあつて、それは興亞の聖使命の遂行に勢ひ立つ我が日本の強健なる心臓の鼓動とも聞え、大陸の野に征馬をすゝめつゝある皇軍將士の士氣を振作するにあづかつて力があるばかりでなく、抗日蔣政権をはじめ、反目的態度をとりつゝある、歐米諸國の心膽を寒からしめつゝあるのである。これは、一に、斯業をはじめ銃後の産業に従ひつゝある全國民の盡忠報國の赤誠にもとづく、舉國一致的努力の結果にほかならないのであり、三千年傳統の國體の精華の發露なのである。

このマシンツール・メーカーの娚集してゐる大阪地方は、即ち銃後産業陣の一大中樞地だが、此中樞地大阪に於けるマシンツール・メーカー中の異彩として、時局以來、一際目醒ましい活躍をつげつゝあるものに昌昌運工作所がある。當社は陸海軍指定工場として斯業の一權威としてつとに盛名高き山口春吉氏の創立にかゝり、同氏の苦心經營の結果によつて、今日の大を成したものが、その製作技術の優秀なことについては早くより定評があつたのである。

當社を語ることは、社長山口春吉氏を語ることだが、氏は新潟縣の出身で、明治二十五年呱呱の聲をあげたが、少年時代からすこぶる進取の氣象に富み、大志を抱いてゐた。而して長ずるに従ひ、鐵

工業こそは將來の國運の消長を左右する重要な産業であるとの信念を持つに至り、鐵工業に身を投じて國家に貢献すべく志を立てるに至つた。かくて、池貝鐵工所に入つてつぶさに斯業の技術を習得、次第にその才幹を發揮して重用されるやうになつた。次いで若山鐵工所に迎へられその工場長となつたが、大器はいつまでも他人の、使に甘んずるものではない。年來の宿望たる工業報國の信念を達成するには獨立するに如くはなしと感ずるに至つて、昭和四年、獨力を以て昌昌運工作所を起した。

時に、氏は三十八才の少壯であつたが、爾來、夙夜寢食を忘れるてい努力をつげた結果、その實力はあまねく業者のみとめるところとなり、業績は次第に發展して、つひに現在の株式組織に組織を擴張したのである。

當社の技術の如何に卓越してゐるかについては、陸海軍指定工場たる事實が最も雄辯にこれを證明してゐるが、時局以來、擴張に次ぐ擴張を以てして、急増する需要の消化にとめてゐる。氏が當業へ志したそもぐの動機が、工業報國の信念にあることは前に述べたが、今日の時局に於いてこそその信念を最高度に發揮すべきである。氏は、今やその信念を、當社の旗印としてかゝげ、股肱とたのみ全従業員の協力をもとめて、國策への協力に直往邁進してゐるのだが、氏の高潔な人格を慕ふ従業員らは氏の統率下に一糸みだれざる行動をとつて、各自の職分に最善の努力を傾けてゐる。

しかも、氏は本年未だ四十八才の働き盛り、その今後の活躍と將來の大成とは、内外の期待がかけられてゐるのである。

識見高邁の敏腕家

千葉瓦斯工業株式會社
取締役 社長 吉田秀彌氏

當千葉瓦斯工業社長たるほか、京成乗合自動車、京成電氣軌道、成田電氣軌道、日本乗合自動車、隅田自動車等、多數會社の重役に現任し、關東地方交通事業界の巨星と仰がれてゐる吉田秀彌氏は、操縦界出身の立志成功者として知られてゐる。その今日あるのは、生來非凡の天資からみるときは當然のことであるとは云ひ難、その過去三十有餘年の超人的努力を見ると、今更乍ら努力こそ成功の基礎であるとの感を強くする。

氏は、明治十四年十一月、福島縣の人吉田誠一郎氏の長男として生れた。少年時代から極めて進取の氣象に富んでゐた氏はやゝ長ずるに及んで、青雲の志を抱いて上京、早大政治科に學び、同三十六年、優秀の成績を以て卒業するや、社會の木鐸たらんと志して新聞界にはいつた。即ち、電報新聞、二六新聞、中央新聞等、明治から大正の初期へかけて天下の輿論を指導する實力を持つてゐた大新聞にはいつて、かんぐがくの筆陣を張つてその英才を謳はれたものだが、大正五年、京成電軌に招かれて入り、こゝに實業界雄飛のスタートを切つたのであつた。

京成電軌にはいつた氏は、その天與非凡の才幹と熱心とをみとめられて漸次に重用せられ、電燈、庶務各課長から總務部長にすゝみ更に理事にあげられ、つひに重役となるに至つたのだが、その交通

事業に關するすぐれた識見と而してその天才的な經營手腕はあまねく人のみとめるところとなり、前記の如く、關東地方の有力交通事業會社に重役として迎へられるに至り、今日の不拔の地位を築き上げるに至つたものである。氏が京成電軌にはいつてから今日まで二十有餘年間、その關連のあとを見ると、吾人はたゞ驚異の感に打たれるのみである。

而して氏が、社長として社務を主宰しつゝある當千葉瓦斯工業は明治四十五年三月に創立された千葉瓦斯株式會社にはじまり、のち合同瓦斯株式會社千葉出張所となつたが、この兩社時代は甚だ苦境にあつた。而して大正六年、千葉市の有志が郷土産業文化の發展を願ふ至誠から、當千葉瓦斯工業株式會社を起し、前身の合同瓦斯千葉出張所の一切を繼承して、新出發をしたものだが、爾來、漸次に業績好轉、吉田氏の社長就任以來は、その堅實なる經營方針によつて牢固たる社礎を築くに至り、業績の急發展をみるに至つた。

瓦斯事業は電氣事業と相俟つて、今日の産業文化の原動力をなすものだが特に戦時下に於いて生産總動員の實をあげる爲めには、瓦斯事業の協力に俟つところは極めて多いのである。氏は、この時局下に於ける使命の重大さを痛感、需要者本位即國策への協力といふ見地から一身一社の利害を超越した奉仕的經營をつげ、各方面の絶讃をあびてゐるのである。

氏は、孔子のいはゆる、溫、儼、厲の三者を兼備した、眞の君子人である。以て當代の師表的人物として仰ぐに足り、その努力成功の活歴史は後進の範とするに足るものである。

鐵工界の輿望を擔ふ少壯

株式會社隅田川精鐵所
專務取締役 久保田藤造氏

躍進日本の推進力たる鐵工界はまことに多士濟々、邦家の爲め衷心より慶賀に堪えないところだが、その多士濟々の人材中でも、少壯銳銳の敏腕家として、全業者の期待を一身にあつめてゐるのは我が久保田藤造氏である。氏は、久保田權四郎氏の二男。明治三十年十一月の出生であるから、今年未だ四十三才、五十、六十は血氣盛りといふ實業家の相場からいへば、前途春秋に富む青年といふべき若さである。この若さを持つ氏は、きはめて教養高く、すぐれた見識を持つた近代的事業家であつて、躍進日本の鐵工界の明日を擔ふに足る偉材である。

氏が、現に、その常務として活躍してゐる隅田川精鐵所は帝都の大工業地帯たる江東に於いて、創業以來三十年の歴史を誇る會社である。従來は、鑄鐵管の製作を専門として來たが、その長き歴史を通じて東京を中心とする大都市の水道、瓦斯等の文化施設の完成に寄與した功績は極めて甚大なものである。その製品の優秀なことにについては世にすでに定評があり、水道瓦斯衛生工事業方面から、「鑄鐵管は隅田川精鐵に限る」といふ絶對的な信用をかち得てゐるが、滿洲國の建設工作の進捗に伴つて同國へ進出、建設工作の一翼を承つてをり、又、早くより、支那、南洋その他海外諸地方に進出、特に、支那、南洋方面にあつては、歐米諸國の製品と覇を争ひ

つひにその市場の過半を占據して本邦輸出貿易の爲めに萬丈の氣焰を吐いたのである。

而して、今次事變の勃發に伴ひ、工作機械の需要が急激に膨脹、これが供給不足の聲が漸次に高まるに及んで、當社は、在來の鑄鋼管製作専門から一步を踏み出し、昨年愈々工作機械製造へ乗り出したのである。當社が鑄鐵管の製作に於いて、日本一の稱を得たばかりでなく、海外市場に於いて歐米製品を驅逐し、國際的の最高級品の折紙をつけられたのは、つねに品質の向上を願つてやまぬ眞摯熱烈なる研究のたまものであるが、工作機械製作に堂々乗り出した當社ではこの方面でも、その鑄鐵管製作に於いて示した捷まざる研究を行つて、優秀品を世に送り、早くも「流石は隅田川精鐵の製品だ」との絶讃を各方面から贈られてゐるのである。

「良品は不斷の研究から生れる」これは當社の社是であると共に實に、その専務として社務を總攬してゐる、わが久保田氏の信條でもある。而して、この信條の基礎をなすものは、氏の誠實なる性格であつて、常に「たゞ一定の品物を作ればよいのであるなら子供にでも出来る。つねによりよき品を産出しよう、品質を改良しよう」と志す事こそ、工業家の義務であり、そこに工業家の眞價がある」といつてゐるが、此片言に氏の眞骨頭があらはれてゐるのである。

氏は、當社のほか、久保田鐵工所その他の重役を兼ね、三面六臂の活躍を續けてゐる。今や、大陸經營の本格的段階に入ると共に斯業の使命は愈々重大性を加へ來たつたが、この時に際して氏の益々自愛して邦家の爲一層の健闘されんことを祈つてやまない。

本邦製藥界の太陽的存在

星製藥株式會社
取締役社長 星 一 氏

我が國製藥界に於ける星氏の存在はあまりにも有名である。健康報國の赤誠にもとづいて當社を起して以來、幾多の困難障礙に遭遇しつゝも、強固な意志によつて初志を守り通しつひに今日、本邦製藥界に燦然として輝く太陽の如き存在となるに至つたのは、一つにその不屈不撓の努力と、而して、その至誠至高の人格の賜である。氏が我が國製藥界に印した足跡は永遠に斯業の史上に記録せらるべきものであり、かつ又、その事業を通じて國民の保健上に貢献した功績は不滅のものとして永久に國民の記憶にとゞめられるであらうが、又現に衆議院議員として政界に重きをなし、國家主義的見地から卓越した政見を發表してゐるのである。

氏の少年時代から今日までを通過し、人の人と爲りを一言にしていふならば、日本人としてはきはめてスケールの大きい人物だといふことが出来る。氏は、明治六年十二月、福島縣石城郡錦村に先代喜三太氏の長男として生れ、同四十二年家督を相續したもののだが同家は、同地に於ける舊家で代々農を業として來たものであつた。而して、幼少よりすこぶる進取の氣象に富んでゐた氏は、東京商業を卒業後、西洋文明の深奥をきはめ、學ぶべきはこれを執つて故國の發展に資せんと決意し、明治二十七年北米に遊び、コロンビア大學に入つた。

同大學在學中、氏は、ニューヨークに於いて「日米週報」を發行同三十四年に同大學を卒業してから、さらに月刊雜誌「ジャパン・エント・アメリカ」を發行、後合併して日英米の週報として發行を續けたが外國に於て日本人の編輯經營なる新聞の發行は實に氏をもつて嚆矢とする。さきにパリに開催された萬國新聞記者大會に參列したが、氏の新聞界に於ける經歷からみて當然のことである。限られた紙面に於いて、氏の全貌をつくすことは到底出来ないがかやうに青年期にあつてはアメリカに於いて言論界に活躍し、歸朝後は製藥界に入つて健康報國に邁進、さらに政界に巨歩を印するなど、氏は普通人が懸命に努力してやうやく成し遂げることが出来るやうな大事業を一代にして三ついやそれ以上も成し遂げたのであるまことに「天才」の二字をもつてする以外に、氏を評する適確な言葉を知らないのである。

氏は、熱烈な愛國者であり、國家主義者である。その政見はもとよりのこと、事業經營にあつても、つねに國家主義の立場から事を決してゐるのだが、つとに日本の大陸進出南洋進出を叫び、當社においてはその時に備へて支那及び南洋がマリヤのしようけつ地であるところから、すでに十六年前から臺灣に於いてマリヤの特効藥たるキニーネの栽培をはじめてゐたのであつて、今日になつて今更の如く氏の先見の明に打たれたのである。

而して氏は時局以來、國民保健の問題が興亞の聖使命を遂行する上に、何よりも大事であることを痛感、其抱懐する健康報國—製藥報國の信念のもとに、目醒ましい活躍をつとめてゐる。

電機界のエキスパート

株式会社中央電機製
作所常務取締役 島田勉氏

多少とも電機界についての智識を持つ者にして、中央電機の常務たる島田勉氏の名を知らぬものはあるまい。氏は、ひとり中央電機の柱石たるばかりでなく、實に、我が國電機界最高のエキスパートであり、その動向を牛耳るものである。

氏は、香川県島田恭平氏の令弟にして、明治二十六年六月を以て生れた。幼少より頭腦明晰にして、生れ乍らにして科學者の素質の持主であつた氏は、少年時代から機械科學に深い興味を持つてゐた。長じて早大理工科を選んだのも、自己の才の斯業に適することを目覺し斯業によつて國家社會に貢獻しようといふ決意を抱くに至つたためにほかならないが、大正五年同科を卒業後、川北電氣企業にはいり、斯業の實際についてその技術の奥義をきはめ、早くも斯界にその英名を馳せるに至つた。

而して、昭和五年、川北電氣企業は解散をみたが、同八年に至つて當中央電機を創立、氏はその常務取締役兼工場長として、自ら工場監督、技術の指導の任にあたることもに經營方面にも非凡の才幹をみせ、短日月にして當社の基礎を確立、今や我が國電機界一方の覇者たる地位を築き上げたのである。

當社は大阪市旭區今福町にあり、東京丸ノ内海上ビル内に東京支店を、小倉市大阪町に九州支店を、京城府黃金町日生ビルに、京城

支店を配置して、全國的に販路を有し、一流大會社工場を顧客として、時局下にめざましい活躍を演じてゐるのである。當社の主要製品をあげるならば、各種電動機をはじめ、電壓調整機、精密機械、油濾過機、モーターサイレン、開閉器、配電盤、ポンプ、電氣扇、直交發電機等、凡そ電器と名の付くものはすべて之を網羅してゐる。

なにかんづく、當社の電動機はその品質の精巧なることに於いて無比のもので、製鐵鑛山用をはじめ、化學製藥工場用、起重機、捲揚機用ポンプ空氣壓縮機用、紡織人織工場用、製紙セメント工場用、交直流各種型諸機械直結用等、あらゆる産業部門に必要なものはすべて、これを製作してゐるのである。

今日のあらゆる工業は電氣によつて動かされてゐるといつても過言ではなく、されば、電動機製作工業は全工業の基礎工業といふべきもので、生産力擴充を叫ばれてゐる現下の時局に於いて、當社の使命はきはめて重要なものなのである。

當社の製作經營の兩方面に亘つて采配を振つてゐる島田常務は、よくこの重要な使命を自覺し、この使命の遂行に遺憾なきを期し、よくこの重要な使命を忘れての努力をつゞけてゐる。この熱心な島田氏の健在することは、ひとり、當社のためのみでなく、我が國電機界の爲に幸福とするところであり、又、廣くいつては、統後全産業界の爲、興亞の大使命を遂行しつゝある邦家の爲めにも慶賀すべきことと言はねばならない。

氏は、又先に歐米に留學して、その智識を肥して歸り我が國電機界の至寶と稱はれてゐるのも理由のないことではない。

千葉金融界の驍將

株式会社千葉貯蓄銀行
取締役頭取 三木徳三氏

千葉貯蓄銀行頭取として、縣下金融界に君臨し、その天性非凡の才幹と今年四十二歳といふ年齢の強味とを持つて、本邦金融界の將來を擔ふ少壯として全業者の期待を一身にあつめてゐる三木徳三氏は、千葉縣の生める、偉材の第一人者である。氏は明治三十一年五月、三木徳藏氏の長男として生れたが、恵まれた遺傳を受け繼いだ氏は幼少より才智業にすぐれ、神童、秀才のほまれを誦はれたものである。長じて早大商學部に學んだが、學業の成績もつねに拔群で大正十年優秀な成績を以てこゝを卒業、銀行業の實際的智識を修めべく、たゞちに東京府農工銀行にはいつた。

後數年にして勤業銀行に移り、同行千葉支店を経て當行に入つたものだが、東京農工、勤銀兩行在職中の經驗は、氏の天與非凡の才幹を磨き上げ、今日の氏の基礎を作り上げたのである。金剛石も磨かなければ光なく、利刃も切瑛琢磨を得てはじめてその犀利なる切れ味を發揮するが如く、非凡の天才を享けた氏と雖も、もしこの兩行時代の猛烈な修練がなかつたならば、決して今日の大を成すことは出来なかつたであらう。

その修練時代に磨き立てられた氏の才腕は、郷土金融界の花形たる當行に移るに及んで、果然その鋒芒を發揮し、のち數年にして、「千葉貯蓄に三木あり」と喧傳されるに至り、當行にとつてなく

はならぬ人物となつた。氏は、今や、當行の頭取として全面的經營の重衡にあたつてゐるが、その定評ある敏腕を縦横に發揮して戦時下に於いて産業總動員の國策に應じて生産擴張につとめつゝある郷土各産業部門の振興助長に多大の貢獻をなしてゐる。

氏の當行經營の根本方針は、金融の圓滑をはかつて、郷土の伸張發展を願ふ熱烈なる愛郷心の上に立てられ、金融報國の赤誠を指針として邁進してゐるのである。當行は、資本金二百萬圓、千葉市吾妻町に本店を置き、縣下の各樞要地に多數の支店を配して、縣民の絶對的信賴と支持を受けつゝ、めざましい躍を演じてゐる。戦時金融界はきはめて多難であるが、此多難の中にあつて、當行がよく國策に沿ふ優秀な成績をあげ、縣下の商工界はもとより、農村の經濟助長、庶民階級への金融に、見事な成績を示して其使命を果しつゝあるのは、一に三木頭取の卓越した經營手腕によるのである。

思ふに、我が國の財界の第一線は、今や長老古豪にかはつて、いはゆる第二世や新進氣鋭の新人群によつて采配がふられてゐる状態にある。これは興亞の雄々しい歩みを踏み出した我が國に於いては特に意義深いことで若き時代は若い人の手で建設されるといふ古語と照應して、この新人少壯の輩出に、吾人は一の天意を感じざるを得ないのである。この新時代を双肩に擔ふ少壯中の敏腕として、いまやひとり千葉縣民のみならず、ひろく金融界全體の期待を受けてゐるのが、我が三木徳三氏である。吾人もまた滿腔の期待を捧げるものであつて、氏が自愛、健闘、以てこの舉國的期待に應へられんことを切願してやまなう。

東北産業界の重鎮

秋田製鋼株式会社
専務取締役

大岩 岬氏

本邦特殊鋼界一方の勢力として時局工業界に重きをなす秋田製鋼株式会社の専務として、経営の重衡にあたるほか、秋田運輸倉庫株式会社の社長として秋田地方運輸倉庫界に覇を唱へ、また、秋田木材株式会社の常務をはじめ多数会社の重役に現任してゐる大岩岬氏は才徳兼備の敏腕家として秋田産業界に重きをなしてゐる實力者であり、その指導者である。

氏は、大分縣の出身にして、明治十二年六月生れの誕生だが、早くより實業界に入り特に大正十二年秋田木材に入つてからは引き続き秋田地方の産業界に貢献、次第にその才腕をみとめられ、つひに今日の大を成すに至つたものである。「成功への者は努力によつてのみ切り拓かれる」とは昔からいはれてゐることだが、氏が今日の成功をかち得たのも實に氏の百折不撓の努力のためのものであつてその如何なる困難、障礙にも屈することなき強固な意志と確固たる信念こそは、後進のもつて範とすべきところである。

氏が、その専務として快腕をふるつてゐる當秋田製鋼は、衆知の如く、本邦特殊鋼界に不拔の地位を持つ有力会社だが、その本社及び營業所は東京市京橋區銀座大倉別館にあり、秋田市川尻町川口境に製鋼所を、更に横濱市鶴見區潮田町に鍛造所を持つてをり、大阪市大正區泉尾竹ノ町にある秋田木材の大阪支店を大阪代理店として

全國的にその販路を持つてゐる。

當社の營業種目は、ステンレス・アイアン、ステンレス・スチール、高級工具類、特殊鋼各種及び純鐵等だが、本社製品の特徴は、特許により純鐵を製造し、これを原料として高周波電氣爐を操作して、ステンレス・アイアン、同スチール、又は高速度鋼を製造することにあり、さればその品質は最も優良で性能特に卓越してゐるのである。このことけすで一般需要先の廣く認めてゐるところで、その特殊鋼協議會登録のマークである「丸ア」にけ絶對的な信用があるのである。

時局下に於いて、ステンレス・アイアン同スチールはじめ特殊鋼が如何に重要な工業であるかはこゝにいふまでもない。當社ではこの重要な使命を正しく認識し、増産に次ぐ増産を以て時局の要求に答へつゝあるのであつて、大岩専務以下、重役、職員、従業員全體が特殊鋼報國の社是のもとに團結して、夙從業務に勵精してゐるのである。

氏は、その卓越した經營的才幹をもつて當代事業界に仰々たる名を馳せてゐるのだが、努力奮闘、よく自力を以て今日の大を築き上げた人だけに、社員に對してはすこぶる理解に富み、温情ある態度を以てこれに接してゐるので、社員もまた氏を慈父のやうに慕ひ、全員一絲亂れざる統制ある行動をもつてひたすら特殊鋼報國の社是の實踐に邁進してゐるのである。氏は、本年還曆を迎へたわけであるがその意氣、健康ともに壯者を凌ぐものがあつて、純後産業界報國の信念のもとに努力されつゝあるのはまことに慶賀に堪えない。

本邦私鐵界の巨壁

名古屋鐵道株式会社
常務取締役

須田 博氏

中部日本最大の電氣鐵道たる名古屋鐵道株式会社の常務、須田博氏は、多年國鐵にあつて斯業の深奥を極め盡した、我が國最高の權威者の一人である。そもく氏は、鹿兒島縣土族大山賢輔氏の二男にして、明治二十一年二月を以て生れ、須田信次氏の養子となつたものだが幼少より頭腦明晰にして神童のほまれ、周囲の期待を一身にあつてゐた。長じて東亞同文書院に學び、明治四十二年同院政治科を卒業後、大正二年、高文に合格して鐵道院書記を拜命した。こゝに、鐵道人としての氏のスタートは切られたのである。

爾來、天性非凡の才幹は漸次に周囲のみとめるところとなつて累進に累進を重ね、鐵道院參事、鐵道事務官、鐵道局參事、名古屋鐵道局運輸課長、鐵道書記官、運輸局配車課長、監督局總務課長兼陸運課長、大臣官房人事課長、名古屋鐵道局長等に歴職した。現在從四位勳四等の位勳を拜受してゐるのは、國鐵在職中の輝かしい經歷を物語るものにほかならない。

前記の略歴によつても解るやうに、名鐵運輸課長、時代名と鐵局長時代の數年間を名古屋に過した氏は、名古屋交通運輸界の表裏に精通してゐる上に、大正十一年には歐米に留學して審に先進國の交通運輸界の實狀を視察し、その智囊を肥して來てゐるのであり、其經營的才幹また非凡のものがあるので、氏が當社の常務に就任した

時は、正に適材適所として朝野の期待を集めたのであつた。果然、氏の常務就任と共に當社の内容には一大刷新が加へられ、中部日本最大、而して最高の電氣鐵道會社としての名實を兼備するに至り、今更の如く須田氏の才幹の尋常ならざるを認識せしめた。

當社は舊愛電を合併し、愛知縣下の群小電鐵をほとんどその傘下にあつて今日の大をなしたのであり、その資本金は三千六百二十九萬一千圓、中部日本の重要都市たる、名古屋、一の宮、岐阜、大山、岡崎、半田、豊橋等を連絡してその經濟發展に至大の貢獻をなしてゐるのみでなく、日本ライン、入鹿、津島天王川、岡崎公園豊川櫻の馬場、岐阜公園等の景勝地、鶴飼で世界的に有名な長良川、犬山、海水浴の新舞子、大野、南知多蒲郡、紅葉で有名な中山七里入鹿、大矢田、奥美濃、宮路山、新箱根、風來峽、天龍峽、温泉清遊地の下呂、鬼岩、八百津、加藤野、舞子館、彩雲閣、入鹿温泉等々の名勝を沿線に控へ、同地方住民はもとより一般旅行者に多大の便を與へてゐる。

又、その沿線には、熱田神宮、津島神社、國府宮神社、眞澄田神社、針筒神社等があつて國威發揚、武運長久を祈る參詣者を利用され、豊川稻荷、名古屋信貴山、尾張信貴山等へも運轉し、敬神崇佛の精神涵養に多大の貢獻をしてゐるのである。

されば、名鐵が同地方民の足と呼ばれて愛用されてゐるのも當然であるが、又名鐵は同地方の産業振興と密接な關係があり、今後愈々その使命の重大性を増加せんとする時、氏の層一層の活躍をまつ事、きはめて切實なものがある。

潟新鐵工界の重鎮

株式會社島本鐵工所 島本庄次郎氏
取締役 社長

今次聖戰の勃發以來、我が國の鐵工界は、銛後産業の第一線に立つ産業戰士たる使命を自覺して、内容の充實擴張を行ひ、國策への協力に最善の努力をつくしてゐるが、西日本最大の工業地帯たる新潟縣下鐵工界に堂々覇者の貫録を示して、時局へ至大の貢獻をなしつつあるのは、即ち、我が島本庄次郎氏を主宰者に戴く當島本鐵工所である。

當島本鐵工所は、大正七年、新潟市東入舟町に小型内燃機關の製作工場として、島本社長が個人經營で創業したものが、そのすぐれた技術的手腕と經營的才幹は、またたく間に磐石の基礎を固め、業績發展の一路を辿つて昭和二年四月には、株式組織に變更して、大々的擴張をなすに至つた。その頃から、鬼才島本の名は本邦鐵工界にあまねく知れ亘るやうになつたが、昭和五年には農林省の認定工場となり、小型漁船發動機、陸用發動機、高級精密旋盤界に偉大な足跡を印したのである。

抑々、島本氏は、當新潟縣の出身で明治十四年三月、和田徳吉氏の二男として生れ、同二十八年島本家を繼いだものだが、烈々たる愛國、愛郷心の持主である氏は、一つには工業報國の愛國的至誠から一つには郷土振興の愛郷的赤心から、當社を興したものであつて前述の如く、その技術、經營の兩方面に卓越した手腕を縦横に發揮

して、本邦産業の發展に貢獻せるところゆからず、かつ、郷土の産業的、經濟的地位を高めるに與つて力があつたのである。

而して、その傑れた技術は陸海軍部をはじめ、全精密機械會社のみとめるところとなり、今や、陸軍洪兵廠、横須賀海軍工廠をはじめ、東京計器、島津、津上、日本光學等々の大工場に採用されて、時局に多大の貢獻をなしてゐるほか、滿洲國へも輸出し、滿洲國の經濟開發に側面からの寄與をなしてゐるのである。

これは、氏の工業報國の赤誠にもとづく、良心的經營の賜であるが、氏は「技術第一」といふことを以て經營のモットーにしてゐる。此モットーの實踐の爲めに、氏は氏の直屬下に多數の優秀な技術員を置いて、絶えず製品の改善にあたらせてゐるほか、随時全従業員を集めて技術研究會を開催し技術の向上を計つてゐる。

氏は、かやうに従業員の技術的向上をはかると共に、心技一致を以て技術家の理想とする見地から、屢々諸名士の講演を聴かせたり修養書を配付したりして、従業員に精神修養に資してゐる。その一方においては、つねに彼等従業員に福利増進に留意して待遇の向上を計り、娯樂慰安の設備を施す等、到らざるなき厚遇をしてゐるので、従業員一同は氏を師父の如く敬慕し、同僚はまた兄弟の如く相睦して、各自の職分に専念し最大の能率を上げてゐる。當工場が縣下の模範工場といはれ、島本氏が新潟鐵工界の誇りであるといはれてゐるのも決して故なきことでない。

吾人は滿腔の敬意を表すると共に、今後一層の努力健闘を希つてやまない次第である。

時局工業界の新進花形

株式會社梅津工場 梅津徳之助氏
代表取締役

生産力擴充の國策に應へて、高級工作機械製作に邁進しつつある株式會社梅津工場代表取締役梅津徳之助氏は、昭和三年獨力を以て煖房用放熱器製作を開いて以來、僅かに十有餘年その天才的手腕によつてよく今日の大を成し上げた、時局工業界の新進花形である氏は、明治三十五年十二月、山形縣に生れたが、少年時代から頗る進取の氣象に富み、天才の面影があつたが、昭和三年、若冠二十九才にして新興工業都市たる川口市に當社の前身たる梅津鑄工場を起し、前記の如く煖房用放熱器製作に乗り出したのであつた。

爾來、その熱心な研究と、天才的經營によつて業績次第に擴大、昭和十年頃にはすでにラヂエーターの製作にかけては第一流といふ折紙を付けられるに至つた。かくて、同十一年七月、組織を株式會社に改め、日本放熱器製作所といふ社名のもとに大々的發展を遂げて來たが、かゝる所へ今次事變の勃發となり、生産力擴充の先決問題としての工作機械の充實が要求されるに至るや、氏は工作機械製作陣への積極的参加によつて産業報國の實をあぐべく決意、從來のラヂエーター専門製作から一轉して、高級品工作機械並に一般鑄物の製作に乗り出したのである。

而して、氏は、株式會社日本放熱器製作所に改組するにあつて東京の芳澤鉛管製作所芳澤靄太郎氏と提携したのだが、諸種の事情

によつて、芳澤氏との關係を絶つことになり、芳澤氏の持株全部を梅津氏において引受け、同時に現在の社名たる株式會社梅津工場と改稱したのであつた。

かくて、當社は今や梅津氏を中心として、諸設備の整備をはかり優良製品の製作と需要に對する敏捷なる供給を期して、上下一致、産業報國の社是のもとに邁進してゐるが、さらに一大増産を目的として工場の大擴張を行ふこととなり、これが爲めに、近く當局の許可を得て一百万圓に増資(現在三十萬圓)の計劃が樹てられてゐるといふ。當社の内容の充實せることは衆知のところであり、現在においても資本金に數倍する内容を持つてゐるのだが、この増資實現の曉は更に驚異的大發展を見るものと、期待されてゐる。

當社の本社及び工場は川口市榮町にあり、技術部は同市青木町にさらに東京日本橋の春陽堂ビル内に營業所を持ち、手廣い販路を持つてゐる。

斯くして、當社は今や興亞の使命遂行上不可缺の基礎工業たる工作機械に無くてはならぬ偉大な存在となつたのであり、これは一に梅津氏の天才的經營によるものだが僅々十數年にしてかゝる大事業を築き上げた氏が、本年未だ三十八才の少壯であることが、業界の話題の中心となつてゐる。かくの如きは、氏の如き異常なる天才によつてのみ始めてよく成し得るところであり、従つてまたその今後の活躍に多大の期待がかけられてゐるのである。銛後の産業界にかゝる俊銳があつてはじめて新東亞建設の偉業は完成されるのであり吾人の邦家の爲衷心より慶賀してやまない所以である。

地方百貨店界の花形

株式会社松菱百貨店 谷 政二郎氏
取締役 社長

本年四十七才の少壯にして、才徳兼備の敏腕家と謳はれ今やその一舉手一投足に内外の注視を集めてゐる谷政二郎氏が、社長の任にあつて采配を振つてゐる松菱百貨店は、將に二十萬に垂んとする大人口を擁して躍進めざましきものある東海の雄都、濱松市に、近代的美容を誇る唯一最大のデパートメントストアである。

當百貨店は、昭和十年六月、二十萬市民の翹望に應へて、美々しく誕生したのだが、その資本金百萬圓にして、濱松驛の直前たる鍛冶町——いはゆる山手と下町の接合點にして濱松市最大の繁華街に位置し、その高壯秀麗なる八層樓の大建築は、同市の玄關を飾るに足るものである。當百貨店は、「濱松市民の百貨店」をモットーとして誕生したのだが、品種の選擇には充分意を用ひ、かつ薄利多賣をもつて主義とし、五百の全従業員は、谷社長の指導精神にもとづいて、親切丁寧を旨とし顧客に接し市民から多大の好感を持たれてゐるのである。筆者も同地方へ旅行の際、同百貨店に買物に行つたことがあるが、親切丁寧を極めた従業員の接客態度に何ともいへぬ好感を受け、同百貨店内には、あたかも平和な一大家族に見るやうな霽々たる和氣の漂つてゐるのを感じ、谷社長以下経営主腦部の従業員に對する教化指導の適切なるに感心した次第である。

由來、濱松地方では文化生活に對する欲求がきはめて熾烈であ

つたが、市内小賣商は概ね舊套を墨守し、物價は他都市に比して一割程度も高く、商品傾向も市民の趣味嗜好に合致しない状態であつたが、この市民の鬱勃たる欲求に應へて出現した當店は品種の選擇に意を用ひ、廉價提供を專一にして經營して來たので、市民の歡迎を受けたのは當然すぎる位當然のことであり、濱松市の文化的地位を高めると共に、一般小賣商人の覺醒を促す結果となり、今日の文化都市濱松の建設に重大の貢獻をなして來たのである。

而して、時局以下は華美な商品をしりぞけもつぱら實用本位の商品の提供につとめ、以て、銃後市民の消費生活を指導しつゝあるのであつて、當百貨店の經營方針は他地方の同業者の範とするに足るものである。

當百貨店社長として、經營の大綱を統べてゐる谷氏は、單にその經營的手腕に卓れてゐる許りでなく、人格識見ともに高邁な紳士として内外の畏敬のまとなつてゐる。氏は、京都府出身で、明治二十六年四月、谷捨次郎氏の二男として生れ、省恩塾經濟科並に商科の出身だが、幼少より才智業にすぐれ、その大成を期待されてゐた、今日より見れば、その期待は美事に實現された譯だが、金剛石も磨かざれば光なしの譬への如く、氏が今日の大を成す途には不斷の努力精進の有つた事を見通す事は出来ない。

しかも、氏は當年四十七才といふ少壯である。その眞價が發揚されるのは一に今後にあるのであつて、今後、十年乃至二十年後に、氏の斯業界に占めるであらう地位を展望することは、獨り吾人の樂しい期待ではなからうと信ずる。

福岡鐵工界の巨星

昭和鐵工株式會社 飯田久次郎氏
取締役 社長

福岡鐵工界の巨星と仰がれ、その開歴、識見、人格、才腕の何れからも戦時下鐵工界の重鎮としての貫祿充分な飯田久次郎氏は、堅實を以て斯界に鳴る昭和鐵工を統率して、その年來の信念たる産業報國の實踐に、夙夜努力をこめてつづけてゐるのである。

氏は、福岡縣の出身にして、飯田重靜氏の二男慶應元年正月の出生だが、つとに實業界にはいり、明治、大正、昭和の三代に亘つて産業報國の赤誠のもとに努力をこめてつづけて來たのであつた。當社が、昭和鐵工の社名の下に新出發をなしたのは昭和十一年のことだが、氏はその前身たる齋藤製作所時代から社長として社務を主宰、鐵工界の發展に多大の貢獻をなして來たのである。

而して、齋藤製作所は、昭和十一年一月、淺野物産と共營のもとに現在の社名に改めたのだが、氏は引き続きその社長として社務を主宰して來たのである。その本社及び工場は福岡市外箱崎鎮西町にあり、從來、六千坪の廣大な敷地内に宛然一大城廓を形成して來たが今次事變の勃發による生産擴充計劃により、昨年初夏、新たに四千坪の敷地を買収、同年十月、當局の認可によつて、從來の資本金五十萬圓を七十五萬圓に増資し工場の増築を完成、いまやフルスピードで換業にあたり、時局へ至大の貢獻をなしつつある。

近代の戦争は武力戦ではなく、工業戦だとは歐米の軍事専門家の

いふところだが、長期抗戦を叫ぶ迷妄蔣政權を徹底的に粉碎するとともに、新大陸の建設といふ聖使命をになつて、いはゆる「長期建設戦争」を遂行してゐる現下の我が國に於いては、この戦争の有終の成果をあげる爲めにも、銃後の産業部門、なかんづく工業部門の全面的協力を必要とするのである。

幸ひにして、事變以來、我が國の工業家はいづれも時局に對する正しき認識のもとに、盡忠報國の赤誠をもつて生産能力の擴充をはかり、増産に次ぐ増産を以て國家の要求に應へつゝある。事變勃發の當初、歐米の軍事専門家乃至政界、財界の重鎮を以て任ずる人々は、日本は經濟的にみても、また工業界の状態からみても、一年間戦争を続ける事は出来ない、と論斷し、中には其結果日本は敗戦國になるだらうと妄評を下したものとさへあると傳へられたにも拘らず事實は之らの論者の妄斷を痛烈に粉碎したのだが、このかけに國內全工業者の必死の努力がある事を忘れてはならない。

もとより、その努力たるや、盡忠報國の赤誠にもとづくものであり、誰一人としてその功績をほこる者はないが、その功績は永遠に國民の記憶にとゞめらるべきものである。我が飯田氏の功績もまた不滅の光を以て輝くものである。

氏は、本年七十四才、性温厚にして篤實、その圓滿なる人格と才腕は老來いよ／＼圓熟味を加へ、社内はもとより、業界人一般の畏敬のまとなつてゐる。時局多端にして、我が工業界の使命も將來ますます重／＼きを加へんとする秋にあたり、よき指導者たる氏の長壽を願ふ共に健康に留意されんことと祈るや切である。

駿河財界の大御所

株式会社駿河銀行 取締役頭取 岡野喜太郎氏

岡野喜太郎氏は新興都市沼津市に住し、沼津市財界をリードする大長老であるばかりでなく、駿河財界の大御所として君臨し、全財界人の尊敬のまこととなつてゐる人である。氏は、静岡縣の多額納税者の一人であり、商工會議所顧問たるほか、當駿河銀行頭取をはじめ駿河代辦會長、駿河貯蓄銀行、沼津合同運送、東洋醸造、愛鷹肥料、大日本電力、その他多數會社の重役に重任し、戦時下經濟、産業界の進展に絶大の貢献をなした。ある。

氏は、静岡縣人岡野彌平太氏の長男として、元治元年四月を以て生れた。本年七十六歳、喜壽を明年に控へた高齢であるにもかゝらず、意氣、健康、ともに矍鑠として壯者を凌ぐものがあり、有史以來未曾有の非常時局に當面し、天より課せられたる與亞の大使命の遂行に直進しつゝある現下の時局に對する正しき認識から、餘生をあげて國策に協力、もつて奉公の誠を致すべく公言せられ、夙夜財界、産業界の指導、助長に當られてゐることは、吾人の衷心より慶賀し、かつ感謝してゐるところである。

今や、新東亞の建設といふ聖使命をになつて立ち上つた我が國に於いて、經濟、産業の第一線に立つものの使命はきはめて重大なるものがあり、各部門、各事業を率ゐる人々は、いづれも自己の最善をつくして國策に協力しつゝあるのだが、此時にあたつて、經

驗に富み、實力あり、かつ徳望を備へた、いはゆる老練達識の士の指導に俟つところはきはめて多い。この老練達識の士の指導教示のもとに、いはゆる少壯、新鋭が活躍して、はじめて有終の精華をあげ得るのである。氏は、すなはち、静岡地方に於けるこの指導者の役割をになひ、その役割を遂行しつゝあるのであつて、時局以來、静岡地方産業界の活動狀況が特に目醒ましいものがあるのは、一に氏の指導助力の宜しきを得た結果に他ならない。

論語に「政を爲すに徳を以てす、たとへば北辰の其の處に居て衆星のこれに向ふが如し」とあり、これは單に爲政治家への諭へである許りではなく、一般に人の上に立つ者の心得べき金言だとされてゐるが、氏はそのよき遺傳に加へて多年の修養によつて圓滿無礙の人格を有し、徳を一身に修めてゐるのであつて、同地方業界人の氏の高徳を慕つて崇敬する様は、恰度北辰をめぐる衆星の趣きがある。まことに氏こそ如上の論語の體現者といふべきである。

氏が現にその頭取として統率してゐる當駿河銀行は、六百五十萬圓の資本金を擁し、沼津市に本社を置いて、静岡及び神奈川兩縣下に四十九の支店と二十一の出張所及び二の代理店を置いて、同地方金融界に重きをなし、統後産業界の發達助長に甚大な貢献をなした。ある。その堅實なる營業振りは地方銀行中の模範銀行といはれてゐるが、これ亦、岡野頭取の經營宜しきを得た賜にほかならない。氏の功績は永遠に同地方發達史上に記録されるべきものである。この時局に當つて、氏に百歳の長壽を祈念するのは、ひとり筆者のみではないであらう。

努力成功の敏腕家

株式会社阿部鐵工所 取締役社長 千田幸助氏

阿部鐵工所をひきゐて、戦時下鐵工界に重きをなす千田幸助氏は和歌山縣の出身にして、千田平吉氏の男として、明治二十二年十一月を以て生れた。「梅檀は双葉より香ばし」といふが、今日、才徳兼備の敏腕家として内外の畏敬を一身にあつてゐる氏が、少年時代から神童の譽れ高く、將來必ず何か大事業を成し遂げるに違ひないと、周囲から期待されてゐたといふのも、不思議ではない。

而して、人が成功すると否とは、少年期に於いて、自分の才能が果して何に適するかを的確に自覺することが必要で、もしこの自己の才能に對する認識を誤るならば、如何に努力を續けても、決して成功することは出来ないものだが氏は自己の才能がエンヂニアに適し、工業で身を立て、國家社會に貢献することが、自分に課された天の使命であるといふ正しい認識のもとに大阪高工機械科を選んで同科に入學したのであつた。

同校を卒業後、工業界にはいつたのちも、氏は不斷の研究をもつて技術の奥儀をきはめ、かつ、事業經營の方面にも拔群の才を發揮して、今日の大を成したものだ、氏のこの大成の眞因は、實に氏の才能と事業とが完全にマッチしてゐることにあり、而して、その不撓不屈の意志を武器として不斷の研究をつゞけて來た結果にほかならない。

氏の主宰する當社では、自動車附屬品製造を主流事業として來たが、時局以來、その事業範圍を擴大、昨年三百萬圓に増資を敢行すると共に第三工場竣工にひきつゞいて、第四工場を建設、積極的の時局への協力参加をなした。あり、その目覚ましい躍進ぶりは驚異のまとなつてゐるのである。

而して、昨年、大阪市に、鋼鐵製建具工業組合が結成されるや、氏は興望をになつてその理事長に就任したが、鐵の配給制限下に結成された同組合は、國策への協力といふこと、統後生産陣營の擴張といふ二つの使命を帯びてゐるのであり、極めて責任重大なものである。氏がその理事長に推された所以は、その卓越した行政的手腕と、高邁な識見、人格を買はれた結果にほかならないが、氏は理事長に就任するや、この組合を單に一地方的なものではなく、業界の全國的な連絡機關として發展せしめなければならぬとして東京、名古屋の同業者へ呼びかけ、着々、全國的連絡機關の實現をはかつてゐるのである。

氏は資性謹直果斷、おのれを律すること極めて固い反面に、他人に對しては極めて寛容な、事業家としてまことに理想的な人格の持主である。この人格が、氏の卓越した手腕と、高邁な識見と相俟つて内外の信望をあつてゐる所以だが、その事業經營に當つては家族主義を採り、従業員を愛すること、恰も子女の如く、たへず待遇の向上をはかり、福利の増進をはかつてゐる。されば、従業員も亦氏を慈父の如く敬慕し、其統率下に、恰も自家の業を勵むが如く、致々として各自の職分に最善を盡してゐる。

本邦紡績界一方の重鎮

若林製絲紡績株式會社
取締役社長 若林乙吉氏

我が國の製絲紡績業は世界に冠絶するものであり、その技術に於いて我が國の斯業に比肩しうるものはない。されば、我が國の綿絹製品は多年に亘つて世界市場を席捲、堂々王者の地位を誇つて來たのであつた。これを我國の經濟的方面からみると、綿絹製品は對外貿易中、もつとも主要な地位を占め、その長い歴史を通じて我が國國際收支の上にもたらした功績はまことに偉大なものである。

今や、我が國は興亞百年の大計のもとに、有史以來未曾有の一大聖戰を遂行しつゝあり、産業經濟の全てをあげてこの戰爭目的に注力されてゐる關係上、製絲紡績界にも多少の影響を及ぼしてゐるが、しかも、國際收支の均衡上、不可缺の輸出産業たる綿絹製品は、依然として對外貿易中の主要なる地位を占めてゐるのである。従つて輸出向綿絹製品の製作にあつてゐる各社では、幾多の艱苦と闘ひつゝ、時局下に倍加した使命の遂行にあつてゐるが、若林製絲紡績株式會社も亦、その尤なるものゝ一つである。

當社は、滋賀縣犬上郡河瀬村に本社及び工場を持ち、その資本金二百五十萬圓、その長き歴史を通じて本邦斯業の發達に貢献した功績は極めて甚大なるものがある。

當社々長兼専務として、當社の今日を築き上げ、かつこの難局にあつてその敏腕を縦横にふるひ、よく好績を収めつゝある若林乙

吉氏は、當縣の出身で、明治五年五月、若林又三郎氏の四男として生れた。梅嶺は双葉より香ばしといふが、今日才德二つながらに兼ね備へた俊材と謳はれてゐる氏も、幼時から才智業にすぐれ、かつおのづからにして備はる長者の徳を備つてゐた。而して、不斷の努力修養によつて、その天恵非凡の才徳はともによ／＼その光彩を發揮し、つひに今日の大を成すに至つたのである。

古來、政治の府に當るものもとよりのこと、いやしくも人の長たるものは徳治——即ち徳を以て治めひきかゝることを以て最高の理想としてゐるが、氏はこの理想を體現し、實踐してゐるところの、當代稀れにみる君子である。即ち、職員以下従業員は氏を慈父の如く敬慕し、絶對の信服を捧げ、あたかも自家の事業に出精するかの如く、各自の職分に最善の努力をはらつてゐるのであつて、同社工場は模範工場として識者間に定評があるが、これは一に若林社長の徳治の反映である。

當社は、創立のそも／＼から、紡績報國と、郷土の發展を希ふ愛郷的精神を以て經營されて來たものだが、その創業精神は今日も尙そのまゝ引繼がれて來てゐるのであつて、當社がその長い歴史を通じて、我が國紡績界の發展に寄與した功績の甚大なるなるはもとより同地方の經濟的發展に盡した功績もまた非常なるものがある。

氏は、當社社長たるほか、多數會社の重役に現任してゐるが、氏は本年六十八歳、意氣、體力ともに矍鑠として壯者を凌ぐものがあり、ひたすら銃後産業界の發展を計り夙夜努力をこめてゐられることはまことに慶賀に堪えない。

工作機界の最新鋭

中島機械株式會社
専務取締役 川畑光志氏

新東亞の建設を目指して鉦を執つた我が國は、銃後に於いて、生産力の擴充、經濟力の涵養に奮進しつゝあるが、これが原動力となすところの工作機械工業の確立こそは、凡ゆる生産力擴充政策の一つである。工作機械は、飛行機、軍艦、銃砲等兵器の製造に不可缺な資材であると共に、他面又、凡ゆる製造工業の基礎的機械であつてその設備と能力とは一國産業の將來を左右する程、重要な使命を擔つてゐるものである。現下の我が國に於いて工作機械工業の重要視されてゐるゆゑも、多言を要しないところである。

この故に、我が國の工作機械業者は、時局以來、工場設備、人的陣容の整備充實をはかつて増産に拍車をかけてゐるのであるが、エッチニア出身の偉材としてつとに令名ある川畑光志氏が現に専務に就任して采配を振つてゐる當中島機械株式會社もまた、時局以來目覺ましい躍進を遂げた工作機界の精鋭である。

當社は、大阪の工業地帯たる東淀川區三國本町にあり、時局以來増産計畫を樹立して秘策を練つてゐたが、遂に資本金を一躍二百五十萬に増資するとともに、少壯の敏腕家として聞えた川畑光志氏を専務に戴くとともに、重役陣の強化をはかり、増産計畫の遂行の任を委ねたのである。こゝに於いて川畑氏はまづ工作機の倍産計畫を樹て、技術家陣の整備をはかるとともに、昨年來、組立工場、機械

工場（各三百坪、一棟づゝ）の建設に着手、すでに完成をみるとともに、更に、百六十坪乃至三百坪の機械工場三棟の新築に着手、目覺ましい躍進振りをみせてゐるのである。

短日月にしてこの驚異的な發展をなし遂げた川畑氏の一舉一動はいまや業者注視のまゝとなつてゐるのだが、氏は、明治二十五年生れの、本年四十八歳の少壯である。今日、すでにこの實力を備へる氏の今後の大成は眞に期待すべきものがあるのであつて、長期建設戰を遂行しつゝある現下の我が國工作機界にとつて缺くべからざる偉材である。

氏は、鹿兒島縣人川畑善之助氏の二男として生れたが、機械文明の發達期に人となつた氏は早くより斯業によつて身を立てるべく意を決し、東京高工に學び、大正元年同校電氣科を卒業した。のち、三菱造船に入り、次いで東京計器製作所に轉じ、更に、同十二年日本タイプライター會社に入つて、その非凡の才幹をみとめられ、昭和三年には同社營業部長の要職を委ねられたのである。

氏は、技術家出身だけあつて、きはめて熱心な研究者であり、かつ良心的な人であるが、その經營的手腕も、日本タイプライター營業部長時代からすでに定評があり、その誠實な人と爲りと相俟つて躍進期にある當社をして、いよ／＼發展向上の一途を辿らしめるであらうことは、容易に想像しうるのである。當社が氏を専務に戴いたことはまことに幸ひなりといはねばならず、このことはまた將來にかけてますます使命の重大な我が國工作機界全體にとつて慶賀に値することである。

常陸金融界の巨星

株式會社常陽銀行
常務取締役 武川守藏氏

由來、金融界にたゞさはるものは、單に金融的手腕にすぐれてゐるばかりでは充分でなく、人格、識見ともに高邁なる、公共精神に富めるものであることが、最高の資格とされてゐるが、現在、常陽銀行の常務として茨城縣下に於ける統後産業の上に、絶大な寄與をなしつつある武川守藏氏の如きは、その理想的人材といふことが出来るであらう。

武川氏は商才士魂の模範的人材だ、といふのが業者間の定評になつてゐるが、我々はそれを遺傳學の原理から歸納する事が出来る。すなはち、氏は、幕末勤王思想の發祥地たる水戸に、烈々たる勤王思想家であつた舊藩士武川武氏の長男として、維新匆忙の明治九年三月を以て生れたのである。その士族の血、わけても勤王の爲には一命を鴻毛の輕きに比する水戸藩士の血が、氏の今日の「士魂」と稱される處の武士的精神、高邁なる人格を形作つてゐるものであることを、見逃してはならない。

而して氏は、幼少より頭腦明敏、才氣煥發にして、神童のほまれを高く謳はれてゐた。長じて、土浦町に本店を持つてゐた五十銀行にはいるや、漸次にその頭角をあらはし、課長、支配人を経て、大正十五年取締役となつた。その五十銀行時代の功績はあまねく人の知るところだが、昭和十年七月三十日、五十銀行は常盤銀行と營業

地域及び營業方針に共通性があつたために地方經濟界の輿勢に順應せんとする大乗の見地から合併して、即ち今日の常陽銀行となるや氏はその優れた功績と手腕を認められて與望をになひ、常務に就任したのである。

常陽銀行となつてから、當行では支店出張所の改廢を行ふと共に一昨年東京日本橋富澤町に東京支店を新設して、中央金融界との連絡をより緊密にし、驚異的な發展を遂げて來た。即ち當社の資本金は公稱一千五百六十六萬六千九百圓、縣下をはじめ東京、栃木、福島仙臺の各要地に支店五十、出張所十二を配置し、顧客本位の親切と堅實な營業方針をもつて地方銀行の使命遂行に邁進し、ひたすら縣下の産業發達と金融の圓滑化の爲に最善の努力をほらつてゐる。

斯くの如く、當行が茨城縣下の統後産業振興助長に盡しつつある功績はきはめて大なるものがあるが、當行常務として經營の重衝にある氏は、その抱懐する金融報國の信念を實踐するのは、國家總動員の今日に於いてこそ特に緊要であるとし、夙夜、寢食を忘れて産業界の發展に心を砕き、そのすでに定評ある才腕を縱横に發揮してゐるのである。

金融業者の手腕如何はたゞちにその地方一圓の産業界の死命を制するものであるが、當行に氏の如き才德兼備の敏腕家を持つことはひとり縣下産業界の爲のみならず、ひろく國家的な見地からも、衷心慶賀すべきことであるといはねばならない。氏は、本年六十四才その人格、才腕ともに、いよ／＼圓熟の境に入つて、内外の信望を一身にあつめてゐる。

敏腕達識の名門第二世

福徳機械株式會社
取締役社長 九鬼金平氏

時局の要求に答へて、中部日本の重工業都市名古屋市中區大池町に新しく誕生した福徳機械株式會社の社長に就任して、敏腕を發揮してゐる九鬼金平氏は、三重縣財界の名門たる九鬼紋十郎氏の御曹子にして、本年三十八歳の少壯ながら敏腕のきこえ高く、つとに、日本無線電信電話、東海無線、熱海土地、昭和透明紙等々、多數會社の重役の任にあつて中部日本實業界に重きをなしてゐるほか、衆望の歸するところ、四日市市會議長の要職に推されて市政の爲に盡粹、また四日市肥料商同業組合長として、同業者の福利増進に絶大の寄與をなしてゐるのである。

氏は、九鬼紋十郎氏の長男として、明治三十五年を以て生れ、昭和四年東京帝大文學部を卒業したが、幼少よりすぐれた遺傳のひらめきを見せ、その才智のひらめきはしば／＼六尺の男子をすら目を眩らせるものがあつた。而して、學窓を出でてから父君の膝下にあつて實業家としての薰陶を受け、その天與非凡の才幹に光彩を添へるに至つたのである。

その性、謹直にしてすこぶる進取の氣象に富み、かつきはめて公共精神に富んでゐる氏は、自分の一生を捧げて郷土四日市市の發展につくすと共に、日本産業の發展に寄與して國家に貢獻せんとのかたい信念を持つて、或ひは事業の經營にあたり、或ひは公職を遂行

しつつあるのである。氏が、如何に名門に人となつたとはいひながら、三十代の壯齡を以て、多數の先輩にぬきんで、市會議長の重職に推されてゐることによつてもその才腕のいかに非凡にしてまた識見高く、かつ、公共精神に富んでゐるか、その一端をうかゞふことが出来るであらう。

『親の光は七光』といふことわざがあるが、氏の場合は、氏自身の實力によつて今日の地位を與へられ、活躍舞臺を切り拓いたのであつて、むしろ、親の光が氏の實力の評価を過小ならしめてゐるのではないかといふ憾みさへある位である。兎もあれ、氏は、名家に二代なしの俗諺を痛烈に打倒したものであり、その將來の大成は期して待つべきものがある。

尙福徳機械は、時局の要望を満たすべく、氏の發意によつて起されたものであるが、名古屋鐵工組合關係による下請製作工場の充實と九鬼財閥の強力な資本を背景とし、青年社長九鬼金平氏の敏腕によつて、創立日尙淺きにかゝはらず、既にすばらしき業績をあげ、いまや時局下になくはならぬ有力會社となるに至つたのである。而して、その製品は、氏の誠實主義で指導精神による従業員及び下請工場關係者の努力によつて、絶對的優秀の折紙を付けられるに至つたのである。

今や、我が國は新東亞建設といふ大事業を遂行しつつあり、未曾有の國運隆昌期に際會してゐる。この時にあたつて、各方面に將來性に富む逸材の出現、活躍をまつことはきはめて切實なものがあるが、氏の如きは即ちこの期待に添ふ逸材中の逸材である。

本邦製墨界の名門

株式會社古梅園 松井貞太郎氏
取締役社長

滿洲事變の前後から各方面に叫ばれはじめた『日本精神に還れ!』の聲は、今次事變の勃發とともにいよいよ高く、いまやそれは學國的傾向となつた。西洋の物質文明と日本古來の精神文化、この二つが渾然一體となつたものが、新日本の向ふ道であり、興亞の大業遂行の一大指針であるといふのが識者一般の輿論となつてゐる。

即ち、これが運動の形に現はれたものは、一は産業總動員、生産力擴充、經濟力強化等々の運動であり、一は、國民精神總動員運動がこれである。更に具體的にいふならば、前者に於いては銃後産業部門を守る戰士たちの烈々たる盡忠愛國心を基調としたところの夙夜の努力がそれであり、後者においては、文化諸部門が全く日本的なるものに還元して來てゐるのである。書道の復興も亦、その顯著なあらはれの一つである。

由來、書道は趣味的にいつても、日本趣味の第一線を行くものであるが、『書道』といつて道なる文字の使はれてゐることによつても明らかなるごとく、劍道、柔道などと等しく、精神修養を目的としたものであつて、日本精神へ還れ!の要求に最適の趣味である。そのことは、古來、筆蹟に人格があらはれるといはれ、いはゆる運勢判斷の中にも、筆蹟判斷といふものがある位で、書の道を學ぶことは、人格の陶冶ともなるのである。

而して、書道といへば、たゞちに墨が思はれる。筆蹟によつて人格が現はれるやうにその使用する墨によつて、その人の趣味嗜好が知られ、又、教養の程が偲ばれるのであつて、昔から書の道に多少の心得あるものは墨の撰擇に心をを用ひたものである。書道と墨——この不可分の關係ある二つのもの相關觀念として、たゞちにわれわれの胸裡に浮ぶのは、古都奈良の名墨古梅園である。

「古梅園」製墨業は、實に天正年間創業にして、爾來三百七十餘年の長き歴史を有し、その始祖松井道珍は南朝の忠臣楠木正成公の裔といふ由緒正しき家柄である。而して、創業以來、幕府の御用も命ぜられ、代々、土佐権和泉棧越後の椽の官名を許されてゐたのである。その第七世元龜は清人と製墨法を交換し、つひに紅花墨と稱する良墨を創製するに及んで、古梅園の名はいよいよ海内にあまねく知れ亙るに至つた。

而して、王政復古と共に官名を奉還したが、明治以後も屢々無上の光榮に浴し、令名天下にあまねく、販路は遠く海外に及んでゐるのである。大正四年に至つて株式會社に改組し業務を擴張したが、當主松井貞太郎氏はすなはち當家第十二世にして、識見高邁、人格また高潔にして日本精神の權化ともいふべく、また篤行あまねく知れわたり、同地方民の絶大なる尊敬愛慕を受けてゐる。現に奈良市名譽市長の榮職に推されてゐることによつてその人望のほどを知ることが出来るであらう。

その奈良市政の上に貢献せる功績も亦甚大なるものがあり、その名は永遠に同市發展史上に記録せらるべきものである。

中京財界隨一の徳望家

名古屋商工會議所 高松定一氏
副會頭

名古屋商工會議所副會頭として、中京財界を實質的にリードしてゐる高松定一氏は、肥料商として東海道一圓にその名を知られてゐる老舗「師定」の當主である。

氏は、明治二十二年十一月、先代定一氏の二男として生れ、前名を齡吉といつたが、大正八年先代逝去の後を受けて家督を相續するとともにその名を襲つたのである。一代の商傑といはれた先代の血を受け繼ぎ、その膝下で薫育を受けた氏は、幼時から群童を抜いて、周囲の期待のまとなつてゐた。長じて東京帝大法科經濟科に入り、大正四年、優秀の成績を以て卒業後、たゞちに財界人としての第一歩を踏み出したが、果然その天賦の才質は學識と教養の二つを武器として燦然たる輝きを發し、三十に満たずして、早くも全中京財界の注目を一身にあつめるに至つた。

而して、大正八年、父君逝去のあとを受け「師定」の當主となつた氏は、父君の遺業を守りかつ發展せしめて、「師定」の聲望をますます高めると共に、或ひは名古屋商工會議所議員として、また、その商業部長として、或ひはまた、名古屋聯合發展會々長、名古屋實業聯合會々長、名古屋雜穀肥料商業組合理事長等々として、名古屋市發展の爲め、名古屋商工業者の福利増進の爲めに献身的努力をなし、偉功を樹てて來たのである。

氏は、昭和十一年末、當商工會議所商業部長から副會長に推される迄は、前記諸團體をはじめ、實に五十餘團體の會長又は理事長を兼ねてゐたが、この種公共團體の會長たるものは、當然、全團體員の絶對に信服し、尊敬するに足る手腕家であり、徳望家でなければならぬのであつて、かく多數の團體の長に推されてゐた事實によつても、氏が如何に拔群の手腕家であり、識見高く、かつ公共精神に富んだ徳望家であるか窺はれるであらう。

加之、氏は、學生時代からのスポーツマンであるが、その性格はあく迄明朗で、あく迄闊達、その行動はきびきびとして見てゐても氣持がよく、すべてに對して公平無私な態度をもつて接してゐる。よい事はよい、悪い事は悪いと偏私の態度で判斷する、この公平無私な性格が、全業者、全團體員の尊敬を一層強めてゐるのである。まことに、氏のやうな人物こそ、公共團體の主宰者として打つてつけの人材である。

而して、氏は、當所副會頭に推されるや、多數の會長を辭任し、先輩青木會頭を扶けて、もつぱら大局的見地から中京財界の發展に努力してゐる。これは氏の近代人的性格の一端を物語るものであり、かつ、商議副會頭就任にあつて、氏が如何に大きな抱負を持ち、決意をしてゐたか窺はれるのである。果然期待は裏切られず、氏の副會頭就任以來の功績は實に甚大なものであつて、早くも將來の正會頭を以て目されてゐる。吾人も亦その日の到來することを確信して疑はない。氏の今後ますます自愛、以て中京財界、ひいては日本財界の發展に一層の貢獻をなされんことを切願してやまない。

造船界一方の霸王

株式會社大阪造船所
取締役 社長 南 俊 二氏

四面海に取圍まれた我が國に於ける造船業は平時戦時の別なく、きはめて重要な事業である。軍事的に、また産業上から、世界を制壓せんとする爲めにはまづ、造船業の發達をはからなければならぬ。いとして、明治維新以來、西洋の科學文明が浸潤しはじめいなや、いち早く着手されたのが造船業であつた。爾來、斯業者の不斷の努力と國民の學國的聲援のうちに技術の奥義をきはめるとともに、造船事業の規模もしだいに擴大され、今日では我が國の斯業は、技術的にはもとより、事業規模の點からも、世界の最高水準を占めるに至つたのである。

而して、今次事變の勃發にあふや、斯業者はいづれも造船報國の赤誠を披瀝して國恩に酬いるのはこの秋とばかりに、いづれも設備の擴張充實をはかり、増産に次ぐ増産を以て相次ぐ需要を満たしてゐるのである。その中にあつて、その進況ひときはめざましく、衆目をひいてゐるのが、斯業一方の霸王として知られる南俊二氏の主宰する大阪造船所である。

大阪造船所は、尻無河口たる同市港區南福崎町二丁目にあり、船舶建造並修理を主流事業とし、かつ、陸船用汽機汽罐の製作、起重機並に一般輸送機製作、鐵骨鐵塔その他製罐工事請負をなしてをり、尙、東京丸ノ内の三菱二十一號館に東京出張所を置いて、確固

たる營業網を布いてゐるが、生産力擴充と大陸經營の本格化に伴ひ、海運界は未曾有の繁忙を呈し、造船業者も亦必然的に生産力の擴充を促されるに至つて、氏は最善の努力を以て、設備の充實、人員の整備につとめて來たのである。

氏は、胸中、造船報國の赤誠以外、一點の私心もない、つねに、國家的見地から事を決してゆくといふ風があり、その崇高な心事は各方面の畏敬のまとなつてゐるが、かゝる國家意識の強い敏腕家こそ、今日の時局がもつとも強く要求してゐる人材なのである。氏は、幼少時代から、頭腦明晰、才氣また燦發にして、神童秀才のほまれ高く、その大成を期待されてゐたものであつた。長じて實業界にはいるや、天與非凡の才幹はいよ／＼その光彩を増し、三十代にして早くも南極のべしの聲を聞くに至つたのである。

而して、當社長就任以來は、造船報國の唯一念をもつて、まず／＼砥ぎ澄された才腕を縦横に驅使し、つひに造船界一方の霸王として自他に認識されるに至つたのである。いまや、我が國が新東亞の建設をめざして學國緊張、生産力の擴充、經濟力の強化につとめつつある時、氏は、すでに、單に大阪造船の南ではない。造船業の今日、及び將來へかけての重要性から見て、日本の南といふべき、重要な役割を擔つてゐるのである。興亞の大事業は造船業の健全なる發達を待つことなしには、決して遂行することは出来ず、従つて完成さすことは出来ないからである。

かゝる大きな期待がかけられてゐる氏は、至誠至純、ひたすら造船報國の赤誠の貫徹に邁進してゐるのである。

皇漢藥の泰斗

三重縣醫師會長 畑 嘉 聞氏

東洋醫學の樹立を叫び騒起してから二十有餘年、幾多の靈藥を發明、創製して、醫藥界に絶大な貢獻をなし、皇漢藥の泰斗として讃仰を一身にあつめてゐる畑嘉聞氏は、宇治山田市に病院を經營し、三重縣醫師會長、宇治山田市醫師會長の重職にあるほか、宇治山田市會議員として政界に活躍してをり、三重縣民から、郷土の生める偉材として絶大な尊敬を受けてゐる。

氏は、當縣出身で、明治十年六月、畑熊吉氏の長男として生れた。天資英明、郷黨の驕驕兒として囑望されてゐた氏は、明治三十二年濟生學會を卒業後、陸軍軍醫となり、中尉にして現役を退いてから、大正四年、郷里である神都宇治山田市に病院を開業したが、まもなく渡米してボスビグラデュエートに學び、大正七年卒業、歸朝したのである。

爾來、氏は痔疾の療法研究に没頭して來た。この痔疾は日本の國民病といはれてゐる程、罹病者數の多い病氣だが、その治療は頗る困難とされてゐる。多年、治療の實際にあたるうち、西洋流の觀血的療法の缺陷を熟知するに至つた氏は、これに勝る療法の發見に没頭するうち、つひに非觀血的治療法を發見、『非觀血的痔疾療法』なる醫書を著して斯界に一大センセーションを起し、最近はまだその姉妹篇たる『藥療外科ノーマス療法』を發表、革命的新發見と

して、一大反響を呼び起したのである。

この非觀血的療法とは文字通り血を見ずして治療する方法であり、ノーマスとは執刀不用の意味であつて、藥品の浸透作用により、外科諸病を手術することなしに治療する方法を説いたものである。これは西洋醫學の奥儀を極めた氏が、その缺陷の除去を思ひ立ち、東洋古來の皇漢藥の研究をつゞけ、そこから一の獨創的發見に到達したものであつて、この書が一度世に現はれるや、氏の學風を慕つて國內はもとより遠く海外より集まる醫人は實に三百を越え、今やその術は西洋流の觀的痔疾療法を完全に制壓しつゝある。

大阪の柳澤商店から發賣され、靈藥として絶讃を博してゐる『カソケチン』『ウラルゴール』『レチタン』等は實に、氏の發明創製に成るものだが、最近は更にその學説を表徴する『ノーマス』と稱する靈藥を創製、醫學界から名譽の折紙を付けられると共に、一般患者から、感謝と絶讃を受けてゐる。斯くて、氏の創唱に成る東洋醫學は次第に西洋醫學の領域に迫り、今や畑氏の名は單に日本國內のみならず、全世界の醫學界の話題の中心となつてゐる。

氏は、その性敦厚にして謹直なる君子人であるが、その反面に、きはめて進取の氣象に富み、自己の信念を貫徹せんが爲めには如何なる困難、障礙にも屈せざる烈々たる氣概の持主である。この氣概が、氏の該博な智識と透徹せる頭腦と結びついて、氏の今日を築き上げたのである。氏は、又、縣市兩醫師會長として多大の功績を記録し、特に、現時、戦時下の重大問題となつてゐる國民保健の爲め、晝夜を措かぬ努力を續けてゐることは衷心感謝に堪えない。

窯業界の最新鋭

三金興業株式会社
代表取締役 綿谷清氏

一昨年七月、赤魔克服の戈をとつて蹶起して以來、皇軍の神速果敢なる行動はまたくまに全支を席捲して、いまや世界戦史上未曾有の赫々たる戦果を挙げたのであるが、しかし新東亞の大業完成をもつて最終目的とする今次事變はこれを以て終熄したものではない。この興亞の大業の前途には、尙幾多の難關を伴ふことを覚悟しなければならぬ。しかも、この難關たるや、帝國興隆の途上に於ける試煉であり、之を打開し前進することこそ、一步一步帝國の大目標に近づく事にほかならぬ。

我々は、今昭和の御代に生を享けてこの時局に際會し、皇國興隆の基を築くべき重大なる責任を負つてゐるのである。一億同胞が心を一にし、銃後生産力の擴充と經濟の確保に任じることによつて、廣大無邊の聖恩に報い奉ると共に、大陸建設の礎石となつて甦れられた幾多の英魂を慰めなければならぬのである。

されば、事變勃發以來、奉公の至誠をもつてこの生産力の擴充、經濟力の強化に盡粹して來た人々は、いよ／＼その使命の重大なる痛感して堅忍持久の壮志をもつて更に一段の擴充強化につとめてゐるのであるが、戦時下産業の重要部門たる窯業界にそれを見るならば、躍進もつともめざましき新鋭として、綿谷清氏を代表取締役事務に戴く大阪の三金興業のあるのを見出すのである。

當社は、大阪市西區土佐堀通一丁目肥後橋ビルに本社があつて、耐火並に斷熱煉瓦の生産力擴充をめざして大活躍をなしてゐるが、衆知の如く、重工業、化學工業等の高熱工業の段賑を極めつつある今日の時局に於いて、その基礎的工業たる耐熱、斷熱煉瓦工業の使命の重大なのはいふを俟たない。

當社では、この時局の要求を痛感し、綿谷氏の窯業報國の赤誠をそのまゝに社是として活潑なる活動をつゞけてゐるのであつて、その躍進ぶりは、斯業界の驚異のまとなつてゐる。これは、時局の好響によることもさるながら、敏腕を持つて一世に鳴る綿谷氏の愛國の熱誠にもとづく熱心なる經營の力を見のがすことは出来ない。氏は、たゞにその經營的才幹に於いて卓越してゐるばかりではなく、人格また高潔にして、その胸中には烈々たる愛國心がある。氏は、早くから、心技一致、——即ち、才能技術が如何に傑出してゐても、精神がこれに伴はなければ、眞の事業家、技術家とはいはれない。ことに精神の國である日本においてはさうである。精神と技術と相俟つて、はじめて、日本的な事業家、技術家といふことが出来るのである——との信念を持つ、この信念のもとに、才幹を練るとともに精神の陶冶を怠らなかつたのである。

まことに、日本の事業家及至技術家は、すべて斯くありたいもので、特に、興亞の大使命をになつて起つた今日に於いてその必要を痛感する。この見地から、氏は當代の模範とすべきであり、吾人の衷心より推服措かざる所以である。而して今や、各方面の期待を一身に擔ふ氏の前途はまことに洋々たるものがある。

老練達識の敏腕家

株式會社小松製作所
取締役社長 中村稅氏

詩的表現を借りていへば、動力のリズムカルな轟き、ハンマーの強烈な響きは、近代國家の心臓の鼓動である。人體の健康が心臓の鼓動によつて判断される如く、近代國家の健康は工業界の活動状況によつて判断されるのである。特に、戦時下に於ける工業界の使命の重大性については贅言を要しない。近代の戦争は當該國間の工業戦だといはれてゐる位である。

されば、事變以來、我が國の工業人は、いづれも、盡忠報國の赤誠のもとに、異常な緊張を以て、生産能力の増大を圖り、その全力を發揮して大業の活躍をつゞけてゐるのである。全國到る所の大小の工場から、晝となく夜となく、がう／＼と轟き來る動力の響きは、正義の國日本の勇壯なる進軍ラッパともきこえて世界の心臓を寒からしめつゝあるのであり、また、前線に立つ將士には銃後に我等ありといふ頼もしき聲援ともきこえて、士氣を鼓舞しつゝあるのである。而して、我が中村稅氏の主宰する當小松製作所も、事變以來、特に目醒ましき活躍をなしつゝある工業會社の一つである。

中村稅氏は、人格、手腕ともに傑出した模範的事業家として、夙に令名高き人であるが、その出身地は宮城縣である。明治九年八月、村岡弘一郎氏の二男として孤々の聲をあげ、先代忠吾氏の養子となつたのだが、蛇は寸にして人を呑むといふ賢への如く、氏は、

幼時より頭腦明敏、所謂一を聞いて十を知るの聰明さを有してゐた。されば、學業の成績もつねに拔群で、小學教師も、ひそかに氏の將來に多大の望みを囑してゐたといふことだが、その期待は見事に實現された譯である。

長じて、東京高商に學び、明治三十五年抜群の成績を以て卒業後、實業界雄飛のスタートを切つたが、その天稟の才質は氏の超人的なる努力、不斷の修養によつていよ／＼その光輝を加へ、須臾にして嶄然、儕輩を抜いて頭角をあらはすに至つた。即ち、日本郵船、東京電燈等に勤務して、俊才中村の名を内外に轟はれたのである。氏が今日の地位を獲得したのも、その不斷の努力修養によるのであつて、又、この間歐米に遊學して新智識を修め、いよ／＼その力を増したのである。

當社は、大正十年一月、資本金百萬圓を以て創立され、今次事變の勃發によつて、急發展を促され、昨年三月一舉五倍増資を斷行、工場を増設、設備の擴張を行つた。その營業種目は、鐵工業、製鋼業、電氣化學工業にして、石川縣下小松町の一角から、躍進日本の進軍譜を高らかに奏してゐるのである。

當社に於ける中村氏は、その功績からみても、またその實力からいつても、正に社費と稱すべきである。しかも、胸中一點の私心なく、ひたすら國策への協力を念として、業務に精勵してゐる高潔なる心事には、内外のひとしく畏敬してゐるところである。氏は本年六十四歳、その人格、手腕ともに老來ますます／＼圓熟味を加へ來たつてゐる。氏に百歳の長壽を願ふのは別に筆者一人ではあるまい。

鐵鋼貿易界の闘將

株式會社山口商店 山口 英一氏
取締役社長

鐵鋼製品並に原料、伸鐵材、各種軌條、合金鐵の直輸出入商として本邦斯業に重きをなし、時局下に絶大な貢献をなしつつある株式會社山口商店は、すなはち山口英一氏の獨裁的經營下に成長發展をつづけ、斯業の使命の重大なる現下非常の秋にあつて、めざましい活躍を演じてゐるのである。

我々は、當社の發展のあとをみて、事業の成否を決定するものは、その事業の内容と將來性、及び經營者の才腕如何にあるといふ定説の眞理であることを、今更の如く思ふのである。特に、輸出商人として國情人情をことにする外國商人と商交渉を持つ貿易商に於いて、その經營者の才腕、及び人格が成否に大きな影響を持つものであることは改めていふまでもあるまい。

氏は、一方に、機略に富める商才を持つとともに、きはめて道徳的な人格者であつて、この兩者が渾然として一を成し、今日の成功をかち得たのである。氏が、商業道徳に忠實なことは驚くばかりで、これが關係外國商の信用の基礎になつてゐるのだが、氏は、貿易商人はたゞに外國と經濟的關係を結び、自國に經濟的利益をもたらすことだけが使命ではなく、日常外國人に接することによつて自國の國民性の優秀性を認識せしめ、もつて、自國の國際的地位を高める義務を持つてゐるとの信念から、これを實踐してゐるのである。

本邦鐵工業界の新銳

株式會社隅田川精鐵所 小田原大造氏
常務取締役

支那事變勃發以來、工作機械に對する需要は急激に増加し、各工作機械會社は擴張に次ぐ擴張を行ひ、晝夜兼行を以て生産にあたるも、尙供給不足を告げてゐた時、敢然工作機械製作に乗り出したのは、我が小田原大造氏の常務をしてゐる隅田川精鐵所である。

當社は、周知の通り在來、鑄鐵管専門の製作工場として出發し、成長し、その古き歴史と老なる規模と而して優秀なる技術とを以て、斯業の最高峰を占めて來た。即ちその創立は明治四十四年にして、現在資本金四百萬圓、工場坪敷實に八千坪といふ大工場を、帝都の一大工業地帯であり日本の心臓部ともいふべき江東に有してゐるのである。而してその鑄鐵管は、創立以來三十年間不斷の技術的研究によつて幾多完璧の優秀品を世に送り出し、海内一の定評を獲得するに至つた。

されば、當社の販路は日本全國に至らざる限もなく、我が國、水道、瓦斯事業或ひは衛生施設事業の發展の爲に多大の寄與をなして來たが、更に、滿洲、支那、南洋をはじめ、海外諸地方にも進出した。特に、支那南洋方面では歐米先進諸國の製品と覇を争つて、その優秀なる品質は完全なる勝利を占め、本邦輸出貿易の爲に萬丈の氣隙を吐き、更にオランダ本國に向けて内徑七百五十ミリ以下一萬トンの輸出を行つて世界の鐵工業界に一大脅威を與へ、同國技師ヘツ

ある。

幕末の開國期にあつて、横濱に始めて上陸したアメリカの水兵の一人は日本人とはどんな人間かと興味を持つてゐたが、通行人に行きあたらず、歸船しようとして、たまたま行きあつた。たつた一人の日本人が、片目であつたところから、歸船して同僚に告げて曰く「日本人といふのは片目の人種らしい」と。——これはもとより笑話であり、又、一人をもつて全體を推すといふことは愚かではあるが、如何に聰明な人間でもこの傾向を幾分かは持つてゐるのである。されば、もし貿易商といふ限られた数の人間とのみ交渉を持つ外國商人が、たゞに、不道徳な日本人商人と交渉を持つたとしたならば、たゞちに、日本人は不道徳な國民だ、と連断し、ひいては日本は不道徳な國家だといふ妄断をしないとも限らないのである。

氏が、貿易業者の人格を云爲するのはすなはちこの見地からであるが、まことに味はふべき言といふべきであらう。貿易商は、外交官と共に、全國民の人格を代表するものであることを忘れてはならないのである。

されば、吾人も亦、この見地から、氏の如き高潔な人格者をこの分野に持つことを大なる誇りとするのだが、氏が、その事業を通じて時局に絶大な貢献をなしつつあることを思ふとき、更にその感謝の意を表さずにはゐられないのである。氏の時局に貢献せんとする烈々たる意欲は、昨年九月、東京銀座の共同火災ビルに東京出張所を新設し、その事業規模を擴大したことによつても知られるのである。今後一層の努力を祈つてやまない。

ト氏をして、「世界に於ける最優秀品なり」との折紙をつけしめた程である。

かくの如く、同社の鑄鐵管が世界の覇者となつた際には、三十年一日の如くに續けられて來た技術家陣の研究があるのであつて、同社のメーカー的良心は、他の模範とするに足るものである。而して、同社の誇りである所のこのメーカー的良心は、昨年來、新たに着手せられた工作機械の製作部門に於いても發揮せられ、操業後、幾干もなくして、早くもその製品は壓到的優秀品との折紙を付けられるに至つた。

如何なる事業にもせよ、信用が成功の基調をなす。「あの社のものなら安心して使へる」といふ、社名やマークに對する絶對的信賴をかち得たら占めたものである。而して、この絶對的信賴は、その社を代表する重役の人格と識見とに基調を置くものである。

當社の常務として社員の統率、指導にあたつてゐる小田原大造氏こそは、當社の社是たるメーカー的良心の實踐者にふさはしき誠實なる人格と優れた教養と卓越した識見の持主である。氏は、社員の指導にあたつては、つねに「責任ある態度で業務に當れ」と説き、責任を知ることが人間最大の義務であり、美德であることを諭へてゐるが、正に味はふべき重言といはねばならぬ。

氏は、廣島縣人小田原角松氏の長男にして、明治二十五年十一月の誕生、本年未だ四十八才の壯齡である。その前途は、當社の前途と共にまことに洋々たるものがある。吾人は、氏の前途を祝福すると共に、今後の活躍を祈つてやまない。

衡器製作界の重鎮

田中衡器製作所主 田中佐造氏

人間に於いて何が一番尊いかといふならばそれは努力であらう。人類の福祉に絶大な貢献をなす大發明も、努力によつて成るのであり、國家社會に寄與するところ多き諸種の事業も亦、それら經營者並に従業員の營々たる苦心努力によつて生れ、行はれるのである。もしも、人間から努力を除いたならば、禽獸と等しい境地に沈滞してゐなければならなかつたのであらう。

されば、向上を求めてやまぬものは誰しも努力を怠りてはならぬのであり、同時に、我々は今日、文明の恩恵に浴し、各種産業戦士の惠澤に浴して生活を樂しみつつあることを思ふにつけても、近代文明の生みの親たる天才的發明家、及び諸産業部門の戦士の勞苦に對する感謝を忘れてはならないのである。こゝに、新潟縣三條市にあつて、明治三十八年以來、實に三十有五年に亘つて一業に全精力を傾注し、もつて、我々の文化産業の上に絶大な貢献をなして來た人がある。今や、我が國衡器製作界の第一人者として、その卓越した技術を謳はれてゐる田中衡器製作所の田中佐造氏が即ちその人である。

氏が當所を起したのは、日露戦争のまつた中であつた明治三十八年、いまだ我が工業界の發達程度がきはめて幼稚であつた時代であつたが、斯業を以て自己の天職と信じた氏は、その前途に横はる

あらゆる艱難と戦ひ、これを征服して、つひに、今日、釣秤の製造においては何人も及ばぬすぐれた技術を修め、新興コンツェルンの雄たる日曹の各工場、日本電気工業、中央電気工業、關東電気製作、日本ステンレス、東京電気、日本石油各工場、日本カーバイト工業等をはじめ、我が國有数の大會社の需要をほとんど一手に引受けてゐるのである。

その製品は、寶號衡器をはじめ、衡器一般だが、特に寶號はサビナイ鋼をもつて製作され、各會社工場から絶對優秀の折紙をつけられてゐるのである。而して、時局以來各産業部門において生産力擴充が實施せられるに及んで、當社の需要は急増の一途をたどり、昨年、二百五十坪の工場を増設して、ますます技術の向上につとめ、大量需要を消化してゐるのである。

衡器の正確を生命とするものであることについてはこゝに改めていふまでもあるまい。されば、その製作技術の卓越してゐることが必要なのだが、いかに技術が卓越してゐても、製作者が無責任であつては常に正確であるとはいへないのである。即ち、誠實な、良心的な製作態度が必要となつて來るのだが、誠實主義の權化のごとき氏は、まづ従業員の自覺に重きを置き、つねに、「責任を以て作業にあたれ、責任を知ることが人間にとつてもつとも尊いことだ」と教へると共に、自らそれを實踐して範を示してゐるのである。

當社の製品が各方面の歴倒的支持を受けてゐるのも、氏の多年に亘る努力の結果修得された卓越した技術と、而してこの誠實そのものの如き製作態度によるものにほかならないのである。

艦船電機界の寵兒

合資會社奥井電機 奥井豊松氏
工作所 代表社員

近代文明は電氣の文明だといつても過言ではない。過去一世紀間に世界の文明は長足の進歩を遂げたが、この文明は電氣の發明によつてもたらされたものなのである。試みに、今日の産業文化の如何なる部門をでも取つて見るがよい。そのすべては、電氣の庇護のもとに、或ひは協力のもとに、今日の輝かしい花を開いたのであることを知るであらう。

されば、現在——より將來へかけての全人類は、電氣の發明者エヂソンに對してつねに感謝を忘れてはならないのだが、更にその感謝は、現在、電氣に關するあらゆる事業を興し、たゞさはつてゐる人々に對しても向けられなければならないのである。神戸市に於いて、多年電氣機械器具の製作販賣、並に修理にあたり、時局下にその活躍のきはだつて目醒ましいものある當奥井電氣工作所の代表社員奥井豊松氏も亦その一人である。

氏は幼少から頭腦明晰にして科學に對する深い趣味と憧憬を持つてゐたが、長ずるに及んでいよ／＼その傾向強く、つひに自己の天職として斯業を擇んだのである。當社を創立以來、優秀なる技術家を擁して、自らも製品の改良研究につとめ、技術の優秀をもつて需要方面に奥井電機の名をあまねく知られるに至つたのである。

當社は、現在、神戸市兵庫區西出町に本社がある。その營業種目

をみると、艦船電氣艦裝工事、建築電氣工事請負並設計監督、直流發電機電動機、艦船電氣器具、交流整流子型電動機、交流變壓器製作販賣、及び、あらゆる電氣機械器具の修繕を行つてゐるが、特に艦船電氣艦裝工事、艦船電氣器具の製作にはすぐれた技能を有し、今や一流大造船工場との緊密なる連絡のもとに、戦時下に需要もつとも多く、且つきはめて重要なこの部門にもつばら主力を注いでゐるのである。

氏が、今日の如く、電機界に綱をとるに至つたのは、先にもいつたやうに自己の趣味と而して才能が斯業に適することを知り、斯業に身を投じ、爾來、超人的の努力をもつて研究に専念して來たが爲めにほかならない。この自分の才能と趣味に適した事業を擇ぶといふことが成功には何よりも大切な要件であるが、さて、自分の才能を正しく自覺するといふことは何より難しいことなのである。いひかへれば、少青年期に於いて自分の才能を正しく認識自覺し得るか、否かが、成功失敗の分岐點だといへる。氏はこれを正しく把握したわけだが、また凡庸の徒と異なるゆゑである。

氏の人となりには、至誠至純、きはめて圓滿な人格の持主である。この圓滿な人格と、誠實そのものの如き人柄が氏をして今日の大成さしめた重大な要素になつてゐることもまた見逃してはならない。この人格ゆゑに、従業員の献身的作業が得られたのであり、顧客方面の信用と有力筋の支持とを得られたのである。要するに、氏は全く自力を以て今日の成功をかち得たといふことが出來、又それ故にこそ今後の飛躍に多大の期待がかけられるのである。

令名高き特許王

牧製作所主 牧 實氏

牧製作所主牧實氏は、眞摯な研究者にしてこれまで發明考案せる機械は、ほとんど無数といつてもよい程の多數にのぼつてをり、製油、肥料工業用諸機械の設計、製作にかけては、本邦最高の權威者として知られてゐる偉材である。

氏は、現に、神戸市外御影町東明の字三番に第一工場を、同じく字七番に第二工場を有し、氏の特許を有する諸機械の製作を主流として、めざましい活躍をなしてゐるのである。その事業の内容を列記してみると、牧式低温乾燥機、同ステール・ファイバ乾燥機、同自動式真空常温乾燥機、牧式圓筒自動抽出装置、同溶剤自動循環式油脂抽出機、同アルコール回收装置、同クツカープレス、同簡易動力螺旋自動壓搾機、同魚肥魚糞製造装置一式、同酸水素瓦斯電解槽、同硬化油、石鹼、リソリン等々は、何れも、專賣特許を有するものであり、その他、重合油、肥料工業に關するあらゆる機械の設計製作、据付、及び技術の指導を行つてをり、又、銅、耐酸銅、アルミニウム、錫、鉛熔接加工一式、各種高電氣瓦斯熔接一式をも營んでゐる。

上にあげたものはその一部分にすぎないが、かくの如く多數のすぐれた新製品を生み出した氏は、天才の二字によつてはじめて表現することが出来るのである。天才は、遺傳に俟つこと多きはいふま

でもないが、「天才は努力なり」といはれてゐるやうに、超人的努力、その根柢となるところの精力こそは常人と天才を分つものなのである。遺傳に於いて恵まれた氏は、幼少より神童、秀才のほまれ高く、すこぶる旺盛な智識慾と研究心をもつてゐた氏は、少年時代より、早くも難解な科學書を耽讀してゐたといはれる。この一事を以て見るも、氏の凡非ならざるを知ることが出来る。

而して、長ずるやいよいよその傾向はげしく、超人的努力をもつて研究をつゞけ、矢繼早にその成果をあげ、自身當所を起してその成果を世に送つたのである。その各機械の優秀性について一々列記する邊はないが、各機械を通じていひ得ることは、他品に比し驚くべく能率的にしてかつ經濟的なことである。いまや、我が國はあらゆる部門をあげて、生産力擴充につとめてゐるのだが、能率的機械の使用こそは生産力擴充に缺くことの出来ないものであつて、當社の製品が、いづれも羽が生えて飛ぶが如き賣行きをみせてゐるのもまた故なきことではない。

斯くの如く、優れた技術家である氏は、技術を生命とする人だけあつて、従業員の指導にあつても、つねに、良心的に、責任ある態度をもつて製作にあたるやうに説き聞かせてゐるのである。又、その理解と温情に富んだ厚遇な態度は、全従業員の感謝と崇敬のまとなつてをり、慈父の如くに敬慕されてゐる。

氏は、容姿すこぶる端正の紳士であるが、内にひそむ天才的頭腦の輝きはその眼光にあらはれ、氏に接する者をしておのづから頭の下るのを覺えしめるのである。

代用品時代の寵兒

赤木本店主 水野 伊兵衛氏

支那事變はいはゆる初めなく終りなき戦争である。蔣政権が覆滅しようとしまいと、皇軍占領地域の治安は、日本軍の手によつて確保せられ、新しい友邦支那は——而して新しい東亞は、日本の手によつて建設されて行く。これが我々日本人の擔ふ聖なる使命であり、國運を賭し、子々孫々に傳へて完成すべき一大事業なのである。されば、第一線に立つて銃を執る皇軍將士はもとより、銃後にあつて生産戦線に従事する全國民は、その總てをあげて、この聖なる事業への協力に日夜努力してゐるのである。

これが消費面に現はれたものは、戦争目的遂行に必要な重要資源の消費制限である。この消費制限によつて、我々の日常生活は何程かの犠牲を拂はされてゐる譯だが、この犠牲を厭ひ、不平の聲を發するものは一人もゐない。こゝに、日本が世界に誇る學國一致の美しい國風を見るのだが、いたづらに消費を制限し、禁止するのは、消極的手段であつて、つひには國民生活を萎微せしめ、士氣を沈淪せしめる弊が伴ふ。この弊を除去する積極的方策として奨励されてゐるのが、即ち代用品工業である。代用品といへば、一時の間に合せといふ感じを興へるが、今日では代用品は一年二年にして後を絶つものでなく殆んど半永久的に生命を持つものである。されば、代用品工業も、立派な國策的事業として、漸次企業化さ

れつゝあるが、この代用品時代の寵兒として、その先覺者として、斯界に重きをなしてゐる人に、我が水野伊兵衛氏がある。氏はすでに昭和十年頃から、今日あるを豫期し、陶磁器による金屬製品の代用品の製作に着手、多數の技術家をして研究せしめ、その製品を遂次市場に送りつゝあつたのだが、この代用品時代の到来とともに、その製品の優秀性は廣く認識せられるに到り、いまや斯界の寵兒として、完全に金屬製品の領域を摩するに至つた。

現在市場に送られてゐるものうち、主要なものは、スプーン、フォーク、ナイフ等の食器だが、その製品は一本々々衝擊試験を施す爲め、非常に強固で、ナイフの如きはピフテキの如き纖維の強いものも容易に切ることが出来る。岐阜縣では、優秀代用品として表彰し、水野氏は岐工聯代用陶磁器指導員にあげられたが、これは氏の見識の明と、併して常に撓まざる努力の賜ものなのであつて、氏の名は斯業の先覺者として、永遠に斯業の發達史上に記録せられなければならないであらう。

氏は、岐阜縣出身で、明治二十九年三月、水谷幸次郎氏の三男に生れ、先代水野伊兵衛氏の養子となり、家督相續と共に、前名隆三を改めて襲名したのである。京都二商出身で、さきに百二十八銀行の常務として、敏腕を謳はれたが、現在は、家業たる赤木本店の經營にあたるほか、八幡商事の常務として活躍してゐる。氏は、本年未だ四十四歳。金屬製品の代用品としての陶磁器の將來、ます／＼多望ならんとする時、その指導者に、氏の如き少壯の士を有することとは、斯業の前途の爲め、洵に慶賀に堪えない。

立志成功の巨人

株式會社寺内製作所 寺内梅次郎氏 取締役 社長

兵器、航空機部分品界の雄として知られる株式會社寺内製作所社長寺内梅次郎氏は、本邦産業のエキスパートとして誰知らぬものなき偉大なる存在であるが、又、京都府下の一農家より出て今日の大成した氏は、立志傳中の人として、その努力成功の半生史は、以後進の範とするに足るものである。

そも、氏は、明治十九年九月、京都府の人西野忠太郎氏の長男として生れ、母の里方たる寺内家を嗣いだ。幼にして穎悟、大志を抱懐してゐた氏は、明治三十七年、十九歳にして大阪砲兵工廠にはいるや、業務のかたはら、殆ど獨學を以て至難なる機械工學の淵奥をきはめたのである。されば、漸次にその頭角を現はし、重用せられるに至つたが、獨立の念やみ難く、大正二年に至つて、京都東山に金屬品製作工場を起した。これこそ、當社の前身をなすものであるが、時に氏は年齒僅かに二十八歳。これによつてもその非凡な天才を知ることが出来るであらう。

而して、こゝに多年宿願の獨立第一歩を踏み出した氏は、爾來、寢食を忘れて技術の研鑽につとめ、その卓越した技術の世に認められると共に、業務はいよゝゝ發展し、創業後七年にして深草町に新たに大工場を建設するに至り、同十一年十一月には、その優秀なる技術と、氏の人格にもとづく良心的なる製作態度を認められて、海

軍指定工場たるの光榮を浴ふこととなつたのである。

而して、氏はこの光榮に感激、工業報國の念を一層固くし、ますます技術の研鑽、品質の向上に努力した結果、需要頗みに増大するに至つて、現工場を新設し、組織を擴大して株式會社とし、今日の發展を遂げたのである。その資本金は二百萬圓、兵器部分品、航空機部分品、その他附屬品の軍需品を主要製品としてゐるが、特に今次事變の勃發以來の活躍は眞にめざましいものがあり、その事業を通じて、時局に貢献せる功績は、きはめて大なるものがある。

氏の當社經營の根本方針としてゐる所は、實に、軍需品報國の赤誠にほかならない。氏は、國民は各自の才能、能力の最善をつくして、國家に貢献すべきものであるとの固き信念を持つてゐるが、この信念にもとづいて行動してゐる氏は、私利私慾をはかるの心は毛頭なく、たゞ、國家の利益をのみ念とし、國家の要求とあれば、一身の利害を超越してこれを遂行するといふ風であるから、社内従業員はもとより、社外一般からも絶大なる尊敬を受けてゐる。

氏の人と爲りたるや、いはゆる内剛外柔、自らを律すること固くして、しかも、外には寛容なる、事業家としてはまことに理想的なる人格の持主である。

従業員に對しても、つねに、當業の使命の重大さを説き、各自の責任に於いて最善をつくして業務に當るやう訓諭してゐるが、慈父の温情を以て接してゐるので、従業員は、心から氏の統率に悦服し夙夜、故々として業務に精勵してゐるのである。當代立志傳中の人物たる氏は、又、當代事業家中の師表的人物である。

軍需工業界の寵兒

岡本工業株式會社 岡本徳松氏 常務取締役

今日の岡本工業株式會社は、自轉車、オートバイ、小型自動車、航空機、各種兵器等、その事業種目はきはめて廣汎で、時局以來は軍需八割、民需二割の見當で、ひたすら國策への協力を行つてをり、軍需工業界の寵兒となつてゐるが、その發足はノリッ號の名で普く知られてゐる自轉車の製造工場であつて、併してその創立者は、本邦自轉車、自動車界の先覺として知られる岡本兄弟であり、且つその主宰者である。

岡本兄弟は奈良縣の出身で、長兄松造氏は岡本半四郎氏の長男、我が徳松氏は即ちその次男にして、明治十一年十月の生れである。明治三十二年、徳松氏は兄松造氏とはかり、自轉車、自動車製作工場の經營に乗り出したのであるが、時に兄弟共に二十代の青年にすぎなかつた。この事實は兄弟の天才たることを立證するものだが、僅か二十何歳にして自轉車、自動車製造業に着眼した炯眼には、たゞ、驚嘆せざるを得ない。

創業者の前途には、困難なる障礙がつきものであるが、兄弟は相扶け相勵ましあひ、不撓不屈の強固な意志と旺盛なる活動力をもつて、努力に次ぐ努力を續けた結果、次第にその業績をあげ、十餘年後の明治四十三年に至つて、令弟直次郎氏を加へ、岡本兄弟合資を創立、その事業規模を擴大したのである。これより、業界に有名な

岡本三兄弟の努力奮闘がつけられた結果、業績はめきめきと向上、大正八年には更に組織を擴大して、資本金百五十萬圓の株式會社に改めたのである。

而して、この株式組織に變更を機として、新たに航空機部分品の製造を開始し、陸軍省指定工場たる榮譽を獲得、更に大正十四年には海軍省指定工場となり、昭和二年には逓信省航空局の指定工場となつた。かくて軍需工場として新しい出發をなした當社は、受註殺到によつて工場の新設、擴張を促され、昭和十年には自轉車製造設備を岐阜縣垂井の新工場に移して名古屋市昭和區所在の本社工場の擴充を行ひ、翌十一年には、名古屋笠寺町の新工場の建築に着手、十二年に第二期工事を終り、十三年に第三期工事を終了、更に第四期工事は本年秋までには完成の豫定である。以上の如く、當社の發展ぶりはまことに目醒ましく、業界驚異のまとなつてゐるが、これは一に、岡本三兄弟一身同體的協力のたまものほかならず、この三兄弟の美しい兄弟愛は、ひとり業者の美望のまとなつてゐるだけでなく、廣く世の輿論となすに足るものである。

徳松氏は、頭腦明晰にして判断つねに正鵠を得、岡本三兄弟の智囊の役目を果して來た。この三兄弟を軍人にたとへれば、長兄松造氏は司令官、徳松氏は參謀長といふことが出来る。この好參謀長たる徳松氏の性格は内剛外柔、きはめて人隔りのよい紳士である反面、卑しくも他人の犯すことを得ない信念を持つてゐる。この信念とこの頭腦が、岡本兄弟の成功の原動力たる役割を果して來たと云ふことが出来る。洵に氏は當社の至寶と言ふべきである。

紀州金融界の指導者

株式会社紀陽銀行
取締役頭取 山田 虎次郎氏

紀州金融界指導者として知られてゐる山田虎次郎氏は、加藤前頭取辞任のあとを受けて、當紀陽銀行の常務から頭取の任に就き、戦時下に於いていよ／＼その使命の重大性を増して来た金融界の円滑なる使命遂行の爲め、晝夜、寢食を忘れて、努力をつゞけてゐる。今日の經濟組織下にあつては、金融業者の立場は、全産業界の死命を制する重大なもので、金融業者の手腕如何は、たゞちに全産業界の活動力に影響するのであるが、特に、産業總動員下の今日、金融業者の手腕如何は國家的見地からも極めて重大なものとなつてゐる。この時にあつて、識見、力量ともに傑出した氏の如き實力者を當行頭取に持つてゐることは、單に當行及び同地方産業界の爲めのみならず、實に、國家的見地からも、慶賀に値することである。氏は、明治十一年五月の生れにして、先代孫兵衛氏の次男であるが、當家は代々庄屋の家柄にして、連綿實に三百年の歴史を有する舊家である。かゝる由緒正しい家柄に生れた氏は、自然に備はる長者の風格を有し、公平無私、ひたすら郷土の繁榮を願ひ、國家の發展を願ふ愛郷、愛國心を以て金融界に活躍してゐるのであつて、まさに、金融業者として打つてつけの人格の所有者である。

氏は、徳義中學の出身、その實人生への第一歩は、當行の前身たる紀陽貯蓄銀行に踏み出され、爾來、一貫して當行に在社、當行の

發展と同地方産業界の伸展に絶大なる貢献をなして来た、當行の生字引であり、最大の功勞者の一人である。

そも／＼、當行は、明治二十八年の創業にして、創業以來の堅實なる經營方針によつて同地方に確固不動の信用を持つてゐる。本店は、和歌山市本町一丁目であり、和歌山、海南の兩市をはじめ、海草、那賀、伊都、有田、日高の各郡の主要町村に十四支店四出張所を有し、同縣下の中心銀行として重きを成してゐるが、その長い歴史を通じて、同地方經濟界の發展に貢献した功績といふものは、實に並々ならぬものがある。特に、氏が常務に就任後の業績には一段と見るべきものがあつて、氏は同地方民から、同地方發展の恩人として呼ばれて、絶大な感謝と尊敬をばらばらされてゐるのである。

氏は、また和歌山商工會議所議員として市商工界の發展につくした功績も甚大なものがあるが、これ等もみな、前述の如き、氏の熱烈な愛國、愛郷心の現れにほかならないのである。

氏は人ととなり、温厚篤實、きはめて人觸りのよい紳士であるが、しかも自らを律すること固く、剛直不羈の一面を持つてゐる。いはゆる、利を以て誘ふ能はず、威武を以て屈する能はざる偉丈夫であつて、この人格ゆえに、内外の尊敬は一入高いのである。

氏は、すでに選擧を越したが、心身共に饒饒として壯者を凌ぐものがあり、今や「老骨を擲ち、金融報團の信念を實踐して、興亞日本の理想の實現に協力せん」との決意のもとに、夙夜業務に出精してゐる。吾人は衷心より氏の健康と長壽を祈つてやまないものであり、併して今後の活躍に大なる期待を有するものである。

熱烈なる國策の協力者

株式會社關根鐵工所
取締役社長 内山 復次氏

内山復次氏は信念の人である。もとより、一つの計劃を立てるにあつては、其緻密なる頭腦を以てあらゆる角度から検討を加へることを怠らないが、その検討を経て、一度これが正しいと信じ、これに着手したならば、たとへ如何なる困難や障害に遭遇しても斷じて、この計劃を放棄し實踐を中止することなく、飽く迄これを遂行するといふ、強固なる意志の持主である。この意志の持主であること、信念の人であることが、氏の今日の大を成した根本要因をなしてゐるといふも、決して過言ではない。

而して、氏は、また、熱烈なる愛國者であり、公共精神に富んだ人で、氏のすべての行動は此愛國心、公共精神から出發してゐるのである。これは、日本人として當然のことであり、すべての人がさうある筈であるが、氏の如く強くそれを意識して實踐してゐる者はその意識することの強さに於いて多く例を見ないのである。これこそ、この重大なる時局に於いて、氏の活躍がひと際めざましく、而して各方面から異常な尊敬を拂はれてゐる所以である。

氏は葉隠論語で有名な佐賀の産で、明治二十二年六月、内山三悦氏の四男として生れた。幼少より一風格を持ち、その烈々たる氣概は郷黨の注視をあつめ、將來の大成を期待せしめたのであるが、大正四年明大法科を卒業後、鉛工業の研究に着手し、すぐれた成果を

あげ、のち、東京鉛板の取締役兼支配人に上げられた。鉛工業の研究に着手したそも／＼は、之によつて當時世界の水準より遙か下位にあつた祖國の斯業の向上發展を願ふ愛國心からだつたのである。

而して、昭和十一年六月に到り、前經營者より當社を引繼いで、組織を株式會社に改め、自らその社長となるや、工作機械の將來性に着目、これに専心して、皇國焦眉の急務たる生産力擴充に貢献せんと決意、この決意を實踐するがためには工作機械専一工場としなければならぬとの信念から、前經營者より引繼いだ他種の機械製作をやめ、全部の木型と圖面とを焼却してしまつたのである。その金額は一萬數千圓に上るといはれるが、當時、これを見聞した人々は「内山は狂人になつたのではないか」とか「工作機械はそれ程賣れるものではない」と氏の無暴を笑つた。當時は支那事變前で、生産力擴充もいまだ叫ばれず、従つて工作機械の需要が今日の如く盛にならうと考へるものは少かつたのだが、心中、私利私慾をはかるが如き考への毛頭ない氏は目前の利害に拘泥することなく、將來、國家が工作機械を必要とする時が必ず到來するといふ確固たる見通しのもとに、斷乎これを行つたのである。

果然、今日の工作機械の黄金時代が到來して、當時氏を笑つた者も、今更の如く氏の先見の明を讃へたものだが、氏に尊敬すべきことは、この先見の明よりも、國家百年の大計の爲めに一時の利害を超越して、これを遂行する強烈なる國家觀念と果斷の性格でなければならぬのである。威武に屈せず、富貴に阿ねらず、端倪すべからざる偉丈夫とは、將に氏の如きをこそいふのであらう。

硝子工業界の最高權威

岩城硝子株式會社 岩城倉之助氏
取締役社長

我が國の光學工業、硝子工業は、技術的にもまたその規模上からも、歐米先進國の壘を摩する高度の發展を遂げたが、この發展をもたらした功勞者の一人として我が岩城倉之助氏のあることを忘れてはならない。氏は、斯業技術界のエキスパートであり、多年、日本光學工業の技師として、斯業に貢献、現に當岩城硝子工業を主宰してゐる。現在、斯業に於ける第一人者である。

氏は、東京府の人岩城瀧次郎氏の二男にして、明治二十三年九月を以て呱呱の聲をあげた。幼少より頭腦明晰にして緻密、才氣煥發にして、志すところ大きくかつ高く、郷黨の麒麟兒として其將來を囑目されてゐたが、長ずるに及び將來、工業界に入つて國家社會に貢献すべく志を立てた氏は、先進國に渡つて學理と實際を修めるに強かずと決意して渡米、オハイヨ州立大學工科に學び、大正五年師朝たごちに、前記の如く日本光學工業技師となつたのである。

旺盛な研究心の持主である氏は、業務のかたはらつねに研究を怠らず、幾多の發明改良をなして、斯業の發展に貢献した。而して大正九年、現社の専務となり、同十一年代表となつたが、昭和十三年二月、在來の合資組織から現在の株式組織に改めるに及んで、その取締役社長となつたものである。

そも、當岩城硝子株式會社は、實に明治十四年の創業であつ

て、爾來、數次の變遷を経て、現在の株式組織となつたのであるがその六十年の歴史は本邦硝子工業發展史そのものともいへるもので當社の功績は永遠に本邦斯業の發展史を飾るものである。その主要製品は、光學機械類、安全硝子、信號用レンズ、信號用硝子、鋼硝子、建築用彩色硝子、クロス寫眞用フィルター、イワキ熔接用眼鏡等だが、當社は宮内省、海軍省、陸軍省、鐵道省の指定工場たる光榮を有し、逕信省免許船燈部分品の製造、商工省免許重器の製作にあつてをり、その製品には絶對優秀の折紙が付けられてゐる。

當社の斯業に於ける地位、信用は前記の如く軍部兩省をはじめ各省の指定工場たる事實が雄辯に語つてゐるが、それは、その技術の優秀と、製作態度の誠實なるに對する信用に基づくものであり、従つてそれは代表者たる岩城社長が技術家としての手腕と、經營者としての人格に對する信用に基づくものであることを意味する。

氏が技術界のエキスパートであることは前陳の通りであるが、その人と爲りは敦厚にして誠實、きはめて教養の高い人格者であつて工業報國の一大信念のもとに常に從業員に向つて一枚のガラス、一個のレンズすらもゆるがせにせぬ責任ある態度で製作にあたれと諭し、自らそれを實踐してゐる。この良心的な製作態度こそは、當社に、各方面よりの絶對的な信用が莫まつてゐる重大要因なのであり總ての工業家の以て範とすべき所である。

而して、時局以來、當社の製品は重要な軍需品として受註殺到の状態にあり、これが爲めに昨年組織を擴大設備の充實をはかり氏の信念たる工業報國の實踐に、一路直往邁進してゐるのである。

土木建築界のエキスパート

大倉土木株式會社 武富英一氏
常務取締役

土木建築界のエキスパートとしての武富英一氏の名を知らぬ者はあるまい。氏は、明治二十年三月、武富隆太郎氏の長男として生れたが、少年時代より神童のほまれ高く、郷黨人の間では必ずや將來名を成すに至るであらうとの期待を持たれてゐたのである。同四十五年東京帝大建築科を卒業後、官界にはいり、逕信省經理局營繕課を経て、大正十四年その才幹に囑目した當大倉土木に懇望され、官界を去つて現職に就いたのであつた。

當大倉土木は大倉財界の直系事業會社にして、わが國土木建築界に最も古い歴史を有する本邦斯業の代表的會社である。明治二十年三月、先代大倉喜八郎氏が、故澁澤榮一子、藤田傳三郎氏との共同出資によつて設立した資本金二百萬圓の有限責任日本土木が、其前身だが、明治二十六年に至つて會社法の發令を見て同社は解散することとなつたが、大倉喜八郎氏がその事業と精算事務一切を引受けこゝにはじめて大倉土木の設立をみるこゝになつたのである。

その後、明治四十四年大倉組が設立されて、大倉土木も合併され株式會社大倉組土木部となつたが、大正六年、大倉組が大倉商事と改稱されると共に同土木部は獨立して資本金二百萬圓の株式會社大倉組となり、大正九年に再び日本土木株式會社と舊社名に歸り、越えて十三年、現在の大倉土木株式會社といふ名稱に改められ、昭和

十一年の増資によつて資本金五百萬圓の現在となつたのである。

その長い歴史を通じて、我が國土木建築業の發展に寄與した功績は極めて甚大なものがあるが、大陸經營の國策に順應して早くより滿洲國に進出してゐた當社では、今次事變による北支中支の經濟開發の推進力としての役割を果すべく積極的な對支進出を開始した。即ち、その常務たる武富氏は昨冬數名の技術者を伴つて上海南京方面を觀察した結果にもとづいて、先づ、今次の事變によつて完膚なきまでに破壊しつくされた上海の復興計劃に對處して積極的な進出をなすこととし、他方、北支方面に對しても、天津、北京、青島、張家口に出張所を開設して、目覺しい活躍をしてゐる。

大陸經營について土木建築事業の果す役割が如何なるものであるかは、こゝに改めていふまでもない。經濟開發、都市建設復興と土木建築事業は切つても切れぬ關係にある。いはゞ、斯業は戦線に於ける工兵の役目に似て重かつ大なるものだが、當社はその實力から見ても、また主腦部に武富氏の如き權威を有することからみても、必ずや素晴らしい實績をあげるであらう事は容易に想像する事が出来るのであつて、今や舉國の期待が當社の上にあつてゐる。

氏が、當社常務の任に就いてからすでに十有五年、その間の功績は枚舉に遑がない程である。氏は、たゞに技術的方面に傑出した才能を持つのみでなく、經營方面にも卓れた手腕を有し、かつ、教養高い人格者として内外畏敬のまゝとなつてゐる。興亞日本が斯業の協力に俟つ所大なるものある時、吾人は、氏の健在をひとり當社の爲のみでなく、國家的見地から欣懐とするものである。

本邦鋼業界の俊材

東海鋼業株式會社
常務取締役 大橋不二雄氏

人を論評するにあつては、まづ遺傳を、次には環境を考察することを怠つてはならない。人は遺傳と環境によつて作られるものであり、この兩者を度外にしては正當なる判断を下すことは出来ないのである。而して、環境の與へる影響についてはジイドは「一般に影響にはよい影響と悪い影響とがあるやうに考へられてゐるが、影響は絶對的によいとか悪いとか言はれるべきものでなく、たゞその影響を受けるものの如何による」といひ、その影響を受けるものは即ち遺傳されて人の内にあるものだといふ見地からするならば、人は遺傳によつて決定されてゐるといふことが出来るのであり、遺傳に對する考察こそ、人を論評するにあつて最も必要なこととなるのである。

當東海鋼業の常務として活躍しつゝある當社創業以來の功勞者大橋不二雄氏は、明治二十年十一月、愛知縣土族大橋伍三郎氏の四男として生れた。父君は謹嚴剛直、しかも霸氣に富んだ古武士的人格者であり、母堂は貞淑にして聰明、極めて智的な、而して現實的な賢母であつたといふ。この兩親の血を受けた氏は、幼少より頭腦明晰、かつ才氣煥發、しかも剛毅な性格の持主で、その才智のひらめきは、しばしば六尺の男子をしりへに躍若たらしめるものがあり早くも、その將來の大成を期待されてゐた。

本邦製藥界の重鎮

三共株式會社
常務取締役 鹽原禎三氏

「三共」といへば藥品を思ひ、藥品といへば「三共」の名を思ふこれは、今日、日本人一般の觀念になつてゐる。「三共」の名は藥品の代名詞であるといふも過言ではない。此日本製藥界の代表的會社の主宰者は、即ち、本邦製藥界の大御所として、其名を海外にまで知られてゐる鹽原又策氏であるが、其常務として、父君譲りの才氣と米國仕込みの學才と、清新潑瀾たる若さの強みとを充分に發揮し縦横の活躍をしてゐる鹽原禎三氏は、即ち氏の御曹子である。

氏は、明治四十二年九月生れにして本年未だ三十一才。今や我が國は、今次の支那事變を一契機として、國運の飛躍的發展期に際會してをり、新東亞建設の聖使命に邁進する、この新しき時代は、青年の騷起を要求しあらゆる部門を通じて、生氣潑瀾たる新人が活躍してゐるのであつて、實業界も亦、新人及び第二世の時代になつて來てゐるので、年齢未だ三十才の白面の青年にして、第一線に活躍してゐる例は、氏のほかに未だその例を見ない。しかも、氏は天才的な經營手腕を有し、その鋒芒の鋭さは、いはゆる百戰練磨の古豪をすら、後へに躍若たらしめるものがあるのであつて、その將來の大成は期して待つべきものがある。自然はしばしば皮肉な惡戯を試み、一代の英雄といはれ、俊傑と謳はれるものは、多くその後嗣に恵まれず、一代にして後を斷つ例が多いのであるが、この若さにし

しかも、氏はその上に、百折不撓、如何なる困難に遭遇するとも信念の達成の爲には斷じて往くといふ強固なる意志を恵まれてゐたのである。かくの如く、恵まれた遺傳を受けた氏は、兩親の温嚴よろしきを得た教育方針のもとに、すく／＼と成長して行つたのである。かくて、成長した氏は、日露戰爭の大捷によつて、國運の飛躍的發展期に立ち、將來國際場裡にあつて、國家が覇を唱へるが爲めに、何よりもその國內の工業の發展をはかるべきであるとの觀察に到達し、自ら工業界に身を投じて、國家に貢献するところあらんと決意するに至つた。

而して、大正五年十二月、資本金三百萬圓を以て當社が創立されるや、氏は直ちに當社に入り、先輩長上と協力、幾多の困難と戦ひつゝその社礎を確立したのである。當社の營業種目は、鋼板、條鋼軌條であるが、今時局下に於いて、その需要の増大し、當社の使命の重大性を加へ來たつたことは、こゝに改めて申すまでもない。氏は、その常務として、今後の發展計劃を練つてゐるが、その計劃の實現後の活躍こそ、眞に目醒ましいものがあるであらうと期待されてゐる。

氏は、本年五十二才の働き盛り、其烈々たる氣魄は今尙少しも劣へず、青年も及ばざる趣がある。時局はますます重大にして當社の使命も亦、愈々重大性を加へ來たつた折柄、氏の健在をみることは、當社の爲めに衷心慶賀に堪えないところであり、且つまた國家的見地からも、大いに慶賀すべきことである。今後一層自愛して倍奮の努力を以て斯業の發展に盡されんことを切願してやまない。

て、この期待を持たれる禎三氏を後嗣に持つたわが鹽原又策氏は、誠に幸運の人といはなければならぬ。

父君の傑れた遺傳を受けて生誕した禎三氏は、父君の嚴格なる家庭教育のもとにすく／＼と成長、昭和二年渡米してブリストン大學に學んだ。世界の商業國たるアメリカに於いて高等教育を受けたことは、氏の天恵の才質を伸張するにあづかつて力があつた。同八年同大學を卒業して歸朝するや翌九年、たゞちに當社の常務に就任、父君の直接指導のもとに、製藥業の實際について學ぶこととなつたのである。爾來五年、天賦の才はいよ／＼その光茫を發揮し、今日では、父君に代つて事實上社務を主宰「三共の二代は禎三」との評を生むに至つた。

當社は、大正二年三月、資本金十萬圓を以て創立されたが、爾來發展に發展を重ね、今日、その資本金は百二十倍の一千二百萬圓醫藥をはじめ、滋養劑、醫科理化學及光學機械類、化粧品類、衛生材料、化學業藥品の生産、販賣及び藥局並に喫茶店の經營にあたる等その事業範圍はきはめて廣汎に亘つてゐる。當社が、我が國々民保健上に貢献せる功績は甚大なるものがあるが、それはたゞちに鹽原又策氏の功績であり、その名は永く青史にとゞめられ、永遠に國民の感謝のまことなるものである。又策氏の當社經營の根本信條は、製藥報國の四字であるが、禎三氏も亦、この父君の信條を自己の信條とし、一生をこの信條の實踐に捧げようとの決意のもとに、夙夜努力を續けてゐるのである。尙氏は傍系會社たる日本ペークライトの専務及び三共内燃機その他の重役を兼ねてゐる。

才徳兼備の敏腕家

日本光學工業株式會社
專務取締役 波多野義男氏

波多野義男氏は、山口縣の産、明治十七年八月、波多野毅氏の長男として生れた。かの亭々として蒼穹を摩するが如き巨樹も一朝一夕にしては成らず、まづ巨樹たるの種芽と多年の培養とを必要とする如く、一代の傑人と謳はれ、一世の師表と仰がれる人材も亦、天稟の資質と多年の努力修養とによつて始めてその大を成すのであるといはれてゐるが、吾人は、波多野氏の過去半生の努力のあとを見るとき、この言の眞理であることを痛感するのである。

父君より傑れた遺傳を受けた氏は、幼少にして、はやくもその資質のひらめきを見せ、神童、秀才のほまれが高かゝつたが、明治三十九年、東京高商を優秀の成績を以て卒業後、川崎造船所に入つて業界人としてのスタートを切るや、たちまちにしてその頭角を現はし、先輩、同輩から「波多野は今に大物になるぞ」といふ期待をかけられるに至つたのである。爾來、氏はひたすら自己の才をみがき社務に精勵した結果、次第に重用せられ、數年にして、早くもその名は全造船業者間に知られるに至つた。

のち、三菱造船に轉じて、參事に擧げられ、長崎造船に迎へられて、營業課長となり、兵器製作所に移つて總務課長に用ひられ、神戸造船に聘せられて總務課長となり、多大の功績を残して來たが、昭和六年、三菱系たる當日本光學工業の取締役に擧げられ、のち、

專務に登用され、全面的經營の衝にあたることとなつた。

そも、當社は、測距儀、潛望鏡、顯微鏡、望遠鏡、雙眼鏡、反射鏡、その他光學的諸機械器具の製作會社にして、同種會社中最高權威であるが、その創立は大正六年七月であつて、當初の資本金は二百萬圓であつた。創立の翌月に至つて岩城硝子製造所の一部及び、東京計器製作所の一部を買収、翌七年一月には藤井レンズ製造所を買収して陣容を整備し、その後、順調なる發展をつゞけて、昭和十二年六月、現在の資本金五百萬圓に増資し、設備の擴張充實をはかつたのである。

氏が、當社の專務に就任したのは、即ち當社の飛躍的發展期の當初であつたが、その敏腕にかけられた期待は裏切られず、氏の才腕が縱横に發揮せられた結果、今日の如き美事な成果を見ることが出來たのであり、その功績は永く當社史上のみならず、日本光學工業の發展史上に記録せられたものである。しかも、謙虛無私なる氏はいさゝかも自己の功に誇る色なく、夙夜、孜々として社務に精勵してゐる姿は、見るものに、一種崇高の感を抱かせずにはをかない。

氏は、多士濟々の我が業界人中にあつても一際頭角を抜く、教養高い人格者として知られ、内外の尊敬のまとなつてゐる。特に、その人事に關する手腕は非凡なるものがあり、適材適所主義の公平なる人事は内外の賞讃のまとなつてあり、社員、従業員もひとしく氏の統率に悦服してゐるのである。

まことに、氏の如きは、容易に得難き人材にして、その今後の活躍には多大の期待がかけられてゐるのである。

商才士魂の巨材

日本電池株式會社
常務取締役 岩城純一氏

日本電池株式會社常務たる岩城純一氏は、技術界のエキスパートにしてかつ經營の才に長じ、人格また高潔——商才士魂の模範的事業家として知られてゐる。人間に完全を求めることは至難であり、智識才能に於いて傑出して居れば、人格上に缺けるところがあつても、先づよしとしなければならず、人格的に傑出してをれば、才能や智識に不足があつても、尊敬すべきであるといふのが、現實だが氏の如く、技術的手腕、經營的才幹、而してその人格の三者ともに傑出してゐる人は稀にみるところであり、當代の代表的人物として推すに躊躇を要しないのである。

氏は、明治十八年一月の誕生にして、岩城良太郎氏の長男、同家は石川縣の士族であるが、吾人は、氏の高邁不羈なる人格は氏の體内に流れる武士の血によるものとと諒解する。嚴格なる家庭教育を受けつゝ成長した氏は、東京高等師範に學び、同校を卒業後、將來の國運は工業の振興によつて興隆せられるに至るであらうとの見地から、工業界に身を投じて國家に寄與せんと決意し、更に京都帝大理工科に學んだのであつた。

而して、同理工科を卒業後、工業界にその巨歩を踏み出したのであるが、その後もつねに研鑽を怠らず、つひに今日斯界の第一人者と仰がれる權威となつた。その努力は眞に超人的なもので、努力こ

そ成功の母であるといふが、氏の努力が今日の大を成したことをみて、正にその通りだといはざるを得ない。

當日本電池は、大正六年一月の創立で、京都市上京區新町通に本社があり、昨年倍額増資を決定して、現在は公稱資本一千萬圓。OS蓄電池をはじめ各種電池の製造にあつてゐる。特に、事變以來の業績はめざましいもので、十二年下半期の利益率は二割二分四厘であつたが、倍額増資後の十三年上半期には、平均拂込資本五百二十萬八千圓に對し實に六割四厘の高率をあげたのである。

當社は、三菱重工業を資本的背景に持つてゐるが、この強力なる資本力を持つ上に、氏の如き才徳兼備の敏腕家を經營主腦に頂いてゐるのであるから正に、鬼に金棒の強味である。今日の經濟組織下にあつては、資本なくして事業を興すことは出來ないが、しかも、この資本の運用にあたる人材こそは、事業興廢のキイを握るものであり、資本以上に重要な要素である。當社が、今日の大をみるに至つたのはこの強力なる資本的背景に加へて、經營の衝にあたる重役陣に氏の如き敏腕家を迎へ得た賜ものにはかならない。

氏は、本年五十五歳、業界人の平均年齢六十歳よりみるときは、正に今が油の乗り盛りといふべく、その眞價が發揮せられるのは、今後の十年間である。而して今後の十年間は大陸經營の本格的段階にはいつた我が日本にとつても、極めて重大な十年間であつて、國家が各部門の人材の活躍に俟つところは極めて大きいのである。氏がその全力を發揮して、時局の要求に答へ、國家に貢獻せられんことは、吾人の衷心より期待してやまない所である。

耐火煉瓦界の新興勢力

昭和耐火工業株式会社
代表取締役 岩田彦治氏

事變遂行に不可欠な工業として、製鐵鋼業が空前の股盛を呈するに及んで、斯業と密接不可分の關係にある耐火煉瓦工業もまた古今未曾有の發展期に際會するに至り、歴史的黄金時代が到来した。されば、斯業の各會社は、その歴史の新舊、規模の大小の別なく、増産、擴張の新計劃を樹立、敢行して、その生産數量に於いて、ほとんど事變前の三倍増に飛躍してゐるといはれてゐるが、この大増産時代にあつて、各社が最も悩みとしてゐるのは、資本ではなくて資源獲得の問題である。即ち、原料から生産への一貫作業をするのではなくて、この競争激甚なる時代に、到底満足な成果をみることは下可能なのである。

かうした状態のもとにあつて、長野、岐阜、兩縣下にシヤモット質、蠟石質の自家鑛區を持つて昨年三月二日誕生した當昭和耐火工業株式會社のデビウー振りこそは、實に颯爽たるものであつた。當社は、七尾セメントにあつて、經營の實際を習得、少壯有爲の敝院家として、其進退を注目されてゐた岩田彦治氏を中心となり、多年工業大學にあつて耐火物講師として學界に重きをなしてゐた斯業の權威者米谷忠治氏と協力して創立したものが、創立後數ヶ月にして岐阜縣下の瑞浪工場、稲津工場及び愛知縣下の瀬戸工場の三大工場を相次いで完成、年産合計二萬噸の能力を設備するに至つた。

當社の出現は、早天に訪れた雲霧の如き大歓迎を受け、早くも擴張を促されるに至り、同年八月三日、當初の資本金十萬圓を一躍三倍に増資、たゞちに年産二萬噸の規模を有する瑞浪工場の増設を敢行した。これによつて、當社の全能力は實に四萬噸となり、本邦斯業に一大勢力を加へることとなつた。當社は先にも述べた如く、シヤモット質、蠟石の自家鑛區を持ち、外に福州、長城産粘土をも使用して、シヤモット質煉瓦、耐酸煉瓦、保溫、斷熱煉瓦等の生産にあつてゐるのだが、今や、ボーキサイド、タイアスポーア原料が輸入杜絶し、かつ内地産出が極めて少量であるために、自家鑛區を持たぬ爲めに非常な困窮状態にある他社に對して、斷然たる強味を持つて、躍進の一路を邁進してゐるのである。

これは、この優良鑛區と技術界の權威者米谷氏の協力を獲得した岩田氏の成功であつて、今や氏の一舉手一投足は同業者の注視のまとなつてゐる。岩田氏は、愛知縣の人岩田徳松氏の長男で、明治三十五年十二月の誕生である。昭和三年東京帝大法學部を卒業後、前記の如く七尾セメントにあつて事業經營の實際を學び、昨年事變下に需要急増の聲高き耐火工業株式會社の設立を思ひ立ち、こゝに當社の創立となつたのである。爾來、未だ一年有餘にして、早くも氏の卓越した經營手腕は衆目のみとめるところとなつたが、氏は本年未だ三十八才の少壯である。

その眞價の發揮されるのはこれからであつて大陸經營の本格的段階に入ると共に斯業の前途、いよゝ繁忙を極めんとする時、當社に氏のあることはまことに慶賀にたえないことである。

北海財界一方の重鎮

函館水産販賣株式會社
常務取締役 高村善太郎氏

北海道の南端に位置する良港、函館は、幕末のいはゆる安政條約によつて開港された日本最古の貿易港の一つで、且つ北海漁業の股賑をみるやうになつてからは、北海水産業——いな日本水産業の一大中心地として發展して來た。その人口の緻密なると街衢の繁盛なると商況の活潑なるとに於いて全道第一位の都會である。されば當市財界には多士濟々、幾多の人材を擁してゐるが、我が高村善太郎氏は、才德兼備の代表的偉材として、滿都の人望を一身にあつめ全業界の長敬のまとなつてゐる一人である。

試みに、氏の現在主宰し、關與してゐる事業を見ると、當社をはじめ、函館汽船、函館漁商市場の各社長、北日本油脂工業、三立運輸、函館運送、その他各社の重役等、實に、枚擧にいとまなき程であり、函館業界の主流會社のほとんどすべてを網羅してゐるのである。以て氏の同市財界に占める地位の一端を窺ふに足るであらう。

當社は、日魯漁業と緊密なる聯携を保ち、水産物の海外輸出に主力を注いでゐる貿易會社であり、又、道内はもとより内地への移出にあつてゐるのである。その日本輸出界に占める地位はきはめて重要なもので、特に事變以來、戦時下の重大課題たる國際收支の均衡保持に重要な役割を果して來てゐるのである。又その他面に於いて、國民體位の向上をはかる爲めに必須の保健養食として、水産

物の圓滑なる國內配給もまた戦時下に於いて、特に、牛、豚等獸肉の供給不足の憾みある日本に於いては、きはめて重要な問題であるが、この方面に於いても、當社は遺憾なき活動を續けてゐる。

これ等は、當社のモットーたる「水産報國」の赤誠に發するものにほかならないが、このモットーはまた、常務として當社經營の重衡にあたる我が高村氏の信念でもある。胸中一點の私心なく、私利私慾を思ふ念なき氏は、ひたすら國家公共の利益を思ひ、國家の要求とあれば、一身一社の利害を超越し、これが要求に應へるべく全努力を傾注、以てこれが實現をはかるといふ風であるから、内外の氏を尊崇することは非常なものである。

今や、ソ聯の横暴は、我が北洋權益を浸害せんとしつゝあるが、我が正義の前に、横道は發展することを許されない。まもなく彼が横道をひつこめることは必須である。この北洋生命線上に躍る立役者、日魯漁業と日魯と一聯の脈絡を持つ當社の國家の爲めに奮起一番、猛活動をつゞけるべきは今である。高村氏始め當社重役も、その決意をもつて直往邁進の秘策を練つてゐると傳へられるが、吾人は、諸氏の活動に滿腔の信頼と期待とを捧げるものである。

氏は、明治五年四月の生れであるから、本年六十八歳、まもなく古稀に達せんとする高齢であるが、意氣、體力ともに矍鑠として壯者を凌ぐものがあり「水産報國」の赤誠を貫徹して、興亞日本の聖業に寄與せんとして夙夜努力をつゞけてゐる。その熱誠には、敬服のほかはない。氏に百歳の長壽を祈るものは、あに筆者一人のみではあるまい。

螺旋管製作界の權威者

大阪螺旋管工業株式會社 橋本徳三郎氏
代表取締役

軍需品の重要な一環をなすところの螺旋管製作界の最高權威者こそ、現大阪螺旋管工業株式會社代表取締役橋本徳三郎氏その人である。氏は、多年、大阪螺旋管製作所を獨力經營して、斯業の發展に多大の貢獻をなし、當社の技術こそ斯業の最高水準であるとの定評を得るに至つたのである。

氏は努力の人である。その努力によつてすなはち、自力にして今日の大を成した人であつて、當代立志傳を編纂するに當つては缺くことの出来ない偉材である。氏は大阪府の人橋本爲助氏の二男にして、明治十年六月を以つて生れたが、早くより工業界にはいり、多年研鑽磨のすえ、大正二年に至つて獨立開業するに至つたのである。爾來、今日に至るまでの二十有六年間の間には、眞に血のにじむやうな苦心努力がつけられたのである。

如何なる事業にもせよ、成功への道は決して平坦なるものではない。その途中には山あり、谷ありまた豺狼にも比すべき防害者の出現もあることを知らねばならない。それを乗り越え、躍り越え、而して驅逐して、成功の岸に達する爲めには、強固な精神力と而して強力な體力とを必要とするのだが、氏はこの成功者に必要なあらゆる條件を備へ、あらゆる困難障礙を排除して敢然として初志に向つて、邁進、つひに今日の輝かしい成功をかち得たのであつた。その

足跡はたゞちに後進の就いて學ぶべきものがあり、各方面から仰慕されてゐるのである。

而して、時局以來、螺旋管に對する需要は急増したが、なかんづくその多年の經驗と研究の結果になる當社の秀抜な技術と經營者橋本氏の人格の力によつて、陸、海軍省の指定工場たる榮譽をになつて來た當社の前身、大阪螺旋管製作所に對する需要はまさに殺到の形で、ために、設備の擴張の必要にせまられ、それについて組織を擴大することとなつて、昨年一月、今日の株式組織に變更、氏はその代表取締役の任について社務を主宰、こゝに大飛躍の態勢をとつてのへたのである。

即ち、現在の大阪西淀川區大和田町にある本社及び工場は昨年三月増築を完成したもので、その工場設備は、斯業の粹をあつめたものである。又、同市西區西長堀町に新町出張所を置き、主として小賣販賣を取扱ひ、顧客の便益に資してゐるのである。

いまや、我が國は、赤麗克服、明則なる新東亞建設を目標として一大聖戰をすゝめつゝあり、それが爲めには、産業總動員の態勢がとられてゐるのであるが、この聖戰の成ると成らざるとは一に産業界の活躍如何にかゝつてゐるのであり、而して、その産業界の活躍如何はそれを運籌するところの、いはゆる人的要素の如何にかゝつてゐるのである。氏の如きは、此の時局の要求する偉材の一人であつて、その今後の活躍に期待する處はまた極めて多いのである。願はくは、今後一段の努力をもつて、此國家的要望を満たされんことを。――擲筆に當つて吾人の切望してやまない所である。

本邦金融界の長老

株式會社茨城農工銀行 江幡新氏
取締役頭取

常陸國、茨城縣は古來日本有数の農業國として發達して來たと共に、東洋第一の稱ある日立鑛山をその縣下に有する所から、現在では工業地帯としても極めて重要な地位を占めてゐるが、此天然の恵みを受けた茨城縣の農、工をはじめ、各種産業の助長發達に至大の貢獻をなし來たつた株式會社茨城農工銀行は、老練達識の敏腕家として、本邦銀行界に巋然たる地位を持つ、我が江幡新氏の頭取として主宰するところである。

事實、氏は本邦銀行の長老の一人であり、その老練なる手腕と高邁なる識見、而して圓滿無礙なる人格は、銀行界の模範とするに足る偉材である。氏は、茨城縣土族大高引重氏の三男として慶應二年十二月を以て生れ、先代惣吉氏の養子となつたのだが、幕末期の勤王思想の發祥地であり、明治維新鴻業の淵源をなした水戸藩士の血を受けた氏が、他の群小銀行家、實業家と、その人格を異にするのはけだし當然のことといへよう。その胸中には、皇國の隆昌を希ひ郷土の發展を願ふ、烈々たる愛國、愛郷の精神以外私利私慾を思ふ心なく、而してこれが、氏の今日の大を成さしめた所以であり、一般銀行家の範とされてゐるゆえんでもある。

氏が銀行界にはいつたのは實に明治十五年にして、はじめ川崎銀行にあつて金融業の實際を學び、のち常盤銀行に轉じ専務頭取を歴

職、郷土産業の振興に絶大な貢獻をなした。常盤銀行は現在の常陽銀行の前身だがのち、當茨城農工の頭取に就任、今や、時局下にあつてその使命の増大した縣下各種産業の助長發達、並に農村金融事業に多大の貢獻をなしつゝあると共に、また、商工會議所會頭として、郷土商工界の發達をはかりつゝあり、更に諸會社の重役としてその經綸を行つてゐるのである。

當行は水戸市仲町に本店があり、土浦、下館、水海道、太田、麻生等縣内樞要地に支店を持つほか、東京、大阪及び縣内各地に代理店十五を配置してゐる。その資本金は三百萬圓、農工銀行法によつて設立された縣内唯一の銀行で、特色は不動産を抵當に長期、且つ低利資金を年賦償還の方法で供給することであり、また農工銀行法によつて與へられた特權にもとづき、農工債券を發行して營業資金とし、政府の諸低利資金の貸出しの取扱ひをなし、就中、當行の農村振興に寄與した功績は特筆に値するものである。

即ち、當行では政府の低利政策に順應し、既往及び新規貸付の大幅値下を斷行し、農村負擔の軽減に資すると共に、農村經濟更生特別資金としての特別低利資金貸出しを行ふ傍ら、金融相談部をして農村に指導的援助を與へてをり、農民の絶大な感謝のまゝとなつてゐるが、これは、實に江幡頭取の抱懐する金融報國の信念の現はれにほかならず、銑後農村の健全なる活動が現下焦眉の急務とされてゐる時、率先これを實行しつゝある氏の高邁なる識見には吾人の等しく敬服のほかない。氏に百歳の長壽を願ふのは筆者一人ではないであらう。

本邦鍛工界の第一人者

日本鍛工株式会社 社長 柴柳新一氏

我が國最大の鍛工専門工場たる川崎工場の完成によつて、いよいよ斯業の第一人者たる名實を備へるにいたつた日本鍛工株式会社々長柴柳新一氏は、興亞日本の重要な一翼を成す斯業の伸展を期してめざましい活躍をなしてゐる。

そも、當社は、東京日本橋室町の三和ビル内に本社を置き、大阪市西淀川區佃町に大阪支社並に大阪工場を、同市大正區南恩加島町に恩加島工場を置いて鍛工界に覇をとなへてゐたのだが、更に時局の要求に應へて、川崎市田邊新田に歐米最新の鍛工設備を完備した川崎工場を完成、昨年十月以來作業を開始したのである。同工場は、先にも記した如く、我が國に於ける鍛工専門工場中最大の規模、能力をもつものであり、その最新の設備と相俟つて、我が國鍛工界に一大勢力を加へたわけである。

當社の資本金は、七百萬圓、航空機部分品、自動車部分品、鐵道車輛部分品、兵器艦船部分品、及び一般鍛工品の製作にあつてゐるが、單にその規模に於いて日本最大のものたるばかりでなく、その技術の優秀なることもまた壓倒的で、各方面の絶對的信用をかち得てゐる。陸軍省、海軍省及び鐵道省の指定工場たる事實は、何よりも雄辯に當社に對する信用の絶大なるを證明してゐる。

當社々長として、鍛工界に名聲高き柴柳新一氏は、兵庫縣の人に

して、柳原清一郎氏の五男として、明治二十年九月、呱呱の聲をあげ同二十三年柴柳芳太郎氏の養子となつた。つとに實業界にはいつて、その敏腕をうたはれてゐたが、特に、實用自動車製造會社の重役として、躍進期にあつた我が自動車工業の發展に多大の貢献をなしたことは、今なほ吾人の記憶に新たなところである。

今次の事變は、新東亞の建設を目標とした一大建設戦であり、我々の子孫に傳へてもつて完成しなければならぬ一大事業だが、この大事業を完成する爲には、航空機、自動車、兵器、艦船等、直接軍需に關係ある工業はもとより、鐵道車輛をはじめ經濟開發に必要な工業の整備擴張が、將來ますます必要なるはいふをまたない。これら諸工業の協力なしには、如何に高邁なる理想を描くとも、決してそれを成就することは出来ない。されば當社の使命は、今日より將來へかけて、ほとんど永久的に、その重要性を失はないものだが幸ひにしてその主宰者に敏腕のきこえ高く、しかも識見高邁にして時局に對する正しい認識を持ち、滅私報公の至誠において何人にも劣らざる柴柳新一氏を頂く當社は鍛工報國の旗幟のもとに奮進しつつあるのである。

氏は、性重厚にして敦厚、きはめて高い教養を持つた紳士として内外の敬愛のまとなつてゐる。従業員に對してはきはめて、理解と温情に富み、使はれる身になつて人を使ふといふ信念のもとに、つねに、彼等の待遇の改善、向上に心を用ひてゐるので、従業員はその厚遇に感謝し、かつ感激して、嬉々として業務にいそしんでゐるのである。

敏腕達識の實力者

株式會社 鴻池組 鴻池小六氏

我が國の土木建築界は、その技術に於いて、またその規模に於いて實に世界の最高水準を占めてゐるのだが、從來、國內産業文化の基幹事業としての使命を果して來た斯業者の肩には、今や新東亞建設といふ國策遂行の第一線戰士たる、名譽ある大任が委ねられんとしてゐるのである。即ち、大陸の經濟開發、都市建設は我が土木建築業者の協力を得て始めて成し遂げらるのであり、その成否は一に斯業者の双肩にかゝつてゐるといふも、決して過言ではない。

されば、我が國の土木建築界は、この榮ある使命の遂行に備へて着々秘策を練つてゐるのだが、この大使命を擔ふものの中に、わが鴻池組のあることは斷るまでもない。鴻池組は本邦の代表的財閥たる鴻池家の直系事業でありわが國土木建築界の代表的會社である。その長き歴史を通じて、我が國産業文化の上にもたらした功績はこゝにいふまでもないが、その規模において、また技術設計の拔群なにおいて、本邦斯界の最高位にある當社の上に、今や、舉國的期待があつてゐるのも、蓋し當然のことである。

而して、當社の専務として社長を助け、實際的に統率の任にあつてゐる鴻池小六氏は斯業の技術の奥義をきはめた、本邦最高の權威者である。氏は、明治十七年十二月、愛知縣人清水治吉氏の二男に生れた。同三十九年の大阪高工出身だが、その明晰な頭腦、俊敏

な才幹、而して烈々たる氣魄に富む人と爲りを鴻池家の先代忠治郎氏に愛され、矚望されてその養子となつたのである。この事實によつても、如何に氏が傑出した人材であるか解るであらう。

人間といふものは、若くして經濟的に恵まれた境遇に置かれたり高い地位を與へられたりすると、或ひは慢心したり、或ひは享樂に耽つたりして向上心を失ひ、墮落したりしがちなものだが、氏に於いては少しもそのやうなことはなかつた。燃えるが如き向上心、烈々たる行動精神は長ずるに従つていよゝ強く、いまや、その背景や地位からばかりではなく、本邦斯業を指導する眞の實力者として各方面から畏敬されてゐるのである。

而して、氏は性温厚にして謹直、謙讓の美德をもつた人格者である。論語の一節に「子貢曰く、……富みて驕ること無きは如何。子曰く、可なり。……未だ富みて禮を好む者に如かざるなり。……」云々とあるが、富みて驕ることなく、かつ禮を好む氏の如きは、當代まれに見る君子といふべく、以て他の模範とするに足る偉材であり、また本邦斯界の實力者として敬服する所である。

而して、氏は、今年五十六歳、その人格、才幹ともにいよゝ圓熟味を加へ、意氣ますます旺んにして、國策への協力に専念してゐる。前述の如く、斯業の使命は今後ますますその重きを加へんとしてゐるのである。この時にあたつて、氏の如き、實力、徳望兼備の偉材が健在することは邦家の爲め、衷心慶賀にたえないところであり吾人の衷心より氏の健闘と而して健康を祈念してやまないゆえんも亦そこにあるのである。

精機界を指導する提督重役

東洋精機株式会社
常務取締役 岸科政雄氏

我が國精密工作機械製作界の最高峰であり、また兵器製造界一方の重鎮たる東洋精機常務として重きをなす岸科政雄氏は、正四位勳二等功五級海軍中將の肩書を持ち、我が國精機界を指導する提督重役として、内外の畏敬のまこととなつてゐる人である。

氏の略歴を記すに、明治十一年二月、兵庫縣土族岸科忠藏氏の三男として生れた氏は、幼にして海軍々人を志し、兵學校に學んだ。同三十二年兵學校を卒業して、海軍少尉に任官、昭和四年中將に任ぜられ、同年豫備役となるまで、海軍水雷學校教官、横須賀鎮守府副官、海軍軍令部參謀、對馬艦長、造兵監督官、造船監督官、吳海軍軍需部長、吳海軍工廠水雷部長兼海軍技手養成所長等に歴職、軍略特に水雷戰術の權威として知られ、また造兵造船方面の權威として威名を轟はれたものであつた。

當社常務に就任以來は、心技一致を以て技術家の最高理想とする見地から、従業員の技術の向上と並んで精神的方面の指導に主力を注いで來たのである。當社の技術の卓越してゐることについては世上すでに定評があるが、いかに技術がすぐれてゐても、従業員に精神的緊張がなければ、その作業は勢ひ粗雑となり、多數の不適合品不合格品を出す結果となる。當社の従業員はいづれも良心的態度をもつて製作にあたつてをり、これが當社の製品に絶對的信用がかけ

られてゐる所以だが、この良心的な製作態度こそは、つねに、自己の責任に於いて製作に當れ、と説いてゐる岸科常務の偉大な感化のたまものなのである。

當社が、本邦新業の最高峰をもつて目されてゐるゆゑは、たゞにその技術の卓越して製品の優秀なるばかりではなく、上は首脳部より職員従業員全般に亘つて、あたかも睦じい一大家族の如き温い愛情で結ばれ、精機報國の社是のもとに、社内一同足並を揃へて能率増進に邁進してゐる美しい社風にある。その工場設備の完備してゐることは、いふまでもないが、温父會、共濟會等の相互扶助的施設から、寄宿舎の設備をはじめ、體育、修養、慰安、衛生、教育等の萬般に及ぶ福利施設が完備されてをるほか、昨年一月一日からは社内に健康保險組合が設置され、また、事變以來、出征従業員の遺家族の後援機關として銃後後援會が組織され、また、昭和十二年三月十日の陸軍記念日を期し、従業員中の在郷軍人を以て在郷軍人東洋精機分會を設立する等、あらゆる施設がなされ、戦時下の模範工場を以て自他に許されてゐるのである。

當社は、昭和三年の創立以來、技術方面の研究に主力を注ぎ、幾多の優秀な新製品を送つて精機界の發達に貢献したことは周知の通りだが、如上の諸施設によつて、岸科常務の抱懐する心技一致の理想が實現されてゐるのである。當社は、今や、工作機械製造事業法による許可會社として全品種の倍額増産の實現を期し、新工場建設中であり、今年内に完成を見る豫定だが、これが完成の曉の活躍こそは眞に矚目に値するものがあらう。

芳醇「甲子正宗」本舖

株式會社飯沼本家
取締役社長 飯沼喜一郎氏

日本人と酒は切つても切れない關係にある。古來、俗語に「お神酒上らぬ神はない」といはれてゐるやうに、祭祀はもとより吉兆慶弔の際にも缺くことの出来ないものであるし「酒は百藥の長」ともいはれて、保健上不可欠の藥料でさへある。生理と心理の緊密な關係は醫學上から實證されてゐるところで、その生理が心理を決定するといふ學說からいふならば、我が國が世界にほこる日本精神、日本的性格、日本魂も日本人の生理から解釋すべきで、その生理は食物と不可分の關係があるのだから、日本酒——即ち米の酒がこの日本の性格、精神を決定する上に重要な役割を果して來たことを閉却する譯には行かぬ。もし、日本人が昔から、歐米人のやうに、葡萄酒を飲み、麥酒を飲んでゐたとしたならば、日本人の性格は歐米人のそれと同じではないまでも、今日とは餘程違つたものになつてゐたに相違ない。されば、禁酒、節酒は、不健康人、病人にこそ必要な問題だが、健康人にはその健康に應じた飲酒は、寧ろ勸奨すべきである、筆者などは考へてゐる。

斯様に、酒は百藥の長であり、酒と日本的性格の關聯を信するが故に、筆者は酒の攝取を奨めるものだが、それ故にこそ、酒の品質の撰擇は充分に留意しなければならぬと考へてゐる。劣悪な酒、有毒物すら含んだ酒のあることを思へば、雖しもこの事には同感で

あらう。然らば、如何なる酒がよいか、といふに、第一に「甲子正宗」に指を屈するに反對するものは一人もないであらう。その芳醇な味覺に至つては關東、呑全日本の酒客の間に定評のあるところ、その純良なる品質については、大正十一年七月の平和記念東京博覽會に於いて銀牌を受領したのをはじめ、昭和三年の大禮記念國産振興東京博覽會で有功賞牌を得、更に千葉縣酒造組合聯合會主催第九回乃至二十回三回の酒類品評會に連続五ヶ年優等賞を得、又、關東酒類醬油品評會において數次に亘つて優等賞を得た等の事實が、最も雄辯に證明してゐるのである。

この優良酒「甲子正宗」の醸造元こそは、百有餘年の歴史にかゝやく千葉縣印旛郡のその名も酒々井町にある飯沼本家であり、その當主は百萬長者として徳望一世に高き飯沼喜一郎氏その人である。氏は、元治元年三月、先代治左衛門氏の長男として生れ、この名家のあとを繼いだが、其卓越した手腕によつて業績は發展に發展を重ね、大正十四年十月、株式會社に改組すると共に更に一躍進をつゞけ、その製造になる清酒と焼酎、なかんづく代表的なる「甲子正宗」は全國各地をはじめ、滿洲、支那等へさかんに輸出されてゐる現況である。

今や、氏は百萬の富を擁し、一大城廓の城主に比すべき位置にあるが、謙虚私無き君子人である氏はいさゝかも倨傲の色なく、言容きはめて慇懃かつ、隠れたる篤行は數知れず、郷黨人士の敬愛を一身にあつめてゐるのである。氏は正に千葉縣の誇りであり、その長壽を希ふのは縣民一致の祈念である。

世界に冠たる大發明家

株式會社巴組鐵工所 取締役社長 野澤 一郎氏

梁もなく、桁もなく、一本の柱をも必要としない理想的建築法——萬國特許のダイヤモンドトラス（建築組成材骨組法）の發明者たる株式會社巴組鐵工所社長野澤一郎氏は、昨年、帝國發明協會の第四次帝國表彰に際して、最高の榮譽たる「恩賜賞」を授與され、その名聲をいやが上にも高めたことは今尙吾人の記憶に新たな所であるこの發明協會の表彰たるや、大正六年商工省から發明獎勵費の交付を受けて發明表彰規程を制定し、大正八年以來帝國表彰及び地方表彰の二程に分ち、施行されて來たもので、帝國表彰は、大賞、進歩賞、有功賞の三階級に分たれてゐたが、大正十四年恩賜金を拜戴したので恩賜記念賞授與規定を制定、前記大賞發明中の特に卓絶せるものに授與されて來たのである。從來の帝國表彰は、第一回大正八年、第二回同十五年、第三回昭和八年、而して第四回が昨年で、最高の表彰を得たのが即ち野澤氏である。

この恩賜賞の性質によつても、氏の發明の如何に貴重かつ効果抜群なるかを知ることが出来るが、このダイヤモンドトラスは、野澤氏によつて發明され、昭和八年、朝日格納庫に實施されて以來、業者、需要者の驚異のまゝとなり、特許として、建築組成材骨組法、無足場骨組法、伸縮可搬骨格、組成材、屋根建築骨格等に關する二十五件を獲得、陸海軍飛行格納庫、自動車、電車車庫、食堂、娯

樂場、工業會社工場等に相次いで採用された。而も、最近には、南洋、南米等からも紹介が殺到してをり、巴組のダイヤモンドトラスは今や全世界の嚆望のまゝとなつてゐる。

このダイヤモンドトラスの基礎的學理はこゝに省略するが、屋根形を圓形としてある爲めに極めて美的であると共に、材料の節約となり、また、風壓に對して抵抗力強く、すこぶる堅牢であつて、ドイツを始め諸國に於いても、つとに、この無柱、無梁、無桁の建築法が研究されてゐたのであるが、凱歌はついに野澤氏の手によつて我が日本の上にもたらされたのである。

斯様に、ダイヤモンドトラスの發明は、單に我が國建築界に革命をもたらしただけでなく、その材料節約といふ點からみると國家に絶大な利益をもたらした結果となり、需要關係からみて、軍事、産業の諸方面に至大の貢獻をなしたわけであり、かつ科學日本の名を世界に高揚したわけで、野澤氏の名は永遠に國民の感謝と尊敬の念に包まれ、記憶せらるべきである。

この大發明を完成した、野澤一郎氏は、明治二十一年五月、栃木縣人野澤龜吉氏の長男として生れ、同四十三年、東京高工機械科を卒業後、石川島造船所に勤務したが、大正四年獨立して現社を創立したのである。幼少より研究心強く、頭腦明晰の神童として郷黨の期待をあつめてゐたが、長ずるに従ひいよ／＼その傾向強く、苦心研究の結果、つひに、この大發明の完成となつたのである。その苦心研究の跡は傳へてもつて後進の師表とするに足るものであり、氏は當社の至寶として、永遠にその名は記念さるべきである。

大陸進出のバルブ王

三宅商店主 三宅 敏介氏

バルブ界の最優秀品としての定評あるハート印バルブをはじめ、鐵管継手販賣株式會社鐵管印継手特約店、アイコクステームトラップ代理店、その他各種器具の販賣店として斯業界に重きをなす三宅商店は、斯業界の俊豪として知られる我が三宅敏介氏の經營するところである。バルブ・コックは、その他機械工具同様、輸入萬能期から、國産自給時代を経て、海外輸出にまで飛躍した、我が國重要工業品の一つであるが、氏が、バルブを以て機械器具界に投じたのは、大正四年、恰度、氏の三十歳の時であるが、刻苦經營の甲斐あつて、漸次に業績擴大し、つひに、今日、バルブを以ては斷然他の追従を許さぬまでの聲價をかち得るに至つたのである。

氏は、岡山縣人三宅泰氏の二男として、明治十九年八月、呱呱の聲をあげ、前名を敏といつたが、三宅修齋氏の養子となり、のち敏介と改めた。氏は、教養きはめて高く、識見また高邁の紳士として、同業者の尊敬を一身にあつめてゐるが、多年氏が三宅商店經營の信条として來たことは、『商品の品質の優良性を保持する爲には、絶對に、販賣業者兼製造業者であつてはならない』といふことであつた。即ち、製品の中には不合格品、不適格品の生ずることは絶無であるといへず、かゝる場合、製造業者が直ちに販賣業者である時には、品質の吟味もおのづから寛大となつて不適格品をも適格品とし

て市場に送る危険を冒しがちであり、かくて、自然に品質の低下を招くに至るのである。嚴格なる吟味——即ち、不合格品、不適品は斷乎オミットするといふ、峻嚴なる措置は、販賣業者が製造業者を下請工場として傘下に置く時にも、始めて執り得るといふのが、そも／＼、氏の當店經營の信條の根本を成すのであつて、これありしが爲に、今日、ハート印バルブの嚇々たる名聲をかち得ることを得たのである。

而して、氏は、事變以來、大陸國策に順應して、滿支の天地に活躍すべく、劇策中であつたが、事變の進展に伴ひ、内地市場の材料配給制限に加へて、滿洲に對する輸出許可制が布かれるに至つたので、氏はいよ／＼滿洲現地進出の覺悟を定め、早くも活動を開始するに至つた。而して、材料關係よりして、今度の計劃では、直接工場を經營する意向であり、場所も奉天鐵西と決定したが、内地バルブ界からの工場現地經營は、これを以て矯矢とするものであり、氏の今後の活躍は、各方面期待のまゝとなつてゐるのである。

氏は、至誠至純の人格者として知られてゐるが、又、圓轉滑脱、きはめて人觸りのよい社交家でもある。しかも、内には、斷じて胃されざる信念を持つてゐるのであつて、氏に接する者は、春風胎蕩のうち、霜烈思はず襟を正さずにはゐられないものを感じるのである。氏は、本年五十四歳、事業家として眞の活躍をなすのは正にこれからといふ時である。その活躍の舞臺も、大陸に移つて、定めし働き甲斐があらうといふものである。益々自重自愛、而して倍舊の努力を以て更に一段の大成を遂げられんことを衷心より祈つてやまない。

西日本財界の巨星

不二越鋼材工業株式會社 取締役 永井庄一郎氏

永井庄一郎氏は西日本財界の巨星として隠れもなき存在にして、富山縣多額納税者である。その富山財界に於ける地位は太陽にも比すべく、その關與せる事業は、富山縣下に於ける最大の工業會社たる當不二越鋼材工業をはじめ、本江機械製作所その他多數に及んでゐる。當不二越鋼材工業は、昭和三年、資本金三百萬圓を以て創立されたものであるが、滿洲事變を契機とする軍需景氣の波に乗じて急發展を遂げ、特に、支那事變の勃發以來、需要の急増となつて、規模擴大の必要にせまられ、昭和十三年三月、第二不二越を合併して資本金一千萬圓となし、更に、近く大増資が行はれることになつてゐる。その營業種目は、精密機械器具、工具、鋼球、軸承、航空機部分品、内燃機關等、いづれも時局必需品であつて、この擴張は當然の歸結である。

その工場も、在來の富山第一工場（敷地一萬坪）のほかに、富山第二工場（敷地一萬坪）及び、同縣下東岩瀨に、岩瀨工場（敷地一萬五千坪）が新設されるほか、特殊製鋼工場の第二次擴張、石井鐵工所の買収、及び子會社藤井製作所の増資擴張等々、相次ぐ計劃が樹てられ、着々、實踐に移されてゐるのである。この石井鐵工所といふのは、從來紡機會社だつたが、當社の傘下に加はつて精密工作機の製造を行ふこととなつてをり、藤井製作所は小型精密工作機

優秀メーカーとして定評がある。

而して、かくの如き當社の驚異的な發展は時局の影響によるものであることは無論だが、社長の井村氏及び永井氏をはじめ、重役陣の經營その宜しきを得たによるものであることも看過してはならない。永井氏は、先代爲次郎氏の長男にして、明治十七年二月の誕生であるが、早くより、國粹的事業者として知られ、また、きはめて愛郷心の強い人として知られてゐた。氏が當社の創立當初から出資者として、また重役として關與して來たのも、一には工業報國の赤誠から、二には、郷土の發展を願ひ、縣民の福利増進を圖らんとする熱烈なる郷土愛に出發してゐるのである。

而して、氏の郷土愛はひとり郷土産業の發展をはかることにとゞまらずして、縣民の福利増進をはかる爲めに行つた美學は牧學のいとまがない程である。されば、同地方民の氏の徳を慕ふことは非常なもので、富山縣發展の恩人に讃へられてゐる。氏は、人と爲り、濃厚にして篤實、教養深くして理解と温情に富んだ君子人である。特に、後進の誘掖指導といふことについては一家の見識を有し、有爲の人材と見れば、その才を磨き、發揮せしめる爲に、いかなる助力をも惜しまない。現に、氏の推擡によつて、業界の第一線に立つて活躍してゐる者も多數あり、これ等の後進者が、氏を敬慕することは、子女の實父母に對するが如くである。

この資本的力と經營的手腕を持つ氏にしてこの温情を持つ、まさに、氏の如きは模範的事業者といふべきであつて、吾人の衷心より推服してやまない所以である。

紡織界一方の曉將

大東紡織株式會社 常務取締役 楠本吉次郎氏

當社をはじめ多數の紡織會社に重役として列し、本邦紡織界一方の曉將として知られてゐる楠本吉次郎氏は、明治十五年一月、京都府の人佐々木藤七郎氏の二男に生れ、先代武俊氏の養子となり、昭和二年、家督を相続した。少年時代から、頭腦明晰にして神童のほまれ高く、學業の成績もつねに拔群であつたが、長じて東京高商に入學、明治三十七年優秀の成績をもつて、を卒業するや、たゞちに業界雄飛のスタートを切つたのである。

氏が、現に常務として、その才腕を揮つてゐる大東紡織株式會社は、遠く明治二十九年三月の創立にして、現在資本金一千七十三萬三千圓、綿紡機十萬三千五百四錠、撚糸機二萬四千五百六錠、梳毛機八萬八千五百四十錠及び三千臺の織機（内一千八百臺は毛織機）の設備を有してゐるが、當社は、羊毛工業會加盟會社中、その織機臺數に於いて日毛に次いで第二位を占めてゐるのである。

而して、支那事變の進行は毛糸、綿糸を中心とする纖維工業の活動を制約するに至つたが、當社では、從來から輸出を相當にやつてゐたので、輸出向の原毛獲得は順調に行はれ、戦時下輸出振興に重大なる役割を果してゐることは周知の通りである。而して、毛糸、綿糸を中心とする纖維工業の活動の制約と同時に、ステープルファイバ―製品の殷盛がもたらされて來たが、當社でも、昨年八月より、在來

のモスリンの製織を停止して、羊毛と蘭毛羽との混紡絲で作る混紡モスリンの製織をはじめたほか、ステープルファイバ―への本格的進出を開始し、工場の操業度は全運轉に近い好成绩を示してゐる。

斯様に、當社が纖維工業の受難期にあつて、向かつ良好なる成績を納めてゐるのは、その長い歴史と輸出界に於ける地位とによることはいふまでもないが、その蔭に楠本氏はじめ經營主腦の才腕によるところが多いのである。

氏は、つとに敏腕の聞え高く、多士濟々の紡織界にあつても一際群を抜く存在であるが、その性沈着冷靜、事に臨み變に處して觀察深滲、判斷正と、しかも、その一面に、事業に對しては燃ゆるが如き熱情を持ち、一度往かんとするや如何なる困難障礙をも斷乎排して往くといふ烈々たる氣概の持主でもある。當社が、前述の纖維工業の受難期にあつてその方途を誤まらず、業績に何等の影響をも見せずして巧みに方向の轉換を行ひつゝあるのは、氏のこの沈着と果斷にまつところが多かつたのである。

されば、氏は、當社にとつての社實的人物といふもあへて過言ではないが、しかも、謙虛そのものの如き氏は、いさゝかも自己の功を誇るの色なく、夙夜、孜々として業務の發展に没頭しつゝある敬虔なる態度には、敬服のほかない。氏は本年五十八歳、その手腕、人格ともにいよゝ圓熟の境にはいり、大陸經營の本格的着手に次いで來るべき纖維工業の飛躍的發展期に備へ、着々として計畫を樹てつゝあるといふ。吾人は衷心よりその健康と今後の活躍を願つてやまないのである。

躍進日本工業界のホープ

岡本工作所代表者 岡本政季氏

躍進日本工業界のホープとして企業界人の期待を一身にあつめてゐる大阪の岡本政季氏が経営する岡本工作所は、創業以來、日尙淺きにかゝはらず、その熱心なる經營と時局の好響と氏の誠實なる製作態度と卓越した技術とあいまつて供給先始め、各方面の絶對的支持によつて、一路隆盛の途をたどり、昨年九月、大阪市東淀川區三津屋南通に營業所を移轉擴張すると共に、増産計畫の第一次着手として完成した新工場の落成によつて一大飛躍を遂げると共に、更に矢繼早に第二次増産計畫を樹て、漸次實行に移しつゝある。

當社の營業品目は、空氣壓縮機、真空ポンプ、ターボプロワー、渦巻ポンプ、復働ポンプ、蒸氣動ポンプ、水壓機械等であるが、氏は、その何れもが、生産總動員下の今日の時局に於いて重要な産業であることの自覺から、工業報國の大精神のもとに、前記の如く矢繼早の増産計畫を樹て、殺到する需に應へてゐるのである。

思ふに、今次の聖戰は新東亞の建設といふことを以て最終目的とするものであるが故に、事變は殆ど數字をあげがたきまでに、長期に亘りて繼續されるものと覺悟しなければならぬ。聖戰すでに二年に垂んとして、御稜威の下、國威を遺憾なく中外に輝かし、史上未曾有の戰果を收めつゝあるが、この戰果を全うして、曠古の大業たる東亞の大建設の目的を貫徹するのは、一に、我々一億同胞の双

肩に懸る大なる義務である。

およそ、長期持久の戰に於いて、もつとも肝要なことは生産力の擴充と經濟力の強化といふことである。それは、一方に於いていよいよ建設の段階にはいると共に、他方に於いて廣大なる地域に亘る武力戰を遂行しつゝある今日より以後に於いて、より一層の擴充強化を必要とするのである。國家觀念のきはめて熾烈な氏はこの時局に對する正しい認識からいよゝ工業報國の赤誠を固くし、胸中ひそかに第二次、第三次の擴充計畫を練つてゐるのであつて、今次の飛躍發展には多大の期待がかけられるのである。

氏は、かつて人に述べた「自分は工業家になる爲に生れて來た者だ、人と生れた以上は自己の能力に應じ、その最善をつくして國家社會につくすのが義務であり、同時に權利である。工業家として生れた自分は自分の最善をつくして祖國につくさう」といつたと聞くが、その言や善し、氏はこの信念のもとに當社を起したのであり、その信念のもとに經營をつづけてゐるのである。

氏はたんに技術、經營の兩方面に傑出した手腕を持つてゐるだけでなく、理解と温情に富んだ人格者なので、その部下の従業員からは慈父の如く尊敬を受けてゐる。この尊敬が従業員の献身的作業となつてあらはれ、今日見る如き、素晴らしい業績を上げてゐるのである。今や、時代は實力の時代になつてゐる。この時局にあつてこの實力を持つ氏の前途こそまことに多幸多望なるものがあり、吾人はその點を今から注目してやまないものである。洵に氏は躍進日本工業界のホープと言ふべきである。

鑄工業の一方の重鎮

藤川工業合名會社 社長 藤川長市氏

廣島市大洲町の川添ひにある廣大なる地域に工業王域を形成してゐるのは、事變下に於ける鑄工業の重鎮として、その華々しい活躍に視聽をあつめてゐる藤川工業合名會社である。今や、我が邦の鑄工業界は聖戰遂行の原動力としての役割を果しつゝあり、鑄工會社と名の付くものはその歴史の新頁、規模の大小を問はず、いづれも未曾有の活況を呈しつゝあるが、その中にあつて一際めだつて目醒しい盛況を見せてゐるのは我が藤川工業である。

當社は創業二十一年の歴史を持ち、技術方面に卓越した手腕を持つとともに、經營的才幹のまた傑出した藤川社長の下に、鑄工報國の赤誠のもとに全社員一致協力、社業の發展に努力してゐるのであつて、軍部指定の榮譽にかゝやく當社の時局に對する貢献は、極めて甚大なるものがあるのである。

當社々長たる藤川長市氏は技術經營の兩方面に卓越した手腕を持つてゐるのであるが、鑄工報國の赤誠をその事業經營の根本方針としてゐるのであり、人格高潔、正に誠實主義の權化ともいふべき人である。氏は、廣島の出身にして、明治二十年七月藤川久藏氏の長男として生れたのであるが、幼少より頭腦明敏にしてきはめて進取の氣象に富み、早くより工業界に身を投じて國家に貢獻するところあるべく志を立てゝゐたのである。

而して大正八年、歐洲大戰後の反動で、財界低調の時機であつたにかゝはらず、將來の國運の消長を決定するものは鑄工業であるといふ觀察のもとに、獨力當社を興したのである。爾來、あらゆる艱難と戦ひ、障碍を克服して銳意業績の進展に努めた結果、次第に發展し、昭和六年に會社組織に改めると共に工場の擴張、設備の充實をはかつて、つひに今日の大を成すに至つたのである。

その傑れた技術と、誠實主義の經營法は廣く業界のみとめるところとなり、軍部指導の榮譽をかち得るに至つたのであるが、昭和十二年七月、ソ聯の腹手に躍る蔣政權の不法挑戰に端を發して、東亞の平和を念願とする我が國が奮然奮起して以來、氏は鑄工報國の赤誠を致すのはこの時にありと、社員協力を以て、その全力を傾倒して時局の要求に應へてゐるのである。當社の主要製品種目は、低炭素鉄、滿僊鑄鋼、特種鑄鋼であるが、その有する電氣溶鋼爐は、我が國有数のものとして知られてゐる。

當社がこの時局に際して、この活潑なる活動をつづけてゐるのは、上に鑄工報國の赤誠に燃ゆる敏腕の藤川社長があり、下に社員、従業員一致の協力があるからであるが、この社員、従業員一致の協力は、實に、社長の至誠至純の人格に對する尊敬と、その厚遇に對する感謝とによる、氏への絶對的信服によるのである。

事實、氏と従業員との間は慈父とその子女との關係の如く、工場内は大家族の如く濡々たる和氣に包まれ廣島縣下の模範工場と謳はれてゐる。事變下、鑄工業の使命の一層重かつ大を加へつゝある時、氏の一層の努力を願ふや切である。

本邦立志傳中の商傑

塚本商事機械株式會社 塚本秀進氏
専務取締役

百千の説話よりも、一人の傑出人の立志成功傳が、青少年を感奮興起せしめる力が如何ばかり強いことであらう。三年前、某雜誌誌がいはゆる現代の成功者に向つて、その立志の動機となつたものは何であつたか、といふ葉書回答を出したが、いはゆる英雄や偉人の立志成功譚に感動したのが動機となつたといふ意味の回答が、全回答の三割強を占めて最高であつた事實からみても、わかることである。もとより、立志傳から受ける感動にも強弱があり、一時の感動にすぎぬものと、その感動が殆んど終生——自分が輝かしい成功を納めたのちまでも持續するものがあるが、その差異のあるところが、すなはちやがて成功者と失敗者とを別つ、分岐點となるのではなからうかと思ふ。

吾人が、本書を編纂して、廣く江湖に頒つ所にも、財界の功勞者の功績を記録し、永遠にこれを顯彰しようといふことのほかに、これ等功勞者の立志成功のあとをとめて、以て後進の龜鑑とし、彼等の興起の一動機ともしたい念願があるからにほかならない。今や、我が國機械製作界の寵兒として、時局下にめざましい活躍をつづけ、國家に絶大な貢獻をなしてゐる當塚本商事機械の創立者にして代表者であるわが塚本秀進氏もまた、當代立志傳中の偉人として、後進の師表として推すをばからぬ人材である。

造船界の最新鋭

株式會社占部造船 占部五郎氏
鐵工所代表取締役

時局下に於ける造船界の使命の重大さについて事新しく申すまでもなく、又、新東亞建設といふ聖なる大使命を擔ふ我が國に於いては、斯業の使命は將來ますます重きを加へる一方であるが、既に我が國の造船技術は世界に冠絶するものであつて、この點、邦家の特に衷心慶賀に堪えない次第である。されば、造船技術界に於いても、まことに多士濟々幾多の名ある士が今やその全技能と努力を傾けて、造船報國の一途を邁進しつゝあるのであるが、その中であつて、少壯氣鋭、しかも經營的手腕に於いても非凡を謳はれてゐる人に、我が占部五郎氏がある。

氏は、長年、技師として、名村造船、尾崎造船にあり、その傑れた技術を以て斯業の發展に多大の貢獻をなして來たのであるが、當時より、「造船界に占部あり」との評判を高めてゐたのである。而して昭和九年、滿洲事變後、光榮ある孤立におちいつた我が國の造船界の使命が、その重大性を加へ來たるや、氏は造船報國の念やみがたく、ついに獨立、現社を創立、その多年練磨せる卓越した技術と熱烈なる愛國心を武器として造船界に乗り出したのである。すぐれた技術と百折不撓の努力の前に不成功はない。果然、業績は日に月に發展向上の一途を辿り、その事業規模も漸次に擴大していつたが、その發展に更に拍車をかけたのは今次事變の突發である。

そもく、氏は、千葉縣の出身で、明治三十五年三月、塚本馬之助氏の二男として生れ、佐倉中學を卒業後、千早商事に勤務したが、機幼少より頭腦明晰、才氣煥發、大鵬の如き志を抱いてゐた氏は、機械製作業の國家的に有する意義の重大さを想ひ、斯業に身を投じて國家に貢獻するところあらんと決意し、昭和二年、獨立して、機械製作業を創めたのであつた。時に、氏は、若冠二十六歳、いまだ白面の青年にすぎなかつたのである。

この事實によつても、氏の異常な天才であることがわかるが、天才は努力の別語であるといはれるやうに、創立以來、文字通り不眠不休の努力をつづけた結果、業績は日に月に發展向上の一途をたどり、ついに株式組織に變更して今日の大成を遂げるに至つたのである。しかも、氏は、本年未だ三十八歳、前途幾春秋に富む壯齡である。氏のこの出現は、あたかも、一百姓の小忰から、戰國の風雲に乗つて一躍天下を掌中に收めた秀吉の出世振りを髣髴させるものがあり、いまや、全業界の注視のまとなつてゐるのである。

當社は、一般工業用工作機械、製鋼所用機、瓦斯發生爐、及び送風機各種の製造販賣をはじめ、一般人絹製造機及びタンク設計製作並に販賣、一般造船、造機、各種輸送機、索道の設計製作請負監督、一般電気及び機械器具並に工具販賣を行つてゐるほか、專賣特許カサトポンプの發賣元として、大阪西區新町通と東京京橋區横町の兩社を中心に全國的に活動をつづけてゐる。時局の好響もあつて、當社の前途は、主事者塚本氏の前途と共に、洋々たる希望に満ちてゐる。吾人は、氏の今後に期待をかけつゝ、その健闘を祈つてやまない。

今次事變下海運界の活況と軍需々要の増大は必然に造船界の奮起を促し、その全面的擴張を促すに至つたのであるが、當社もまたこの時局の要求に應へ、擴張に次ぐ擴張をつづけ、つひに、昨年、組織を變更擴大すると共に、その飛躍態勢を完全に整備するに至つた。即ち、現在、當社は大阪市港區南福崎町に本社工場と、近接地に福崎工場の二工場を有ち、船舶建造並に修理、汽機、汽罐の製作、鐵骨、橋梁その他を營業種目として華々しい活躍を續けてゐる。

しかも、氏たるや、本年、未だ四十三歳の少壯なのであるから、その異常な天才振りにいま更驚かざるを得ない。氏は、靜岡縣の出身で、占部彌六氏の三男として、明治三十年十一月を以て生れたのであるが、少年時代からきはめて進取向上心に富み、その明晰な頭腦を以て神童のほまれ高く、周囲からその大成を期待されてゐたのである。今日にしてみれば、その期待の決して過當でなかつたことを知る事が出来るのであるが、造船界に入つて以來の努力精進ぶりは超人的なものであつたのであつて、その不斷の努力精進が、氏の今日の大を築き上げたといふも過當ではないのである。

如何に氏が天稟の素質に於いて恵まれてゐたとしても、この努力、不斷の自己練習がなかつたならば、決して今日の大を見ることは出来なかつたであらう。

而して、將來、造船界の使命がいよゝ重大ならんとする時、氏の如く實力あり、霸氣あり、かつ、若さの強味を持つた偉材に期待するところは極めて大なるものがあり、吾人は、國家の爲、氏の自愛と一層の努力健闘を祈つてやまないのである。

機略從横の敏腕家

日華護謨工業株式會社
專務取締役 内海軍治氏

本年一月一日を期して、日華護謨工業株式會社として新しき出發をなした當社こそは、從來、運動靴、地下足袋等を主流事業として斯業に君臨、その名を全國民から親しまれてゐた「つちやたび株式會社」の後身である。當社は、久留米市白山町に本社を置き、東京は日本橋堀留町に東京支店、大阪東區横堀町に大阪支店及び、大連、京城に駐在員を置き、月星運動靴、月星地下足袋を製作發賣してめざましい活躍をしてゐたが、今次事變以來、業容を擴張、時局向を主とした各種護謨製品部門を擴大するに至つたので、本年一月一日より日華護謨工業の新社名のもとに新發足をなしたのであつた。

當社がこの新發足をなすにあつたの新意圖は「日華護謨」の社名からもうかゞはれるやうに、近き將來に於いて支那大陸へ進出せんとする強い意慾が的みとられるのであるが、その新活躍の鍵はその専務として、全面的統轄の任にある内海軍治氏の手握られてゐると言ふことが出来るのである。

そも／＼氏は、廣島縣の出身にして、明治十七年七月、内海儀平氏の二男として生れた。明治三十五年尾道商業を卒業後、住友銀行にはいつたが、天性非凡の才幹は超人的努力精進によつて漸次にその鋭鋒を發揮し、次第に重用されるに至り、支那の漢口、下關、備後町、大阪船場兼松尾町等の各支店長に歴任した。

中部日本鍛造界の王者

鈴木秀製作所主 鈴木秀治氏

中部日本鍛造界の立役者として今を時めく鈴木秀治氏は、一鐵工見習から身を起して、苦闘十有五年、つひに今日の王者の地位に就き、しかも、本年漸く四十歳、青年の覇氣漲る前途多幸の敏腕家である。洵に氏は當代立志傳中の第一人者であり、飛躍日本鐵工界の將來を擔ふホープとして、まづ先きにその名を上ぐべき偉材である。

氏は愛知縣中島郡平和村の出身にして、徳三郎氏の三男として、明治三十三年二月を以て生れた。物質的に恵まれる所少い家庭に人となつた氏は、幼にして、名古屋市東古渡町所在の田中鐵工所に、鐵工見習ひとして入らなければならなかつたが、向上心に燃える天才兒は如何なる逆境に置かれても決してその才を萌芽のまゝに枯死させるものではなく、向上心を失ふものではない。見習工として働くうち、自己の才能が鐵工業に最適であることを感ずるに至り、將來、鐵工業に雄飛すべく、若き心に誓ひを立て、見習工といふ恵まれない境遇も將來の大成の爲めの自己鍛練の道場であると觀じて、日夜孜々として業務に勵精し、技術の練磨をつづけたのであつた。

その結果、若冠二十四才にして獨立の機運に際會、大なる希望を抱いて、現在の名古屋市熱田區池内町に鈴木秀鐵工所を興した。爾來刻苦精勵、誠實主義をモットーとして業務の發展につとめたのだが、流石、多年、見習工として幼い身にハンマーをとつて來た苦

而して、昭和十一年、當社の前身なる「つちやたび株式會社」の常務に就任したのだが、こゝに於いて氏の非凡の才幹はあますなく發揮され、斯業に於ける當社の地位をいよ／＼高からしめたのであつた。而して時局以來、護謨が時局にとつての重要資源であるところから、平和工業向の消費に制限が行はれるに及んで、氏は在來の主流事業たりし、運動靴、地下足袋から、時局製品へと主流の轉換を行ひ、その設備を整備すると共に、いよ／＼社名の改稱を斷行したのである。

いふまでもなく、戦時下に於いてはその國の生産部門は擧げて競争目的に向けられなければならないのだが、特に今次の聖戦は新東亞建設といふことを目的とする曠古の大事業なのであつて、極めて長期に亘つて戦時體制に置かれるわけなのであるから、一層その必要が多いわけである。されば、當社が業容の擴張、社名の變更を行つたことはきはめて機宜を得た處であり、それを斷行した内海氏の果斷は各方面の賞讃のまとなつてゐる。

氏は、資性、謹嚴にして自らを律すること強い反面に、他人に對してはきははめて寛容な美德を持つてゐる。その上、多年銀行界にあつて修練しただけあつて、その洗練された社交術はきははめて堂に入つたもので、巧まずして人の心を捉へてはなさぬ魅力を持つてゐる。その上に、機略に富んだ經營の才幹を持つてゐるのであるから、いま將に新躍進をなさんとする當社の主宰者として、まことに絶好の人材たるを失はないのである。併して吾人は氏の今後の活躍に多大の期待をかけるものである。

勞人だけに、その従業員に對しては、理解と温情に富んだ態度を以て接して來たので、従業員は氏を父とも兄とも慕ひ、さながら自家の事業に勵むが如き熱心さで業務に従事して來たので、業績は日に月に躍進の一途を辿り、つひに今日の大を成すに至つたのである。

思ふに、一つの事業を興し、大成せしめんが爲めに必要なものは、曰く、資本、曰く、技術的手腕、曰く、經營手腕……と、幾つかあるが、しかし、如何に豊富な資本があり、機略從横の商才があつても、事業の實務、生産に従事する人々、すなはち従業員の協力がなければ、あたかも、いかにすぐれた武器があり、豊富な彈丸があり、智略に秀ひでた名將とても一兵もなくしては戰捷を得ることは夢にも期待出來ないと同様に、事變の成功を勝ち得ることなどは絶対に不可能であると言はねばならない。

而して、名將は單に軍略に秀でてゐるばかりではなく必ず、兵士の絶對的服従を勝ち得るところの徳望の持主でなければならぬと同様に、事業の成功者は、技術、經營の才に長じてゐると共に、従業員の心服し得る底の徳望家でなければならぬ。即ち、氏はこの成功者に必須の徳望の持主なのであつて、この徳望あればこそ、僅かに四十歳と言ふ、業界人としては最も若い年齢にして、今日の輝かしい地位を獲得することが出來たのである。

氏は、時局以來、工場の増設、設備の充實をはかり、銳意、國家への貢獻につとめてゐるが、氏が、今後十年、更に二十年後に於いて、我が鐵工業に占めるであらう輝かしい地位を想望することは吾人の楽しい期待の一つである。